格闘技世界同時恐慌! UFCよ、おまえもか!!

enterbrain MOOK

2008
129
940yen

UWF▶PRIDE ファイナルマッチ!!

テレビじゃ伝わらない格闘神話

桜庭和志 vs 田村潔司

大晦日、ついに完結!!

『Dynamite!!』にUFC、
『戦極』、ハッスル、新日本!
年末年始決戦を10倍楽しむ方法!

特集 テレビと格闘技

石井慧と大晦日
桜庭vs田村変態座談会
青木真也vs秋山成勲実現か!?
帰ってきた浅草キッド
笹原圭一「DREAMとテレビ」
谷川貞治「テレビ格闘技と八百長」
北岡悟と戦G
キング・モー×長南亮
バダ・ハリ/チェ・ホンマン
亀田大毅/北斗晶
町山智浩/土屋敏男
エスパー清田/ダンディ坂野

2008 No.129 CONTENTS

kamipro

マット界、視聴率アップの“救世主”はどのリングを選ぶのか!?

特集・テレビと格闘技の世界!

TV & BATTLE

Columns

かに
てたまるか!

「アメリカ」、「悪役（ヒール）」、「PRIDE」に続く特集主義第4弾のテーマは……、なんと「テレビ」です。

テレビと格闘技といえば——、フジテレビショックによって、黒魔術によって、ほかにも何かしらの理由によって、多くのファンは〝テレビ格闘技〟というものにアレルギーを抱えているのが正直なところではないでしょうか。

しかし、現在の格闘技・プロレスが大きなイベントを成立させるためには、莫大なテレビの放映権料や、それに伴なう企業のスポンサードもさることながら、一般世間への認知作業を含めて、テレビは必要不可欠な存在。

しかし残念なことに、いま世間はそれほど格闘技・プロレス自体に興味はありません。

たとえば、読者の皆さんにとってまったく興味のないスポーツの試合がテレビで流れていたとします。そのスポーツのゲーム性だけでチャンネルを変えずにいられるのか？　ということです。

そこでは何かしら興味を惹きつける努力や工夫をしなければならない。DREAMよりもK—1甲子園のほうにニーズがあるのが、テレビであり世間だったりする。それが格闘技にとって、避けては通れない壁なのです。

そのテレビに対して、我々はどのように向き合えばいいのか——？　今回の特集ではテレビとゆかりの深い方々のお話から、そのヒントを探っています。

そして締め切り間際のタイミングで、この特集にピッタリなカードが飛び込んできました。

それは、大晦日『Dynamite!!』で行なわれる桜庭和志vs田村潔司の一戦です。

え……？　全然テレビとは関係ないカードじゃないかって？　いや、このカードは変態ファンが思い出に浸るだけのメモリアルマッチではなく、また、MMAファンが過去のカードと斬り捨てるわけにはいかないもの。マット界の〝いま〟を考えるにふさわしい一戦だと本誌は考えます。

特集 テレビと格闘技

テレビなんかわかっ

く、また、MMAファンが過去のカードと斬り捨てるわけにはいかないもの。マット界の〝いま〟を考えるにふさわしい一戦だと本誌は考えます。

そもそもこの桜庭和志vs田村潔司は、03年大晦日の三派分裂格闘技興行戦争の際にPRIDEが待望したカードでした。

あのとき『Dynamite!!』が打倒・紅白の切り札として、曙vsボブ・サップというモンスターカードを投下。PRIDEはそのカウンターとして、よりPRIDEの世界観を打ち出すために組もうとしたカードが、この桜庭vs田村でした。もちろんUWFを源流とする二人のドラマはそれ以前から紡がれてきましたが、テレビ戦争の混沌の中からその価値を高めていったのです。

あれから5年——。格闘技熱の下降、視聴率問題、世間へのアピール力を失なったことも重なって、あらゆる格闘技の会場には空席が目立ちます。もしかしたら、今年の年末年始決戦はジャンルの命運を賭けたプレゼンの場になるのかもしれない——。

その中で最も世間と向き合うことになる『Dynamite!!』のメインイベントに、複雑で、深すぎる格闘神話の結末が用意されたのです。「それはほかに目玉がないからじゃないか」という声も当然あるでしょう。しかし、その危機的状況を含めて、待ち焦がれたPRIDEの忘れ物が、遅すぎた二人の邂逅が、いまこのタイミングで実現することに対して大きなドラマを感じずにはいられません。なぜならば03年のPRIDEから感じられた、「テレビなんかに桜庭vs田村がわかってたまるか!!」という壮絶な覚悟も思い起こさせてくれるからです。

今号の特集に登場していただいた日本テレビの土屋敏男氏は、いみじくも「テレビに必要なのはわかりづらさ」と言いきりました。

〝極上のわかりづらさ〟を持つこの一戦——。桜庭vs田村戦はテレビに、そしてマット界に、いったい何をもたらしてくれるのでしょうか。

が目白押し! 全部観れんのか!?
ト界テレビガイド

さまざまなビッグイベントが控える年末年始に向けて、マット界が慌ただしくなってまいりました!
ここではそれら注目大会の放映情報を一挙紹介! いまのうちからテレビっ子は要チェックだ!

構成／鈴木佑

Dynamite!!

日　　時 08年12月31日(水)15:00～
会　　場 埼玉・さいたまスーパーアリーナ
放映情報 08年12月31日(水)ゴールデンタイムに TBS系列全国ネットにて放送

桜庭vs田村の対決がついに実現! 史上空前の格闘技オールスター戦!

すっかり年末年始の特番としてお茶の間に浸透した感のある『Dynamite!!』。今年は『やれんのか!』と『HERO'S』が融合した『DREAM』、そしてK-1による初のコラボ興行となり、その予定試合数はなんと18試合! 現時点で桜庭和志vs田村潔司、ヨアキム・ハンセンvsJZカルバンが発表されてるが、そのほかにも今年5年ぶりのK－1 MAX優勝をはたした魔裟斗や、昨年の『Dynamite!!』が現行での最後の試合となっている山本"KID"徳郁、さらに今年充実の一路をたどったライト級戦線の青木真也、川尻達也、宇野薫、エディ・アルバレスらのカードにも期待がかかる。世間的にも知名度のある選手が多数出場、空前の格闘技オールスター戦となること請け合いだ!

ハッスル・マニア 2008

日　　時 08年12月30日(火)17:00～
会　　場 東京・有明コロシアム
放映情報 08年12月31日(水)21:30～23:30 テレビ東京系列全国ネットにて放送

今年はどんな著名人が参戦するか? 「第2のインリン様」の登場にも注目!

2年連続で『ハッスル』が大晦日に特番を放送することが決定! 昨年の『大みそかハッスル祭り』は、00年以降のテレビ東京の大晦日番組としては最高視聴率となる4.0%を獲得。今年は10.26『ハッスル』栃木大会が成功に終わって上げ潮ムードだけに、さらなる数字の上乗せを狙ってくるだろう。オーディション番組『イツザイ』で進行中のプロジェクト「第2のインリン様」の登場も気になるところだ。昨年は11月の『ハッスル・マニア』から『ハッスル祭り』までスパンが短かったこともあり、やや駆け足感があったのが否めなかったが、今年は『ハッスル・マニア』一本に凝縮して勝負。『ハッスル』らしい、"対世間"を打ち出したキテレツな仕掛けに期待だ!

UFC92
THE ULTIMATE 2008

日　　時 08年12月27日(土・現地時間)
会　　場 米国・ネバダ州 ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
放映情報 08年12月28日(日)深夜0:00～WOWOWにて放送

※視聴方法はWOWOWオフィシャルHPまで
http://www.wowow.co.jp/sports/ufc

日本でおなじみのファイターが多数出場! 注目は豪華2大タイトルマッチ!

海の向こうでは08年を締めくくるにふさわしい豪華カードがラインナップ! まずはヘビー級暫定王座戦として、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラがフランク・ミアと初防衛戦。この勝者は『UFC91』でのランディ・クートゥアーvsブロック・レスナーの勝者と真の同ヘビー級王座をかけて対戦することが決定しているだけに、その勝敗に注目が集まる。さらにライトヘビー級王者フォレスト・グリフィンは、チャック・リデルから衝撃的KOを飾ったラシェド・エバンスと激突! ほかにもヴァンダレイ・シウバvsクイントン・"ランペイジ"・ジャクソン、岡見勇信vsディーン・リスター、長南亮vsブラッド・ブラックバーンといった日本人におなじみのファイターも出場するだけに見逃せない!

リング以上に熾烈な争い!? 年末年始視聴率バトルの行方

年末年始だよ! 視聴率バトル! 薄型大型テレビの普及によって「家族揃って視聴」というかたちが、お茶の間で回帰傾向にあると言われる昨今。そんな中、年末年始に向けて各テレビ局が最も力を入れるのが、日本中の視線が一番テレビに注がれる大晦日のコンテンツだ。例年、『紅白歌合戦』の裏番組の中では視聴率1位の座をキープしている『Dynamite!!』、そして昨年に続いて大晦日特番が決定した『ハッスル』は、どこまで世間に届くのか? 他局を含めて視聴率バトルの行方を占ってみよう!

まずは今年で6年目となるTBS系列で放送の『Dynamite!!』。総合転向を宣言した石井慧が、本稿締切り時点では確定していないものの、噂されるようにそのリング上で挨拶を行なえば番組瞬間最高視聴率を獲得するのは必至。はたして紅白との差をどれだけ詰められるか? 一時の盛り上がりが落ち着いたと言われがちな格闘技コンテンツではあるが、その底力を見せたいところだ。

そんな『Dynamite!!』を脅かすのが、大晦日3年連続となる日本テレビ系列の『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!! ダウンタウンの大晦日スペシャル!!(仮)』。昨年の視聴率は12・4パーセントで、『Dynamite!!』の14・7パーセントに肉迫。今年は人気企画の「山崎邦正vsモリマン」の最終決着戦、さらには芸人vs現役レスラーよるスペシャルマッチも予定。裏番組はこの2強の争いとなりそうだ。

そんな『ガキ使』の影響を最も受けそうなのがテレビ東京系列で放映の『ハッスル・マニア』。これまでも著名人の参戦をウリにしてきた『ハッスル』。山口日昇代表も「川田選手に挑戦するスポーツ選手、芸能人を募集します」と呼びかけているだけに、今年も著名人の参戦が予測されるが……。「山崎vsモリマン」を超えるインパクトを生み出すマッチメイク実現が成功の鍵か。

さて、『ハッスル』といえばキャプテン・ハッスル当時の小川直也が、『紅白』に応援ゲストとして

国内外でビッグイベントが目白

年末年始マット男

を生み出すマッチメイク実現が成功の鍵か。

大晦日格闘技番組&紅白歌合戦平均視聴率DATA

2001

『イノキボンバイエ2001』	14.9%
『紅白歌合戦』第2部	48.5%

2002

『イノキボンバイエ2002』	16.5%
『紅白歌合戦』第2部	47.3%

2003

『Dynamite!!』	19.5%
『PRIDE男祭り』	12.2%
『イノキボンバイエ2003』	5.1%
『紅白歌合戦』	45.9%

2004

『Dynamite!!』	20.1%
『PRIDE 男祭り』	18.3%
『紅白歌合戦』	39.3%

2005

『Dynamite!!』	14.8%
『PRIDE 男祭り』第2部	17.0%
『紅白歌合戦』第2部	42.9%

2006

『Dynamite!!』第2部	19.9%
『紅白歌合戦』第2部	39.8%

2007

『Dynamite!!』第2部	14.7%
『大みそかハッスル祭り』	4.0%
『紅白歌合戦』第2部	39.5%

※『紅白歌合戦』に視聴率は関東地方のもの。

ボクシングも年末年始に殴り込み! 内藤大介のタイトル防衛戦が決定!

WBCフライ級チャンピオンの内藤が12月23日（火・祝）に東京・両国国技館で山口真吾を迎えて4度目の防衛戦を行なう。予定されていた因縁の亀田興毅との対戦は条件面で合意とならず、残念ながら交渉決裂。しかし、07年10月の亀田戦、08年3月のポンサクレック・ウォンジョンカム戦、同年7月の清水智信戦と3戦連続で視聴率20%超えをはたしている"視聴率男"の内藤の試合だけに、今回の一戦も世間の注目を集めること必至だ！

戦極の乱2009

日　時 09年1月4日(日)16:00〜
会　場 埼玉・さいたまスーパーアリーナ
放映情報 スカパー! HD、スカパー!e2にて完全生中継（スカパー! でも視聴可。）視聴料金／3,150円（税込）

【お問い合わせ先】
スカパー! カスタマーセンター／TEL.0570-039-888
スカパー! e2カスタマーセンター／TEL.0570-08-1212(10:00〜20:00)
※地上波での放映詳細は現在未定。

『戦極』が年末年始バトルに初参戦! 吉田は秋山の対戦要求を拒否……?

今年3月に旗揚げした『戦極』が年末年始戦線に殴り込み！ 現段階ではミドル級ＧＰ王者のジョルジュ・サンチアゴが三崎和雄、ライト級GP王者の北岡悟が五味隆典と対戦することが内定。とくに『戦極〜第六陣〜』でセルゲイ・ゴリアエフにまさかの敗北を喫した五味の「かかってこい！」という呼びかけに対して、「その挑戦、受けて立ちます！」と絶妙な切り返しを見せた北岡の"キモ強"ぶりに注目！ また吉田秀彦の出場も内定。秋山成勲からの対戦表明には「現実的に無理でしょ」とやんわり拒否していたが……？ さらに五輪柔道銀メダリストの泉浩の総合デビューも噂されている。柔道やレスリングに強固なルートを持つ『戦極』だけにさらなる隠し球も？ 『戦極』初のビッグイベント、い

レッスルキングダムⅢ in 東京ドーム

日　時 09年1月4日(日)16:00〜
会　場 東京・東京ドーム
放映情報 スカパー!、スカパー! e2にて完全生中継 視聴料金／3,150円（税込）

【お問い合わせ先】
スカパー! カスタマーセンター／TEL.0570-039-888
スカパー! e2カスタマーセンター／TEL.0570-08-1212(10:00〜20:00)
※地上波での放映詳細は現在未定。

毎年恒例のプロレス初詣! 至宝IWGPヘビー級王座の行方はいかに?

今年は全日本プロレスの武藤敬司が保持するIWGP王座をめぐるストーリーや、天山広吉vs飯塚高史の抗争劇を中心に"絶好調"だった新日。恒例の来年1.4のドーム大会は、全日をはじめZERO1-MAXやドラディションにTNA、さらにはノアを巻き込んだプロレスオールスター戦となりそうだ。「前売りチケットの売れ行きも想像以上」（関係者）という声のとおり、前評判も非常に高い。その中でももちろん核になるのはIWGP王座の行方。今年4度の防衛をはたしている武藤から、ベルト奪回に挑むのは誰なのか？ 業界の盟主がIWGP劇場の"おとしまえ"をどうつけるのか注目だ。89年4月のドーム初進出から、来年は記念すべき20周年。メモリアルイヤーに老舗団体の意地がスパークする!?

さて、『ハッスル』といえばキャプテン・ハッスル当時の小川直也が、『紅白』に応援ゲストとして駆けつけたことがあった。毎年、この時期になると司会者や出場歌手について世間の話題にのぼる国民的番組。その今年のテーマは「いっしょに。紅白」。もはや男vs女の歌合戦というコンセプトを無視したコピーだが、減少する視聴率をなりふりかまわず獲りにいこうとするその姿勢は侮れない。やはり最も重厚な存在だと言えよう。

昨年、『大晦日だよ！ ドラえもん』と『よゐこの史上最強サバイバル!! 大晦日に"獲ったど！"無人島0円生活スペシャル』で11・8パーセントと視聴率二桁超えをはたしたテレビ朝日の出方も気になるところ。まだ大晦日番組に関する正式発表はないが、11月2日〜6日の視聴率が同局史上初めて5日連続4冠（全日、ゴールデン、プライム、プライム2）を達成し、飛ぶ鳥を落とす勢いの同局だけに要注意マーク。

そして、03年から"60億分の1の男"を決める闘いを放送して高視聴率だったフジテレビ。昨年は特番『1億分の1の男』が、視聴率3・2パーセントと大惨敗！ ちなみに05年の『PRIDE男祭り』の視聴率は18・9パーセント……かつては『60億分の1』を放送していたのに、その視聴率はおよそ『6分の1』。今年はどんな路線変更をしてリカバリーに臨むのか注目だ。

いよいよその全容が見え始めた大晦日視聴率バトル。盟主『紅白』の座は揺るぎがなさそうだが、『Dynamite!!』、『ハッスル』ともに"隠し球"を駆使して一矢報いたいところ。お茶の間に風穴を開けるような場面に期待しよう！

そんな大晦日を経て迎える09年。1月4日に新日本プロレスと『戦極』が同じ関東内でビッグマッチを開催する。まだ地上波放送の詳細は未発表だが、ともに『ワールドプロレスリング』、『戦極G！』というレギュラー番組があるだけに、特番もなきにしもあらずだ。朗報を待て！

年末年始はマット界が最も盛り上がるシーズン。今年は例年に比べてもビッグマッチが多く、どの大会も見どころが盛りだくさん。観る側も気合いを入れてテレビにかじりつこう！

「俺と桜庭にしかできない夢の懸け橋を実

田村

“夢の懸け橋”は一転、“果たし合い”に——!?

“桜庭発言”に対する怒りと寂しさ

時間無制限&素手での顔面パンチ要求

「ケンカならいまここでやってもいいでもそれがプロの闘いなのか?」

ついに実現する田村潔司vs桜庭和志戦。これまで幾度となく対戦が持ち上がりながら、実現しなかったこの一戦。はたして、どんな闘いになるのか興味深いが、発表記者会見の“桜庭発言”により、早くも両者の神経戦がスタート。やはりこの一戦、一筋縄ではいかなそうだ。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

「俺と桜庭にしかできない夢の懸け橋を実現できたらと、心から思います」

07年4月8日『PRIDE・34』のリング上で、そう田村が発言してから1年半。ついに田村潔司vs桜庭和志戦が正式決定した。

かつては数々の遺恨が伝えられるなど、犬猿の仲として知られた田村と桜庭。しかし、近年は『PRIDE・34』のリングで握手を交わしたり、『SRS』最終回で言葉を交わしたりと、“雪解けムード”がただよっていた。

それだけに、今回の対戦決定は、過去の因縁を水に流しての“夢の懸け橋”になるのではないかと思われた。

しかし、そんなムードは桜庭の発言で吹っ飛ぶこととなる。

「緊張感がある闘いがしたいので、この試合は、時間無宣言で素手でやるのはどうでしょうか?」

なんと桜庭が、田村に対し「時間無制限、素手での顔面パンチあり」という“原始的バーリ・トゥード”のルールを要求したのだ。これはまさに、ケンカルールでの完全決着という“果たし状”だ。

これに対し田村は、その時点では笑顔でさらりとかわしていたが、これ以後、会見後半はあきらかに表情が硬くなった。

はたして田村は、この“桜庭発言”をどう受け取ったのか。そして、田村はどういった思いで、今回、桜庭戦を受諾したのか。

記者会見後、ホテルのラウンジで田村の生の感情を聞いた。

——いま桜庭和志戦決定の記者会見が終わったわけですけど、桜庭さんの「時間無制限、素手の顔面パンチありでやりたい」という発言がありましたよね。あれに対しては、やっぱりキレてますか?

田村潔司
“桜庭発言”に対する怒りと寂しさ

田村　キレてはないけど、気分は悪いね。どんな意図あってかわからないけど、ドロドロの方向になるなら気持ちは乗らない。

──会見の壇上でもちょっと顔色が変わったように感じましたけど。

田村　いや、全然ポーカーフェイスだよ。でも、気持ちは引いたな。ドロドロした試合なんてやりたくもないから。

──やっぱりキレてるじゃないですか（笑）。

田村　いや、全然キレてない。気分が悪いだけ。

──田村さん的には、やはり気分よくこの大一番を迎えたかったという思いがあるわけですか？

田村　そりゃそうだよね。せっかくこういった大舞台を用意してもらったんだから、お互いが持っているものを出しきる試合。観てるお客さんに夢を与えられるような闘いがしたかったんだけどね。

──8年前、ちょうど田村さんがヘンゾ戦に勝って、桜庭さんがホイスに勝った頃、田村さんにインタビューしたとき「俺と桜[illegible]がやったらUWFの理想形になる」って[illegible]ったんですよ。

田村　そうだっけ。覚えてないけど。

──言ってたんですよ。で、今回も田村さ[illegible]はそれに近い感覚というか、そういう試合がしたかったわけですか？

田村　そ[illegible]ね。二人にしかできない試合があると思うから。そういう試合ができれば[illegible]てたんだけど。

──そ[illegible]、いまの競技化したMMAでは[illegible]か、ただ勝った負けたじゃない[illegible]みを[illegible]フェッショナルとして見せたい[illegible]ということですか？

田村　見せたいものは、相手によっても違[illegible]けど、[illegible]本はそんな感じだよね。

──ところが今回の対戦相手からの要求は、MMAどころか原始的アルティメットだったという（笑）。

田村　原始的アルティメットね（笑）。でも、そんなドロドロした試合をファンも関係者も望んでるのかね？　俺はピンとこない。

──「時間無制限、素手で顔面あり」っていうのは、これまでの因縁も踏まえての発言だと思いますけど。青春映画みたいに、拳で殴り合ってわかり合えるとか、そういうことはないんですかね？

田村　そんなきれいなもんじゃないよ。漫画や映画とは違うからね。たぶん、そういう闘いをして、ホントにキレたら俺はどうなるかわからないから。ちょっとそこは自分でも未知数。何をするかわからないよ。

──キレたら何をするかわからない！　ファンとしては完全にリミッターが外れた田村潔司っていうのも観てみたいとは思いますけど。

田村　でも、そんなものを俺は見せようと思わないから。初期アルティメットみたいなのは、誰だってできるんだよ。素手で殴り合いのケンカをするなんて、そのへんの通行人だってできるんだからさ。

──でも、プロにしかできない、技術を駆使したケンカにはなりませんか？　感情と技術が渾然一体となるような。

田村　それは俺の求めてるものじゃないよ。

──たとえばリングスでやった、最初の山本宜久戦なんかはルールのあるケンカでしたよね。

田村　あれは向こうがケンカできただけで、素手のグーパンチだったり、目を突いてきたり、ひっかいてきたりね。でも、自

桜庭戦というのは自分の中で凄いこだわりがあった。でも、向こうとは温度差を感じたね

分では試合中、グーで殴られたことに気づかなくて、「俺はなんで、こんなに（頭に）効いてるんだろう」って思ってたけど（笑）。

そして最後は鮮やかに飛びつき腕十字で勝ったわけですよね。あのケンカで向かってきた相手を技術で制した試合も、田村潔司のベストバウトの一つだとは思うんですよ。

田村　あれはそうだね。ただ、あれは単純に反則だからね（笑）。Uインター vs リングスの敵対意識があったから、山本の気持ちもわからないでもないけど……。ただ、そういう試合をしてくる相手を、俺はプロとしては見てないし。

たとえば、桜庭がそんな試合をしたいなら、道場でやってもいいし、それこそ道端でやったらいいんじゃない。

——ケンカをするならするでいいけど、大晦日のリングというのは、それを見せる場所じゃないだろう、と？

田村　そうそう。街のケンカレベルのことを、そんなレベルじゃない選手が言ってるからさ。

そこに温度差を感じたよね。

——この一戦に向けての思いというか、考えが違いすぎる、と。

田村　うん。正直に言えば、桜庭戦というのは自分の中で凄いこだわりがあったんだよ。だから、ホントに俺たち二人にしかできない、いい試合ができたらと思ってたんだけど、向こうから出てきたのは「時間無制限、素手の顔面あり」でしょ？　彼の思ってる感情と俺の気持ちの凄い温度差を感じた。

——熱い思いに水を差されたというか。

田村　そうね。冷静に考えたら、素手でできるわけないんだよ。やる気がないのに、ああいうこと言ってるから。ホントに残念だね。

——田村さん的には、高田さんの引退試合のときのように、恩讐を越えて素晴らしいものを見せたいという気持ちがあったわけですよね？

たむら・きよし■69年12月17日、岡山県出身　89年に第二次UWFでデビュー　その後、UWFインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士　大晦日には待望の桜庭和志戦が実現する　180cm、86kg

田村　それは素晴らしいものを残せる相手だからだよ。ホントに相手として不足はないし、彼とだったら、そういうものが残せると思ってたから。そこの温度差だね。まあ、彼は彼で、Uインター時代の先輩後輩という関係から、俺に対するフラストレーションが溜まっていたのかもしれないけど。そんなこと言ったら、俺がお世話になった先輩は全員殺さなきゃいけないからね（笑）。

——それぐらい、田村さんも新弟子時代は先輩に対してフラストレーションが溜まっていた、と（笑）。

田村　でも、そんなものは先輩後輩のあいだには、どこでもあるもんでしょ。それをさ、このあいだ『格通』で高山（善廣）と桜庭が対談してるのを読んだんだけど、某先輩のことを茶化して話していて、あまり感じはよくなかったね。

——自分が言われてるわけじゃなくても頭にくる。

田村　同期がプライベートで愚痴を言い合うのはいいけどね。ああいうことをメディアで言うなって。ましてや先輩に対して。

——誰だって、先輩に対してそういう思いはあるけど、言うもんじゃない、と。

田村　言うもんじゃない。俺の場合は愚痴を言い合える同期もいなかったから、当時は6Pチーズの裏に、思いを書きなぐってたけど。

——なぜ6Pチーズ（笑）。では、そういったことも含めて、今回の桜庭選手の発言は失礼ということですか？

田村　失礼かどうかは、本人が考えればいいことだから。俺の口から言うことじゃない。もし、桜庭がホントに「時間無制限、素手の顔面あり」でやりたいのなら、ノーピープルマッチでやりゃいいと思うしね。素手で殴り合う試合なんて、お客の前で見せたくないし。リング上じゃなくて、どこか違うところでやればいい。

——あのリングでお金を取って見せたり、地上波で全国放送して見せるもんじゃない、と。

田村　見せるもんじゃないよ。そんなドロドロした試合になるなら、お世話になったバラさん（榊原信行・元PRIDE代表）や高田（延彦）さんにも観てもらいたくないし。まあ、観ていただけるかどうかは別として……。

まあ、ドロドロのケンカを見届けてもらうっていうのもおかしいですからね。

田村　あと俺と桜庭の試合を観たいと思ってくれてる人たちは、多少、夢を見に来てる部分もあるでしょ？　そういうのがわかってないと思うね。とにかく、今回は俺のほうが桜庭戦に対してイメージを膨らませすぎてた。だから正直、残念ではあるけど、俺は開き直りは早いほうだからさ。これからどうなるか、向こうの出方によるんじゃない？

——どんな試合になるかは、桜庭選手の気持ち次第だ、と。

田村　本気でドロドロしたケンカがやりたいなら、いまここでやったっていいんだから。でも、俺はそんな相手じゃないと思うし、それがプロの闘いなのか？って思うけどね。

【08年11月12日／都内・ANAインターコンチネンタルホテル東京にて収録】

“美しい最終回”を全面破壊!?

桜庭和志よ、おまえは何を考えているんだ!

——時間無制限&素手ルール要求の真意に迫る!——

11月12日に発表された桜庭和志vs田村潔司という5年越しのカード。その会見場で桜庭は「時間無制限で、素手でやるというルールはどうでしょうか?」と意表をつく発言を残した。その真意はいったいなんなのか。そこに含まれた、桜庭の考える田村潔司戦とは?

文／橋本宗洋　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

クレイジー・サクにへ〜んしん!?
松田　幸雄

PRIDE.29、田村vsアリエフ・マックモド戦後、「こういう試合をしてもおもしろくないと思うんで～」と、"単独犯"で田村に挑戦状を叩きつけた桜庭。今回の会見での発言しかり、田村に対して桜庭はところどころで"犯行"を犯している

開始予定時刻を15分以上すぎた頃、記者会見は始まった。

TBS松田事業局長、FEG谷川代表の挨拶に続いて、DREAMの笹原イベントプロデューサーが『Dynamite!!』決定カード第一弾を発表する。まずはヨアキム・ハンセンvsJZカルバン。そして桜庭和志vs田村潔司。

「このカードを正式に発表できるというのは、万感の思いというか、胸が詰まるというのか、言葉では言い表わせない気持ちです」

笹原氏のこの言葉に、会場の誰もが心の中で深くうなずいたはずだ。2003年の『男祭り』で浮上して以来、桜庭vs田村戦は毎年のように噂され、PRIDEスタッフが最大限の力を費やし、数多くのファンが期待して、それでも実現していなかった。そういう試合が、ついに行なわれるのだ。とうとう桜庭と田村が、リングで対峙する日が来るのだ。

僕たちが思い描くこの一戦のイメージは、つまり"美しき最終回"だ。日本における総合格闘技のルーツであるUWFの幕引き。"やれんのか！"に出場しなかった人による、PRIDEの真のフィナーレ。勝敗はどうあれ、その結末は美しく、ドラマチックなものでなければならない。きっと観客はこの試合を観ながら、脳裏にさまざまな名場面をフラッシュバックさせるに違いない。『PRIDE・34』で榊原DSE代表と並んでリングに立つ姿。高田延彦引退試合。桜庭vsホイス。田村vsヘンゾ。高田vsヒクソンに安生の道場破りに田村vsパトリック・スミス、そしてUインター時代の両者の対戦……。

この日の会見は、だから"美しき最終回"の冒頭場面である。笹原氏の言葉を聞けばなおさら、その後も神妙かつ厳粛なムードで会見が続くと思われた。

だが、そんな雰囲気などまったく意に介さない人間が一人だけいた。桜庭本人である。恒例となったティアドロップ型サングラスに、赤いマフラー（左腕に仮面ライダーばりの"改造手術"を受けたという意味らしい）という姿で登場した彼は、マイクを渡されるやこう言ってのけたのである。

『PRIDE 34』での桜庭、田村登場のシーンで「桜庭とボクにしかできない夢の懸け橋が実現できたらなと思います」とマイクした田村。"時間無制限＆素手での闘い"というのが、桜庭の出した答えであるが、その発言はいったい何を意味しているのか？

桜庭には"美しき最終回"というドラマを作り上げる気はないのだろうか？

「せっかく年末のいいイベントなので、緊張感をもって試合がしたい。時間無制限で、素手でやるっていうのはどうでしょうか？　笹原さん、よろしくお願いします」

笹原氏の答えは「私の一存では決められませんので」というもの。記者陣との質疑応答で突然の"ルール問題"について尋ねられた田村も、「僕の一存では決められないので」。笑いに包まれる場内。ここで桜庭が、さらにたたみかけた。

「田村さんの一存で決まると思います」

「素手で顔面もありってこと？」と田村。

桜庭は「そうですね。最近の総合格闘技は緊張感がないような気がするので」。

桜庭には"美しき最終回"というドラマを作り上げる気はないのだろうか……。答えを先に言えば、ない。会見後のインタビューでも、桜庭はこの一戦のドラマ性に関して、まったく無頓着なところを見せた。

「思い入れ？　いや、とくに……。毎年言われてることなんで。"待ってました"とか"ついに"とか、そういうのは何もないです。みんなが観たがってるんなら、僕はいいですよ、いつでもやりますよってことですからね」

二人が闘う意味に対しても、こういう表現が適切かどうかはわからないが"ドライ"だ。

「だからコレでしょ？」

拳を顔の前まで持ち上げながら、桜庭は言う。

「前に田村さんが"二人にしかできない闘

い〞って言ってたのを聞いて、僕は100パーセント、そう捉えましたよ。〝あぁ、素手でやりたいんだ〞って」

素手で殴る。いくら試合とはいえ、生半可な気持ちでできることではないような気がするのだが……。

「みんな、一回は先輩の顔を素手で殴ってやりたいなって思ったことありますよね。あるでしょ？ ね、ほら！」

カメラマンに編集者、その場にいる全員を指して確認しながら、桜庭は笑う。

「そういう皆さんの気持ちを、僕が大晦日に表現しよう、と。レスリング部の先輩にも、殴ってやりたい人はいますけどね。ただ、いま、こういう職業をしている中で（田村が）一番カラみやすい先輩だっていうね。同じ土俵にいるわけだから、そこはいくしかないでしょ」

威張る先輩が一番イヤなんですよ。そう桜庭は言った。

「確かにその頃は先輩だったけど、いまは関係ないじゃんって。ただ先に入ったってだけでねぇ。高校とか大学の先輩でもいるんですよね、そういう人。田村さん？ まあ、単に性格が合わないんですよ。会見でも〝素手って、顔面もありなの？〞って。そのトボケ方がね、僕とは合わない（笑）」

現役である桜庭がやりたいのは いまを烈しく生きることなのだろう

念を押しておかなければならないが、桜庭の口調はあくまで滑らかで、深刻さとはほど遠かった。時間無制限、素手での対戦は〝凄惨な遺恨マッチ〞〝デスマッチ要求〞といったニュアンスとは違うものなのだ。

「会見でも言いましたけど、最近の総合格闘技って、なんか緊張感がない気がして。もの足りないんですよね。緊張感っていうのは〝うあぁ〜っ！〞て部分。最初の頃のUFCみたいな〝下になったら終わりだ〞っていう試合がしてみたいな、と。

格闘技って、怖いのがあたりまえですからね。いまは1ラウンド5分とかになってますけど、闘いに時間なんて関係ないし、どっちかがギブアップするか失神するまでやるってところから始まってると思うんですよ。格闘技やってる人間だったら、そういう闘いをしてみたいって気持ちがあるんじゃないですかね。僕も〝道場破り来ねえかな〞って思ってましたよ。ケガしても、殺されても文句言いませんって一筆書かせてハンコ押させて、ボッコボコにしてやりてえなって」

桜庭が大晦日に見せたいのは、いわば格闘技の根源にあるものだ。それを表現しようとすれば当然のこと、ルールの整備された〝MMA〟と呼ばれるものとはまったく異なる闘いになる。

それは確かに日本の、それも大晦日という特別な舞台でしかできないものかもしれない。ただ、興行の大前提を覆すようなことまで桜庭は[illegible]

「グローブとか[illegible]こうい うルールってテレビのこともあると思うんですよ。だからこの試合は放送[illegible]なくてもいいのかなって。テレビで流さなくても素手でやったらおもしろいかもしれない」

僕たちが思い描く〝[illegible]〞

桜庭の気持ちは完全にすれ違っている。きっと見ている方向が、そもそも違うのだ。僕たちは桜庭vs田村という〝いま〞を通して、PRIDE、UWFといった〝過去〞を感じようとしている。

桜庭は逆に、失なわれてしまった闘いの根源という〝過去〞をもって、〝いま〞に楔を打ち込もうとしているのだと思う。

プロレス団体を経て総合格闘技のリングで活躍するようになった選手、かつて初期UFCに衝撃を受けた記憶を忘れないでいる39歳のベテランファイターが、大晦日の大舞台で〝いま〞とリンクする方法、あるいは意味。それが〝時間無制限・素手の闘い〞なのではないか。

あくまでも現役ファイターである桜庭がやりたいのは、過去を美しく終わらせることではなく、いまを烈しく生きることなのだろう。

僕たちと桜庭の意識のすれ違い、もしかするとそれ自体がこの試合のテーマになりうるのかもしれない。

ただ、一つだけ引っかかっていることがある。インタビュー中、あくまでサラッとではあるが、桜庭が[illegible]ことを言っていたのだ。「……まあ、[illegible]ですけどね」

性格の合わない先輩を素手でぶん殴る〞ことも〝闘い〞の根源を見せる〞ともあと[illegible]づいたのだ[illegible]桜庭の[illegible]はどこにあるのだろう。「[illegible]だけではない〞一人しかできない[illegible]とは、いったいどんなものなのだろう。たぶんそれはまた桜庭自身にもわからない[illegible]わからないからこそ、田村と闘[illegible]そこから浮かび上がってくるものを[illegible]よりも見たがっているのは、きっと桜庭なのだ。

桜庭和志よ、おまえは何を考えているんだ、

さくらば・かずし■1969年7月14日、秋田県出身。92年、UWFインターナショナルへ入団。田村潔司はUインター時代の先輩にあたる。97年12月UFC-Jヘビー級トーナメント優勝。98年からはPRIDEへ参戦。PRIDEにおいて、田村潔司との対戦は03年、04年、05年と3年にわたりいずれも大晦日を騒がせたが、結局実現はせず。08年Dynamite!! でついに実現に至った。180cm、83.6kg。

再録企画

ジョシュ・バーネットが徹底考察

田村vs桜庭戦という幻想と現実

「田村vs桜庭戦決定!」の報道を(おそらく)ネットで見て興奮していると思われるのが〝UWF信者〟として知られるジョシュ・バーネットだ。『kamipro』では3年前の同時期に3度目の対戦の噂が浮上していたこの一戦についてジョシュに原稿を依頼。このときも試合は実現しなかったが、ジョシュからは田村vs桜庭戦への熱い思いが詰まった原稿が到着! 今回はその際の原稿を再録。ジョシュ先生が、田村vs桜庭戦の正しい見方、教えます!

※本稿は05年12月発売の『kamipro』No.94からの再録(一部、加筆修正)です。

日本の大晦日といえば、いまや恒例の〝大晦日格闘技興行戦争〟につきる。今年も視聴率戦争を制するためTBSは、そのターゲットを幅広いお茶の間向けにマッチメイクするべく全力を傾けた。

そしてPRIDEはまるで〝忘れ物〟を取りにいくかのように〝今年も〟田村潔司vs桜庭和志戦実現に全力を傾ける。されど、〝今年も〟赤いパンツの頑固者は「NO」と首をかしげるのか……いや、もしかすると、今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るのかもしれない――。

多くのファンたちが田村vs桜庭を待っていた。もっともすでに待ちくたびれていないことを祈るが、ここでまず一つ言っておきたい。僕がこの闘いについてただ黙っているだけのそこいらのガイジンではないということを。この試合の意義、そして桜庭と田村の心の中を洞察すること、すなわちこれはUWFマニアと超人オタク……つまりは僕のための仕事なのだ!

田村潔司、桜庭和志、UWFインターナショナル。

この3つの言葉の歴史を知れば、あなたにとってこのカードはもっともっと興味を抱くものとなりうる。

第二次UWF時代を走り抜け、Uインターが始まった頃の田村はまだ一人のヤングボーイであった。当時、彼はもう一人の新生UWFの申し子である垣原賢人とともに頭角を現わしており、いち青年だった桜庭がUインターに入門する頃には、すでに中堅のポジションを確立していた。

しかし田村は、Uインターがその後の悲しき終焉に向かうなか、高田延彦や安生洋二らが長州力や永田さんたちと繰り広げていた新日本プロレスの対抗戦に、頑なまでに加わらなかった。新日との対抗戦に出ることを、自分の信じた〝UWF〟を売り渡すこと、そして自らがプロフェッショナル・レスラーとして後退することだと考えていたからだ。

そんな田村に残された選択肢は、メインやセミファイナルのスポットライトから外れ、第一試合で若手と試合をすることのみだった。その〝若手〟とは、賢明なる読者であればおわかりであろう。

田村潔司と桜庭和志が初めて交錯する瞬間が訪れるのだった。

彼らは芸術的なグラウンドテクニックを披露して、素晴らしい〝UWF〟を見せてくれた。二人はUWF、つまりゴッチ・スタイルのレスリングというバックグラウンドを持っている。同じようにUインターの道場で、打撃、寝技、投げ技を練習してきたのだ(にもかかわらず、見事なほどにまったく異なったパーソナリティを形成しているが)。

二人の交わりによって浮かびあがった〝U〟の灯火は、未来を明るく照らし出すかと思われたが、田村はUインターを憮然として去り、新生UWF時代のボスであった前田日明率いるリングスに入団した。田村はリングスを離れるときですら、高田やほかのUインターの仲間と交わらず、自らの道を進み、理想のUWFを究めようとしていた。

桜庭もまた、自らの進むべき道を模索していた。Uインターの後期からキングダム時代にかけて、MMAのステージでスターになるべく実力をめきめきとつけていたのだ。

UFC-JAPANでマーカス〝コナン〟シウヴェイラに勝利したとき、世界はこの偉大なプロレスラーの存在にやっと気づくようになった。その後、PRIDEのリングで〝グレイシー・ハンター〟という称号を得た桜庭は、世界中でもっとも愛されるMMAファイターとなっていく。

しかし、ヴァンダレイ・シウバがそのすべてを変えた。シウバが扉を開いた残酷な喧嘩スタイルによる新MMA時代。桜庭はどう猛なバイオレンス・ファイターたちに敗れ続けた。慢性的なヒザの負傷を抱えながらも、休息と回復の時間を取ることもできずに。おそらく彼は、〝Show Must Go on〟を感じて、エースとしての責

田村潔司vs桜庭和志。

この試合の意義、そして二人の心の中を洞察することは UWFマニアと超人オタクの僕のための仕事なのだ！

ターに入門する頃には、すでに中堅の

"Go on"を感じて、エースとしての責任を務めたのだろう。

だが、その代償は高くついた。世界中でもっとも愛されたファイターは、暴力とケガに輝きを失なった。

田村の"UWF"ロードも試練と障害に満ちていた。リングスで開催されたKOKトーナメントの王座には常に届かず、オープンウェートの王座も彼の手からこぼれ落ちてしまった。そして田村もPRIDEのリングで、桜庭と同じく"暴力の王者"に打ち負かされてしまう。ミドル級GPの夜も、彼の旅は5分6秒で歩みを終えた。吉田秀彦は彼にとって登ることのできない山として立ちはだかったのだ。

同じような過去を持ち、同じような道を歩んできた二人の男。この闘いが行なわれるのならば、それはいまこそ起こるべきだろう。ケガや年齢による支障がある前に。彼らの灯が消える前に。

ただ、この試合に懸ける二人の、個人的なモチベーションははたしてどのようなものなのだろうか？

これまで田村はDSEの再三にわたるオファーに対して、硬い表情を崩すことがなかった。彼には桜庭戦を受けない理由がある。彼は桜庭の先輩だった、というより、おそらくいまでも、そう思っているだろう。Uインターのリングと、そして道場でこれまで幾度となく桜庭に勝ってきた。いまあえて桜庭戦を受ける理由はどこにもない。

さらに、田村はU－STYLEという守るべき家族がある。U－STYLEにおいて田村はもっとも重要な人間であり、彼を失なえばU－STYLEは崩壊する。彼とU－STYLEにとって、桜庭に勝つことによって得られるかもしれないギャンブルの報酬は充分な価値があるとは言えないのだ。

一方の桜庭にしてみても、たとえ田村に勝ったからといって、ミドル級のトップコンテンダーへ返り咲くというわけではない。むしろ、この闘いは個人的な悪魔払いのようなものだろう。

かつて青年時代に叩かれた相手と闘って、勝つ。常に自分の上の存在であった田村を、おそらくいまでも桜庭は見上げている。田村は自分のボス（髙田延彦）をKOした男であり、Uインターの危機が叫ばれていたときに、その同志を捨てるかのようにライバル団体へ移った男なのだ。

我々ファンの位置から眺めると、桜庭は田村に対する深い嫌悪の感情を抱いて、おそらくそれは修復できないようにも窺える。もしかすると田村に対する嫌悪感こそが、彼をこの試合へと駆り立てているのか。

しかし僕にとってこれらのサイドストーリーは、UWFというケーキに乗せられた単なるオマケでしかない。確かに彼らの歴史はこの闘いにさらなる魅力を加えるが、僕がいちばん心惹かれるのは、スリリングな闘いから生まれる芸術的な「プロ・レスリング」なのだ。フィニッシュへと導く彼らの攻撃スタイルは、試合展開をよりダイナミックなものとし、ファンの心をとらえて離さなかったのではないだろうか。

年末のイベントは、日本の全国民が注目するという意味で多くの格闘家たちにとって理想的な大舞台と言えるが、そこには、Uインターにはありえなかった新MMA時代の色が落とし込まれている。つまり、二人の再会にバイオレンス性が生まれないという保証はないが、しかし僕はそれを美しく幻想的な現実のものとして、UWFのもっとも素晴らしかった時代の終焉として、悲しく見つめることになるだろう。

田村潔司vs桜庭和志。いち格闘家として、そして一人のファンとして、僕はずっとこの闘いを待ち望んでいた。

きっとこの試合はUWFインターナショナルの最終章、ファイナル・ゴングとなるのだろう。二人のオーラがリングを包み込む。かつての師、髙田延彦が強いまなざしでリングを見つめるなか、二人の道場生が向き合う。ミドルキックvsチキンウイングアームロック、いや、ダブルリスト・アームロックでもいい。先輩vs後輩、田村vs桜庭。UWFインターナショナル。

あと数行で筆を置くいま、まだ"田村vs桜庭"戦決定という報はまだ僕の耳に届いていない。いつもどおり、赤いパンツの頑固者は「NO」と首を横に振るのか……いや、もしかしたら今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るのかもしれない。

もし実現したら、そのとき僕がどちらを応援するかなんて聞かないでもらいたい。ただ、試合終了のゴングが鳴ったとき、二人の壮絶なる闘いと「最後のUインター魂」をたたえて、喜びと悲しみの涙を流すのだろう。

撮影／平工幸雄

JOSH BARNETT■1977年11月10日、米国出身。UWFのみならず、アニメをはじめ日本文化をこよなく愛する世界最強のオタク。現在はプロレスではIGF、MMAでは『戦極』、アフリクションが主戦場。191cm、115kg。

UWFからPRIDEへ続いた大河ドラマ、いよいよ最終章へ
ついにやってきた俺たちのファイナルマッチ!!

桜庭和志vs田村潔司
変態座談会

待ちに待って、待ちくたびれた桜庭和志vs田村潔司戦がついに実現！ この桜庭vs田村といえば、UWFから続いている[illegible]的ファンにとっては[illegible]にできないほどの特別なカード。この一戦が正式決定した報を事前に入手した編集部は、会見前日に変態メンバーを緊急召集！ 俺たちのファイナルマッチ・桜庭vs田村をおおいに語りまくった！

[illegible]

座談会出席者

椎名基樹
本誌の好評長寿連載コラム　サムライ三昧でもおなじみのフリーライター。放送作家構成作家　UWF、真剣勝負にあくなきこだわりを持ち、UWFの血が流れていることを公言する。変態メンバー最年長にして、メンバー内では癒し系と言われる

井上崇宏
ベールワンズの総帥。髙田延彦にあくなきこだわりを持ち、本誌では桜庭番も務める　かつてはショップ「グレート・アントニオ」のプロデューサーとして、UWFインターのロゴマークTシャツも制作　桜庭vs田村戦実現を機に再販も目論む

堀江ガンツ
本誌編集部　ちっちゃな頃から変態的プロレスファン＆JWF信者として鳴らし、kamipro編集部に入ってからもJWF研究家を自称　本誌・田村番として、幾度となくインタビューを手がける　当変態座談会の主宰者でもある

原タコヤキ君
元・小さい版型の頃の「紙のプロレス」編集者　現在は音楽プロデューサー兼変態座談会のカリスマ司会者　自転車とギターとジャイ子へのセクハラに夢中な38歳。本誌公式サイト「kamipro.com」のポッドキャスト「kamipro」でも司会を務める

ガンツ　今日は変態メンバーの皆さんに急きょお集りいただき、ありがとうございます！

タコ　変態オリジナルメンバーが勢揃いするのもひさびさやなあ。

井上　ひさしぶりに会うので椎名さんはご存知ないかもしれないですけど、じつは……

椎名　どうしたの？

井上　僕のモノマネ芸がさらに進化してるんですよ

椎名　そんなこと知るわけねえだろ！（笑）。

タコ　というわけで、今日の夕方、急きょ招集をかけられたわけですけど、ガンツさん、いったい何があったんですか⁉

ガンツ　え～、正式発表は明日なんですけど、じつは……大晦日の『Dy

namite!!』で桜庭和志vs田村

ガンツ　普通に考えて、大晦日に視

たんだけど、今日、あらためて決定の

った。

ガンツ　日本格闘技界っしいという

桜庭vs田村戦決定に喜ぶのは照れがあって スカしていても、当日の胸の高鳴りに驚くはず

namite!!』で桜庭和志vs田村潔司戦が正式決定しました！

一同 おお〜！ パチパチパチ（拍手）

タコ ホンマにやるんか！

椎名 来たね、ついに

ガンツ 半ばあきらめていた対戦だったんで、僕自身いまだに実感が湧かないんですけど、明日の会見で正式発表 今度こそホントに実現するみたいです

タコ でも、ここまで長かったな〜 何度も実現が噂されながら、そのたびに流れて。Uインター時代からの二人の流れを知っとる変態も、さすがにもう少なくなってるやろうし。

ガンツ だから、そもそもこの『変態座談会』というのは、桜庭vs田村戦が実現したとき、新しいファンにも二人のルーツを知ってもらうためにスタートしたんですよ。

タコ ああ、そうや 桜庭vs田村の説明書やったわけやんな

ガンツ それがUWFを中心にいろんなテーマを語りすぎて、最後は「キン肉マン」や「ターザン山本！」がお題になったりもしたんですけど（笑）、今回は原点に帰って桜庭vs田村戦をおおいに語ろうと思います！

タコ 確かにUWFの記憶なんて、俺らですらおぼろげになってる昨今、ちゃんと説明せんと、この二人が闘う意味なんてわからん人が多いやろうからな。

ガンツ 普通に考えて、大晦日に視聴率を獲ろうとしたら、一番大衆的なものをやるわけじゃないですか。そこであえて変態のど真ん中に球を投げてくるっていうのが、PRIDE的でいいですよね。

タコ でも、かなり旬を逃した感があるこの対戦を、いま実現させてどこまで反響あるんかな？

椎名 いや、いざ発表になったら、Uの歴史を知ってるヤツも知らないヤツも「ついにやるのか！」ってなるんじゃない？

井上 なるでしょう 俺自身、もともと桜庭vs田村戦ってあんまりピンときてなかった時期があって「べつにやらなくてもいいよ」みたいに思ってたんだけど、今日、あらためて決定の報を聞くと、自分でもビックリするほど心の乱れがあるんですよ。

べつに睨み合うわけでもなく、ファイティングポーズをとっているだけで、そこはかとなく緊張感が伝わってくる桜庭と田村。この一戦は、闘う当人たちはもとより、観る側にとっても、いろいろな感情が渦巻くものとなるだろう

ガンツ やっぱり、桜庭vs田村戦で喜ぶのには照れがありますよね 「何年か前に実現してたらよかったけど」とか言って、そんなに興味ないふりして

井上 おそらく、当日の最後の最後まで、スカした態度をとるファンって多いと思うよ。でも、いざ当日を迎えたら、異常な感情の高ぶりに驚くはず。

タコ それは船木（誠勝）vsサクのときもそうやったな。俺もずっとスカしてたけど、当日「この胸の高鳴りはなんやろう？」っていうのが確かにあった。

ガンツ 桜庭vs船木とか、田村vs船木にも胸の高鳴りがあったんだから、桜庭vs田村になったら、これは大変ですよ！

椎名 でも、やっぱり何年か前にやってくれたら、もっとストレートに燃えたのに！っていうのはあるよ。それがあるから、カッコつけて興味ないふりしちゃうというかさ。

ガンツ そういう人でも当日はみんな号泣してますよ それは間違いない

タコ 大晦日の『Dynamite!!』は全20試合ぐらいあるって話やけど、そん中でもひと際、異彩を放つんやろうな

ガンツ おそらくメインイベントでしょうしね

椎名 メインイベントなの？

ガンツ 逆にメイン以外に収まる場所がないというか。ホント別枠の特別試合ですからね

井上 （山本小鉄ボイスで）いや、古舘さんね、正直、今年はほかにメインにふさわしいカードが組めないっていう事情もあるんですよ。

椎名 小鉄さん詳しいな（笑）

ガンツ なぜか小鉄さんが格闘技の事情通（笑）

井上 だけど俺、この1試合があればそれだけでいいけど。

タコ でも、海外のMMAファイターとか、K−1ファイターなんて「このメイン、何？」って感じなんやろうね（笑） UFCじゃ、絶対にメインにならないカードが絶対的なメインっていうのが、この試合が日本の格闘技文化だろうなんやろな。

ガンツ 日本格闘技界らしいというか、PRIDEらしいって感じですよね 大晦日という視聴率が最も重要視される日に、あえて田村vs桜庭戦をメインにするという。ここに変態的なPRIDE魂がまだ生きてますよ。一説によると、田村vs桜庭は「PRIDEファイナルマッチ」と銘打って行なうという話もありますし。

井上 それだったら、立会人として高田統括本部長が出てこないとダメだよね この試合前に登場して、「桜庭、田村、出てこいやー！」と

ガンツ それだけでもう涙腺決壊ですね

椎名 うん この試合で泣けるか泣けないかって、ある意味、高田本部長で決まるよね。桜庭も田村も、そこを中心とした確執だったわけだからさ。

井上 だからね、これはやっぱりPRIDEファイナルマッチというより、俺にとってはUインター時代の桜庭vs田村三番勝負に続く、Uインター第4戦なんですよ。

椎名 その打ち出しだと、よけいに一般視聴者にはわけのわからない闘いになるね（笑）。

ガンツ まあ、それこそPRIDEっていうのもUインターからの大河ドラマじゃないですか。だから今回の桜庭vs田村戦っていうのは、変態の総決算というか、変態ファイナルマッチ的な感じですよね。

タコ ホンマやな。これ観終わったらどうなってしまうんやろう、変態たちは。それに田村戦をやってしまったら、「サクもこれから何をするんやろう」と俺は思うし。

椎名 俺もそれは真っ先に考えた。

桜庭はこれで辞めるつもりなんじゃないかなって

ガンツ 総決算的な大一番だけに、負けたほうが引退……?というような妄想をどうしても働かせてしまいますよね。

椎名 俺は田村はともかく、サクは引退したがってるような感じが最近、凄くするんだよね。『SRS』の最終回に出たときも、「タクシーの運転手になりたい」とか言ってるしさ

井上 言ってましたね(笑)

タコ でも、たとえば田村が勝ってサクが引退したら、田村はホンマ介錯ばっかりしてるなって感じやな、高田、桜庭と二代にわたって(笑)

ガンツ 凄い死神ですね(笑)

タコ 高田もサクも身体ボロボロになってたのに、自分はコンディションばっちりやし

ガンツ 今年39歳、キャリア20年であの肌つやのよさは異常ですからね

井上 ここんところ急に寒くなったけど、田村は絶対Tシャツ一枚ですごしてるよ、あれ

ガンツ 田村は真冬でもTシャツ一枚ですからね で、かと思えば突然、分厚いダウンを着込んだり(笑)

井上 そうそうそう! 極端なんだよね。こないだまでTシャツ一枚だったのに、急にベンチコート着てたりするんだよ!

カンツ とにかく、いまだに身体の新陳代謝がうまくいってる感じがしますよ 桜庭は3年前といまじゃ、顔つきが全然違いますけど、田村はほとんど変わってませんからね

井上 そうそう、サクとかはさ、キャリアとともに無茶してきたぞっていうのが姿かたちに表われてるけど

椎名 だけど、だんだんヘビー級のプロボクサーみたいな顔になってきて、強そうな感じもするけどね。やっぱり桜庭と田村の違いは、パウンド食らった数の違いじゃない?

ガンツ オフロードを疾走しまくってる桜庭と、常にメンテナンスばっちりでたまに重要なレースに出る田村とじゃやっぱり違いますよね

タコ 年式は一緒でも"走行距離"が違っちゃうもんな

井上 だから、たとえばここで田村が勝った場合、子を持つ親としてはどういう教訓を伝えることになるんだろうって考えたりもするんですよ

椎名 田村が勝ったら教育上よくないの?(笑)

井上 いや、よくないわけじゃないですけど(笑)。これまで相手を拒まず闘ってきたような桜庭と、石橋を叩いて渡る人生を歩んできた田村が闘った場合、どっちが勝つかでその"絵本"が何を伝えようとしているのか、意味合いが全然変わってくるわけじゃないですか

ガンツ 確かに(笑)

井上 だからやっぱり、この一戦というのは、勝ち負けが大事ですよね

桜庭、田村、そして高田延彦が、リング上で勢揃いをするのは、02年11月の高田延彦引退試合以来実現していない 高田と桜庭が公の場で顔を合わせるのも!PRIDE 34 以来。はたして本部長来場は実現するか?

椎名 勝敗は凄い興味あるよ こんだけ比較されてきた二人なわけだし、仲もよくないわけじゃん 負けたほうが凄い屈辱だろうからね

タコ じゃあ、このへんで勝敗予想を聞いておこうかと思いますけど、椎名さんはどっちが勝つと思います?

椎名 桜庭の圧勝でしょう

ガンツ おお〜! そう思いますか

椎名 俺はそう思うけどね

タコ 桜庭番でもある井上くんは?

井上 桜庭でしょうけど、ホント正直わかんないですね 田村がどこまで強いのかっていうのも、いまだによくわかんないし

ガンツ 田村ってキャリア20年の人ベテランなのに、なぜか強さを査定するサンプルが少ない気がしますよね(笑)

椎名 なるほど(笑)。

ガンツ 船木やミノワマンには秒殺勝ちするけど、金泰泳には判定負けだったり

井上 あとは両者が最短距離で勝ちにいくか、それともプロレスラーとして、大晦日のメインという意味も踏まえて、ある程度はじっくりといくのか

タコ もしかしたらUWFのような回転体の試合が大晦日に観られるかもしれん、と(笑)

井上 でも、それはないかな サクは昔から「僕と闘ったら田村さんの顔が血まみれになるかもしれない」って言ってるし、このあいだインタビューしたときも もし(田村戦が)決まったら、シュートボクセに"元祖ハーリ・トゥード"の修行をしに行ってくる」って発言もあったし

椎名 それはシュートボクセに行って「仕上げるぞ!」って意味なの?

井上 いや、おそらく……「ぶち殺す」っていう意味なんじゃ……(笑)

椎名 なるほど! へぇ〜、そう思ってるんだ

井上 だから、キラーモードでいくことも考えられるし、プロとして、「桜庭和志」というキャラクターを大事に考えて、そういう面は見せないかもしれないし サクがどう出るかってことも気になりますね

タコ でも、一般の人は、大晦日のお茶の間でキラー・サクなんて見せられたら、ドン引きやないの?

椎名 いや、格闘技にチャンネル合わせるような人はバイオレンスに飢えてますよ もう、顔面蹴りありでやってほしい!

ガンツ それこそ「PRIDEファイナルマッチ」と銘打たれたりしたら、顔面蹴り、顔面踏みつけありのPRIDEルールってことも考えられますよね?(※この座談会は、桜庭の「時間無制限で素手」発言があった会見の前に収録しています)。

椎名 そうなったら最高だな

タコ ガンツはどっちが勝つと思う?

ガンツ 僕は田村じゃないかと思いますね。これは下世話な話になりますけど、桜庭がメルヴィン・マヌーフ戦で左腕をケガしてたじゃないですか 田村は「いまなら間違いなく勝てる」という考えもあったんじゃないか、という妄想も働くんですよ。

井上 サクのケガは俺も気になってるんだよな〜 ただ、サクのケガの治り具合が遅れてるっていうのも誘い水かもしれないよ。

ガンツ 確かに、会見とか取材のたびに、やたら目立つサポーターをハメてて、わざとらしすぎる感はありますよね。これまたカモフラージュであってほしいな(笑)。タコ兄さんの勝敗予想はどうですか?

タコ 僕も田村の勝ちかな 試合後ああ、そうなるんや」っていう妙な納得をしてるような気がする

椎名 これで桜庭2票、田村2票の五分で分かれたね

井上 やっぱり、こればっかりはやってみないとわかんないよ どんな試合になるかもわかんない

ガンツ ちなみにUインター時代にやったときは、田村の3戦3勝でしたけどね まあ、あれから時間が経ち

タコ いやぁ、ますますわからんな

ガンツ とりあえず、石井に桜庭vs

井上 マジギレでしょう。

椎名 『Dynamite!!』を「D

この一戦の立会人として髙田本部長が出てきて「桜庭、田村、出てこいや！」と言ってほしい！

すぎてはいますけど。

タコ　経ちすぎや　もう12年以上前やろ（笑）。

井上　（小鉄ボイスで）あまり参考になりませんよ！

ガンツ　でも、田村には「あのとき勝ってる」っていう思いは絶対あるでしょう。

椎名　わざわざガチでやっての勝利だから、絶対にそれは自信になってるよね

タコ　いや〜、ますますわからんなあ。でも、これだけ語ることがあるカードっていうのも、最近、ないよなあ。

椎名　だからこそ、なかなか世間には伝わらないのかもしれないけどね（笑）

井上　だから、視聴率なんかは石井（慧）のこれまでの歩みとかで、しっかり数字獲ってもらって、変態たちは桜庭vs田村戦に集中すればいいいんじゃないですか。

ガンツ　とりあえず、石井に桜庭vs田村戦をリングサイドで観戦してもらったりして

井上　でも、隣に秋山（成勲）が座ってたりするんじゃないの？

ガンツ　ああ、それは充分ありえますね（笑）

タコ　桜庭vs田村戦のとき、ビジョンにリングサイドの秋山が映ったりしたら、大ブーイングやろな　それもボーズじゃない、憎悪のブーイング

井上　マジギレでしょう

ガンツ　「この試合を汚すな！」って感じでしょうね

タコ　ましてやサクvs田村戦の名勝負のあとに花束持って魔王が入ってきたりしたら台なしやろな（笑）

椎名　秋山って大晦日は誰とやる予定なの？

ガンツ　まだ全然わかりませんけど、吉木真也とゲガール・ムサシでオファーしてるって話ですけどね

椎名　秋山にとったら、どっちも嫌でしょ

ガンツ　嫌でしょうね　そういえば、秋山が「大晦日は"ムサシ"とやりたい」って言ってて、ゲガール・ムサシかと思ったら、K－1の武蔵だったという、未確認情報もありますけどね（笑）

椎名　それってK－1ルールじゃなくて、総合で？

ガンツ　もちろん総合です（笑）

椎名　ひでえ（笑）

タコ　魔王なら言いかねない感じがするよなあ

ガンツ　まあ、いずれにせよ変態にとったら、秋山の対戦相手と同等か、それ以上に、髙田本部長が来場するかどうかが気になるんですけどね

井上　そりゃ気になるでしょ　もう今回の大会名も「Dynamite!! インターナショナル」にしてもらえないかなあ？

ガンツ　Dインターですか（笑）

椎名　じゃあ、少なくとも俺たちの中だけで使ってみる？　大晦日のDインターどう思う？」とか「Dインター行かねえ？」とか（笑）

ガンツ　増刊みたいですね。

椎名　Dynamite!!』を「Dインター」って呼んでるヤツは変態の証みたいなさ（笑）。

井上　まあ、桜庭vs田村戦が今年行なわれるっていうのも、『UWF変態新書』のリリースと歩調を合わせてきたようにも感じますからね。ずいぶん、都合のいい解釈だけど（笑）。

ガンツ　すべての流れが変態に向かってますね（笑）

タコ　もう『UWF変態新書』、当日会場で売ったらええんちゃう？

ガンツ　売りたいですね〜　少なくとも桜庭vs田村を観る前に、多くの人に『UWF変態新書』を読んでほしいですね。

椎名　「変態は大晦日、Dインターに集結せよ！」っていうね（笑）

タコ　まあ、我々はそれで楽しいですけど、視聴率的にはやっぱりキツいかな〜

ガンツ　いや、なんだかんだいってテレビ番組としても気合いが入ってるんで、一般層が飛びつくようなカードも組まれると思いますよ　じつはまだある超大物を出場させるべく動いているという話ですし

タコ　へえ〜、誰？

ガンツ　いや、まだどうなるか、これこそ未知数ですからね　ただ、これが実現したら、もの凄い視聴率が獲れることは間違いないんですけど

タコ　そんなのいるんかいな

井上　ちょっと教えてよ！

椎名　日本人？　外国人？

ガンツ　……というわけで変態座談会を終わらせていただきます（笑）。

一同　ブゥーーーッ！

【08年11月11日　kamipro編集部にて収録】

96年にUWFインターで行なわれた３連戦以来、12年ぶりとなる田村vs桜庭戦　Uインターではグラウンドの技術の攻防となったが　今回は凄惨な一戦となるのか？

PRIDEの卒業と介錯

テレビを食うか食われるか!?

DREAMイベントプロデューサー 笹原圭一

ついに実現する桜庭vs田村! ハッスルGM……ではなく、旧PRIDEスタッフであった笹原氏だけの感慨の深さは計り知れない。というわけで、喜び勇んで一杯引っかけて泥酔する前に話を聞きました!

聞き手／ジャン斉藤

――笹原さんは以前、大晦日の格闘技イベントに限っては、この業界のありとあらゆるルールや常識があっさりと覆ると言われてましたよね。

笹原 そうですね。だからなのか、過去のイヤな思い出しか残ってないですけど（笑）。

――イヤな思い出だけって（笑）。

笹原 いい意味でも悪い意味でも、いろんなことがありましたから……。そもそも大晦日のイベントって、誰が「やろう!」って言い始めたんですかねえ。

――ターザン山本いわく「俺ですよおおおお!」だそうです（笑）。

笹原 アハハハ! それでいいのかなあ。

――まあ、ターザンなんかの話題はともかく、笹原さんは、2000年に大阪ドームで行なわれた一回目の『猪木祭り』のときから大晦日イベントには関わっているんですよね?

笹原 はい。あのときはプロレスイベントだったんですよね。あれが一番おもしろかった。

――それは意外ですねえ。

笹原 やっぱりハッピーじゃないですか、プロレスって。それにプロレスって非日常の空間なわけで、非日常の舞台装置として大晦日をうまく使えたと思うんですね。そういう特別な空気があったから、いろんなものが動き出して。

――それで翌年から総合格闘技イベントに生まれ変わって。で、今回の特集は「テレビ」なんですけど、大晦日って通常よりテレビを意識しなければならないですね。

笹原 そうですね。当然、テレビで放

送するかぎりは、マスを意識しなくちゃならないと思うんですけども、的にも格闘技的にもそのバランスがうまくとれるのかというところに興の世界観をちゃんと打ち出したほうがいんじゃないかっていう思いがあ受けるのかドキドキしますよ。ここまでくると猪木vs馬場みたいに「永ね。もちろん新しいファンにも、この闘いの意味をぶつけてみたいという

桜庭さんと田村さんには〝PRIDEの亡霊〟を介錯してほしいと思ってます

送するかぎりは、マスを意識しなくちゃならないと思うんですけども、大晦日はとくにそれが顕著ですよね。03年にPRIDEが初めて大晦日イベントをやったときも、格闘技を世間に露出できるチャンスとしての場だというとらえ方をしてました。つまり、PRIDEをより世に広めるための手段だったんです。

——なるほど。大げさに言うと、テレビを通すことで格闘技の本質が崩れてしまうんじゃないかみたいな不安もあるわけじゃないですか。一方で、テレビがなければ格闘技イベントを維持できないという厳しい現状もあるわけですよね?

笹原 両方あると思います。そういう意味で、06年の吉田秀彦vs小川直也というマッチメイクは、テレビ的にもPRIDEの本質としても成立していた、言ってみれば究極のかたちですよね。

裏を返せば、それくらいのカードを打たないと、大晦日の成功は難しいという。

笹原 03年も、そもそもやるつもりはなかったですからね。急な話でしたから、ホントにカード編成が大変でしたし。

——裏の『猪木祭り』のカードのほうがよかったりして(笑)。

笹原 ああ、あのとき『猪木祭り』のほうがまだカードは大晦日らしかったかもしれませんね。

——そういう意味で、今年はテレビ的にも格闘技的にもそのバランスがうまくとれるのかというところに興味はあります。

笹原 繰り返しますが、そこはどっちも重要ですから。現実的にはマスイベントを成り立たせるためには、テレビは欠かすことのできない要素です。3月にDREAMを旗揚げしてから何度かゴールデンタイムで放送してますけど、大晦日は普段以上に数字を求められますよね

——で、今年の目玉の一つである田村vs桜庭って、マスにはわかりづらいカードですよね。

笹原 それこそボブ・サップvs曙みたいにわかりやすいカードではないことは確かですよね。それにあまりにも長く引っぱりすぎたせいもあって「二人の因縁はなんだったの?」っていう声もありますから(笑)。

——そもそもの話で言えば、このカードは、先ほど話に挙がった03年のカード編成が苦しいときに、PRIDEらしさを求めるためにやろうとしてたわけですよね。曙vsサップに対抗できるのはこれしかない! と。

笹原 そうなんですね。先に曙vsサップが発表されて、こっちはビックリしたわけですよ。「これはとんでもないカードだな……」と。

テレビ的にはあのカードの発表時点で「勝負あり!」でしたね。

笹原 ええ、正直、白旗を掲げてました(笑)。でも、そのときボクらの中に、こういうときだからこそPRIDEの世界観をちゃんと打ち出したほうがいいんじゃないかっていう思いがあったんですよ。いわゆる勝負論ですよね。それをむしろ打ち出すべきだ、よりPRIDEの世界観を出せるようなカードを出すべきだ、と。そこで出てきたのが桜庭vs田村なんですね。

——いまは格闘技の熱が下がってきているといわれ、コア層ですら世間に届かせるための飛び道具を求めがちです。そんな時期に田村vs桜庭という、一般人にはわかりづらいカードを出すのは、03年のPRIDEに感じた、ある種の覚悟を思い起こさせてくれたというか。

笹原 正直言って、どういう評価を受けるのかドキドキしますよ。ここまでくると猪木vs馬場みたいに「永遠に実現しないほうがいいんじゃないの?」っていう声もあったりもするわけじゃないですか。だからいろいろ考えちゃうんですけど……、個人的には桜庭さんと田村さんには〝PRIDEの亡霊〟を介錯してほしいとボクは思ってますけど。

——要するに、テーマは「PRIDEファイナルマッチ」ですね。

笹原 えーっと、これはあらためて言っておきますが、PRIDEはもはやボクらがどうこう言えるものでも、できるものでもない。すべての権利は海の向こうに渡っているわけですから。なので、ボクの口からは「PRIDEファイナルマッチ」とは言えないですけど……。

——あ、いろいろと面倒なことがあるんですね(笑)。

笹原 なんていうんでしょう、「PRIDEの卒業式」ですかね。3月にDREAMを立ち上げて、「新しい価値観」を創ると宣言したわけじゃないですか。もちろん一歩ずつ新しいものはカタチになりつつあると思うのですが、やっぱりPRIDEからは簡単に脱却できないじゃないですか。それを二人に介錯してほしい、みたいな気持ちはありますよね。というかこの二人にしかその役目はできないでしょうし。

——あの二人は散開イベントの『やれんのか!』に出てなかったですけど、出るべき二人でしたし。

笹原 だから、PRIDEファンだった人たちは「集結セヨ」じゃないですけど、絶対に観なきゃダメですよね。もちろん新しいファンにも、この闘いの意味をぶつけてみたいという思いもありますし。やっぱり、日本の格闘技って、「田村vs桜庭」的な物語を追及していくべきだと思うんです。こういう情緒的なカード、この世界観は、どこまで行ってもなくならないと思いますし、絶対に必要です。逆に言うと日本でしかできないカードだと思うんですよ。競技を志向するのも全然ありなんですけど、その片輪だけではうまく転がっていかないと思うんですよね。

——競技だけじゃ広がないですし、桜庭vs田村って、MMAというフィルターじゃその魅力は伝わらないのかもしれませんね。

笹原 そうなんですよ! この試合は、ある意味現在のMMAへの挑戦状でもあるんですよ。バーリ・トゥード、果たし合いとして見るのが一番いいのかな。こういう世界もあるというのを覗き込んでほしいですよね。だって、こういうカードで人生を変えられる人がたくさんいるんですよ。

——いやあ、ホントそうですね(笑)。

笹原 いっぱいいるわけじゃないですか、UWFを観たがためにこの世界に入っちゃった人たちが(笑)。そうやって人を狂わせるぐらいの磁場があるカードってことなんですね。

——覗き込ませるっていう意味では、ここ20年ぐらいの総合格闘技の歴史がひも解ける試合にはなりますね。

笹原 そうなりますね。生半可な気持ちで観ると大変ですよ。まさしく底が丸見えの底なし沼ですから(笑)。

——そういう果たし合いのごときカードでいくと、青木さんの相手が秋

ついに実現する桜庭vs田村。二人が対戦を約束した「PRIDE.34」の時点では、まさかこんな顔ぶれで記者会見を開くことになるとは想像もできなかった! 榊原氏のコメントはぜひ聞きたい

石井慧選手に関しては報道がエスカレートしすぎです

山さんになるんじゃないかっていう噂を聞いたんですけども。

笹原 秋山選手のカードに関しては現在のところ調整中です。ただ、秋山選手目線でいうと、階級が軽い選手と闘うのはやっぱりリスキーじゃないですか。しかも、青木くんが相手だと、一発取られる可能性は充分ありますからね。

――実現したら凄くヒリヒリすると思うんですが、競技的視点からすれば体重差に問題がありますね。

笹原 そこもバーリ・トゥードなら楽しめると思うんですけどね。まだどうなるかはわからないですけど、インパクトのあるカードじゃないと組めないですよ。大晦日って誰もが出たいと思ってる舞台じゃないですか。それってある意味、選手に対するご褒美みたいなところがあると思うんですよね。1年頑張ってきたから、1番目立つところでいいカードを組んであげる。こちらとしては頑張った選手にはそういった舞台を作ってあげたくなるじゃないですか。

――秋山さんにおいしい思いはさせないということですか。

笹原 誰もそんなことは言ってませんよ（笑）。

――でも、秋山さんは『Dynamite!!』の開催発表会見にも出席してないし、大会広告の出場予定選手に名前もなければ、顔写真もないじゃないですか。主催者サイドが秋山さんを突き放しているところはあったりするんですか？

笹原 どうなんですかね？ ボクにはそんな意識はないですけど。秋山さんの窓口はFEGさんですから、そこはわかりかねます。

――そうですか（笑）。話は変わりますが、石井慧さんはどうなるんでしょうか。

PRIDEの卒業と介錯

笹原 石井慧選手に関しては、報道がエスカレートしすぎかなあと。[illegible]どこもかしこもトバシ[illegible]ますね（笑）。たとえば契約金が何億だとか。

笹原 何を根拠に書いてるのかまったくわからないですが[illegible]るわけないですよ（笑）。あれだけの逸材ですから、みんなが注目するのは凄くわかるんですけど。石井選手が自分の口から初めて「総合に転向します」って表明したのは11月3日なんですよ。そのときもマスコミから「結局、なんの進展もないんですね」みたいなことを言われるわけですけど、進展も何も、本人がちゃんとしゃべったのってそのときが初めてだったわけじゃないですか。

――では、DREAM登場濃厚という報道は事実ではないと？

笹原 まだ話は何も進んでないですよ。ただ、もしボクたちが迎え入れるのであれば、安易な姿勢ではやりません。ちゃんと柔道界からも祝福されるような万全の体制で受け入れられるようにしなきゃいけないですよね。本人が総合格闘家として10年、20年っていう長いスパンでやっていける環境を作れると思いますけどね。

――大晦日デビュー戦の話も流れてますが……。

笹原 年末に出すとか無茶ですよ。いまや簡単に通用する時代じゃないですから。それこそWECでユライア・フェイバーが負けたりしてるじゃないですか。やっぱり選手の実力が拮抗してきてる中に飛び込んでくるんだから、ちゃんと基礎を練習しないといけないでしょうし。

――その石井選手が「60億分の1」という言葉をよく口にするじゃないですか。それってある意味で〝PRIDEの遺産〟ですよね。

笹原 そうですね。あの当時、PRIDEを観てた子たちは必ずいるわけですよ。だからPRIDEの種を彼らは受け取ってるんだと思いますね。

大きな期待が寄せられる北京五輪柔道金メダリストの石井慧 09年は彼を中心に回っていくことは確実だが、最大のポイントはどこのリングに上がるかだ トバシ気味のスポーツ各紙はDREAM優勢を伝えるが……

――先ほど、UWFで道を間違っちゃった人たちがたくさんいるって話がありましたけど、石井選手もPRIDEを観たことによって道が決定づけられたところもあるんでしょうね。

笹原 それは石井選手だけじゃなくて、青木真也だって川尻達也だってそうですよ。

――そう考えると、波及力のあるテレビって必要ですね。

笹原 必要だと思いますよ。だって、いまは格闘技のジムに入会する人たちも減ってるみたいなんです。先だっても高阪さんにそのことを言われて、思わず「すいません！」って言っちゃいましたもん（笑）。

――そうなるとプロ志望が減ってくるということですね。

笹原 だから競技もテレビもどっちも必要なんですよ。どっちが欠けてもどうこうじゃないです。どっちも必要なんです。ゴールっていうか、最高の場所がなければ、誰も目指さなくなりますし、競技としての信頼性がなければ、勝つための練習なんかできなくなっちゃいますよ。

――今後の話をすると、『戦極』との協力関係がファンからはもの凄く望まれてます。

笹原 ボクらはべつに『戦極』さんとケンカしたり選手を奪い合ったりしてるわけじゃありません。年末のスペシャルな日はそういうことができるチャンスじゃないですか。ただし、『戦極』さんも1月4日に大きなイベントがあるんで、なかなか調整は簡単じゃないと思いますけど。

――でもまあ、大晦日はルールがないですから。

笹原 そういう意味では過去の大晦日はいろんなことが起こるので、それこそ去年も「大連立」とかあったわけですからね。

――では、来年の『DREAM』の行方はどうなんでしょうか。海外では「潰れる」という報道が繰り返されてますが。

笹原 それは『kamipro』の谷川さんのインタビューのせいですよ！（怒）。

――んあ～！ すいません（笑）。

笹原 もちろんDREAMは続きますよ。そのためにも大晦日に結果を出さなきゃいけないですね。結果を出せばよりやりやすくなるわけじゃないですか。そういう意味じゃ石井選手の件で格闘技に注目が集まっていることもそうですし、いまはチャンスだと思うんで。

――ちなみに大晦日にPPVは……。

笹原 こちらもファンの方々に吉報が届けられるよう、いろいろと調整しています。

――期待してます。

【08年11月12日 都内・DREAM事務所にて収録】

『Dynamite!!
～勇気のチカラ2008～』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
12月31日（水）開場14:00 開始15:00

― 対戦カード ―
［ミドル級ワンマッチ］桜庭和志vs田村潔司
［ライト級ワンマッチ］ヨアキム・ハンセンvsJ.Z.カルバン
［K-1甲子園準決勝戦］HIROYAvs嶋田翔太
［K-1甲子園準決勝戦］日下部功也vs日下部竜也
［K-1甲子園決勝戦］準決勝の勝者vs準決勝の勝者
※ほかMMAの試合を10試合程度予定

お問い合わせ FEG TEL.03-3796-2977

このカードで視聴率を狙え!!

石井慧と闘ってほしい人10選

かねてから噂されていた石井慧の総合格闘技転向にあたって、
本誌はいち早く、勝手に「闘ってほしい人」を10人を選出!
永田さん含め、どれも極上のカードばかりだが、石井の初戦やいかに?

構成／松下ミワ

1

エメリヤーエンコ・ヒョードル

「"60億分の1" になりたいです」という野望を口にしている石井なら、現 "60億分の1" ヒョードルとの対戦は必至!! いきなりの対戦はハードルが高いが、石井がMMAでの実績を積み上げていけば、ヒョードル戦という野望はどんどんドラマ性を増していく。

2

山本"KID"徳郁

「神の子だから」「俺、やっぱカッコいい」などのKID語録をユーモアあふれる石井がどう転がすか、試合前の口撃合戦にも興味をそそられそうな一戦だ。来年のいま頃、サダハルンバが本当に黒魔術を仕掛けてそうな一戦でもあるから怖いぞ。んあ〜。

3

A.R.ノゲイラ

MMA界一芸術的な寝技を誇るノゲイラに対して、柔道金メダリストの寝技は通用するのか?! ノゲイラと柔道家の対戦といえば、かつてはアテネ柔道金メダリスト、パウエル・ナツラとの好勝負が思い起こされるが、石井にはナツラ戦以上の興奮を期待!

4

ヴァンダレイ・シウバ

柔道家のMMA転向の際に、打撃対策というのは最も注目されることの一つ。殴る、蹴るの波状攻撃を得意とするヴァンダレイの打撃をかいくぐることができるのかがポイントだ。相手の心を折るようなヴァンダレイの圧力に、石井のハートの強さも試される。

5

チェ・ホンマン

このメンツの中でも一番の高視聴率が狙えそうなのがチェ・ホンマン戦だ。総合デビューの石井と2戦目ホンマンなら実力拮抗!? ヒョードルのタックルでも微動だにしなかった腰の強いホンマンだけに、石井がテイクダウンするだけでも大歓声勃発必至!

6

桜庭和志

評価の対象が勝敗だけにとどまらない総合格闘技において、格闘ファンタジスタ・桜庭和志との試合展開も観てみたい。ケガの桜庭と石井と対戦となれば、もしかしたら初戦でグラップリング対決なんかもありえるかもしれない?

7

ブロック・レスナー

MMA3戦ながら爆発的な好勝負を見せているブロック・レスナーとの魂のぶつかり合いは観たいぞ!! 石井でなくとも、レスナーの勢い余るタックル&パンチは並大抵の覚悟では凌げない。MMAオタクのダナも、この一戦ならレスナ一貸し出しに快諾してくれるはず!?

8

ミルコ・クロコップ

石井がDREAMという舞台を選んだ場合、ヘビー級対決でミルコとの対戦の可能性は非常に高い!! 必殺の左ハイに加え、グラップリングにも磨きをかけるミルコだけに、石井はどこに"穴"を見つけるか。ただ、テレビ的には左ハイ一撃でマットに沈む石井の姿も絵になるかも!?

9

永田裕志

アマの頂点に立った石井。そんな男にプロの厳しさを教えられる強者といえば、アマとプロ両方の頂点を極めた永田さんをおいてほかにいないだろう。永田さんなら「プロは勝つだけではダメ。表情一つで客を沸かさなきゃいけない」と白目を伝授してくれることだろう。

10

三沢光晴

「60億分の1の男になる」そんな石井の野望を達成するために、避けられない男がいる。もちろん(一部ネット上でのみ)ヒョードル最大のライバルと呼ばれる三沢さんである。三沢さんと闘うことで、エルボーの恐ろしさを知り、将来のUFC参戦にも役立つだろう。

大晦日にやれんのか!
〝ファッション格闘家〟に再び対戦要求!

秋山成勲を追いつめろ!!

聞き手/ジャン斉藤

青木真也

『DREAM・6』前後に勃発した秋山成勲vs青木真也問題。

事の経緯は各自調査してほしいが、数々の秋山の身勝手な振る舞いに青木真也が大激怒! 対戦要求を突きつけたのだった。しかし、秋山が「正直、興味がないですね」と冷たく断り、両者の体重差は15キロ近く、実現は不可能と思われたが……、なんと! 11月13日時点で主催者サイドはその対戦に向けて前向きに調整をしているという。競技的視点で見れば、問題ありだが、これほど刺激的な組み合わせもないだろう。できれば素手で殴りあってほしい(無責任)。というわけで、タイ遠征帰りのワオ木さんを直撃!!

――青木さん! ムエタイ修行のためにタイへ行かれてたそうですね。

青木 そうなんですよ。タイは初めてだったんですけど、もう凄かったですねぇ。みんなエネルギーがあるというか、タイ人に比べたら日本人は甘いですよ!

――ハングリー精神が足りない感じですか?

青木 そうですねぇ。『kamipro』の取材で韓国へ行ったときも思ったんですけど、ボクってタイとか韓国とか、ああいうたくましい国が好きみたい。食事も安くすむし(笑)。

――どこか観光はされたんですか?

青木 ラジャダムナンに試合を観に行ったくらいですね。あとはK―1甲子園のHIROYAくんと対談をやったり。

――へぇ~。それは意外な組み合わせですね。HIROYAくんとの対談は盛り上がったんですか?

いまのMMAって、ムエタイの技術が凄く重要なんですよ

青木 どうなんですかね？ 「彼女いるの？」って聞いたら「いない」って。たぶんいるのに！ なんか、ボクに対して凄くバリアを張るんですよ。

——ああ、それはなんとなくわかりますねぇ。

青木 なんで!? ホントはエッチな話をしたかったんだけどなあ。

——ますますわかるなあ（笑）。しかし、青木さんって、ホントにムエタイ大好きですよね。

青木 ムエタイ大好き〜！ もっとキレイなミドルを蹴りたいですから。それに、いまのMMAって、首相撲の攻防が凄く重要なんですよ。あとボクシングスタイルと違うのは、相手との距離感ですね。やっぱり蹴れるってのは重要なんです。ちょっと前まではアメリカ人は蹴れなかったけど、いまはだいぶ蹴れるようになってきてますから、こっちも進化しないと追いつかないんですよ。

——さすが世界のワオ木さん、勉強熱心ですねぇ。

青木 ……またバカにしてるんでしょ？ こっちは必死なのに！

——そんなことないですよ（笑）。

青木 あのね、格闘技雑誌もちゃんとムエタイを取り上げたほうがいいですよ。ちゃんと取り上げてほしいな……『kamipro』以外の雑誌は。

——あ、ウチはオッケーなんですか。

青木 だって、『kamipro』は無理でしょ。

——失礼ですね！ ウチも立ち技のすばらしさを広めるため"ゴン格立ち技委員会"に対抗して、『カミプロ立ち技委員会』という組織を設立したんですよ。

青木 それはおもしろそう。誰がいるんですか？

——委員長は小林聡さんです。

青木 野良犬は怖いですよねぇ。

——会員番号1番がバダ・ハリ、2番がチェ・ホンマン、顧問がサダハルンバ谷川さんです。

青木 へぇ〜。凄いメンバーじゃないですか！

いや、本人たちの了承を得ずに勝手に任命してるから、K-1から即行でクレームがきそうですけど（笑）。青木さんもぜひお願いします、会員番号3番で。

青木真也はタイでも格闘技漬け!! ムエタイの本場にて、立ち技の真髄に触れたのだった この模様はTBS系格闘情報番組「格闘王」で流れたそうだ

青木 やろう、やろう！ やっぱりタイ人って凄いんですよ。小さい頃から試合をやってるから100戦以上はザラだから、技術の精度が高いし。あとK-1みたいな"ボクシングキック"とは違いますから。

——"ボクシングキック"!?

青木 だってK-1って、パンチしか評価しないですもん。蹴りを腕で受けることがどんなに凄いことか、危険なことかって伝わってないですもん。ちゃんとマスコミは伝えてほしいですよ……『kamipro』以外は。

——（無視して）青木さんがムエタイにはまるきっかけは？

青木 ボクの打撃の先生がムエタイ好きなんですよ。大道塾の飯村先生。それで洗脳されたんです。

——試合もやってみたい？

青木 オファーがあればすぐやりますよ！ ホントはタイでも試合をやりかったんですよねぇ。

——自信はあるんですか？

青木 う〜ん、なんとかカッコだけはつけられる自信はあります（笑）。ホントは11月下旬のSBにも出たかったんですよね。でも、大晦日が近いから笹原さんに渋い顔をされました。

——あたりまえですよ（笑）。

青木 大晦日、どうなりそうなんですか？

——いやあ、例によって例のごとく直前まで決まらなさそうですね。ずいぶん前の噂だと、青木さんの相手はエディ・アルバレスだとか。

青木 それ、凄く前の話ですね。エリートXCが潰れる前だから、もう立ち消えになってるんじゃないですかね？ まあ、ボクの場合は秋山選手と「やれんのか？」って感じです。

——あ、やっぱり秋山戦ですか。

青木 どうなってるんですかね？

——主催者サイドはその線で動いているという噂ですけどね。青木さん以外の候補には、ゲガール・ムサシの名前も挙がってるらしいですけど。

青木 あ、ホントですか？

——あとは秋山選手がどうするかじゃないですか。

青木 そうすると、ボクは選ばれないだろうなあ。

——どうしてそう思います？

青木 秋山選手は損得で判断してるみたいですから。だってボクと闘ってもおいしくないでしょ？

——まあ、秋山選手の性格からして、負けてもともとのムサシを選びますね。ムサシはチャンピオンですし、負けても言い訳がきくじゃないですか。

青木 そこでおいしいとかおいしくないで判断するわけですよね。そうじゃなくて、生き様が見える闘いをしたほうがおもしろいと思うんですけどね。

——秋山vsムサシは現在進行形のMMAって感じがしますけど、青木vs秋山は果たし合いのバーリ・トゥードって感じでハラハラしまね。

青木 おもしろいでしょ？

——ええ。こないだ（佐藤）大輔さんと話をしたときに「これからはバーリ・トゥード的な価値観に戻さないといけない」という話になって。

青木 やっぱり鎬を削る試合をすべきですよ。だってこのままいけば、お茶を濁してきた選手がチャンピオンのムサシとやるわけでしょ？ そんなおいしい試合をやらせていいんですかね？ おいしくないボクと闘えって。逃げるなって！

——そこまで闘いたいんですね。

青木 そうですね。でも、秋山選手の試合って、いろんな選手や関係者から反対されるんですよ。

——反対しているファンも多いですね。適正の体重でやってほしいって。

青木 ボクのマネージャーである公武堂の長谷川さんも「青木、ホントか？ 俺は青木に何かあったら困る!!」って心配してくれて。でも、ボクのほうも大黒柱と名乗るなら、DREAMに誤解を招く選手をやっつけないとダメですよね。

——秋山選手は誤解を招きますか。

青木 だって、さんざん対戦相手を選んでおいて、しまいには「オレがハリトーノフとやってもいい」とか言うわけでしょ？ よくそういうウソを

青木真也 秋山成勲を追いつめろ!!

秋山選手のやってることは〝ファッション格闘技〟じゃないですか

平気で言えるなって。で、吉川（秀彦）選手と闘えるならほかのリングでもかまわないとか、仮にそれが本心でもみんなの前で言ってほしくなかったですね。まあ、やることやってそう主張するならいいんですけど、秋山選手のやってることって〝ファッション格闘技〟じゃないですか。

――ファッション格闘家（笑）。ちょっと話は変わりますが、それぞれの選手の役割ってあるじゃないですか。ライブ力がある選手、見出しになる選手、チケットを売る選手、視聴率を獲る選手、スポンサーを呼び込む選手。で、秋山選手は……。

青木 （さえぎって）いろんな要求に応えないといけないなって思いますよ。で、その要求に応えることをネガティブには考えてはいないですよ。でも、ファイターって最終的には世界最強になる、世界で一番いけてるファイターにならなくちゃいけないんですから。そこで相手を選んでカッコつけたり、上から見下ろしている選手にはホントに腹が立ちますよね。もう「僕はファッション格闘家です！」って宣言してほしい。

――でも、テレビからすればファッション格闘家も必要だったりしますよね。

青木 わかります。わかりますよ。でも、それはテレビ側の事情ですよ。格闘家はテレビがなくても格闘技を真剣にやるんです。テレビに映らないから試合に出ないとか、勝てる相手を選ぶとか、そんなバカなことってないですよ。DREAMはファッション格闘技じゃないんだって。

――熱いなあ（笑）。もし青木さんと闘うことになったら、秋山選手は道衣を着てくるんですかね？

青木 どうなんですかね？ まあ、べつにどっちでもいいです。確かに秋山選手は強いですよ。負けるかもしれない。でも！ やるとなったら全力で闘います。秋山先輩、ボクとの対戦、受けてくれますよね!?

――話題は変わりますが、練習仲間の北岡さんが『戦極』ライト級GPで優勝されましたね。

青木 世界の北岡！ 超おもしろかったですよ！

――強かったですねえ。でも、青木さんに怒ってなかったですか？

青木 ……そういえば、なんか硬かったですよ。

――あまりにも「キモい」扱いするもんだから。

青木 でも、試合後に泣きながら電話がかかってきて「あ、青木にぃ、出会えてよかったぁ～～～!!」って。クックックックッ。とにかくね、「どうかと思う」って感じでしたね（笑）。でも、マジメな話、驚く結果じゃなかったですね。あの4人の中だったら北岡さんが抜けてますから。なんで北岡さんの強さをみんな気がつかなかったのかなって。

――当然の結果だった、と。

青木 ただ、どうかと思うくらい増長してましたねぇ（笑）。メールがきて「俺は頑張った。でも2ヵ月後には五味の挑戦を受けなければならない」という内容で。ちょっと待って。五味選手に挑戦する立場じゃないのかなと思いながら（笑）。

――五味さんとの試合はどうなると思いますか？

青木 北岡さんが勝ちますよ！（キッパリ）。

魔王と馬鹿の刺激的なやりとりが行なわれた9.23「DREAM.6」の一夜明け会見。写真からでもヒリヒリ感は伝わってくる! あいだのゲーガル・ムサシがなんともいえない

――へえ。その理由は？

青木 五味さんも自分のことが好きだけど、北岡さんはもっともっと自分のことが好きだから！

――あ、そういう勝負ですか（笑）。

青木 北岡さんはどうかと思うくらい凄いから！ でも、五味さんは日本人対決に強いですからねぇ。

――そうなんですよね。で、今回負けてるからふんどしを締め直してくるでしょうし。

青木 まあ、ボクはそれでも北岡さんが勝つと思います。なんか北岡さんが勝ったことで安心したんですよね。俺たちがやってきたことは間違ってなかったなって。もう必死ですよ、世界のレベルに合わせるために。いまってボンヤリしてるとホントに追いてかれますからね。

――そういう世界に石井（慧）さんがやってきますね。

青木 こればっかりは金メダリストいえども、やってみないとわからないんですよね。こうやって総合格闘技が脚光を浴びるのは凄く嬉しいことですけど。

――『kamipro.com』の音声配信では、青木さんは石井さんと柔道の寝技で一本づつ取り合ったって言ってましたね。

青木 そうですね。一つだけ言えることは、いまのMMAのレベルって、柔道だけのフィジカルじゃ絶対に通用しないです。そんな時代じゃないんですよ。学生柔道で講道館[illegible]た選手がアマチュア修斗で負けたりしてますからね。

――あ、そうなんですか。

青木 負けてる、けっこう[illegible]だから石井選手がどれだけ[illegible]るかじゃないですか。

――青木さんも柔道出身で[illegible]かなり適応してますね。

青木 でも、ボクは柔道は[illegible]ですから。

――青木さん、プロになって[illegible]年目でしたっけ？

青木 そうですねぇ。21歳でプロデューだから4年目ですね。それは周りに助けてもらってここまできましたから。みんなに足を向けて寝られないですよね。

――PRIDEの頃は一人の競技選手だったじゃないですか。

青木 そこはだいぶ変わりましたね。

――一つの競技を究めることを考えれば、おそらくいまはUFCを目指すわけですよね？

青木 そうなるでしょうね。でも、ボクは日本で生まれたので、日本の格闘技のために頑張りたい。いまはUFCが一番みたいな感じだけど、ボクが日本で頑張ることによってそこを覆したいです。たとえば、9月の大会みたいに、いろんな事情で試合をしなきゃならなくなった。そこで青木が必要だっていう声があればやるしかないなってなりますね。そこで恩返しをしたいし、もっともっと恩返しをしたいですね。

――そのためにも早くカードを決めてほしいんですよね。

青木 ホントにそう！ どうなるのかなあ～。

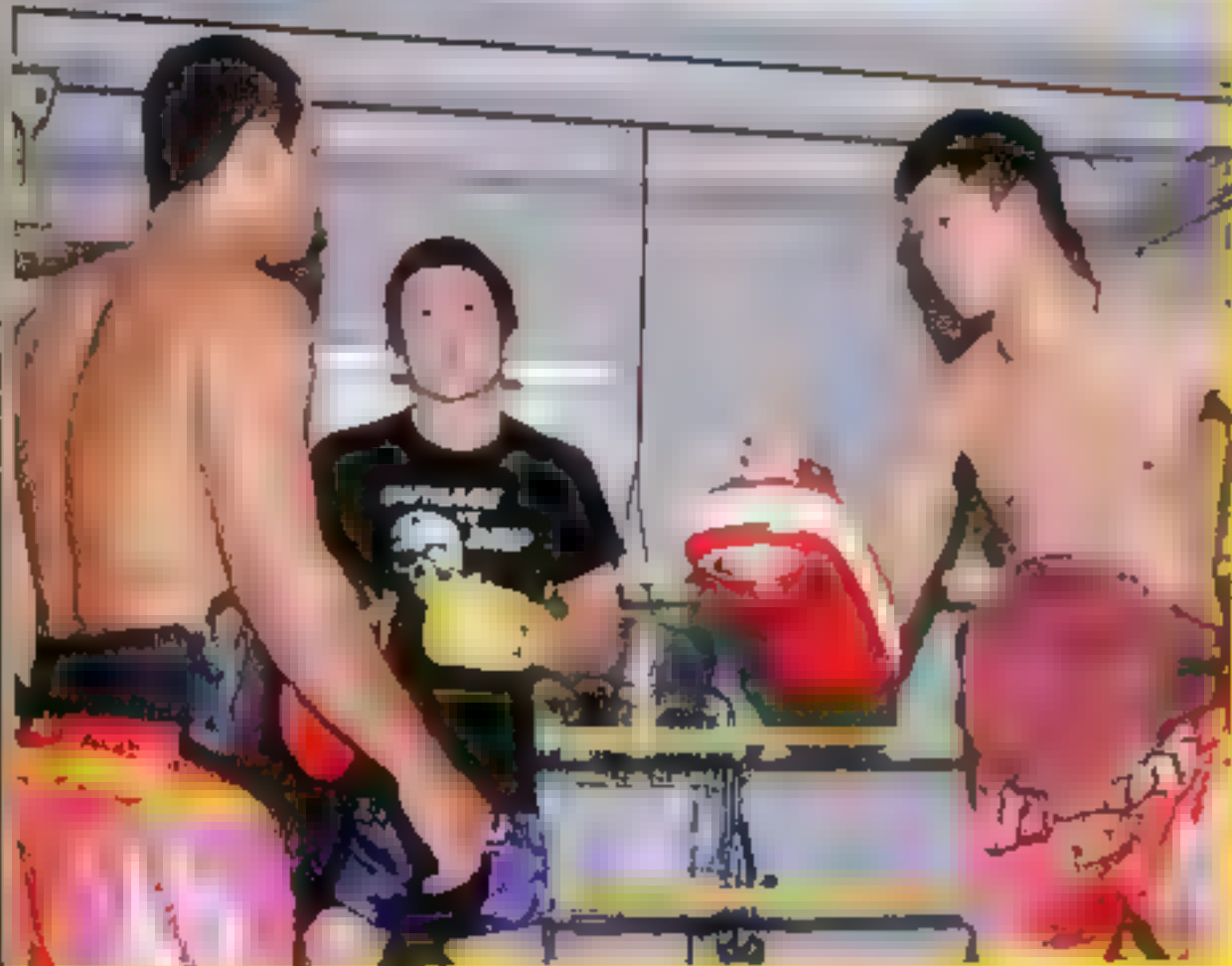
――[illegible]山じゃなかったらバダ・ハリ[illegible]るかも。

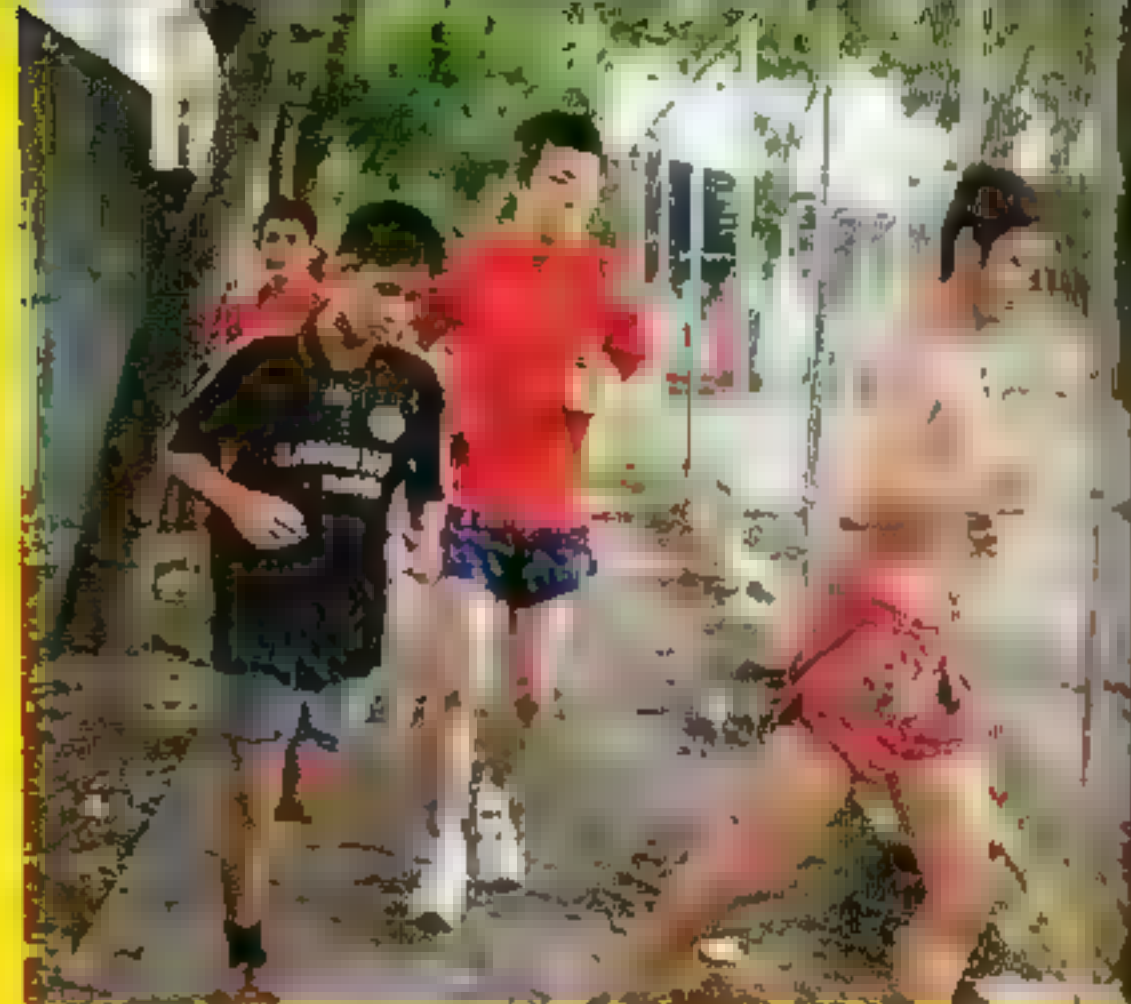
青木 殺す気か!? 他人事だと思っ[illegible]amipro は！

――[illegible]に青木さんがやりたいって言[illegible]んじゃないですか（笑）。バダ・[illegible]と秋山成勲だったらどっちがい[illegible]ですか？

青木 秋山先輩でお願いします！ ボクはファッション格闘家には絶対[illegible]ません!!

【08年11月4日／DEEPジムにて収録】

そもそも、なぜ青木真也がムエタイ 別の意味で身体が丈夫になりそうだ。 ゴミゴミした場所柄か、ランニングは行

世界のワオ木さん
ムエタイ修行レポート

写真・文　公武堂シンラパムエタイ

そもそも、なぜ青木真也がムエタイ特訓なのか!? 青木は「凄く興味あったんですよ」と語るが……。

いつも練習している打撃技。だが打撃を練習すればするほど、ムエタイの存在が気になってしょうがない。全日本キックボクシングの会場で観たタイ人のヒジ打ちや、首相撲のさばきなど、青木にとって、まだ見ぬ〝ムエタイ〟への期待が抑えられなくなっていた。

ならば、自分で体感してくるのが手っとり早い ということで、今回の訪タイの目的は、ズバリ「ムエタイを知ること」だ 夜中着の便でバンコク入りした青木は、さっそく翌日のジム練習からトレーニング開始。

まず訪れたのはバンコクの名門96ピーナンジム 先日の全日本キックのリングで、ヒジ一発で勝利したサムランチャイが所属し、また青木の友人である石川直生(全日本キックスーパーフェザー級王者・青春塾)も合宿していた 青木真也にとっては興味津々のジムだ。

午後3時、ますジム近くの公園をランニングだ。しかし、この速さ……? 走っているのか歩いているのか、わからないほどのゆっくりペース こんなんじゃぁ、ランニングの意味がないじゃんか!!と思ってしまうが、それでも不思議と身体か火照ってきた

日本でランニングといえは、心臓をいじめるほどの速さで走ることがよいとされているが、ムエタイ選手のランニングは、それとはほど遠くノロノロペース、それでも5分は走っただろうか、身体中から汗がジワジワ湧き全身汗たく。このノロノロ走り、意外とエネルギーを消耗しそうだ。無理もない。タイのような東南アジアでは11月の日中平均温度は32度だ。ムエタイ選手は一日の中で一番暑い時間帯の午後に練習を開始するわけで、別の意味で身体が丈夫になりそうだ。

30分のランニングが終わるや、休むまもなく首相撲が開始される。この〝首相撲〟は、相手と向かい合い首を取りあって、体勢の優位を競うもの。最終的には相手の腹に鋭くヒザ蹴りを刺すまでの動作のやりとりだ。

相手は首相撲の名人サムランチャイだ 柔道や総合を経験してきた青木にとってたやすい取り組みに思われた しかし開始してすぐ、青木はアッという間に投げられてしまった。これにはあ然としてしまったが、組み合ってからの攻防というものは、その競技によって、それぞれ距離や腕のかけ方、足の位置など、すべてが異なるものだ ムエタイにはムエタイの間合いがある、サムランチャイもこのムエタイのさばきのスペシャリストであり、そして、いくら相手が青木真也であろうとも、遠慮せすに本気で組み合ってくれたわけだ この首相撲も40分ほど続いたが、取り組みの最後には青木が倒したり、バックを取ったりと優位な体勢に持ち込む場面も増えてきた。

首相撲でさんざん体力を消耗したあとは打撃の特訓に移る 当ジムのコーチは、元ラジャダムナン王者のガイスウィット。彼の指導はムエタイ界でも定評があり、06年度タイ全土のベストトレーナー賞を受賞したほどだ 青木はカイスウィットから、蹴るときの軸足の向きのことや、軸足を通して保つ体重のバランスのことなど、事細かく手解きを受けた。そして最後はサンドバックを使ったムエタイ式の補強運動など こうして初体験のムエタイを満喫。

翌日はバンコク中華街の中にあるチュワッタナージムに出稽古 このジムには、現在の青木と同し体重のチャンピオン、ラムソンクラムが練習している。

このジムも午後3時の練習開始だが、ゴミゴミした場所柄か、ランニングは行なわず縄跳びを30分跳ぶ。その最中にラムソンクフムがミットを着け始め、「日本からせっかく来てくれたんた」と言い、自ら青木のミットを持ってくれた。ここでは蹴りからヒサ、ヒザから蹴りなどの、流れの中での攻撃をミッチリ特訓。そしてラスト連打蹴りで心臓をいじめ、ここでミット練習は終了

そして、休む間なく、今度はラムソンクラムとの首相撲特訓が始まった。身長ではラムソンクラムが上回るものの、体重ではほとんと差のない二人 まったくフェアな状態で組み合っていたということになる。これは青木にとっては試練の特訓だったかもしれないが、それでもこの階級の世界で最も強いとされるムエタイ王者との首相撲は、あまりにも収穫か大きかったのではないだろうか

青木は、このような特訓をみっちりこなし、アッという間に日本帰国……。

「なんだ、このレポート、練習のこと以外、何も書いてないじゃんか」と、言われてしまいそうたが、実際青木は練習以外は何もしていなかったのた。

〝微笑の国〟と言われるくらいのタイだから、タイマッサージでも楽しみながら、夜の酒場を楽しめはよいのだが、夜は夜でムエタイ観戦〟バンコクは毎日ムエタイの試合が観られるのだ。

こうして滞在時間のすへてを練習に費やしてしまうことも、青木真也のムエタイに対する探究心の表われなのだろう。実際ジムで接してくれたコーチや選手たちは、その青木のヤル気を全面的に受け入れ、短い時間で非常に内容の濃い交流を深めることができた。ムエタイを知る旅ではあったが、ムエタイのこともさながら、互いに地球の裏側で闘う格闘家同士の友情も芽生え、次回の訪タイがますます楽しみな旅となった。

今日はテレビのお話なんです。

大毅

絶賛更生中の元問題児(!?)が語った!!

テレビとバッシング

07年10月の内藤大助戦の反則行為から約1年1カ月……。出場停止処分から、あの亀田大毅が復活。テレビメディアを中心に吹き荒れた亀田バッシングから、十八番の歌パフォーマンス。生まれ変わった大毅が、狂乱の季節と「これから」を語った!!

聞き手　ジャン斉藤　撮影　タイコウクニヨシ　大会撮影　平工幸雄

——今日はテレビのお話なんです

大毅　テレビ?　ちっちゃいときはもちろん観てたけど。歌番組とか。

——ああ、大毅さんといえば、やっぱり歌ですからね（笑）。

大毅　いやいや、そんなことないけど。テレビをよく観てたのは中学の頃くらいまでかなあ。プロデビューを控えたときに東京に引っ越してきて、そこから忙しくしていたら、テレビに興味がなくなった。

——いったん興味を失なっちゃうと、何ごともそうなりますよね。

大毅　そうそう、そういうもんや。ごはんを食べながらテレビ観て「あ、おもしろいやんか」って思うときもあるけど、来週もまた観たいとは思わん。

——大毅さんは、テレビを観なくなった時期から、そのテレビに取り上げられることが多くなったわけじゃないですか。

大毅　そうそう。だから自分が出ているテレビも、まず観ない。昔は楽しみにしていたけど、いまは全然観ない。

——初めてテレビに取り上げられたときのことって覚えてますか?

大毅　覚えてる、覚えてる。まだ大阪にいた頃、関西テレビに取材されて。ニュースの中のドキュメンタリーみたいな感じで。あれは緊張したなあ。でっかいカメラが向けられるわけや。あれは緊張する。あんな前でしゃべられへん。っていうか、あれはやっぱり慣れやな。テレビ慣れ。出れば出るほど慣れてくるし。

——テレビに出ることによって、人間的に何か変わった面はありました?

大毅　変わったところもあるかもしれんけど、根は変わらんわな。根はな。

——たとえば、お兄さんなんかはテレビに出ることによって変わったとことかありますか?

大毅　そやな、お兄ちゃんは明るくなったかな。昔も暗くはないけど、いまは家で、一番、明るいもんな。いまは楽しいんやろな。

——自分が引っぱっていくという責任感がそうさせてるのかもしれないですね。

大毅　まあ、親父が一番、明るいけど（笑）。3人兄弟の中ではお兄ちゃんが一番明るいな

——ただ、一方でここ2~3年の亀田親子に対するマスコミ攻勢って、けっこう凄かったじゃないですか。プレッシャーを感じることはありませんでした?

大毅　あれは異常やったな。でも、いまはプレッシャーみたいなものはあまり感じへんし。オレはオレを信じてやるだけやから。

——批判される前はテレビやメディアに持ち上げられたわけじゃないですか。当時はまだかなり幼かったこともあって、世界が急に変わったことで戸惑ったりはしませんでした?

大毅　そうやな、街で声をかけられるようになったというぐらいやな。

——あ、それぐらいですか。

大毅　うん。

——いままで一般人だった人がメディアに持ち上げられると、とたんに人生が狂ったという話ってよく聞くんですけどね。

大毅　ああ、なるほどな。う~ん、そんな

オレたちが特別なんじゃない。そのへんの大阪の子どもでもおもしろいよ

言うほどでもないし、どんなに有名になろうが練習することは変われへんし。べつにタレントじゃないからな。

——でも、亀田一家ってタレント的な扱いをされたわけですよね？

大毅　いや、タレント的な扱いはされてないよ。ボクサーって呼ばれてるわけやから。「タレントの亀田大毅」とは言われてないからな。

——でも、いくらボクサー亀田大毅といえどもテレビに出るときにはタレントとしての一面を求められると思うんですよ。

大毅　それはこっちは子どもやしな、おもしろいことを言うやろな(笑)。

——ああ、単純に子どもの振るまいだったというか(笑)。

大毅　そんなのそのへんの大阪の子どもを連れてきたって、おもしろいよ！　大阪で3兄弟なら、誰でもおもしろいと思うよ。オレたちが特別なんじゃないよ。大阪では普通の兄弟。ちょっとだけ強い普通の兄弟。

——そうなのかなあ(笑)。話は戻りますけど、そうして取り上げられたときにテレビの怖さは感じませんでした？

大毅　怖いな。それはテレビというより、やっぱり人間が怖いな……。

——いまはそういう実感になりますかね。テレビによって大毅さん自身が変わったところはありますか？

大毅　そうやなあ……、ボクシングは変えることはないと思うけど。う〜ん、そやな〜、まあ、マジメに頑張るわ！

出場停止処分中に滞在したメキシコでは、被害額220万円の盗難や兄・興毅の試合で深夜まで待たされるなどトンテモ事件が続出！　日本以上にタフにならざるをえない大毅なのだった

——しばらく歌は封印するそうですが、また歌ってほしいんですけどね(笑)。

大毅　う〜ん、だからそういう人もいてるし、それに元気づけられてる人もおるだろうけど、とりあえず、いまは考えてない。

——そもそも、どういうきっかけで歌は始められたんですか？

大毅　なんやろな。オレ、歌うのが好きやから。たとえば勝った選手にリングでインタビューすることはあたりまえやんか。オレがリングで歌っていたのはそれと一緒の感じかな。

——インタビューと同じ！　自分のいま現在の気持ちを表現するっていうか。でも、歌を歌うということに抵抗はありませんでした？

亀田大毅
テレビとバッシング

大毅　それが、全然なかった。

——それは気持ちがいいですね。でも、それが電波で全国に流れるわけですよ。

大毅　ヘタクソのわりに気持ちよかったんやろうな。オレ、自分がヘタクソって知ってて。

——歌の練習はされてるんですよね？

大毅　練習なんかしてないよ。オレ、歌のプロじゃないもん。歌の練習するんやったらボクシングやらんと(笑)。ちょっとカラオケに行ったり、それぐらい。

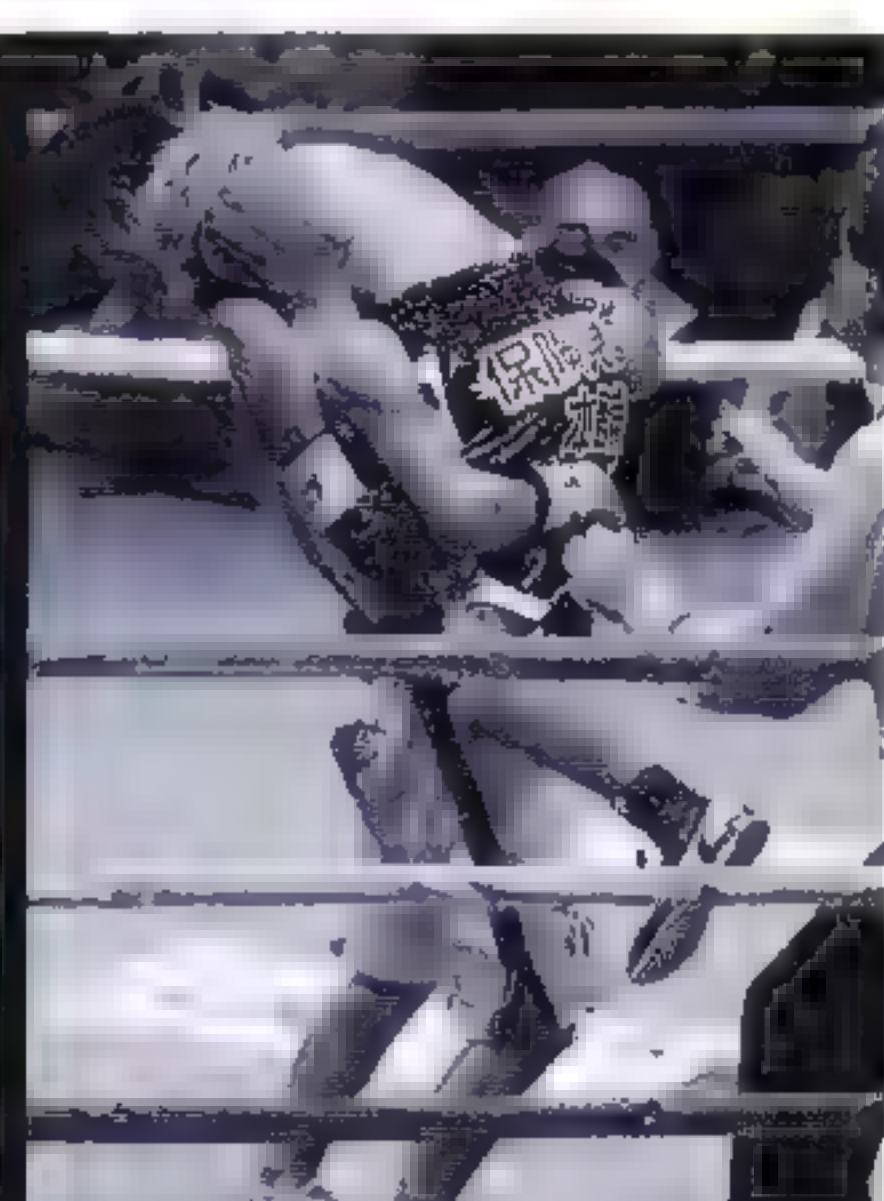
——それなのにあそこまで堂々としてるのは凄いなあ　あれってテレビ局側の要請もあったんですか？

大毅　そんなことはない。一番初めはオレが歌うって決めて、なんかその延長でどんどんやることになって。

——いわゆるプロのパフォーマンスとしてやることになったと？

大毅　パフォーマンスというか……。やっぱりお客さんがお金を払ってせっかく来てくれてるから。スポーツとしてボクシングが苦手な人っておるやんか。卓球が苦手とか、ゴルフが苦手とかっていう人もおるやんか。もちろん、おもしろい試合もあるけど、もしもボクシングが苦手やったら観に来てくれないわけやから。だからボクシングに興味を持ってもらうきっかけとして何かをしてあげたい、という気持ちやな。

——それが歌なんですか？(笑)。

大毅　うん。もちろんボクサーとして最高のパフォーマンスをしたあとやで。そのあとで、ひたすらに真剣に歌うし。ひたすらに感動もさせたいし。そのためにオ

亀田大毅　騒動史

2006

2月26日　サマート・シットサイトン戦でプロデビュー。1R23秒、KO勝利。

9月27日　バレリオ・サンチェスに8R判定勝利も、試合後に判定にヤジを飛ばした観客と別の観客が乱闘騒ぎ。父・史郎もいきり立つ騒動に。

2007

2月24日　ビッキー・タフミル戦で3R1分18秒、KO勝利。ビッキーは3Rに大毅からボディブローを食らい笑顔で10カウントを聞く不可解な態度をとる。

10月10日　内藤大助戦の調印式で大毅は「負けたら切腹する」と発言。

10月11日　WBC世界フライ級王者・内藤大助に挑戦。12R判定負け。バッティングやローブロー、投げ技などの反則行為にファンやメディアの非難が集中。

10月15日　日本ボクシングコミッションより大毅に1年間のライセンス停止処分が下される。

10月17日　頭を丸めた大毅が、亀田史郎、協栄ジム会長と反則行為について謝罪会見。

2008

1月27日　乗用車と追突事故。事故後に報道陣に「車はぶつけるもんやろ」と話していたことが問題に。

5月9日　協栄ジムが兄・興毅と大毅の契約を解除。

9月10日　都内ホテルで亀田ジム設立記念パーティ開催。ボクシング関係者約300人が出席。

9月27日　再起戦に向け記者会見。報道陣に敬語で対応し、歌の封印も予告など新生・大毅をアピール。

レなりにいろいろ考えていたし。

も、手のひらを返されてしまうことがあり

きたいという思いはないんですか？

この1年でだいぶコントロールできるよ

レなりにいろいろ考えていたし。
――歌うことによって歌番組からオファーが来たみたいですし、CD化の話もあったんですよね。
大毅　微妙な話やけど、歌がヘタクソなのもあるし、あんまりCDとか出したくない。そんな、まだまだ。やっぱりやるなら中途半端にしたくない。歌を真剣にやっている人もおるし、「なんなん、アイツ!?」とか思われたくないし、失礼やろ。
　そのへんはかなり謙虚になられたというか。では、一連の騒動の謝罪会見のときはいかがでした?
大毅　あれは覚えてない……。あんまり覚えてないけど。でも、やっぱ記者って凄いよな。それが仕事やもんな。
――ああ、目の前ではニコニコしていても、手のひらを返されてしまうことがありますから。我々も思い当たるふしはたくさんあるんですけど。
大毅　まあ、オレが一人でボクシングやってたら、ここまで名前が上がってないと思うし。もし、一人でやっててここまで名前が上がってるんやったらオレは好き勝手するかもしれへんよ。でも、この1年のこともちろんそうやけど家族やいろんな人に迷惑かけてもうたやんか。オレだけの迷惑ですむんやったら、なんぼでもサービスするよ。テレビの力になってあげるよ。でも、オレが言うことでたくさんの人に迷惑をかけてしまったし。だから、いまのオレは、マジメにやって試合に勝てればそれでいいな。
――大毅さんの中でテレビを利用していきたいという思いはないんですか?
大毅　利用できればいいけど、テレビってそんなに簡単に利用できるほど、簡単に動いてくれるもんではないやろ。
　それは、けっこう骨身にしみてるところがあるんですね。
大毅　骨身にしみてるっていうか、そういうもんでしょ。事件があればテレビの人たちは動くし、逆に「これに動いて」と言っても、動いてはくれない。
――テレビはそんなに都合のいいもんじゃない、と。そういう意味では大毅さんは復帰会見では、敬語で話されていたようですが。
大毅　うん。そこで「大毅はもう普通になった」と。でも、誤解してほしくないけど、そこで簡単に〝丸くなった〟とは言われたくないわな。丸くなれへんように、オレはボクシングで勝つことが大事。憎たらしいぐらい強く勝つこと。ただし、一戦終わってから、「大毅さん、強かったですね」「おう、アイツ、弱いわ!」………とかは、もう言わへんで。
――言ってほしいですけどねぇ(笑)。
大毅　もう言わない。たとえ相手がメチャメチャ弱かったとしても言わない。
――そのへんは充分に注意しますか。
大毅　というか、いつもオレってあとから失言に気づくねん。家に帰って「言いすぎた!」って思うけど、もう次の日には新聞に書かれてる。今後はそういう部分も含めて、気をつけなきゃいけないし、いい意味で楽しめればいいかな、と。そのへんは、この1年でだいぶコントロールできるようになってきたからな。
　お話を聞くかぎり、いまの大毅さんにとって、テレビはあってもなくてもあまり変わりないっていう感じですね。
大毅　そうやな。だって、自分の意思でテレビをつけることはないもんな。
――そもそもテレビって、必要だと思います?
大毅　もちろん必要やろ。ただ、テレビだけですべてを判断されてしまう部分はあるし、雑誌もそうやけど、雑誌だけで判断されてしまう部分もあるから、やっぱり気をつけへんと。
――大毅さんの目から見ると、実感としてマスコミってやっぱり偏っているように見えますか?
大毅　偏ってる場合もあるし、オレみたいにあとで落とされてしまうこともあるよな。でも、それはそれでいいんちゃう?　そういうもんやからな。
――大毅さんもまた持ち上げられる時期が来るかもしれないですし。
大毅　う〜ん。どうやろ?　でもやっぱり、ボクシングってわからんよ。負傷したら出られへんわけやし。歌だけ歌うわけじゃないから、ボンボン試合にも出られへんからな。
――それにいまは勝つだけじゃなくて、やっぱりテレビ局からは視聴率を求められるわけじゃないですか。そういうところって意識されてました?
大毅　意識はしてないけど、高視聴率が出

かめだ・だいき■1989年1月6日、大阪府大阪市西成区出身。亀田三兄弟の次男として活躍。試合後の歌パフォーマンスや奔放な発言で注目を浴びる。07年10月にWBCフライ級王者・内藤大助に挑戦するも試合中の反則行為が問題となり、世間から大バッシングを受け1年間のライセンス停止処分に。11月6日に1年1カ月ぶりの復帰戦を勝利で飾った。168cm、52kg。

簡単に〝丸くなった〟と言われたくないからこそ、勝つことが大事やな

ればいいんじゃないっていうぐらい。じゃあ、よかったんじゃないって。

——視聴率の高さが番組にとって、生き残るか生き残らないかの話になる。そういう意味で、いいものがそのまま視聴率に反映されない現状はどう思われますか？

大毅　う〜ん。視聴率っていうてもタイミングの問題もあるやろうし。まあ、結局、オレは最終的にみんなに喜んでもらえればいいかな。視聴率のことなんか気にしてやってられへんよ。テレビ局のことまで考えては、試合はやってられへん。

——リングの上で闘うだけですね。

大毅　「ここで倒したら、視聴率が高いかな」とか、そんなことを試合中に考えていたら「オマエ、アホか」って言われるよ。

——盛り上がってきたから、「もう1ラウンド、引っぱっとこう」とか。

大毅　そうやな。「7ラウンドぐらいで倒してくれ」とか言われて。そんなん言われたら、「オマエ、八百長か！」って言われるわ。八百長か、とんでもなく強いかや。やってるほうはそんなんありえへん。そんな余裕ない。

——わかりました。じゃあ、またテレビが大毅さんを持ち上げて、歌が再開されることを願ってます（笑）。

大毅　いまは考えてへんけどね。……とりあえずは、目の前の試合に集中するだけです（と敬語で）。

——了解しました（笑）。

【08年10月17日　都内・亀田ジムにて収録】

［11.6「亀田大毅復帰戦 〜亀田の拳省会!!〜」］
東京・後楽園ホール
○亀田大毅 vs アンヘル・レサゴ×
（5R 1分47秒 KO）
亀田大毅、約1年1カ月ぶりの復帰戦。会場は応援団が大挙して駆けつけての歓迎ムード　序盤は堅さも見られたが、3R以降は軽快なフットワークから、5Rにボディの連打でKO勝利。自ら敗者の健闘をたたえ、予告どおり歌は封印など礼儀正しい新生・大毅を披露。試合後も「よくなかった部分を直していきたい」と謙虚なコメントに終始した。

このインタビュー収録から、約3週間後。

11月6日、超満員の後楽園ホールにて、亀田大毅の復帰戦が行なわれた。

昨年10月に行なわれたWBCフライ級タイトルマッチで、王者の内藤大助に反則行為を繰り返した末に判定負け。世間からバッシングを浴び、1年間の試合出場停止処分を受けた。それからの復帰戦。亀田

亀田大毅
テレビとバッシング

大毅はノンタイトル10回戦でメキシコのアンヘル・レサゴに5R1分47秒、KO勝ちした。

亀田大毅は、ここまでビッグマウスを封印し、会見では敬語を使うなど、生まれ変わった姿をアピールしてきた。

この日の試合で快勝したあとも、敗者に歩み寄って健闘をたたえ、インタビューで「相手は強かった」と答えるなど、礼儀正しい新生・亀田大毅を披露。戦前のコメントどおり十八番の歌パフォーマンスも当然のごとく封印した。

試合後のコメントルームでも「自分のよくなかった部分を直していきたい」「日本人選手ともやりたいけど、オレから言う立場にはない」とあくまで謙虚さを貫く。

兄・亀田興毅も、弟の「点数を出すのは難しいけど……、勝ったから100点と違うかな？」という殊勝なコメントに対して、「いや、5点くらいとちゃうか？　三兄弟の3点でもええけど（笑）」とフォローを入れていた。

亀田興毅は、本誌127号のヒール特集にも登場し、「ヒールはつらいで」「もうマスコミ恐怖症になってるんよ」とテレビをはじめとするメディアへの本音を告白していた。

一連の謝罪会見のあと、父親の史郎が表舞台から姿を消し、亀田興毅には一家を背負う"しっかりものの長男"的な素のイメージが透けて世間に届くようになってきている。

一方、次男・大毅の本来の魅力はナチュラルで突き抜けた破天荒な言動にあり、こうした兄との違いは世間のほうも敏感に感じ取っている。実際、この日のマスコミ陣の異様な注目度の高さの裏には、「スキあらば斬る」といったムードも感じられたからだ。

実際、一部報道ではこの日、おなじみの弁慶コスチュームで登場しただけで「反省していないのでは」という声も上がっていたほど。まだ世間からの厳しい目は続いている。

コスチュームの問題なのか、歌を封印すればいいのか、敬語でしゃべればいいのか。本誌としては、亀田一家のマナーやボクシング界との軋轢などを問う気持ちはさらさらないし、実際によく知らない。

しかし、こういった大毅の謙虚さは、そういったマスコミや世間のニーズに応えているということでもある。

それはサービス精神にあふれた以前の大毅と、歌を熱唱する姿と本質的には変わっていないとも言える。亀田を取り巻く環境は、以前と同じままなのだ。ある意味での亀田バッシングはいまだに終わってはいないし、今後も試合と並行して、亀田大毅は世間から監視されていく。

過剰に世間と向き合い、巻き込んでいくドラマを紡いでいる亀田一家からは目が離せないし、亀田一家劇場はまだまだスリリングであり続けるのだろう。

まさか『スペシャルリングサイド』が「さよならリングサイド」になるとはね

今日は惜しまれつつ終了した格闘技情報番組『SRS』の総括を、同番組のメイン司会である浅草キッドのお二人にお願いしたいと思います。

玉袋 まさか、『SRS』が、『スペシャルリングサイド』改め、「さよならリングサイド」になっちまうとはね～。

博士 ホントに俺たちも驚いた。でも、もともと俺たちの司会もメインじゃなくて、「サブ・リング・サイド」だったからね。

そのメイン司会の方も最近、戻ってきましたけどね（笑）

玉袋 田代（まさし）さん、シャバに戻ってきたよな。

博士 『SRS』を出ていったマーシーが、『kamipro』を出ていった（吉田）豪ちゃんとタッグを組んでやってるじゃない。

——新宿のロフトプラスワンを本拠地にして、一緒にトークライブをやってるみたいですね。

博士 そちらの方も、リングサイドで見たいような見たくないような（笑）

——あと『SRS』の歴代ビジュアルクイーンが、『SRS』終了に合わせたかのように、次々とお嫁に行っちゃうという現象もおもしろいですよね。

博士 じつに象徴的だよね。東原亜希ちゃんだけだと思ってたら、長谷川京子ちゃんまでが、突然嫁いだよ。

玉袋 そして最後の一人、西山茉希まで赤西（仁）くんに持っていかれそうっていうね。

博士 まだ、それはわからんだろう。お嫁っていえば、PRIDEキャスターをやっていた、小池栄子もその一人だから。

玉袋 だからある種、区切りなんだろうな。ホントに長いお務めご苦労さまでしたっていう人物も帰ってきて、ようやく格闘技界も昔のように戻っていくのかな、と思ったらね～。

「SRS」初代司会者は、あのマーシーこと田代まさし。浅草キッドは当初、強引に出演してくるセミレギュラーにとどまっており、初代ビジュアルクイーン藤原紀香のファイナルイベントでも、革ジャンにくわえタバコの"大仁田スタイル"で乱入。マーシーに「またぐなよ!」とばかりに、牽制されたりしていたのだ。

博士 まあ、番組が終わったのは突然だったけど、それまで13年間続いてたんだからね これはフジテレビの数ある深夜番組の中でも最も長く続いている一本だし、現在のテレビ編成の論理からいうと、ああいう終わらない深夜番組っていうのは珍しいんだから

——深夜の長寿番組っていうのは稀ですよね。

博士 普通、深夜番組っていうのは終了するか、プライムタイム・ゴールデンタイムにシフトアップしていくかのどっちかなんだよ。

玉袋 そうそう『くりぃむナントカ』とかみたいにさ（笑）

博士 そういう壮絶な失敗例の名前を出さなくていいんだよ！ ああやって、確実におもしろい番組でも理不尽に終わるんだよね。それが深夜帯でエンドレスに続けてきたというのは、フジテレビの中でスポーツやバラエティの班別を越えて、このジャンルを育てよう、格闘技を応援して土壌を作ろうっていう結束があったんだろうし 逆に言えば、いままで格闘技を応援してきた局内的な勢力が一歩後退したんだなって思うけど、そこはシビアでね、あの巨人戦ですら、一度、引き潮になったら、今年のようなペナント史上稀にみる大逆転優勝ですら、地上波にフォローしてもらうこともできないんだから。

玉袋 じつは1年ぐらい前から、危ないとは言われてたんだけど、だからこそ頑張らなきゃいけねえって、スタッフも土俵いっぱいのところで頑張ってくれてたんだ。それが土俵を割っちゃった感じだよな。やっぱり、2006年6月のフジテレビショックがやっぱり大きいのかな。これは、テレ朝が、「不適切な事象」を理由に『大相撲ダイジェスト』終了命令を下したようなもんでしょ（笑）

博士 べつにテレ朝は「不適切な事象」を理由にやめたわけじゃないよ！

玉袋 『SRS』も『大相撲ダイジェスト』みたいにNHKで引き継いでもらおうぜ

博士 いまや大相撲より、格闘技のほうが確実にガチだからね（笑）

——逆に言えば、フジテレビショックがあったあと2年以上続いてたことが凄いですよね。

玉袋 そうそう。PRIDEが放映中止になったとき、スタッフは腐らず「原点回帰でいくしかない」ってことで、また修斗や極真とか、キックとかそういったものを掘り下げようって、頑張ってきたんだよ。

博士 事前に煽る要素がK－1だけになった。その前まではK－1、PRIDEの前打ちを交互にやるだけでいっぱいいっぱいだったから。（放送）作家にとったら、ここ1～2年は作ってて、原点的な発掘、手応えを感じていたかもしれない。

玉袋 またマニアックなものを一から育てる喜びもあるからね。

博士 でもね、SRSみたいにウィークリーで試合以外の選手、団体、周辺事項の取材をしてきたから、ソフトが蓄積されるわけじゃない。作家もディレクターも高レベルな専門職になるわけじゃない。だから、これだけ長く続いた番組が終わることは、タレントだけでなく、熟練の作家やディレクターのチームワークの解散であり、専門的で煩雑なソフトをいつでも取り出せる職人技術の集積が、散り散りになることだからね。とくに格闘技というソフトは、歴史、記憶、連鎖が、イベントや番組を相乗効果で煽る重要なファクターだから。UFCのPRIDE買収で、その映像ソフト権の引き継ぎすら断絶されたことは、日本の格闘技文化の大損失だよ。

ある意味、イベントの宣伝番組としての『SRS』は、フジテレビショックのときに終了していた部分もあるのかもしれないですね。

博士 でも、格闘技にとって、テレビをイベントの煽りに使っていくっていうのは大事なことだから、このままだと、K－1のファンも減っちゃう危険性があるよね だからフジテレビだって、『SRS』というかたちじゃなくていいから、K－1の煽り番組はやっていかないと。

玉袋 事前の煽り、事後の総括の場がないと、いまUFCの中継観てるのと一緒になっちまうよ 俺たちは単に勝った負けただけじゃなくて、そこに感情を乗っけたいんだから。勝った負けただけなら、夏にコオロギ同士を闘わせるの観るのだっておもしれえんだから。

博士 だから、格闘技には『SRS』みたいな番組が構造的に必要だっていう認識は、格闘技関係者やテレビの現場にはあるけど、もっと上のところから見ると、「格闘技番組よりグルメや旅番組、それこそ"芸人歌がうま

SRS の司会者になる前、99～2000年にかけてテレビ東京系の格闘技情報番組「格闘コロシアム」にレギュラー出演していた浅草キッド。この番組は謙吾、佐藤ルミナ、魔裟斗の3人がイメージキャラクターとなっていたが、これを観ると魔裟斗の"大化け"ぶりに驚く

い王座』みたいなほうがファミリーで楽しめて視聴率がある」って価値観もあるんだよ。でも、格闘技ってほかのソフトで代替がきかないじゃない。連続性で見るものだし。

玉袋 観て終わりじゃねえんだよ。そうじゃねえと『UWF変態新書』なんていう、変態座談会を一冊にした本なんて出ねえよ。

博士 逆に言えば、変態は変態を自覚しながら、コアに残しつつ、変態を広く薄く解放しなきゃ。テレビのソフトはそういう大衆性への必然性を帯びるわけだから、じつはテレビの中のソフトとして、他団体やほかのスポーツ以上に、グルメや旅番組やら、若手芸人なんかを意識すべきだったのかも。

——でも、格闘技バブルもあったわけですし、それこそ06年のフジテレビショックで、あらゆる環境が変わっちゃったんでしょうね。あの打ち切り決定は、ホントに青天の霹靂というか、現場は誰も知らなかったんですよね？

玉袋 まったく終わるようなムードなかったよ！　あんときは、ちょうど『武士道』を地上波でやるぞってときだったから、西山茉希に『武士道』の選手の名前覚えさせてさ、名前当てクイズをやるはずだったんだよ。

——そんな企画が進んでましたか（笑）

玉袋 それで西山は一生懸命覚えたんだけど、結局、それは使えなかったんだから

博士 しかも、打ち切り発表の日はさ、PRIDEの道場開きで、『SRS』のスタッフもみんなそこに行ってるときに、臨時ニュースで入ってきたんだからね　だからテレビ局のホントのトップ、経営者判断としか言いようがない

PRIDEの打ち切りも小室の楽曲放送中止もどちらもやりすぎだって！

玉袋 そんな大人の事情でね、我々チビッコハウス出身者の夢が終わっちゃったっていうのが寂しいよな

博士 コミックヨシモト』の廃刊くらい、突然に（笑）

玉袋 「人間不信」とだけ書き置き残して、数日行方不明になりたかったよ（笑）

——こんなふうに突然、終わった番組ってあるんですか？

博士 あるある。最近じゃあ加勢大周の『キッパリ!!』がキッパリ打ち切りになった！（笑）

玉袋 あれも理由かさっぱりわかんないね（笑）

博士 わかるだろ！　はっきりしてるよ。でも、急にテレビソフトからなくなるって意味では『大食い選手権』なんかそうですよ

——ああ、なるほど

博士 ある日、突然、中学生の死亡事故とかをきっかけに「こういうソフトはもうやらない　みたいな　あれだけフードファイターって一世風靡したのに、突然終わったからね　TBSがあと追いで始めて、事故が起きて、大食い老舗のテレ東まで放送自粛の決断をした。それがいまは、ほとぼりが冷めて、場所を変えてギャル曽根なんかが人気なんだから、そもそもなんで終わらなきゃいけなかったんだって話だけど

玉袋 じゃあ、青木真也は格闘技界のギャル曽根だな

——なぜPRIDE中継は終わらなきゃいけなかったんでしょうかね。

博士 テレビの論理っていうのはさ、やっぱり公序良俗の箱だから。いくらおもしろくて視聴率を獲ろうが、その公序良俗の箱の中に入れないっていうのを誰かが決めれば入れなくなる。

玉袋 やりきれねえよな

博士 だから最近の話でいうと、詐欺で立件することと、小室哲哉が作った歌を流さないっていうのは、そもそも関係ないじゃん。

玉袋 関係ねえ！　歌が詐欺やったわけじゃねえんだから。

博士 しかし、小室が逮捕された途端に小室が作った曲が放送禁止、配信停止になるってのはやりすぎだって。だからPRIDEの放送中止っていうのは、小室の曲を全部配信停止するのと同じだよ。

玉袋 ホントだよな。

——テレビっていうのは、一筋縄じゃいかない世界なんですね

博士 だから視聴者が観ているものより、凄くねじれてるんだよね。テレビ番組という、いろんなあざなえる"縄"があって、その中の一本が格闘技なんだよ　で、俺たちは格闘技っていうのは、もの凄い太い糸だと思ってるけど、テレビのラテ欄っていうのは、いろんな事務所勢力の人間関係が、入り組んで陣取りゲームをしてて、格

PRIDEもバレーボールみたいにジャニーズが出てりゃ違ってたかもな

闘技も、その太い縄の一本の糸でしかないんだよね

——なるほど　あらゆるテレビ番組というのは、そういったいろんな力関係の上で成り立っている、と。

玉袋　だってよ、大晦日に『男祭り』をやってる裏で、TBSの『Dynamite!!』に藤原紀香と長谷川京子が出てるんだもん。

博士　視聴者には、その事情はわからないよ、完璧にねじれてるよね。

玉袋　あんな露骨な鞍替え出演がアリなら、かぶり回避のために、金曜深夜の生放送レギュラーだったテレ朝『虎の門』を泣く泣く捨てて、フジの『SRS』に移った俺たちの立場はどうなるんだと!(笑)。

博士　個人的な事情はいいよ!

——PRIDEとK-1、フジテレビとTBSの対立というだけでは、説明がつかないですよね

博士　そこはやはり芸能界の勢力図というのが関わってくるよ

玉袋　だから、格闘技もバレーボール中継みたいに、会場にジャニーズの人がいて、ワーッなんて盛り上げてたら、違ってたかもしれねえぞ

博士　『SRS』を、たとえばタッキーの司会だったら番組が残るっていうんだったら、どうぞどうぞで、いつでも席を譲りますよ　俺らリポーターでいいもん　お宮の松みたいに、サムライTVのリングサイドリポーターで行かせてくれるなら、俺自身は全然それで貢献するから

——テレビっていうのは、そういったことだけで番組が残る可能性すらあるわけですね。

博士　だからPRIDE打ち切りはサブプライムローンよりショックだよ　だって、あれがあったことで、格闘技界全体が「同時株安」になってるじゃん。

玉袋　その前に、03年の『INOKI BOM-BA-YE』っていうのもあったけど、あれも格闘バブルが弾ける兆候だったのかもしれねえな

博士　あれはライブドアショックくらいだね

玉袋　新日本プロレスにおける、L&Gショック、円天ショックぐらいか(笑)。

博士　へんなたとえをするなよ!　俺たちだけの話でいっても、あのフジテレビショックによって、PRIDEのリングサイドに居続けられる権利」が剥奪されたわけだから　あれは何ものにも代えがたいものだったよ　だって俺、あの頃、「もう一つの人生があったらDSEに就職したい」って言ってたんだから。

玉袋　俺たちは結局、プロレスファンからきてるからさ　基本的にはチケット買って観に行くのがあたりまえなんだけど、SRSの司会ができたのは、『銀河鉄道999』でいうところのパスを手に入れちゃったようなもんだよ、

——このパスがあれば、タダで機械の身体が手に入る、みたいな

玉袋　そうだよ　それが銀河鉄道から降りて普段のチケット買って観る生活に戻るだけ」って感じかな　あれは夢だったんだよ　いい夢、見させてもらったよ　あれは

博士　『dos』の西野妙子が小室の全盛期を証言したように、とにかく凄かった!の一言につきるよ(笑)

——そのいい夢っていうのも、K-1時代からフジテレビが作っていった格闘技文化でもあるわけですよね。

玉袋　それはやっぱりK-1がブワーッと沸いた瞬間の腕があるから、PRIDEがきたとき同じ手法でガーッと盛り上げたわけだから、あの手法はやっぱすげえよ　だって『SRS』みたいな番組を昔作ったとしたら、プロレスラーが出てきて暴れて終わりだろうからな。そうじゃないのを作ったことに意味があるよ

博士　個人的に言えば清原さん(清原邦夫チーフプロデューサー)っていうプロレス畑から来たわけでなく、格闘技オタクでもない人の意思っていうのが大きいんじゃない?　プロレスマニアが作ったら、さっき玉袋が言ったような作りになってるもん。

——清原さんという方は、どうしてあそこまで格闘技というものに力を入れていたんですかね?

博士　やっぱりテレビマンの宿命で、新ジャンルを一から育てたいっていう、健全な発想だったと思うよ　だから、いろいろ軋轢もあっただろうけど、格闘技に関しては、一種異常なほどの潔癖さだったね

——それはどういう部分での潔癖さですか?

博士　まあ、語弊はあるけど、グレーゾーンは扱わないということに関しては凄かった　清原さんは格闘技団体とズブズブの関係じゃなかったから、スポーツソフトを育てようという気持ちがあったよね

玉袋　そこと、初期K-1の石井館長の「格闘技をメジャーにしたい」という思いが合致したんだろうな

博士　まあ、館長と清原さん、谷川さんの3つの輪ですよ、そういう意味では。

——その後、フジテレビだけじゃなくて、TBSでK-1MAXや『HERO'S』が始まりましたけど、あのときTBSの番組に対抗する意識みたいなものってありました?

博士　もちろん現場は凄く意識してたよね。人が働く現場ってどこでもそうだと思うんだけど、競合相手に対してスタッフが「あそこはあれのパクリだ」とかね、そういうことで団結力ってできていくんだよ。

玉袋　「いつまでフリーターやってんだ」とかね。飲んでるときにそういう話も出るよ。「あのVの作りはおかしい」とかさ。

博士　だから作家もディレクターもADもみんな一丸となってたからね。

——フジテレビPRIDEスタッフの一丸ぶりは傍から見てても、凄いなと思いましたよ。

玉袋　ありゃあ、凄かったよ

博士　だから清原さんは"一軍の将"だったと思うよ

玉袋　試合前のミーティングとか凄かったよな　技術さん全員集めて、佐藤大輔が指示してさ、あの中継の熱は凄かったな。あれはホント凄かった　あとPRIDEとK-1の対立っていう部分では、『SRS』の10周年パーティも凄かったよ。ピリピリしてんだよな。

——パーティなのに、K-1派とPRIDE派が会場を二分して、冷戦状態なんですよね(笑)

玉袋　吉田(秀彦)選手も「あれには驚いた」って言ってたもんな「あんなきれいに割れるのか」って(笑)

博士　38度線がね　イムジン河が流れてた。

玉袋　Take2の楽屋みたいだったもんな(笑)

博士　演芸通にしかわかんないよ　でも、ああいうのは芸能界でも一緒だけどね　「じゃあ開くけど、とんねるずとダウンタウンを一緒にしてパ

03年の「PRIDE男祭り」では、ウッチー&アヤパンとともに、タキシート姿でリングに上がった浅草キッド　ここからの約2年半が、PRIDEそして「SRS」のピークだったと言えるだろう。

ラエティ番組作れる?」って話だかけじゃない。ああいった映像が使えけなくなっちまったもんな。にアントニオ猪木がいて、石井館長らせてもらって、感謝しかないよ。こ

『SRS』をやってた頃は、男の星座の中に自分がいるような感じがしたな

ラエティ番組作れる?」って話だから。絶対できないよ。

玉袋 できねえよなあ 泰葉と小朝師匠の再婚ぐらいありえねーよ。

博士 一緒にやれば刺激もあるし、観たい でも、それはお笑いみたいな、本来、打ちとけて、融合しているようなところでもできないもんね。なんでできないかって思うけど。

玉袋 なんかできねえんだろうな。たまにできても『タケシムケン』ってかたちで失敗することもあるからな(笑)。1+1が2にすらならない。

博士 ただ、追うほうと、追われるほうがあるときって、追うほうは「あいつらに勝つんだ」ってなるから、組織の論理としては、やっぱ仲よくできないもんだよ でもね、団体が対立したり、向き合っているこそ、疑似の闘いが宿るわけで、そこに軋轢、摩擦があるからこそ、熱量って発するわけだからね

その追うほうがPRIDEだったんですかね

博士 やっぱりそれを組織の結集力、求心力として、K-1を仮想敵としてやってた部分はあるよね。

玉袋 だからK-1と旧PRIDEが一緒にやってるDREAMには頑張ってもらいたいよ。ただ、いつの日かやってくる桜庭(和志)選手の引退試合をDREAMでやるのもいいんだけど、一番いい時期の映像が、リング上はUFCが持っていっちゃって、リング外はフジテレビが持ってるわけじゃない。ああいった映像が使えないのがもったいねえよな。

博士 PRIDEの806試合ぶんの映像著作権が、素人には、いまどこにあるのかわかりにくいんだよ もう、こうなったら、いっそのこと、俺たちが著作権もっていることにして、勝手に中国の投資家に売りに行きたいほどだよ(笑)

玉袋 5億円で―(笑)

博士 しかも、今回の件で、桜庭は「スピード2」のテーマすらも使えなくなる可能性もあるんじゃないの?

玉袋 そうだな、小室ショックだよ どうするんだろう?

博士 格闘技の入場となんの関係があるんだって話だけど、テレビで流すとなると、なんらかの問題があるかもしれない。

玉袋 PRIDEのテーマだって聴けなくなっちまったもんな。

博士 あんなもったいないことはないよね たぶん、このままだったら「TKシザーズ」まで、放送禁止になるかも(笑)

玉袋 高阪剛はなんの関係もねーだろ! どんなイニシャル迷惑だよ

では、このへんでSRSおよびPRIDEの番組をやってきて、一番の思い出をうかがいたいんですか

玉袋 いっぱいありすぎるなあ やっぱり全体的にいってホントにありがてぇなと思うよ 単なるファンだったのが、たまたま宝くじが当たったみたいになって、世界各国で格闘技を観せてもらってさ これはもう、ありがたいってだけだね

博士 なんか梶原一騎の「男の星座」の主人公、梶一太になったような気持ちなんだよね 力道山vs木村政彦戦をリングサイドで観てた梶一太が、いつの間にか関係者になったようなね。真夏の国立競技場『Dynamite!』のときなんかも、目の前にアントニオ猪木がいて、石井館長がいて、百瀬(博教)さんがいて。巨星が瞬き、星座を織りなす夜空のなか四角いジャングルにスポットライトが照らされて、そのめくるめく男の星座の中に自分がいる感じがしたなあ。ホントに夢のようなスペシャルリングサイドだったよ 俺たちは、その星座を見上げる絶好の位置にいたからね

玉袋 俺なんてそれに魅せられすぎちゃって、実話時代とかに載ってる、もっとホントの闘いのほうも熟読するようになっちまったからな まあ、それは関係ねえけど(笑)。

博士 だから格闘技って、じつはテレビ局が完全にコントロールできるようなシロモノじゃないんだろうね 本質的にはコントロールできないものであり、それを13年間も、よく折り合いつけながらやってこれたと思うよ やはり普通に社会秩序の中にあるものと違うでしょ でも、俺たちは逆に非秩序が見たいから会場に行くわけだからね。

社会の枠をある種、はみ出したものですよね。

玉袋 そのはみ出したものを、ゴールデンタイムで流してるから、おもしれえんだよ それこそ力道山時代以来、プロレスみたいなものから遠ざかってるおじさんたちも、K-1やPRIDEは観てたからな

博士 そこまで届いたのは、フジテレビの演出がうまかったのもあるよ。はみ出した非秩序の匂いを嗅いで、その匂いすらテレビで表現する方法を発明してきたわけだから

玉袋 発明したよな。おもしれえわけだよ。そんな番組に何年間も関わらせてもらって、感謝しかないよ。これで俺たちは、元の変態に戻るだけだから

変態的ファンに戻るだけだ、と。

玉袋 戻ろうにも、もう変態の居場所はねえんじゃねえかと思ってたけど、変態座談会の本が出たからさ、「なんだ、まだ変態でいいんだ」って気持ちになったから

博士 でも、ホントに、これからはDREAMも『戦極』も人目を気にせず観に行けるから、それはそれで楽しいよ。番組やってたときは、やっぱりできないからね

玉袋 だから、大晦日は『Dynamite!!』を観に行かせてもらうから きっと石井(慧)だけじゃなくて、隠し球は用意してるだろうからな 楽しみだよ

博士 ある意味、今後は、新川、一人の「石井」に注目したいね これからの総合格闘技の明暗を握るからね

玉袋 とにかく、俺たちはこれからも観続けるけど、とりあえず一区切りってだけだから 『さよならリングサイド』それだけだな

博士 とにかく、『SRS』とPRIDEに関われたことを誇りに思うよ

玉袋 「I'm proud」ですな(笑)

博士 もう小室はいいよ! テレビで『SRS』を観ていただいた視聴者の皆さま、ありがとうございましたと。

玉袋 それから、この雑誌『SRS―DX』も長いあいだ、お疲れさまでした、と

博士 ここは『kamipro』だよ! 終わらないの!

【08年11月5日/都内・京王プラザホテル『樹林』にて収録】

あさくさ・きっど■水道橋博士(右)と玉袋筋太郎の漫才コンビ。熱狂的プロレス&格闘技ファン芸人として知られ、これまで「格闘コロシアム!」(テレビ東京系)、『SRS』(フジテレビ系)と、格闘技番組の司会を歴任。本誌のインタビューにも幾度となく登場し、祭り囃子を鳴らしてくれている。

――谷川さん、なんだかメチャクチャ顔色か悪いですね

谷川 わかるぅ？ じつはさあ、昨日朝の5時まで魔裟斗くんの優勝祝賀パーティだったんですよ。だから二日酔いというか、まだ酔っぱらってまーす

――谷川さんはいつも酔っぱらってるようなものなので、なんの問題もなくインタビューさせていただきます。今日のテーマは「テレビ」なんですが、いきなりショッキングなこと聞いてもいいですか？

谷川 えー、何？

ズバリ、先日の魔裟斗選手の優勝って、八百長じゃないんですか？

谷川 んあ～！ い、いきなり何を言ってるんだよぉ!! それはさすがに酔っぱらいのボクも怒るよ～

いや、視聴者からすれば、疑惑の判定なんじゃないかって声が少なくないし、どうやらそういう印象を持たれているみたいなんですよ

谷川 そんなこと言われてるの？

要は、魔裟斗選手を勝たせるために、TBSとか主催者が仕組んだんじゃないかって 判定やルールを変えたり

谷川 はあ、ぜんぜんそんなことないのになあ だって、魔裟斗くんを勝たせようってことなら、もうとっくに勝たせてるしね！ そんなことができるんだったら、武蔵だって勝たせてるよ！

んあ～！ でも魔裟斗選手や武蔵選手に関しては、テレビ局や主催者が彼らに優勝してほしいという意思を持ってることは、視聴者はすでに感じ取っていますよね いや、そういった意思を持たないのは主催者としてダメですけど、それが露骨すぎたんじゃないですか。

谷川 確かにね、日本人に優勝してもらいたいという気持ちはどっかにありますけど、かといって日本人を勝たせたいだけのジャンルというだけじゃ、しょうもないじゃない。それって、たぶんジャッジの問題でしょ？ そこの細かい問題だけだと思うんだけどなあ。「K－1はダウンしたほうが負け」ってイメージがあるから、魔裟斗vs佐藤にしても、なんでドローになるのかがわからなかったりするんじゃない？

あとはジャッジ陣の弁明がやけに苦しいんですねぇ 確かに、業界に近ければ近いほどジャッジ問題とかではなく、あの試合は本当に素晴らしかったという評価なんですけど

谷川 つまり、単純にこうなったら勝ち、こうなったら負けだというのを啓蒙できてないのかなとは思いますね そこは反省しないといけない。でも、それ以外はとくに何も感じないんだけどなあ

ジャッジ以外でも、たとえば谷川さんや藤原紀香が解説席で「これはアーツが有利ですよぉ!!」って熱烈に応援することも、ファンからは違和感を持たれてますね

谷川 それはぜんぜん平等じゃなくていいと思うけどなあ

あ、そこは偏ったほうがいいと？

谷川 それに、解説という立場を考えたときに、ボクも紀香さんもそれは"ム"だからね！

"ム"でしたか－（笑）

谷川 誰にも負けない"ム"ですよ－（得

ポジティブに主催者の思いどおりにならない結果は凄くいいと思ってます

意げに） だから「ボクのキャラ的にはこういうふうに言ってもらいたいだろうな」という期待を勝手に背負ったうえでの芸だから、ナチュラルなリアクションも含めてアリだと思ってる。たとえば魔裟斗くんがK-1WGPの解説をしてて「これはミドル級以上のスピードですよ」って言ってもそれは芸だからね 本当にそう思ってるかどうかじゃなくて、それがK-1WGPをよく見せようという一つの表現方法なんですよ。

だから視聴者がどう感じようが、平等じゃなくてもいいと？

谷川 逆に言うとボクが魔裟斗くんを応援しないシチュエーションだってあると思うんですよ たとえば千代の富士と貴花田みたいに、HIROYAくんが魔裟斗くんと互角に闘うようになったときには、もしかしたらHIROYAくんを応援するような視点で解説するかもしれないし。本心では魔裟斗に対して「そんなガキに負けるな」と思ったりしてもね。

……でもさあ、そういう話を聞くと、なんか凄く「退化」を感じるなあ

——退化ですか？

谷川 もちろん競技としての公平さは求められるけど、ものの見せ方という点で公平性を求めること自体が退化だと思う 本来ならもっと尖った方向に向かうべきだし、極端なことを言うとPPVの副音声とかで「この選手、ホントに嫌いなんですよ！」っていう解説が出てきてもおかしくないと思うんですよ それに伴なって、いろんな声が上がったり、渦が起きるわけで。だから見せ方まで公平にしようとすることって、ものを見る視点が退化してるんだと思うなあ

たとえば10年前だと、主催者の意思が見える部分もファンは了解しつつ共犯関係が結べてましたね。でも、いまは結べてないと思うんですね。

谷川 ああ、確かに コイツを優勝させたい」という思いがありながら、選手や主催者が失敗すること自体を楽しめたよね。たとえばPRIDEでもミルコを勝たせたいという主催者の思いがありながらミルコが負けちゃったとすると、そこで ざまあみろ」だったり、「うまくいかないもんだなあ」だったり、ミルコに感情移入してたら「ちくしょう」と思ったりさ そういう感情が出てくることが正常だと思うんですよ

いまはドラマの仕かり方以前に、主催者の思惑どおりにならなければオッケーみたいなムードがありますね。

谷川 それはつまらないでしょ。ボクはね、ポジティブに主催者の思いどおりにならない結果は、凄くいいと思ってます。たとえばアンディ・フグに勝ってもらいたいけどアーネスト・ホーストがチャンピオンになっちゃうところに格闘技の本物感があるし、アンディが1回戦で負ける部分も彼の人気を作ってたと思うからね

ただ、とくにボブ・サップの全盛期あたりに感じたんですけど、一時期のK-1って勝敗すらもなんとかしてしまおうという意思が垣間見えたんですよ それが谷川さんが言われる"退化"のムードを作ってしまったんじゃないですか？

谷川 ボブ・サップもべつに勝敗をなんとかしようとはしてないでしょ。

そう見えてしまうというか、たとえば、主催者として対戦相手を選ぶときに この相手なら勝てるんじゃないか、という努力はするわけですよね それを露骨に感じてしまったんじゃないか、と。

K-1MAX準決勝で注目を集めた魔裟斗vs佐藤の日本人対決。一度、魔裟斗がダウンを奪われたこともあり、一般視聴者からは「佐藤の勝ちなんじゃないか」というような声もある。そう思われてしまう原因を、サダハルンバはどう分析しているのだろうか?

谷川 対戦相手とかルール設定含めてそれは確かにあるかもしれないけど、だからといって勝敗まで決めちゃうような禁断のところまではいかないですよ。

それは当然ですよね。

谷川 たとえばサップが負けてもリスクがないようには考えますよ そこは選手がボクらが出す課題についてこれるかどうかですよね。負けても落ちないだろうというマッチメイクの中で2回も3回も負けるようであれは、それは選手として通用しないですよ たから、もし反省するとすれば、選手が弱い相手とやりたいとか、強いヤツとはやらないと言ったときに、テレビ局やスポンサーとかが「それでも出してくれ」ということで、泣く泣く使っちゃうという部分では反省しますね。

ええと、いま、ある男の顔が頭に浮かんできましたね（笑）。

谷川 そこで主催者が「ノー」と言えないパワーバランスになったときに、いま言った疑いみたいなのが出てくるんだと思うんですよ そこでボクらが「使えません！」と言えるかだよね つまり、一番はマッチメイクの問題なんじゃないかな。

——テレビと長く関わっていらっしゃる谷川さんにとって、やっぱりテレビがなかったらマッチメイクで苦労しなかったと思いますか？

谷川 しなかったと思います テレビって対世間で考えるうえで絶対的に一番のメディアなんですよ。経済的にもそう その中で格闘技を放送しようとすると、やっぱり局内での反発ってあるんですよね

そこはやっぱりバイオレンスという受け止められ方なんですね。

谷川 テレビの人からも「こんなの大々的にやる必要ないんじゃないの」ってことだし。その中でボクたちは結果を残さないといけないし、結果がすべてなんです だから視聴率を獲らないといけない。ボクは大学を卒業してベースボール・マガジン社に入ったんですけど、たとえば看板雑誌である『週刊ベースボール』の発行部数が落ちたりしても廃刊になることはないと思うんですよ それが廃刊になったら会社の危機だからね でも『週刊プロレス』とか『格闘技通信』とかはなくなる可能性はあった だからこそターザン山本なんかは「とにかく実績だ」って言ってたんですよ

——もともと肩身の狭い格闘技を放送するためには、もう数字を獲るしかない、と。

谷川 それで、たとえば21～23時の2時間番組だったら、一番最初の入り試合、メインの試合、そして22時のまたぎの試合を強くしないといけない、最低3試合はスペシャルな試合を組まないといけないんですよ。たとえばK-1MAXだと、須藤元気で始まり、KIDで中継ぎし、魔裟斗で終わるみたいなね。でも3試合のあいだで数字を落としちゃいけないし2カードも必要だから、元気とKIDのあいだに小比類巻を入れて、KIDと魔裟斗のあいだに武田幸三を入れるとかね そうすると相対的に5つの試合が必要になってくる そしたらイベント自体が変わっちゃうのは当然ですよね UFCみたいな

PPVを基盤にしているところは、ホイスvsマット・ヒューズ1試合だけ観たいものを入れて、極論すればあとはどーだっていいわけだから。
　それによって格闘技が持つ魅力は削がれてないですか？　それともテレビを通すことで違った魅力が生まれていると思いますか？
谷川　それは生まれてきてるけど、一番難しいのは選手を育てられないってことだよね。テレビ側からすると、テレビに映らない試合ってイベントが長くなるからあんまりいらないんですよ。じゃあ、名前のない選手はどうするのって言ったら、強い人に勝つ、もしくはいい試合をするしかないんですよね
　須藤元気やKIDが魔裟斗といい試合をしたように
谷川　でも、そこにたどり着くまではもの凄く能力の高い人じゃないとできない。ボクが思うのは、たとえば10試合あったら3試合は選手を育てたいもんね　でもテレビだとゆっくり育ててる時間がないんですよ
　いまのDREAMはその余裕はないですね。
谷川　ないない。もっと言うとね、やっぱりテレビって〝お祭り〟じゃないと数字なんか上がらないんですよ。もの凄く視聴率を獲った番組を考えると、たとえば24時間テレビで欽ちゃんが走るとか、藤原紀香の結婚式だとか、選挙だとか、世の中が動いてるようなお祭りじゃないと視聴率って獲れない　そこで格闘技をお祭りにするのも大変だし、はたしていつもお祭りにしていいのかという問題もあるじゃない
　曙vsボブ・サップもまさしくお祭りだから数字が獲れた感じですね。
谷川　うん　ここ10年間で一番視聴率を獲った試合が曙vsボブ・サップであって、たぶんベスト5ぐらいはアメリカ人が言ういわゆる〝フリークショー〟だと思うんですよね　でも、それがテレビの現実だし、絶対にアメリカだってそうなると思うけどね
　アメリカの地上波がMMAを放送するようになったのだって、キンボ・スライスが出てきたことがきっかけですね
谷川　ねえ。ボクはUFCのマッチメイクには興味はないけど、格闘技ファンはランディvsチャックのほうがいいわけでしょ？　だからいまの

いまの人たちってテレビをあまりにも神格化しすぎてるんじゃないの？

格闘技にはキンボもランディvsチャックも必要であって、そこでキンボを否定すると格闘技って凄くマイナーになると思うけどなあ
　――やっぱりテレビは絶対に必要なんですが、どうしてもアレルギーが出てきてしまう。昔だったら主催者とファンが共犯関係で楽しめたものが、いまはまったく乖離してしまっている。じゃあ、これからどうやって主催者はファンと共犯関係を結べばいいと思いますか？
谷川　主催者としては、より、いまの方向を突き進むべきですよね　ボクらはより仕掛けていくべきだと思う　メディアは逆に言うと……それをどう料理するかだけどね
　あ、我々の問題ですか　また、いきなり投げ返してきましたねぇ
谷川　いやいや　だって、メディアはヘタに落ち着かせたり、バランスよくやったらダメだと思いますよ　いまって専門誌ですらバランスを考えるようになってるじゃないですか　それはよくないですね。もっと騒いだり、偏ってくれないと！
　確かにバランスを崩したほうが波紋が広がりますけどね　でも、団体側はマスコミにバランスよく扱ってもらいたいんじゃないですか
谷川　ほかがどうかは知らないけど、ボクの場合はぜんぜん気にしないけどなあ　亀田親子だって、バランスが崩れて高い数字が出てお祭りになったわけじゃない？　へんな話、偏っているほうがボク読んじゃうもんね。『kami-pro』もあんまり気にしてないでしょ？
　ノーコメントです（笑）。で、格闘技ってけっこうトゲがあるものでしたけど、もしかしたら我々マスコミがトゲを抜いてるのかもしれないですね　だって雑誌のほうが戦略的にやってる部分があるじゃないですか
谷川　ボクもそう思う。いまの人たちってテレビをあまりにも神格化しすぎてるんじゃないの？　テレビってね、そこまで深く考えてないことが多いよ。これ、すっごい失礼な言い方かもしれないけど、新聞とテレビと雑誌の人間を見たときに、やっぱり一番考えてるのは雑誌の人間ですよ。その次が新聞。テレビの人って一番考えてないですよ。だから、テレビが仕組むことなんてもの凄くたわいのないことだと思いますね
　あまり深く考えてないから、けっこう隙だらけなんですか？
谷川　うん　秋葉原でインタビューしたオタクがじつはスタッフだったとかさ、本当にたわいのない話じゃない。もちろんねつ造なんかはやっちゃダメだという大前提はあったとしても、そこにムキになるのってテレビを神格化しすぎだよね　たとえばさ、ボクシングの内藤が勝ったあとに亀田がリングに上がってきたことがあったけど、あれはTBSの仕込みじゃないかっていう批判の声があるんでしょ？　TBSは一切関係

テレビサイド、スポンサーが人気選手の参戦を求めるあまり、主催者とプレイヤーのパワーバランスが崩れることは多々見受けられるが、そこをいかに調整するかが主催者の手腕の問われるところ。こういう話になると、最近はある男の顔が浮かぶ…

ミルコと青木を並べた場合、秋山くんはミルコを選ぶタイプのような気がする

ないんですけど、でもボクは一切関係あったほうがTBSは偉いなって思んですよ。ボクだったら何も起こらなかったら「なぜやらないの?」って話をするもん。

——この先の興行や話題性のことを考えたら、仕込むのはあたりまえのことですよね。でも、いまはそれが敬遠されるというか、叩かれる時代ということなんですね。

谷川 それはつらいなあ……。だって何も生まれないし、世間に向かって仕掛けないと格闘技なんてあっという間に埋もれちゃうよ。報道で間違ったことを言ったりするのはよくないと思うけど、作り込みはなきゃダメだと思うけどなあ。ただ、作り込みにも一流から三流まであって、三流の作り込みは批判されて当然ですし、ボクもそれを肝に命じて取り組まないといけないですけど

——では、そろそろテレビ的にも大勝負になる大晦日のお話をおうかがいしたいと思います

谷川 これはねえ、いま言ってた話じゃないけど、世間って難しいよね!

あ、いきなり敗北宣言ですか!

谷川 違〜〜う! kamiproさんがそうやってボクの発言を拡大解釈して報道するから、ボクが笹原くんたちに怒られるんだよっ!!

いや、そこは偏ったほうがいいかなあ、と

谷川 ……まあ、いいけどさ。だって、いまの世間ってなかなか動かない人間になってるじゃない。景気とかも含めて状況が悪い。ボクね、今年は近年稀に見るいいカードが並ぶと思うんですよ。一つ一つはいい試合が並ぶと思うんだけど、じゃあこの麻痺した世の中でどういうインパクトを打ち出せるかというと、それがつかめてないんですよねえ。

要するに、見出しになるものがなんなのかということですか?

谷川 うん。でも、いま見出しになるものといえば、なかなかね……。

そうですね。石井慧か朝青龍を引っぱり出すしかないですね。

谷川 もちろん石井慧選手なんかが試合をすれば反響はあると思いますけど、たとえばタレントが闘ってももう飽きちゃってるしね。

タレントが出ても格闘技自体に熱がついたというわけじゃないですよね。その場しのぎの抗ガン剤的なかたちで。

谷川 そういう状況の中で、ボクらの中で一つの最高のかたちというのは魔裟斗vs佐藤とか、秋山vs三崎みたいな試合で、ああいう熱のある試合を見せていくしかないと思ってるんです。そういう意味では、秋山vs青木とかができたらいい熱ができると思うんですけどねえ。

秋山の相手にはゲガール・ムサシも候補に挙がってるそうで

谷川 そうなんだ。でも、青木くんのほうがドラマがあるでしょ。たとえばミルコと青木くんと並べた場合、秋山くんはミルコを選ぶタイプのような気がする。青木戦はリスクしかないから。でも、いまの秋山くんがミルコとやったら、一般的には凄くウケると思うけど、ボクはヒリヒリさを伝えるんだったら青木だと思うんだよね。

昨年の「やれんのか!」での秋山vs三崎戦は、会場のファン、選手ともに生の感情がむき出しで、試合後のマイクも含めて忘れられない一戦に。今年の大晦日、目指すはこのヒリヒリ感だ!

青木戦のほうが、実現の是非を含めて議論は起こるでしょうね

谷川 じゃあ青木vs秋山が世間に届くかというと、そこはわからないし、ただ、三崎vs秋山だってその試合の意味合いは世間に届いてなかったと思うんだよ。でも。あの異様な空気感は伝わったでしょ?

——秋山の首根っこをつかんで説教してる三崎の姿なんか観ずにはいられないですし

谷川 そうそう。「オレはおまえを許さない!」とかさあ、ビックリするもんね! あれはいい試合だったなあ。

——とはいえ、格闘技ファンも飛び道具的なものはイヤだとは言いつつも、世間に投げかけるカードがないと不安な部分もあるんでしょうね

谷川 そうだねぇ。だから去年みたいに「大連立」というようなテーマでもいいんですよね。特別な日だからこのカードが必要なんだっていうのが打ち出せればいいんだから

——でも、そこで選手個人が私利私欲に走ったり、相手を選んだりすると構造的に八百長に見えてしまうんでしょうね

谷川 そんなことしたら、それが悪いカードに見えますよ。もう、秋山が出てるだけ、KIDが出てるだけ、サクちゃんが出てるだけということでは振り向かないし通用しない。「何と闘ってるか」というのが見えることが重要だと思うから。

そういえば、来年の1・4に向けて、いま新日本プロレスがメチャクチャ燃えてるみたいなんですよ。

谷川 あ、ボクも新日本はいまめちゃくちゃチケットが売れてるって聞いたなあ。いいことだよね。

——で、なんで新日本が燃えてるかというと、どうやら「昔、プロレスっていうのがあってね……」っていう谷川さんの発言が原因らしいんですよ(詳しくはウェブサイト『kamipro.com』の「新日本プロレス通信」へ!)。

谷川 え? ホント? ボク、いつそんなこと言ったっけ?

——いや、毎月のように『kamipro』で言ってるような気もするし、新日本側が意味をはき違えて捉えたか、もしくはウチが大げさに書いていた可能性が強いんですけど、おもしろいからいいんじゃないか、と。

谷川 そうだねぇ、嬉しいことだよねえ! そんなところで貢献してるだなんて、光栄だなあ……(うっとり)

失言で業界が盛り上げるのも、谷川さんの芸って感じですか?

谷川 うん。これだってボクの芸ですよ! 新日本さんには、ぜひ頑張ってほしいなあ〜。一緒に業界を盛り上げましょう!

【08年11月7日 都内・FEG赤坂分室にて収録】

このインタビューを収録した5日後、『Dynamite!!』の超ビッグカード、桜庭和志vs田村潔司が発表された。「人気選手が出てるだけでは通用しない」というサダハルンバが語るとおり、今年の大晦日はテーマ重視のカードが並びそうだ。桜庭vs田村をはじめ、にじみ出る〝異様な空気感〟を世間がいかに感じ取ってくれるかが勝負。

このあとに続くカード発表にも要注目であるが、そこは谷川黒魔術。やはり一寸先は闇である!?

生き残れマット界 テレビを食らうか食われるか？

TBS テレビ格闘技とは何か？

「秋山選手のカードに関して言うと僕は非常に残念ですよね」

“佐藤大輔との“確執”はあるのか？

TBSプロデューサー

石井宏昌

TBSプロデューサーがついに本誌初登場! K-1MAX、『HERO'S』、『Dynamite!!』という格闘技番組をすべて手がけている石井氏には、これまで我々が抱いてきたTBS格闘技番組に対する疑問にすべてお応えいただいたが、それによってTBSの“本音”が浮き上がってきた。TBSの選手、主催者、そして“軋轢”が噂された佐藤大輔氏への思いとは?

聞き手　ジャン斉藤　試合写真／乾晋也

テレビ特集号において、大晦日に『Dynamite!!』を放送するTBSについて考えないわけにはいかない！　というわけで、今回はなんとTBSの格闘技番組担当の石井宏昌プロデューサーにご登場いただいた。

TBS格闘技番組といえば、01年の大晦日の『猪木祭り』から本格的に乗り出し、その後K-1MAX、『HERO'S』を放送、毎年恒例の『Dynamite!!』に関しては、大晦日格闘技コンテンツとしては、唯一放送を続けている。また、MMAをゴールデンタイムで放送する唯一の局でもあるが、その放送スタイルから一部では批判の声も……。これをTBSはどう捉えているのか。

石井氏は、当初TBS格闘技コンテンツのヘッドだった樋口潮プロデューサーのもとで番組制作に関わり、樋口氏とともに『筋肉番付』や『世界陸上』など高視聴率番組を制作。その後、01年大晦日に『猪木祭り』の放送が決まると、同じく樋口氏に連れられて制作に関わるようになる。その樋口氏が制作プロダクションのドリマックス・テレビジョンを設立し独立したあとは、石井氏がヘッドとなって格闘技番組を制作している。

初めて格闘技に関わった01年は、まだ「よく知らなかった」と語る石井氏だが、08年現在、どのような思いで格闘技番組に取り組んでいるのか。TBSを取り巻く格闘技番組の歴史をひも解くとともに、石井氏の心情にも迫ってみた。

――今日はDREAM、K-1MAX、

PRIDE時代の佐藤大輔くんは“仮想敵”みたいに思ってたんですよ

そして『Dynamite!!』の制作を担当していらっしゃるTBSスポーツ局プロデューサーの石井宏昌さんにお話をおうかがいいたします。

石井 あんまりこういうのは慣れてないのでお手柔らかにお願いします

——こちらこそよろしくお願いします　石井さんは、K-1MAXを立ち上げた樋口潮プロデューサーと一緒に格闘技コンテンツを制作されてたんですよね？

石井 ええ。樋口さんとは『筋肉番付』をやっている頃からご一緒させてもらってて、樋口さんが格闘技をやることになったので僕も一緒にやらせてもらうことになりました。それが2001年の大晦日ですね。

当時はちょうど大晦日に格闘技番組が打って出るという走りでしたよね　格闘技をテレビで扱うことについて、最初はどう思われました？

石井 まあ、樋口さんは格闘技が好きでよく観てらしたみたいですけど、当時の僕はあまり格闘技のことを知らなくて　だから『筋肉番付』もそうなんですけど、地上波で放送させていただく番組というのは、まずは誰も知らない前提で平たく放送をする、と。そこは徹底して言われましたね。たとえば古田敦也さんとか有名な方は知ってる前提でやりますけどね。

それは選手や格闘技の基本を押さえるというやり方ですね

石井 だからTBSのやり方はフジテレビにとっては「何をいまさら……」という感じだったかもしれないですけど　ただ、人物をしっかりと取材して切り取っていくやり方は、当時から徹底してやってましたね

人物を切り取るという部分でいうと、猪木祭りの安田忠夫vsジェロム・レ・バンナ戦はこれ以上ない成功例でしたね

石井 あれは本当はそういうカードになる予定じゃなかったんですけどね（苦笑）

ああ、本当は藤田（和之）選手がバンナと闘うはずでしたもんね

石井 安田さんはどちらかというとサイドメニュー的な感じだったんですけど、突然メインになって。でも、そういう緊急事態になっても人物を切り取る前提で取材を進めてたので、そこは偶然ですけどうまくいったのかなとは思いますね

——当時は格闘技自体が新鮮なこともあって、カードの良し悪しではなくなんでもおもしろがれる空気が流れていたと思うんですが、いまはそこに翳りを感じませんか？

石井 どうなんでしょうねえ。でも、僕はまだ格闘技には爆発力があると思ってるんですよ。突然ドンとくるんじゃないかって　だから、正直そんなに悲観はしてません　ただ逆に言うと、いまは爆発力がないのかなというのは感じますけどね。

PRIDEの消滅はテレビの人間としてどう受け止めたんですか？

石井 う～ん、PRIDEの映像を作ってる佐藤大輔くんは“仮想敵”みたいに思ってたんですよ　これは本人にも言ったんですけど、たぶんフジの中でもメインはK-1WGPで、PRIDEはその次という意識があったと思います。でも、作品において僕はPRIDEはいいなあと思って見てた部分があったんです。そういう意味では寂しかったですね

いまは佐藤大輔さんと一緒にDREAMの制作をされてますが、当初は軋轢みたいなものってあったんですか？　あの人、けっこうムチャするじゃないですか（笑）。

石井 軋轢というか、なんだろな。急に一緒にやることになったからね

急にもほどがある話だったみたいですね（笑）。

石井 その調整が大変でした　そこは佐藤くんもそうだったと思うんだけど、いきなりの仕事だったから。もっと時間があればもう少しうまく調整できたかもしれないけど、佐藤くんは佐藤くんでスケジュールも含めて大変だったと思いますよ。

いまはガッチリ手を組んで

石井 ええ　彼がフジテレビを辞めたと聞いたときも谷川さんに「ちょっと会えませんかね」という話をチラッとしたことがあったんですよね。それくらい佐藤くんのことは意識してましたし、どんな人なんだろうと思ってたので　だから、一緒にやることになっていまは楽しいですよ。

そのPRIDEと比べてTBSの制作スタイルは、コアなファンからけっこうな批判を浴びてますよね。

石井 ええっと、詳しくは知らないんですけど、たまに聞こえてきますね。でもそこは非常に難しくて、確かに好きな人は観てくれるだろうという甘えもあるかもしれないですけど、やっぱり不特定多数の人に観てもらうために必死にやってるんですよ

浮動層をどう獲得するか、と

石井 冒頭で言ったとおり、知らない前提で作るというスタイルがいまも変わってないところがあるから、ファンの人からすれば「そんなの知ってるよ」という部分はあるだろうなと思います。ただ、ファンにも浮動層にも同時に喜んでもらえる構成は模索すべきだという意識はあります　というのも、コアなファンをガッチリつかんだ上での浮動層じゃないですか、そこがTBSの課題かなとは思ってます

そこには危機感を感じているということですね。

石井 ただ、これを言ったら怒られるかもしれないですけど、やっぱり視聴率は外せないんですよ。僕は最初は格闘技をよく知らずにやってましたけど、いまは大好きになってるんです。格闘技以外のスポーツ番組も作ってきましたけど、やっぱり「命懸け」という言葉に一番リアリティを感じるのは格闘技で、そこに対するリスペクトは凄く持ってて、それだけのことをやってるファイターが脚光を浴びる場を提供し続けるのが我々の使命でもあるかなと思っていて

ジャンルとしても、テレビ抜きでは成り立たないところがあります

石井 我々としても、そこはなんとか守りたいなと思っていて、そのためにはやっぱり視聴率を獲ることは絶対に大事なんです。なんだかんだ言って、獲らないと生き残れないわけですから

低ければ打ち切りになっちゃうわけですもんね。たとえばコア層の声としては、PPV放送と地上波放送の内容の違いが不満なんですね

石井 うーん、でも、地上波の場合、あの限られた時間の中でどう料理するかという話なんですよ。それに、たとえばべつに我々が佐藤くんの映像を無理矢理にカットしてるわけじゃないんですよね　そこは相談しなが

人物を切り取る手法で見事にハマったのが安田忠夫vsジェロム・レ・バンナ。その一方で歴史が長く奥が深い桜庭和志vs田村潔司をTBSがどう料理するのかは要注目である

演出だけでは数字は獲れないですよ
やっぱりマッチメイクですよねえ

らやってるんですけど、佐藤くんからすれば、PRIDE時代とやり方は変わってないと思うんですよね。だからね、これはあんまり書いていいのかわからないですけど、佐藤くんはそういう意味でいうと、バランスのとれる人ですよね

——要するに地上波とPPVの使い分けを考えてるということですか？

石井　そういうことです。もともとフジテレビの人ですから、誰よりも地上波を意識してると思うし、どういうふうに見せていくかというのはよくわかってると思うんですよ。結局ね、地上波には地上波のやり方があるし、PPVにはPPVの世界があるわけで、それが同じ内容というのはなかなか難しいと思うんですよね。だって、PPVってお金を払って観てるわけじゃないですか。それが地上波と一緒だったらPPVを観る価値ってないと思うんですよね。

『DREAM・6』のオープニング映像では、「21世紀の精神異常者」と連呼してましたけど、とても地上波で流すのは無理でしょうね（笑）。

石井　まあ、最終的に両方ともよければいいと思うんです。僕は地上波で格闘技が流れることによってもっと大きくなってほしいし、PPVでは佐藤くんが突き抜ければいいいし、ただ、そこの違いにファンの方が不満を持っておられるならば、我々が敵役になるのも仕方がないと思ってるんですよね。

そうですか（笑）。

石井　でも、いまのDREAMの地上波中継って、『HERO'S』の頃と比べて変わってきているんですよ。それはMAXと並べてみればよくわかるかもしれない。佐藤くんのカラーが出てきているし、その流れはTBSにとってもいいことですよね。やっぱり同じカラーだと視聴者は飽きちゃう可能性がありますから。

“60億分の1煽りVアーティスト” 佐藤大輔氏の仕事は以前から意識していたという石井氏。DREAM旗揚げ当初、佐藤氏がTBSについて語ったインタビュー（『kamipro Special 2008 LATE SPRING』参照）が波紋を起こしたが、石井氏の話からすると、その後見事に調和した様子だ。

まあ、DREAMの視聴率がよければ、演出論の是非は丸く収まっていた話題かもしれませんね。

石井　そうだと思いますよ。極論を言うと、我々は演出や世界観とかのブランドを磨くことのお手伝いはできるけど、演出だけでは数字は獲れないですよ。それは佐藤くんも同意見で。

じゃあ一番のポイントは？

石井　やっぱりマッチメイクですよねえ。視聴者の観たいカードを組めるかどうか。残念ながら、DREAMはここまで一般の人が興味を惹かれるカードはあまり組めてないですね。

なるほど。そうすると、秋山成勲のマッチメイクもテレビ的にはやりづらかったりするんですか？

石井　う～ん……、秋山選手のカードに関して言うと、僕は非常に残念ですよね。

——もったいないですよね。

石井　やっぱり柔道から総合格闘技に転向してきた人であれだけフィットした人もいないし、実力を認められている人もいないじゃないですか。たぶんミドル級で世界最強と名乗れる人じゃないかなと思うんですよ。それがもったいない。やっぱりスポーツなわけで、勝負論がほしいなとは思いますよね。

——それでも秋山成勲はDREAMの視聴率王と呼ばれていますけど

石井　いや、マッチメイク次第で、もっと獲れたと思うんですけどね。一番視聴率が獲れそうな時間帯に秋山選手の試合を流しているし、最高視聴率っていっても秋山選手だけ20パーセント超えていたらそれは凄いなと思うけど、僕らとしては最高視聴率と言われるのもどうかと思う数字ですからねえ。

そこまで胸を張れるもんじゃないですか。

石井　さっきも言ったとおりで魅力的なマッチメイクがほしいですね。もちろん宇野vs石田、宇野vs青木、青木vsカルバンとかは凄くいい試合ですけど、純粋な試合内容そのもので視聴率が獲れるほど、まだこのジャンルは浸透してないんですよ。

確かにそれらはコア層を支えるカードや選手であって、対地上波戦略の役割は備えてないですね。

石井　青木選手だって、これまで地上波には一切出てないに等しいわけですから。そこでいきなり視聴率を獲れというのは無理な話で、誰か目線を向ける選手がいて青木選手の試合も観られるということだったら、青木選手の認知度もどんどん広がっていくと思うんですけど。やっぱり選手の浸透度って、テレビに出だしてから、2～3年遅れる感覚ですからね

浸透するためにはそれくらい時間がかかるんですね。

石井　たとえば所選手も最近だと思うんですよ。2005年当時は正直誰も知らないですよ。だから、現時点で浸透しているミルコ選手とかKID選手、秋山選手にまずはDREAMを牽引してもらいたいなという思いはあります。

その中で大きな目印として石井慧の総合転向が発表されました。

石井　これは、もうとても魅力のある選手だと思いますよね。我々も世間に投げかける工夫はいろいろするんですけど、でもやっぱり芯のある主役がいないとどうにもならないですよ。あたりまえですけど。

——いくらゲガール・ムサシが強くたっていきなり地上波の軸に据えるのは無理がありますよね。

石井　そうなんですけど、DREAMには必要なんですよ、ゲガール・ムサシも。これからの選手ですし、僕もいい選手だと思いますし。ただ、テレビの世界においてはそんなに簡単にはいかないということですよね。

テレビでちょっと流れてスターになるなら、芸能人は苦労しないでしょうし。

石井　「ヴァンダレイ・シウバみたいな選手を育てられないか」みたいなことも言われますけど、あれは、テレビが育てたわけでもなくて、要するに桜庭選手なんですよ。桜庭選手が育てた怪物なんですよね。つまり日本人がフィルターとしていないとダメなんですよね。

——そういったフィルターを通さないとやっぱりMMAってわかりにくいですか。

石井　わかりにくいでしょうね。基本的に地上波のコンテンツとしては向いてないです。やっぱりK-1と比べて展開が複雑ですし、だから『HERO'S』でもそこは意識したと思うんですよね。ブレイクが早かったり、5分3ラウンドだったり。地上波コンテンツ、しかもゴールデンで流すということを含めて工夫したと思いますよ。ただ、K-1より総合格闘技は間口が広いから、観る側には難しいけど、それを超えるにあまりある爆発力は秘めてますよね。

——わかりにくいという意味では、MMAという言い方も浸透してないですよね。この前、石井選手の会見で、「MMA」とか「BJペン」だの言ってましたけど、「MMA」には「総合格闘技」っ

浮動層にも観てもらえるような軟らかい仕掛けは絶対に必要ですよ

てルビがふってあるし、「60億分の1」にも「世界最強」って書いてあって。

石井 そういうことなんですよ。そういう意味では石井くんは総合格闘技にとっては本当にプラスですよね

僕、石井くんのプロ転向会見に行ってた記者から聞かれたんですよ。「MMAってなんですか?」って 取材してる記者すら知らないんで愕然としたんですけど、そこはやっぱり広げてくれる可能性があるということで石井選手には非常に期待したいですよね だから、これこそ批判を受けるのかもしれないですけど、僕はやっぱり硬軟を織り交ぜることが大事だと思うんですよ 硬いものは硬くあるべきだし、一方で軟らかいものも入れ込んで平たい層も取り込むというか 確かに宇野vs青木って凄い試合だったと思うんですよね だから、そこをもうちょっと浮動層にも観てもらえるような軟らかい仕掛けは絶対に必要ですよね

――あのときはKID選手やミルコ選手が欠場になりましたもんね

石井 それじゃなかなか観ようと思わないし、ある程度名前がある人はもう出てもらわないとダメですよ KIDやミルコ、秋山選手が全員出たとしても15パーセント獲れるか難しいところなんですから。

――ただ、いま亀田騒動を含めて、軟らかいというか、いわゆるプロレス的な仕掛けに対する世間のアレルギーって凄いじゃないですか。たとえば魔裟斗が優勝したときも「どうなの?」という声が上がってましたね

石井 一般の視聴者はそこまで過敏なのかな?

――魔裟斗vs佐藤に関しては、業界に近ければ近いほど試合そのものを絶賛するんですが、離れれば離れるほど冷めていくんですよね。K-1の問題は「勝敗すらも自由にできる」というイメージが強くついてしまってることだと思うんです。で、TBSさんもそういうふうに見えがちなんですよ。

石井 うちが見えがち? へえ~。

――ええ(笑)。

石井 そんなつもりは全然ないですし、介入なんかできるわけがありませんよ。僕もスポーツ好きですから、そういうのって普通にイヤじゃないですか!

――でも、プロデューサーとして選手をスターにしたいというのはありますよね

世間とコアな格闘技を結びつけるフックとして、秋山成勲や山本KIDなど、世間にも名の知れた有名選手はテレビ格闘技では外せない存在であるが、ケガの問題や、しっくりこない対戦相手との試合など、いまのDREAMはなかなか歯車が噛み合っていない状態だ。ただ、それに関して石井氏が危機感を覚えているのは心強い

石井 もちろん。でも、僕らは放送することしかできないですから、命を懸けてる選手をどうやってメジャーな舞台に上がってもらって盛り上げられるかということですよ 僕らはそこまでの手助けしかできない そこまでのところでいかにして一般の人に引っかかってもらうかというところに尽力してるわけですし。

――たとえばDREAMにアンディ・オロゴンが急きょ出場することになったときも、多くのファンはテレビの要請なんだなって思うわけですね。

石井 そこは硬軟のさじ加減の難しさですよね だから、硬がしっかりしてると軟に振りやすいのではないですかね 要するに、変化球ばっかり投げると文句言われるってことですよね。だからやっぱりちゃんと格闘技ファンを満足させないからそう言われちゃうのかなと思うんですけど。

――とはいっても、格闘技ファンだけ満足させても、ヘタすると沈没する可能性も……

石井 ということなんですね そこの両立は我々の命題ですねえ……

――それで今年の大晦日はK-1、K-1 MAX、K-1甲子園、DREAMの4つが『Dynamite!!』として合体しますが、これはかなり見せ方が問われてきますね

石井 それぞれのファンに対する不安は若干ありますよね だけど裏を返せば、そういうことができるのって年に1回しかないんですよ。そこであまり1つのブランドに特化しちゃうと、イベント自体が小さく見えちゃう。そうなのもイヤなんですよ せっかく大晦日に長時間の枠をとってやるのに、細かく分かれるのは大きく見えないんじゃないかって。そこは新規開拓もしないといけないわけで、両立をどうするのかというところで、佐藤くんしかり、演出しかり、もちろん我々も難しいことかもしれないと思うんですけど、チャレンジする価値はあるのかと思ってます

――K-1のほうも含め、煽り映像は佐藤さんが作るんですか?

石井 いま調整してるところです。大晦日だけはいろんな意味で座組みが違うんですよ。もうちょっとお待ちいただけると見えると思うんですけど。あとはマッチメイクが出てこないとねえ(本インタビューは桜庭vs田村戦発表前に収録)

――ああ、ボクらも非常に困ってるんです(笑)。

石井 まあ、あんまり笹原さんや谷川さんにプレッシャーをかけたいとは思ってないですけど、お客さんも結局そうだと思うんですよ 何を観に来るかというと、試合でしょ? 世界観はその次ですからね 一つだけ言えることは、これだけの長い枠で放送をさせてもらってるんでね、どこを切っても金太郎アメみたいな番組にはしたくないですよね。5時間もの番組ですから、大晦日は統一感を持たせるよりは、ごちゃ混ぜみたいな感じにするのもありかなって。そこでK-1しか知らない人にDREAMをおもしろがってほしいし、MMAファンにK-1の魅力を再確認してもらいたいし、そういう意味で大晦日は特別な日だと思うんです

――来年を占う1日でもありますし。

石井 ちょっと古い話になっちゃいますけど、国立競技場で『Dynamite!』があったじゃないですか? ボクはあれをゴールデンタイムで流せなかったことが悔しくてしかたなかったんですよ

――たしか後日の夕方に放送したんですよね

石井 理由は雨天延期の可能性があったから、大反対されたんです それでもなんとかやるべきだったと思うし、そんな時代から大晦日に5時間も放送できるいまにつながっている。これは僕らの誇りであり、選手やファンのためにもずっと頑張っていきたいです。

――MAXの煽りV調で言うと、「TBSには格闘技を放送しなければならない理由がある!」という感じですね では、大晦日と今後の格闘技中継に期待しています。

【08年11月5日・都内・赤坂サカス近辺にて収録】

いしい・ひろあき■1969年6月23日、大阪府出身。樋口潮プロデューサーとともに『筋肉番付』『世界陸上』などの番組を制作していたことがきっかけで、格闘技番組を手がけるように。樋口プロデューサー退社後の現在、格闘技番組に関しては石井氏がヘッドとなって番組を制作している

ビ格闘技を背負う理由、それはボームリングで闘えることに対する喜びと、本人の性格からくる想像以上の義理堅さにあるのかもしれない。

★

また『HEROS』の〝格闘テレビスター〟といえば、須藤元気も思い浮かぶ。偶発的に誕生した所英男というテレビスターとは対照的に、戦略的にテレビ進出を目論んでいたという須藤。プロデビュー前から総合格闘技イベントがテレビ放映されることを予想し、入場パフォーマンスにせよ変幻自在のファイトスタイルにせよ、「ファン受けするアピールの仕方を綿密に考えていた」という話はインタビューのたびに出てくる。

そんな須藤でも現役格闘家だった頃のことを振り返ってもらった。テレビを目指した理由について、須藤は素直にこう語る。

「僕は強くなって有名になりたかったという一念で頑張っていました。ある意味、素直だったんですね。格闘技をやってる人の最大のモチベーションって、正直なところ女性にモテたいというところなんじゃないでしょうか」

こうあからさまに語るのも現役を引退した選手だからできることかもしれないが、でもそこまで登り詰めるまでに格闘家としての実力も磨かなければならない。それはビジュアルもしかり。その点、元気はテレビに出る者の使命としてこう語ってくれた。

「テレビに出ること自体は一切プレッシャーにはならなかったですね。プロの格闘家という自覚がありましたから、リングを降りたあともプロであるべきだと思うし、振る舞いとかはプロとしてキャラクターを守らなければいけないと思ってます」

では、所と同じく競技者としての葛藤はなかったのか。

「もちろん、僕もケガをした状態で出場したこともあります。でも、そこはプロとしては、なんとか持ちこたえないといけないんですよ」

元気によると、葛藤があったとすれば、あの独特の入場パフォーマンスについて。逆に周りの理解を得られなかったぐらいで、競技者としては何も感じなかったという。

しかし、たとえば、有名になりたいと思う一方、強さを追求するファイターにとって、世界最高峰のリングPRIDEに対して意識するところはなかったのだろうか。

「どこで闘うかというのは、自分がどうなりたいかを考えた上での選びですね。僕は有名になりたいという思いが一番先にありましたから、K-1、『HEROS』のほうを選びました。でも、PRIDEがなかったら『HEROS』は成り立たなかったとは思ってます。総合格闘技の文化を本当に支えてくれたのは、PRIDEを応援していたコアなファンだと思いますから……。そのコアな層があっての『HEROS』だったと思ってます」

それは、持ちつ持たれつということなのだろうか。あまりにもわかりやすい元気の目論みには圧倒されるが、逆にいうと、ここまでできなければ〝格闘テレビスター〟としては成立しないのである。

★

しかし、所にせよ須藤にせよ、テレビ放映があることはあたりまえだと思っている前提を抜きに、格闘テレビスターとして背負っているものはやっぱり強い。所がイベントに出続けるのはそれこそPRIDEでの桜庭和志、リングスでの田村潔司的で

『HERO'S』はPRIDEとは別のところで使命を背負っていた

あるし、元気の入場パフォーマンスやトリッキーな闘い方は、ある意味、会場やテレビを意識したプロレスラー的雰囲気を感じたりする。繰り返しになるが、それをあたりまえだと思っていなければ、やはり厳しいテレビの世界からは除外されてしまう。しかし、ここ一番の嗅覚が備わっていなければ、そのチャンスをつかむこともできない。

そういう意味で、やはりテレビを背負うことは、イベントを背負うこととはまた別のベクトルでの闘いがあるように感じられた。『HEROS』は『HEROS』で、PRIDEはPRIDEで、別のところで使命を背負っていたのだ。ここにきて、『DREAM.3』で石田光洋と宇野薫が[illegible]「『HEROS』の宇野薫です!」という口上が身にしみてくる。

前出の上原氏には今回の件について、長時間にわたり時間を割いていただいたのだが、取材の最後にこんな話を聞くことができた。所が一度だけ『HEROS』出場に表情を曇らせたことがあるという話だ。

「所が出場を嫌がったことはホントにないんですよねえ。ああ、でも2回目のミドル級トーナメント、ブラックマンバに負けたのに推薦枠で出てくれって話があったときはえらく悩んでましたね。あれは嫌がってました（笑）。あれはさすがに『[illegible]』のインタビューが本音だったのか……」

でも、所はそれでも決心を固めて出場をはたした。その理由がまたたまらなく素敵だからおもしろい。

「でも、そのとき所は谷川さんにおいしいものを食べさせてもらって納得させられたんですよ。たしか焼きそばだったんですけど、『所くん、この焼きそばは、ボクはいくらお腹いっぱいでもいつでも食べられるぐらいおいしいんだよ!』って（笑）」

名声を得られるかどうかの反面、人には知れないツラさもあるテレビスターだが、意外なところにもおいしい話が転がっていたりするもんだ。そう考えると、いまになって『HEROS』の（そして、谷川さんの）奥深さをあらためて感じずにはいられない。

須藤元気の入場パフォーマンスはもはや〝風物詩〟と化していたが、[illegible]世間に名を知られるというのは、「プロ格闘家」というハードルがいかに高いかがわかる。

過激なるアメリカのテレビを考える!!

プロレスは大統領選に殺された!

90年代にはWWE大ブームを巻き起こし、ここ数年もUFCのリアリティショー成功のきっかけを作るなど、マット界への貢献度も高いアメリカのテレビメディア。その実態を探るため、好評を博したステロイド映画に関するインタビューに続き、またまた町山智浩氏に取材を敢行した。このテレビメディア事情を聞くインタビューが、なんとも意外なことにプロレス凋落の理由を浮かび上がらせることに!　原因は大統領選!?

聞き手／ジャン斉藤　写真提供／共同通信社

アメリカ在住の映画評論家
町山智浩

――前回のステロイド映画のお話はかなりの反響がありました。今回はアメリカのテレビ事情についてうかがわせてください。

町山 はい。アメリカのテレビといえば、いまは全体の視聴率が低くなってるんですよね。それは日本も同じだと思うんですけど、もの凄くテレビ産業自体が衰退してて、ドラマとか作り物のコンテンツに対して視聴者が集まらない状況が続いてるんです。

――日本のテレビもドラマというより、クイズ番組とお笑いばっかりですけどね。

町山 アメリカではリアリティショー番組が増えてます。そもそも若い世代がテレビを観なくなってきてるから、視聴者の年齢層も年々高くなってます。たとえばニュース専門ケーブル局のCNNの平均視聴者は60代と言われてます。

――60代！ そんなに高いんですか。

町山 オレってジジイかよ！ ってイヤになっちゃいますけどね（笑）。要するに、若い人はみんなインターネットやゲームばっかりで、テレビを観ようとしない。それに対応して各テレビ局が放送中の番組をネットで同時配信しています。見逃した番組があってもすぐに観れちゃうわけです。

――それならますますテレビから離れるに決まってますね。

町山 これは「YouTube」に流れるのを防ぐためでもありますが、視聴者が離れてしまったので、ネット世代にバンバン見せてコンテンツのおもしろさに気づかせようという戦略なんです。

――そうせざるをえないわけですね。

町山 90年代はアメリカのテレビは元気だったんですけどね。ドラマも凄く強くて、日本だと有名なのは『ER』とか『ビバリーヒルズ青春白書』かな。でも、大ヒットしたもんだから、出演者のギャラが高騰したんですよ。『ER』の1回放送ぶんの出演者のギャラが合計で数億円になるという状態でしたからね。

まちやま・ともひろ■1962年7月4日、東京都出身。アメリカ在住の映画評論家、コラムニスト。『別冊宝島』シリーズでは数々のベストセラー企画を編集、その後『映画秘宝』を創刊する。96年に渡米すると、以降『映画秘宝』『TVブロス』など数々の連載を持ち、現地で得た映画・メディアの情報などを発信。著書には『ファビュラス・バーカー・ボーイズの映画欠席裁判』『アメリカ横断TVガイド』などがある。

――1回で数億円！

町山 もしドラマが大ヒットして2シーズン目の制作が決まったら、出演者のギャラは一気に跳ね上がるんです。これは俳優じゃなくて、そのエージェントが要求するんですけどね。そうすると、もうドラマは制作費を回収するには海外に売ってDVD化権を売って、やっとトントン。全然儲からない。だから、リアリティショーが台頭してきたんです。リアリティショーは出演者が素人ですからギャラはほとんどタダでもいい。優勝賞金1億円を出したとしても、そっちのほうが断然安上がり。そうやってドラマの時代は崩壊していったんです。

リアリティショーはギャラがほとんどタダ だからギャラが高騰したドラマは崩壊した

――なるほど。最近発売された町山さんの新刊『アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない』にもテレビメディアの話が載ってましたけど、**ルパート・マードック**のテレビ戦略の話が非常に興味深かったですね。

町山 この人は凄いですよ！ 映画『**007 トゥモロー・ネバー・ダイ**』の悪役は、イギリスと中国の戦争をでっち上げて、その戦争を中継することで中国人にケーブルテレビを売ろうとするメディア王なんですけど、これはマードックのパロディなんですよ。

――それだけ聞いても突拍子もない人ですね（笑）。

町山 マードックは中国の巨大な人口を狙ってるんです。そこにテレビをねじ込んだらとにかく売れるだろう、と。そもそもマードックはFOXニュースという、ニュース専門ケーブル局を始めた人物なんです。徹底的に右翼プロパガンダの報道をするチャンネルで、90年代の終わりに人気が出ました。クリントン（元大統領）が**モニカ・ルインスキーとの不倫スキャンダル**を起こしたときです。

――日本のワイドショーでも大騒ぎしてましたね。

町山 CBS、NBC、ABCといった老舗の、大ネットワークは、こんなことで騒ぐのは恥ずかしいって感じでソフトに報道してたんですが、FOXニュースだけは「こんなことは許せない！」と大騒ぎをして、「どうやってセックスをしたんだ」とか「青いドレスに精液がついてるか調べろ」とか、大々的に下品な報道をしたんです。

――下世話な話ですねぇ。

町山 でも、それでFOXは視聴率を上げていった。じつは、このFOXニュースを仕切ってるのは、ロジャー・アイルズという男なんですが、彼は、レーガン大統領のメディア戦略家として、テレビを使って国民をコントロールする術を徹底的に知りつくした専門家です。

――じゃあ、その偏った報道も戦略的だったんですね。

町山 そうなんです。そもそもニュースって、善悪の判断を保留して「こういう事件がありました」と事実だけを客観的に報道するものじゃないですか。でも、FOXはそうじゃなくて、「これは正しい」とか「これは悪い」と言いきっちゃう。たとえば、アメリカがイラク戦争を起こそうとしたとき、フランスが反対したら、『フレンチポテトを食べるな！』とか、そういうことを言うんですよね。

――べつにそれでフランスは困らないですね（笑）。

町山 フレンチポテトはフランス製じゃないからね。で、CNNなんかの普通の客観的な報道だと、イラク戦争が正しいのか正しくないのか、はっきりわからない。でもFOXは「イラクは911テロの犯人だ！ 滅ぼせ！」って言いきっちゃうから、視聴者からすれば非常にわかりやすかった。だから視聴率がCNNを抜いた。イラクが911テロの犯人というのは事実無根でしたけど。

――日本だと、一応テレビには、ニュースは客観的に放送しないといけないという不偏不党の倫理規定がありますけど、アメリカは？

町山 アメリカにもありましたけど、共和党政権が撤廃したんです。というのは、日

本と同じでマスコミは左派偏向だって言われてたんですね。戦争には反対するし、政治家や大企業には批判的だし。とくにレーガンは失言が多かったせいでマスコミに叩かれた。でも国民はレーガンが好きだったんです。小泉政権と同じポピュリズムですよ。そこでロジャー・エイルズが「じゃあその倫理規定を撤廃すればいいじゃないか」と。そうしたら右翼的で保守的な放送もできるから。

――そんな理由で撤廃できるもんなんですね（笑）。

町山　レーガン政権からアメリカではなんでもかんでも規制緩和してましたから。その一環で。日本も一時自民党が自分のテレビ局を持とうとしてましたが、あれと同じことです。その裏には当然ルパート・マードックも噛んでました。ブッシュ政権になってからは大本営発表ですよ。イラク攻撃が始まったときはビル・オライリーというコメンテーターがカメラを指差して「もう戦争なんだから、反対意見があるヤツは黙ってろ！」って脅すんですから。

――そこまで言いきりますか！（笑）。

町山　ところがアメリカ国民はそれに大喜びしたわけです。ただ、いまは支持率を落としてますけどね。

――みんなやっぱりおかしいと思い始めたんですかね。

町山　だって、FOXの言いなりになってイラク戦争をやってみたら勝てなくて、しかも「イラクは911テロの犯人だ」とかウソだったんですから。ただ、テレビはFOXだけですけど、AMラジオはほとんど右翼プロパガンダ放送なんですよ。

――そうなんですか（笑）。

町山　事の始まりは、80年代にラッシュ・リンボーという人が政治トーク番組で「移民はみんな殺せ！」「フェミニストはナチスだ！」「貧乏人は死ねばいい」とか吠えまくったんです。最初は小さいラジオ局で放送してたんですけど、ものすごい聴取率を獲ったんです。

――やっぱりみんなそういう刺激的なのが好きなんですね。

町山　アメリカにはシンジケーション（番組販売）というシステムがあって、テレビでもラジオでも数字を獲れる番組があると他の局にも配信するんです。で、そのラッシュ・リンボーの番組が全国規模に広がって、他局も似たような右翼トーク番組をやり始めたんです。

――でも、当然抗議もあるわけですよね？

町山　もちろんですね。全部生放送だから、放送中に抗議電話がかかってくる。たとえば「俺は黒人だけど、おまえ『黒人死ね』とか言っただろう。ふざけんな」とか怒るわけです。すると、リンボーは「俺は全然黒人のことなんか気にしねえ。人口の12パーセントしかいないから、おまえらが全員敵になったって怖くねえよ」とか言い返すんですよ。

――メチャクチャですね！（笑）。

町山　ほかにも差別的なことを平気で言って絶対に謝らない。それでもけっこうな数のスポンサーがついてるんですよ。最初から黒人の人は聞いてないから、ってあきらめてスポンサードしたりするんです。

――日本のテレビ事情からは考えられないというか。

町山　まあ、ラジオだからなんですけどね。ラジオで当たった右翼コメンテーターたちはテレビに進出して、全員失敗しましたね。テレビってラジオと違ってそのチャンネルを聴こうと思って聴く人だけじゃなくて、なんとなく観てる人が多い。いきなりテレビを観て「女は劣った生き物だ！」なんて怒鳴ってるんだからビックリしますよね（笑）。

――そういったアメリカと日本の根本的な違いってなんだと思います？

町山　アメリカはチャンネル数が異常に多くて、一つの番組が国民的人気になることが起こりにくくなってます。誰でも観てる番組というのがほとんどない。最近では『アメリカン・アイドル』くらいかな。スター誕生番組ですが勝ち抜き戦になっていて、毎週視聴者が自分たちで電話投票して最下位の人が落とされる。最終回の投票者数は大統領選に投票した人より多かったそうです。

――ワハハハハハハ！　何をやってるんですか（笑）。

町山　だったら、投票しろよ！って感じなんですけどね（笑）。でも、日本と違ってアメリカの政治家はどんどんテレビに出てきますよ。

――といいますと？

町山　とくに大統領選挙では候補が積極的にテレビ番組に出ようとするんです。23時のニュースのあとに「トゥナイト」とか「レイト・ショー」とかオジサン向けのトーク番組が放送されてるんですけど、その番組ではその日一日の出来事をギャグで茶化して張本人のゲストを登場させるというのが昔からあって、大統領候補のジョン・マケインさんなんかはそれに出演するために、何度も何度も番組と交渉してる。

――日本だったら逆に番組側が出演要請をするもんですけどね。

町山　アメリカでは「みんなに言いたいことがあるから出させろ」って感じですね。**オプラ・ウィンフリー**という女性が司会をやってるアメリカで一番影響力のある奥さま向け番組があります。そのオプラさんが「この本を読むといいわよ」って言うと、その本がいきなり100万部売れたりするほどの。

――それは凄い影響力ですね。

町山　だから、共和党側のサラ・ペイリン副大統領候補がオプラさんの番組に出してくれ、出してくれってお願いしました。爽

アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない　町山智浩

アダルトな政治、宗教、経済などアメリカの実態にフォーカスした町山智浩著の新刊『アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない』では、FOXニュースをはじめアメリカの偏ったメディアについても多く語られている。日本では考えられない破天荒なアメリカメディアの実態に迫りたい人はぜひ。

アメリカ新大統領はオバマ氏に決定！

4年に一度の大統領選が、民主党候補バ[illegible]当選をもって、4日（現地時間）ついに終幕。共和党のジョン・マケイン候補を大幅に引き離す大勝を成し遂げた。「Change（変革）」と[illegible]の黒人大統領が誕生したことが話題[illegible]47歳という若い年齢での当選にも注目が集まっている。現ブッシュ大[illegible]手腕を振る[illegible]ところだが、世界を巻き込[illegible]はまたまたお株を奪われ[illegible]

さまたち票がほしいから。でも、黒人のオプラはやっぱりオバマ派だからペイリンさんの出演を断った。それが不公平だということで問題になりました。

――そんなことで問題になったりするんですか（笑）。

町山　共和党と民主党の違いもわからない、イラクがどこかも知らないというアメリカ人が大勢いるわけですから、その人たちを振り向かせるためにテレビに出る。だから、いまアメリカはテレビも大統領選一色ですよ。

――大統領選が一つの番組と化してるんですね。

町山　**『サタデー・ナイト・ライブ』**というお笑い番組があるんですけど、これは日本で放送された『オレたちひょうきん族』の元になった老舗番組なんですけど、この番組も視聴率がずっとよくなかったんです。ただ、ここにきて急にグワッと上がってきてるんですよ。それはもう大統領選のおかげなんです。なぜならオバマさんもマケインさんもヒラリーさんもペイリンさんもみんな出てくるから。

――へえ～。それって『ひょうきん族』に麻生太郎さんが出てくるような感じですよね。

町山　そう。それでいて、ただ出るだけじゃなくて、みんなちゃんとネタをやるんです。マケインさんなんてバーブラ・ストライサンドの歌を歌いまくってました。ストライサンドは民主党の有力サポーターで政治的活動に熱心なんですね。共和党のマケインさんはそれが気に食わない。だから「自分の仕事場に素人が入ってくる不快さを思い知れ」と言ってストライサンドの歌を歌った。それもジャイアンのリサイタルみたいなド音痴で。

――凄い話ですねぇ（笑）。

町山　最近ではペイリンさんがずっとこの番組でネタにされてました。別の番組でブッシュ・ドクトリン（先制攻撃主義のこと）について聞かれて「それってなんですか？」ってボケたんで、ペイリンさんのソックリさんが何も知らないバカ政治家を演じて笑いを取ってたんです。そしたらペイリンさん本人が出演して、一緒にコントやってボケましたからね。みんなシャレがわかるんですよ。日本の政治家はホントに見習ってほしいですね！

ブリトニー・スピアーズやパリス・ヒルトンほど凄まじくはないが、日本でも確かに芸能界や政治、食品問題などのドタバタがプロレスを飲み込んでいる部分はおおいにアリ。最近、芸能界に復帰した加護ちゃんだって、表舞台に出ていなかった時期の心情を本としてビジネスにしているから素晴らしい。

――共産党の志位委員長なんかは意外とお笑い顔だから、はまりそうなんですけどね（笑）。

町山　こういうのって非常にプロレス的だと思いませんか？

――ええ、凄くプロレス的ですね。

お笑い番組にオバマさんもマケインさんもみんな出る それでいて、みんなちゃんとネタをやるんです

町山　「プロレスをする」という言葉があるでしょ？　わざとケンカを売ってアングルを作って対決を盛り上げていく行為をそう呼ぶことがありますよね。90年代にWWFは大ブームだったけど、いまは大統領選やらテレビやら、すべてがプロレス化してしまった。そのまでプロレス自体は力を失なっちゃった。世間を巻き込んでいく力をね。

――大統領選のほうがよっぽどプロレスだ、と。90年代って、普通に生活してても感じるぐらいWWFはブームだったんですか？

町山　もの凄かったです。僕は90年代終わりにアメリカに来たんですが、WWFは社会現象でした。みんな、格闘そのものよりもビンス・マクマホンとストーンコールドの抗争をドラマとして楽しんだんです。金のことしか考えない強欲な経営者とブルーカラーの従業員の闘いでしたけど、アメリカは従業員と経営者の収入格差が180倍という異常な格差社会ですから、もの凄く感情移入したんです。世間の現実を反映してたんですね。しかもマクマホンは本当に経営者でストーンコールドは本当に従業員ですから。ちょっとリアリティショー的でもある。

――いまや世界の格闘技を牛耳るUFCもケーブルテレビのリアリティショーで人気が上がったと言われてるんですけど、UFCの勢いは感じますか。

町山　UFCは人気ありますが、普通のテレビ局では放送できないんですよ。スパイクTVという男性向けケーブル局で放送しています。バイオレンスなアクションものとか、警察官の逮捕劇とかエッチな番組とか、そういうのばっかりを放送している局です。『風雲！たけし城』もここで流してました。そういえばマケインさんは一時期UFCにもの凄く反対してましたけどね。あれはバカだなと思いましたけど。

――要するに、「危険なんじゃないか」ということですか？

町山　だって、MMAのほうがプロレスより安全ですから。プロレスみたいに技を受けないし。

――ダメージは蓄積するわ、ステロイドの副作用は問題視されるわで。

町山　あまりに死人が出たのでプロレスは社会的にますます不利になってますよね。「殺人ショーじゃないか」って言われても、実際に人が死んでいるから反論できない。それにプロレスよりも、**ブリトニー・スピアーズ**とか**パリス・ヒルトン**とかが人前にノーパンで現われたりするほうが過激ですからね。ほとんどアントニオ猪木の考え方じゃないですか。客を呼ぶためなら路上でファンに俺を殴らせるってことでしょ？

――ブリトニーやパリス・ヒルトンこそ猪木イズムの継承者（笑）。

町山　リングで闘うよりも、世間を巻き込んでいこうって話で。だから、世間がプロ

写真提供／共同通信社

町山氏によると、アメリカンプロレスの凋落がブッシュ大統領当選から始まったというから驚き。確かにブッシュ大統領の言動は世界でもトップクラスの関心事であり、それ以上にリング上のドラマが気になるということはなかなか考えられないから。もの悲しい

レスをバカにして、スポーツニュースや新聞で報道しないなら、報道せざるをえないように事件を起こそうって。それってもう犯罪者の考えですけどね（笑）。

――確かに。でも、正しいですよね。

町山 正しいですよ。そうすれば、世の中は報道せざるをえなくなる。WWEも90年代はそうだったんですけど。ブリトニー・スピアーズがパパラッチの前で頭を丸刈りにしたときだって、パリス・ヒルトンが刑務所に入るときだって、全部テレビやインターネットで全世界に中継されちゃうわけですから。これにプロレスが勝つにはそれ以上の事件を起こすしかないもん。「爆弾がこの会場に仕掛けられてます」とかね。

――極端なことを言ってしまえば。

町山 それぐらいしないともうみんな観ない。だって、アメリカ人って格闘が観たくてWWFを観てたわけじゃないですもんね。生々しい現実ギリギリの世界が観たかっただけですし。

――昔の日本のプロレスも、ホントにギリギリでしたからね。

パリス・ヒルトンやブリトニーに勝つには プロレスはそれ以上の事件を起こすしかない

町山 どこまでが現実かプロレスかがわからなくなる。レスラー自身もね。WWEのチャイナ（ジョーニー・ローラー）なんて、リングの上でも現実でもトリプルHと恋人同士だったけど、WWEのストーリー上でマクマホンの娘のステファニーが権力を使ってトリプルHを奪うという展開になって、チャイナは最初は「シナリオだから」と思って演じてたら、実際は本当で、トリプルHはステファニーとデキちゃって最終的に結婚しちゃった。で、チャイナが「本当にヒドいわ」って暴露した本をWWEが出版した（笑）。

――複雑すぎますよねぇ。

町山 クリス・ベノワだってそうでしょ？ NWAのケビン・サリバンが奥さんを虐待しているんでベノワがサリバンと闘って彼女を救い出すというアングルをやってたら、じつは現実と完全に同時進行してた。しかも妻を奪われたサリバンがベノワをアングルで団体から追い出すという展開までリングと現実が同じ。だから、やってるほうは頭がおかしくなっちゃうと思うんですけど。僕はそういうのがおもしろくてプロレスを観てたんですけど、観なくなったのはブッシュ政権になってからですね。ブッシュはヒールとしては最高でしたから目が離せなくなったんですよ。ボンボンでバカで臆病なのに恐ろしいことを平気でやってしまう。で、あまりに異常な失言の数々。「私はアルカイダに訓練された」とか「魚と人間は平和に共存できる」とか（笑）。

――WWEはブッシュに潰された、と（笑）。アメリカのテレビ事情からみたプロレス衰退の一因がわかりました。今回もありがとうございました

（08年10月22日／国際電話にて収録）

○○・ウモロー・ジャーナイ

モニカ・ルインスキーとの不倫スキャンダル

カンニアール

オプラ・ウィンフリー
1954年生まれ。……の司会、プロデュー……アメリカで絶大な人気を得ている。また雑誌や出版社を所有する資産家でもあり、アメリカ人の中では一番の億万長者だということもある

「サタデー・ナイト・ライブ」
75年からアメリカNBCで放送……

ブリトニー・スピアーズ
1981年、米国ルイジアナ州出身。8歳でテ……驚異的なCDの売り上げ……アーティスト。歌とともにプライベートでの奇行……

パリス・ヒルトン
……

それでも恐ろしい

テレビプロレス帝国 WWEの実態

アメリカン・ミスターX

アメリカ最大にして、世界最高峰のプロレス団体・WWE。ここ数年はパワーダウンもささやかれてはいるが、徹底的にテレビに軸足を置いた戦略と展開はいまだに他の追随を許さない。テレビプロレス帝国の実態に迫った!!

聞き手　真下義之

アメリカンプロレス事情通ライターであるアメリカン・ミスターXさんにテレビプロレス帝国・WWEに関してうかがいたいと思います。

X　はい　お役に立てるかわかりませんが。

――しかし、WWEってホントにテレビ番組をいっぱいやってますよねぇ

X　『Raw』、『SmackDown』、『ECW』の3ブランドに加えて、海外向けに編集した番組や、ダークマッチを集めた番組、ダイジェスト的な番組だったり……

――しかも、その3本を違うケーブル局で、違う曜日に毎週放送してて。

X　その番組も結局、月に一回のPPVを見せるプロモーションなんですよ。ストーリーや抗争を紡いで、PPVに誘導するのが目的なんです

すべてが有料テレビ放送の収益に直結している

X　ビンス・マクマホンが社長になって一番力を入れたのは第1期がPPVの導入で、第2期が全米に流せるケーブルテレビのワクの確保ですから。それまでのAWAやNWAでは、テレビも各州ごとの放送のテリトリー方式だったんですが、そういうセオリーを全部ブッ潰した　そのために、ハルク・ホーガンというスターもAWAから引き抜きましたし

落としどころがハッキリしてますね　その最初の大爆発がPPVビジネスの先駆けであり、現在も年間最大のイベントである『レッスルマニア』で。

X　初期からシンディ・ローパーやミスターTみたいな有名人をメディアへのフックとして使って、団体をドンドン巨大化させていった。その結果、WWEはテレビ局側がほしがるコンテンツになりましたから。

――じゃあ、内容的にはテレビは介入してこないんですか。

X　そこは完全に団体主導ですから。ただ、視聴率は相当気にしてそうですけど

X　WWEは視聴率ですべてを判断して試合順や構成を決めてますね。「どの試合のどの場面が視聴率が悪かった」とか　視聴率が悪くてもプッシュしたい選手がいたら、前のほうに持ってくるとか。

――そうして視聴者の目に入りやすい状況を作る、と。

X　あるスーパースターに聞いたん

毎週、WWEのバックステージには毎分視聴率が貼り出されるらしい

ですが、テレビ放送の翌週にはバックステージに毎分視聴率のレーティングが貼り出されるらしいですね

毎分の視聴率が!?

X　選手にも視聴率は一目瞭然ですし、みんな結果を知ってるわけですから、意識も変わってきますね

――日本ではネット上で「しょっぱい」とか叩かれるくらいですけど、そんなレベルじゃない、と

X　毎週、通信簿が出るんですから会場でも試合担当のエージェントからダメ出しされたりする。客はノセられないわ、視聴率も低いわだったら、相当ヘコむでしょう。

それは雇う側も、選手を切る理由が明確になるというか

X　日本とはケタ違いに生存競争が厳しい。これもあるスーパースターから聞いたんですけど外面的には3つとも同価値のブランドですけど、やる側は『Raw』に選ばれるのか・番のステータスらしいですね。

はぁ～。『Raw』がWWE内部での上位概念なんですか？

X　『Raw』は毎週が2時間の生中継で絶対失敗できない世界ですから。『SmackDown』は録画中継ですけど。『Raw』に選ばれるのは、成功の階段を上がっている証拠らしいです。

――実際、いまの『Raw』は、ランディ・オートン、クリス・ジェリコ、ショーン・マイケルズ……。仕事ができる人ばっかりで。

X　ハードコア路線の『ECW』も生中継ですけど1時間番組だから凝縮してやれますし　いまは『ECW』の放送が終わったあと同会場で『SmackDown』の収録をやってるんですよ。『SmackDown』では、テープチェンジの時間や入場シーンが失敗したら撮り直しをやったり、比較的ノンビリしてますから

WWEは作家をディズニーから引っぱるとか言われてますが、そういう人はどうやって集めるんですか？

X　それはウェブですよ(サラリと)。WWEのオフィシャルとか、アメリカの求人サイトに普通に「脚本家募集!!」とか書いてありますよ

――そこまで、あけっぴろげに？

X　向こうではWWEって、プロレスというより、ドラマやバラエティに近い位置づけですから、脚本家もキャリアになるでしょうし。……ただ、相当に身を削る仕事だと思いますよ。あのビンスの直下で、毎日のようにブランドごとに首脳陣や作家、エージェントが集まって、ストーリーライン会議が開かれてるわけだし、

――確かに恐ろしいですね

X　ただ、WWEって日本人的な見方とアメリカ人的な見方って全然違いますから。向こうでは完全にバラエティ番組のノリでビールとピザを食べながら「バカやってるな～」って感覚で、肩の力が抜けてる。PPVも友だちでお金を出し合って、パーティみたいな感覚で観たり

――日本とは違いますねぇ。あとPPVの過去の結果なんかが比較されますけど、UFCの影響は？

X　WWEは、基本的にUFCは相手にしてないんですよ　これは強がりとかじゃなく、アメリカでは完全にジャンル違いですから

それこそUFCは肩の力を入れて観る感じですしね

X　UFCはMLBとかNBAとか寄りのスポーツって感じ。WWEはバラエティ寄りのエンターテインメントですから　ただ、その、月に1回ペースでやってるPPVも前みたいに各ブランドごとのビッグマッチじゃなく、07年から3ブランドが集結してやる感じになってます。

――それはどういった理由で？

X　ブランドごとの契約数の差が出たんでしょう。やっぱり3ブランド

はたして全部、観れんのか?

WWE、脅威の年間PPVスケジュール

月	大会	解説
4月	『バックラッシュ』	『レッスルマニア』後の1年間の新しい流れをスタートさせるPPV大会。第1回大会ではスティーブ・オースチンvs ザ・ロックのWWE王座戦も実現。
5月	『ジャッジメント・デイ』	00年より開催。タイトルはキリスト教における「審判の日」の意。08年にはHHHvsランディ・オートンのWWE王座線が金網マッチで展開された。
6月	『ワン・ナイト・スタンド』	05年の第1回は「ECW ワン・ナイト・スタンド」というECWの一夜復活大会として実施。第2回はECWvsWCWがテーマ。第3回から通常のPPVとして開催されている
6月	『ナイト・オブ・チャンピオンズ』	01年から「ヴェンジェンス」として開催されていたが、08年に「ナイト・オブ・チャンピオンズ」に改題。07年、08年と全試合タイトル戦というコンセプトで実施
7月	『グレート・アメリカンバッシュ』	85年、NWAの大会として開始された由緒ある大会。91年から00年までWCWが引き継ぐも団体の崩壊により、04年からWWEの主催イベントに
8月	『サマースラム』	由緒あるWWEの真夏の恒例ビッグイベントであり、4大PPV大会の一つ。初開催は、ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンにて。
9月	『アンフォーギヴェン』	98年から開催。タイトルは「許されざる者」の意。08年はジェリコ、バティスタ、ミステリオ、JBL、ケイン参加のスクランブル王座戦が実現。
10月	『ノー・マーシー』	01年より開催。秋の大一番「サバイバー・シリーズ」への序曲。08年は、クリス・ジェリコとショーン・マイケルズがラダーマッチで名勝負を展開している。
11月	『サバイバー・シリーズ』	WWEでは「レッスルマニア」に次ぐ歴史のある秋の定番ビッグイベント。4大PPV大会の一つ。団対対抗のイリミネーションマッチが恒例となっている。
12月	『サイバー・サンデー』	06年から開催されている新感覚の大会。ファン参加型のコンセプトで、試合形式や敗者への罰が3択のインターネットの投票で決定される
1月	『ロイヤル・ランブル』	WWEの4大PPV大会の一つ。目玉はレスラー30人が参加のバトルロイヤル(ロイヤルランブル戦)。優勝者は「レッスルマニア」のメイン出場権が与えられる。
2月	『ノー・ウェイ・アウト』	WWEの天王山「レッスルマニア」の直前イベントとして知られる。『レッスルマニア』の伏線的なカードが組まれることも多い。03年はザ・ロックvsハルク・ホーガンも実現
3月	『レッスル・マニア』	ご存知、WWEの年間最大の天王山イベントであり、プロレス大会としても世界最大規模。第1回大会でシンディ・ローパーや俳優のミスターT、最近も大富豪のドナルド・トランプ、プロボクサーのフロイド・メイウェザーを登場させるなど、世間を巻き込んだエンタメ路線を全開。PPV契約数も通常の3倍以上をマークする、破格のモンスターイベントだ。

レギュラー放送

放送局／USAネットワーク（月曜夜、生放送、2時間枠）
所属選手／クリス・ジェリコ（世界王者）、バティスタ、ジョン・シーナ、ショーン・マイケルズ、ランディ・オートン、レイ・ミステリオ、ケイン、JBLほか

★93年から、WWF（当時）の『Monday Night RAW』としてスタート。97年に『RAW IS WAR』、01年に『RAW』に変更。ストーリー展開が重視されるWWEの本道的番組であり、ビンス・マクマホンをはじめ、マクマホンファミリーの登場回数も多い。

放送局／マイネットワークTV（金曜夜、録画放送、2時間枠）
所属選手／HHH（WWE王者）、ジ・アンダーテイカー、エッジ、[illegible]、シェルトン・ベンジャミン、FUNAKIほか

★99年より放送開始。当初は『RAW』の補完的な内容だったが、02年からは崩壊したWCWとECWの買収と選手の急増の影響で、別ブランドとして独立する2ブランド制を確立。『RAW』に比べるとスピーディな中軽量級選手やコミカルなキャラも多い。

放送局／Sci-Fiチャンネル（火曜夜、生放送、1時間枠）
所属選手／マット・ハーディ（ECW王者）、マーク・ヘンリー、ブギーマン、チャボ・ゲレロ、ジョン・モリソン、トミー・ドリーマー、セオドア・ロング（GM）ほか

★ハードコア路線で人気を呼んだECWが崩壊し、WWEが権利を購入。05年『ECW ワン・ナイト・スタンド』という一夜復活のPPVが人気を博して、06年から定期放送。現在はスター不在の第3ブランドとして若手や中堅の再生工場的な役割も。

のおいしいところをオールスター的に見せたほうが確実に稼げますし。

――PPV収益が落ちてきてる部分の打開策はあるんですか?

X それこそWWE JAPANも設立されて、海外戦略に力を入れてますね。あと最近、子ども向けの雑誌を始めましたよ。『WWE KIDS』っていう原色を使ったデザインと、『ハワーパフガール』みたいにデフォルメされた選手のイラストで。

――ホントにいろいろ考えてますね。

X 『WWE KIDS』はウェブも始まっていて、「ブギーマンのみみず食いゲーム」みたいなものをアップしたり(笑)。そういうバイタリティや資金力は想像を絶しますね。

――ただ、そこまでテレビ主導でやっているのを聞くと、日本で上っ面だけWWEのマネをやってもしょうがない気がしますね。

X ウェブは興味がないと見ないけど、テレビはザッピングで引っかけられる。パソコンがなくてもテレビがない家はないですし、WWEはテレビに特化したうえで、あの路線を敷いてますから。

――日本は日本なりの道を模索していくしかなそうですね。今日はありがとうございました!

【08年10月30日 都内・某喫茶店で収録】

あめりかん・みすたーえっくす■小さな頃から、筋金入りの超アメプロマニアとして知られる。業界きってのWWE事情通であり、その情報収集能力と独自のネットワークで、さまざまなシーンの裏で暗躍するカミングアウト時代の申し子的存在。

絶滅か？ 復権か？

テレビ危機時代の新日本プロレス

武田有弘

（新日本プロレスライセンス事業部）

かつて金曜夜8時の放送枠で黄金時代を謳歌した新日本プロレスが、深夜枠に移行して14年以上が経過。すっかり様相を変えたテレビとプロレスの関係。その危機的な時代に、現在絶好調の新日本は何を思うのか？

聞き手／真下義之　写真提供／新日本プロレス

「視聴率のためになら何をやってもいいのか?」という葛藤はあります

——今回、「テレビ」がテーマなんですが、プロレスはテレビとの向き合いが難しい時代です。武田さんの実感としてはいかがですか?

武田　そりゃあ、厳しいですよ!

——たしかに時間帯が深夜だったり、30分枠も定番化してきてますし。

武田　たしか、『全日本プロレス中継』さんが先に30分枠になって、『ワールドプロレスリング』も追従したと思うんですけど（94年4月に深夜枠になって、04年4月に30分枠に移行）。

——いまの新日本プロレスにとってもテレビの存在は大きいですか?

武田　もちろん非常に大きいです。放映権もそうですけど、テレ朝のブロードバンド配信や、海外のテレビ局への番組販売だったり、そこは恵まれた環境ですから。

——10月の両国大会でも、テレ朝さんから、煽りVを作りたいという積極的なアプローチがあったとか。

武田　そういった現場との連携はできてますね。あと難しいことはトップ同士で話し合いをしてもらってお互いにメリットがあるかたちを作っていきたいですね。

——最近では、ノアさんが読売テレビの放送が打ち切られてしまって。

武田　ええ。読売テレビさんが番組を買わなくなった、ということなんでしょうけど厳しい時代ですね……。

——改変期には、よく「新日本も切られるのでは?」っていうウワサがありますけど。

武田　そういう話は聞いてないから、問題ないと思います。ただ、自戒も込めて言うと、この業界は「いいときに手を打たない」悪習慣がある。ウチもテレビがあるうちに次の一手を考えないと。

——90年代、ドームにお客が入っていた絶頂時は考えてませんでした?

武田　恥ずかしい話、ほとんど何も考えてなかったですね。こんな時代が来るとさえ思ってませんでした。

——武田さんは、その絶頂時に新日本に入社されたんですね。

武田　入社前から、イケイケの時期は続いてたと思うんですけど、最初に経験したのは10・9のUインターとの全面対決の東京ドーム大会（95年）で大入りになったときとか。一年かけて全国をドームツアーで回ったときも満杯で、G1クライマックスも常に最終日は即日完売。六本木のテレビ朝日の前にあった『闘魂SHOP』で1・4東京ドームの先行発売なんか、テレ朝の池のほうまでズラッと人が並んでたり……。いい時代でしたねぇ（しみじみと）。

たけだ・なりひろ■1971年11月13日、大分県出身。95年に新日本プロレスに入社。02年に武藤敬司らと新日本を退社。レッグロック立ち上げに携わったあと、06年4月より新日本プロレスに外部ブレーンとして復帰した。

——そのUインターとの対抗戦は視聴率的には?

武田　新人だったから視聴率まで気にしてませんでしたけど、特番はやってなかった覚えがありますね（大会から5日遅れ、深夜1時40分から1時間枠の録画中継、3回連続で放送。初回は3・9パーセント）。

——あの熱気を考えると、ゴールデンで放送していたら歴史が変わったかもしれないなって。

武田　そういうソフトを〝届ける努力〟がもっと必要だったかもしれないですね。あと、猪木さんの引退試合（98年）も「思ったより数字が獲れなかった」って記憶があります（大会から2日遅れ、19時から2時間枠の録画中継、10・2パーセント）。ただ、ゴールデンの生放送で流した橋本（真也）さんの即引退スペシャルは視聴率がよかったんですけど（視聴率は15・7パーセント）。

——伝説の『橋本真也34歳、小川直也に負けたら即引退!スペシャル』（00年）ですね。

武田　あれは、構成作家のおちまさとさんなんかも構成に入ってましたよね「負けたら即引退!」っていう衝撃のキャッチを使ったり。ちゃんと橋本さんに根回ししたかはわからないですけど……。

　あの番組が、橋本さんの運命を左右してしまった部分もありますし。

武田　テレビってそういう怖い部分があるし、「視聴率のためなら、何をやってもいいのか?」って葛藤はあります。関わるのも命懸けですね。

——ゴールデンでいうと、今年も『ハッスル』は大晦日に放送しそうです。

武田　うらやましい部分はありますけど、我々は1・4東京ドームがありますから、「年末に大きなイベントをやれ」って言われたらキツいですね。K-1さんも昔はワールドGPを12月の中旬にやってましたけど、いまは早めに設定してますし。

——そのK-1も最近、視聴率で苦戦してますね。

武田　数字だけ見ればそうかもしれないけど、テレビも全体的な視聴率が落ちてますし、K-1はゴールデンタイムで10年近くやってるじゃないですか。ゴールデンで10年なんて続くもんじゃないし、それでも大晦日に長時間の枠が用意されるのは凄い。

　そう考えると、曙vsサップのインパクトは大きかったなって。

　ただ、視聴率を優先させすぎると、振り回される部分もありますけど、テレビ局の要請ってありますか?

武田　あ、それは常にありますよ。1・4東京ドームもゴールデンやプライムタイムじゃなくても、現場レベルの「1時間とか90分とかワクを広げたいね」って話の中で、「テレビ的に引きのあるものはあります?」って話は出るじゃないですか。でもプロレスって誰かを引っぱって急造的に試合をやらせるのは難しい。

——いまは、観る側も高いものを要求しますから。

武田　それに東京ドームを目指して、一年間積み重ねた流れを無視して、飛び道具的な人をパッと呼んでカードを組んでも、お客さんも選手も引いちゃうでしょうし。谷川さんみたいに、大きな目的のために強い気持ちで切り捨てる部分もないとダメなんでしょうけど、我々は土台を組み直してる段階。おもいきったことは状況が許せば考えますけど。

1・4にキンボ・スライスの参戦? それはありえない話ですよ

——一部ネット上では、「新日本がキンボ・スライスを上げるんじゃないか?」なんて話もありますけど……。

武田　ええっ!　それは、ありえないですよ。そんなウワサが流れてるんですか?

　根も葉もないウワサでしたか（笑）。

武田　それにあの人、プロレスできないでしょう。そんなに簡単なもんじゃないですよ。甘っちょろい考えかもしれないけど、プロレスラーをベースにしてドームを埋めるのが第一前提。その先に視聴率って感じで。

2000年4月7日、テレビ朝日で生中継された「橋本真也34歳、小川直也に負けたら即引退!スペシャル」は、衝撃のタイトルが話題となり平均視聴率は15.7パーセント、最高視聴率は24パーセントという、プロレスのワクを越える反響を生んだ。

　ただ、新日本は最近、全スタッフが燃えるきっかけがあったとか。

武田　ええ。僕なんか燃えすぎて、逆にカゼひいちゃいましたけど（笑）。

——ダハハハ!　K-1の某代表の方の言葉にカチンときたみたいで。

武田　谷川（貞治FEG代表）さんが某雑誌で言った「いまはないですけど、昔プロレスっていうのがあったんですが……」って発言ね。会議の席で話題が出たんですけど、その席にいた人が「俺も読んだ!」「俺もそう思ってました!」みたいに、次々と炎上して。

——サダハルンバの失言で一気に士気が高まった、と（笑）。

武田　かつて新日本の全日本へのみたいな対抗意識というか。同日興行の『戦極』さんにしろ、「1・4にプロレスがあるのは知りませんでした」って発言もありましたし……。

——以前、阿部（タケシ、新日本プロレスライセンス事業部）さんにうかがったときは、「お互い頑張りましょう」とエールを送られてたのに。

武田　さすがにホントに知らなかったとは思いませんけど（笑）。だからウチとしては、『Dynamite!!』にせよ、ニューイヤーイベントでは内容、集客では負けられないですよ。ホントは同じ土俵で視聴率でも勝負したいですけどね。

——その1・4東京ドームは、チケットの売り上げが絶好調だとか?

武田　これはね。ハッキリ言って、かなり売れてます!（キッパリ）。

——すでに、「両国が埋まるくらい売れている」っていう話も聞いてます。

武田　そのぶんプレッシャーもハンパないですけどね。カード発表しないともう一段階伸びないのはわかってるので、その数字次第でここ数年閉鎖してたジャンボスタンドの開放も検討していきたいです。

——さらに、来年には新たに『レッスルマニア』級のイベントのウワサもありますけど……。

武田　ええ。1・4東京ドーム、G1クライマックスに続く新しいブランドという位置づけで。これは早くて来年、遅くても再来年くらいにはスタートしたい。具体的にはまだ言えませんけど……、じつはユークスの谷口（行規）社長の意向でもあるんです。

——谷口さんの肝入りですか。最後に、1・4東京ドームの特番の可能性は?

武田　拡大枠か、当日の夜放送かはわからないですがテレ朝さんと進めてる最中です。その前にPPV放送も決まりましたし、社内のムードはいいですよ。山本小鉄さんも会社に来て激を飛ばしてもらってますし。

——小鉄さんが社員に気合いを!?

武田　会社に週に何回も来て声をかけたり、社員を集めて話をしたり。ムードメイカーになってくれてます。

——鬼軍曹にケツを叩かれたらやるしかないですね（笑）。武田さんもカゼを治して、頑張ってください!

【08年11月11日／電話にて収録】

テレビ以上に活字メディアも危ない!?

決して放送&報道できない

封印作品とは何か?

封印ルポライター

安藤健二

テレビよりも活字メディアが[illegible]『ウルトラセブン』から『キャンディ・キャンディ』まで、なんらかの理由で現在は"封印"されてしまった作品の謎を追うルポライター、安藤健二氏。その取材の中で発生した業界のタブーや軋轢を直撃!!

聞き手/ジャン斉藤

—今月は『封印作品の謎』(太田出版)という著書をはじめ、テレビや本のタブーについてお詳しいルポライターの安藤さんにお話をうかがいたいと思います。

安藤 いや〜、僕は格闘技の世界にはうといんですけど、大丈夫ですか?

—問題ありません。その『封印作品の謎』を読むと、関係者への聞き込みや取材力がホントに徹底してますよね。相当に時間がかかってるんじゃないですか?

安藤 ええ。だいたい一冊で一年くらいはかかってます。ただ、この本を出すために勤めていた新聞社も辞めて、これ一本でやってますから、時間はかけられるんですけど。

—そもそも安藤さんのこういった活動は、神戸連続児童殺傷事件(1997年)の犯人の少年(酒鬼薔薇聖斗)の写真と実名が写真週刊誌『FOCUS』(新潮社)に出た際の回収騒動への違和感が出発点だとか。

安藤 あ〜、そこまでさかのぼりますか(笑)。あの酒鬼薔薇聖斗の写真が掲載された『FOCUS』の発売日のことはよく覚えてるんですよ。僕が買いに行ったらキオスクもコンビニにもどこにも置いてなくて、当時通っていた大学の近所の本屋にもなかったから、本屋の店長さんに「『FOCUS』ないですか?」って聞いたら、「奥にあるからちょっと待ってて」ってコッソリ出してもらって(笑)。裏で流出してるのを買ってる感覚でしたね。

—その状況ってどう思われましたか?

安藤 やっぱり「へんだなぁ」って。自分の活動の原点はそこですよね。もちろん少年法は知ってましたけど、あの事件で被害者の写真はバンバン出てるのに、加害者のほうは名前も顔も完全に隠蔽された状況でしたから。犯人の捜査段階で中年男という説もあったのに、少年犯罪だとわかった時点で手のひら返しで一斉に保護するのには凄く違和感があった。唯一公開したマスコミを発禁状態にするのも気味が悪かった。そういう流れに反対するサイトをやったのが始まりです。

—そういったタブーや、封印の度合いってメディアによって違いますか?

安藤 いや、違いはとくにないですね。それにただ規制って、誰かがホントに禁止してることはないんですよ。

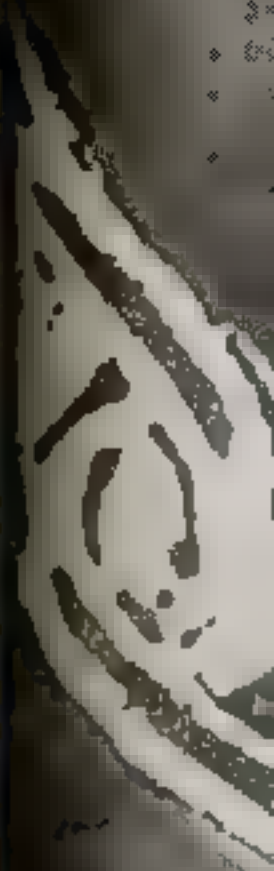
—むしろ自主規制が多いというか。

安藤 森達也さんの『放送禁止歌』(知恵の森文庫)にも書いてありましたけど、放送禁止の歌も放送禁止を強要する主体は存在しなくて、放送局に自主規制の雰囲気が広がっていただけだった。僕が追いかけてた封印番組も、基本的には自主規制ですし、構造は同じですね。だから、放送や公開する側の意志の持ち方って、放送を強行して抗議がきても「意義があるからやったんだ」と言いきればいいわけですから。

—腹を据えてやる人がいるのか、いないのかということですね。

安藤 テレビや書籍であっても、法律で禁止されているものは別だけど、それ以外は表現の自由が認められてるから、ホントは何をやってもいいはずなんです。『FOCUS』みたいな言論統制は、かなり特殊例というか。まあ、新潮社は本を売るつもりだったらしいんですけど、流通のほうが自主規制しちゃった。

—いままでで一番不可解だったタブーってなんですか?

安藤 これは凄く基本的な話ですけど、そもそも「タブー」について書くこと自体

タブー」だったんです（笑）。

――「タブーがある」ことを公表すること自体、タブーでしたか。

安藤　とくに『封印作品の謎』で取り上げている『ウルトラセブン』（第12話「遊星より愛をこめて」）の話は、特撮業界やオフィシャル的には完全に触れてはいけないことになっていて。

――その回のスペル星人という怪獣の姿や、スペル星人の怪獣カードに書かれていた「ひばくせいじん」という説明に、原爆被害者団体の方が抗議をしたあと、封印されてしまった幻の作品ですね。

安藤　ファンのあいだでは、その回の存在は、都市伝説みたいになってたけど、書籍というかたちでは一切表に出ていなかった。だから、これを書けば広く読まれるし、ぶっちゃけ本が売れるんじゃないかなって（笑）。タブーだからやった部分は大きかったですね。

――取材過程で、「そんなこと書くな」って反応もあったようですけど、安藤さんは特撮業界じゃないから、「何を[illegible]るんだ」って思われませんでした？

安藤　実際、「ライター仕事、なくなりますよ」って脅されたりもしました。ただ、そのときは「封印もの」に特化しようと腹を括っていたから、何を言われても怖くなかった。でも、特撮は縛りがキツかったですね。とくに円谷プロダクションの『怪奇大作戦』（第24話「狂鬼人間」）のときは。

――作品中に出てきた精神異常者の描写などに問題がある、という説が有力なお蔵入り作品ですね。

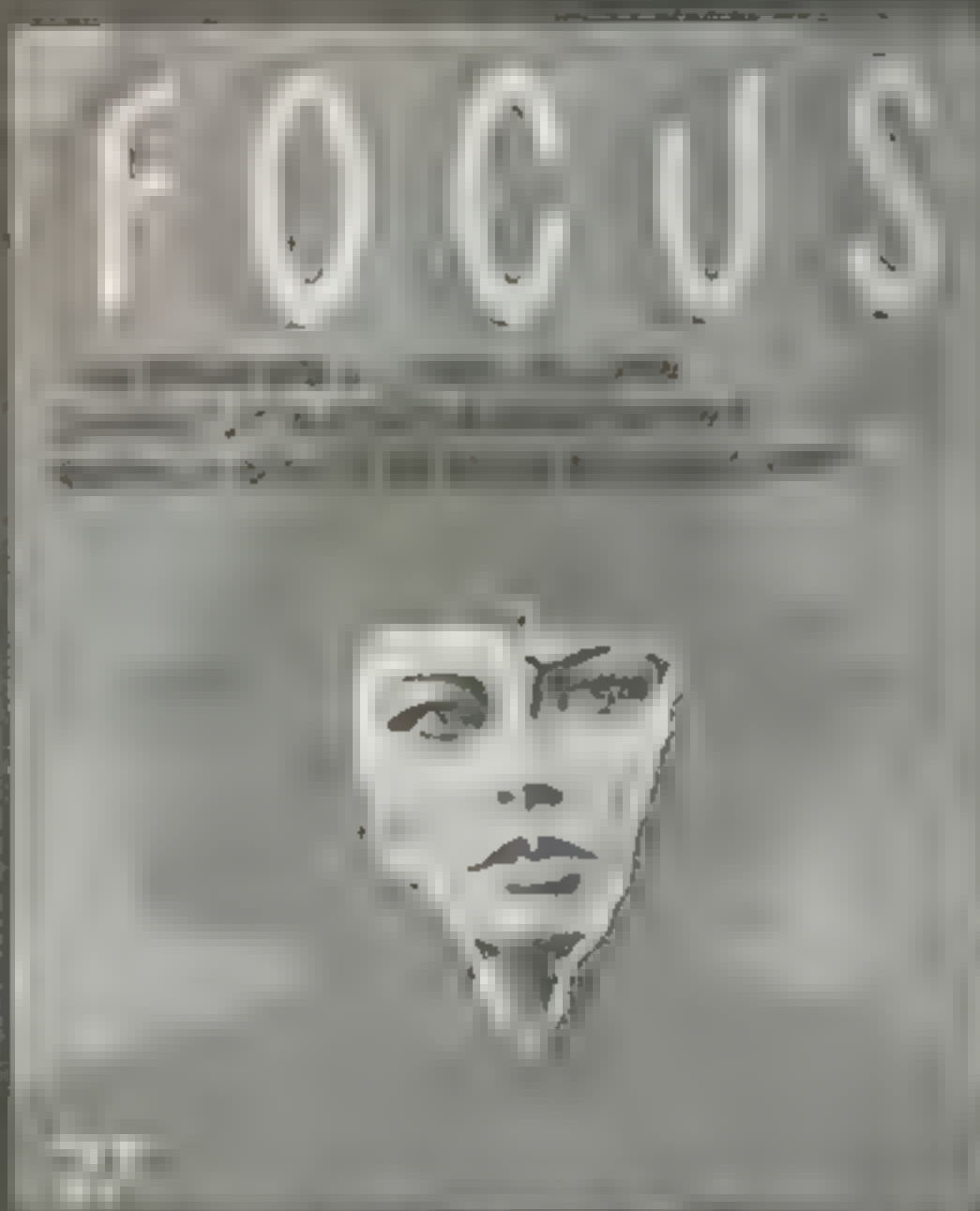
安藤　これは取材途中で、円谷プロから電話がかかってきたんです。取材時に、取材対象者に企画書を渡してたんですが、「ほかの人には見せないでください」と牽制したのがよくなかったみたいで。円谷から仕事をもらっているライターや関係者にすると、ヘタに情報を漏らしたら、業界から干される心配があったようで。「匿名で正体がわからないようにするなら」と取材に応じた人たちが、あとで円谷側に報告したり。

――へえ～。自分は特撮に詳しくないから、そういう話を聞くと「何をやってるんだ」って気持ちになりますけど。ほかのジャンルから見たら、「プロレスや格闘技界も同じなんだろうな」って。ただ、プロレスのタブーなんかは一般世間の人も知[illegible]んですけど。

安藤　あ、そうですか。[illegible]

――そのへんは基本的にタブーなんです。[illegible]に出してますけど。

安藤　でも一度出てるんなら、タブーじゃないんじゃないですか。それともほかの媒体ではタブー扱いだったり？

――そのへんの境界が曖昧なんですね。

安藤氏が「封印」を意識したのか、1997年の神戸連続児童殺傷事件。酒鬼薔薇聖斗を名乗った犯人が逮捕時14歳だったことで、メディアの報道規制が広がる中、写真週刊誌『FOCUS』（新潮社、1997年7月9日号）が少年の実名と写真を掲載。流通が販売を見合わせる中、一部書店では販売。社会的な問題となった。

そもそもタブーについて書くこと自体、タブーだったんです

安藤　出せないことはないけど、「やっちゃいけない」感が漂ってたり？

――出すときはこちら側も細心の注意を払ってやるんですけど、細心の注意を払わなくても、誰も文句は言ってこない。そういった微妙な空気がありますね。そのタブーも触り方の方法論が問われますし。ウチもおもしろおかしく触っているわけではなくて、やるなら業界に意味のあるものにしなくちゃいけないって意識はありますけど。

安藤　皆さんの業界も一筋縄ではいかなそうですね（笑）。

――ええ。話を戻すと、自分がおもしろく読んだのが、『封印作品の謎2』の中の藤子不二雄さんの『オバケのQ太郎』の章なんです。二人で合作していた藤子不二雄時代の作品で、いまは著作権絡みの問題で絶版になっている謎に迫られてますけど、最後に安藤さんが、藤子Ⓐさんのサイン会に突撃するくだりとかはとくにスリリングでした。ウチの業界でいう「いいプロレスだなぁ」って（笑）。

安藤　あのあとに出た文庫版のほうだと、もうちょっと『オバケのQ太郎』の権利問題の真相に突っ込んでるんです。藤子・F・不二雄さんの遺族の話とか内情を書いたんですが、読者からは「前のバージョンのほうが謎に終わってよかった」とか「そこまで知りたいわけじゃない」みたいな意見もいただきましたね。

――やっぱりそういったファンタジーがあったほうがいいんですかね。あれを読むと、自分は「封印された理由」が知りたいわけじゃなく、過程や周辺の感情が浮き彫りになれば、謎がわからなくてもいいな」って。

安藤　書いているほうにとっては微妙なんですけど（笑）。ただ、このシリーズの前提って、「タブーを描くこと」が目的であって、できればタブーの謎も解く、と。謎を解けないものに関しては「タブーになってる現状を描く」ものにしようと思ってるんです。

――モヤモヤした状況そのものを伝えられていくというか。

安藤　単純に「真相は○○だった」と一行で終わるけど、真相を知っている人でさえ口を閉ざして、知らぬ存ぜぬで通すとか、一方的に取材拒否されたり、作品を取り巻く異様な状況を描きたいなって。「この話は書かないで」と釘を刺されたりすることもあるけど、「書くな」って言われたことを書くぶんにはかまわないだろうな、と。

――ダハハハハ！　確かにそうですね。

安藤　「書かれると困る」と言われたことこそが重要で、それがタブーの本質なわけですから。

――いままで一番、苦労された作品は？

安藤　やっぱり、少女マンガの『キャンディ・キャンディ』（原画／いがらしゆみこ、原作／水木杏子）ですかね。

マンガもテレビアニメも封印されている『キャンディ・キャンディ』。マンガの作画を担当した、いがらしゆみこさん

と原作の水木杏子さんの著作権に関する裁判や騒動を追った章ですね。

安藤　あれは原作者の名木田恵子（水木杏子）さんも取材して、かなりしゃべってもらったんだけど、インタビュー部分のゲラを見せたら、「一方的な内容ではないか」と誤解されて、非常に態度を硬化してしまったんです。そういうつもりはなかったんですけど。しかも文章に誤植があって、金銭がらみで封印されてるようにも取れる表現があったので、そのことは平謝りして、なんとか公式コメントだけは掲載できたんです。最後は「公平に書いてる」ことを認めてくださいましたけど。

——あれは、封印作品の中でも特殊ですよね。ほかの封印作品とくらべると、両者の感情しか見えなくて、完全にお金では解決できない領域というか。

安藤　いや、じつは作品が封印される理由って「お金で解決できない」ものばかりなんです。お金で解決できるものは、ぶっちゃけお金で解決されてるんですよ（笑）。『ウルトラセブン』なら、被爆者団体の抗議で謝罪文を書いたけど、いまだ感情のしこりが残ってるから解禁できないとか。「この話をすると、周囲から白い目で見られる」とか「業界から干されるかもしれない」とか、ほとんど感情の問題で。お金の問題なら、DVDでも本でも和解して出せばいいわけですから。

——そういう感情の波に飛び込んで取材するのって、ホント大変そうですね。

安藤　『キャンディ・キャンディ』にしても、バランスが異常に難しくて。封印の経緯をず〜っと追ってくと確かに、いがらしさんの言い分に無理があるのもわかるけど、作品が観られないのはファンにとって悲しい事態ですし。「どっちもどっちだな」という部分はありましたね。しかも、『キャンディ』問題はすでに何度も裁判になってますから。本にヘタなこと書いたら、どっちから訴えられてもおかしくない。何千万って賠償金を払うことになるかもしれないから、怖かったですね。

封印される理由は、ほとんどが感情の問題、「お金で解決できない」ものばかりです

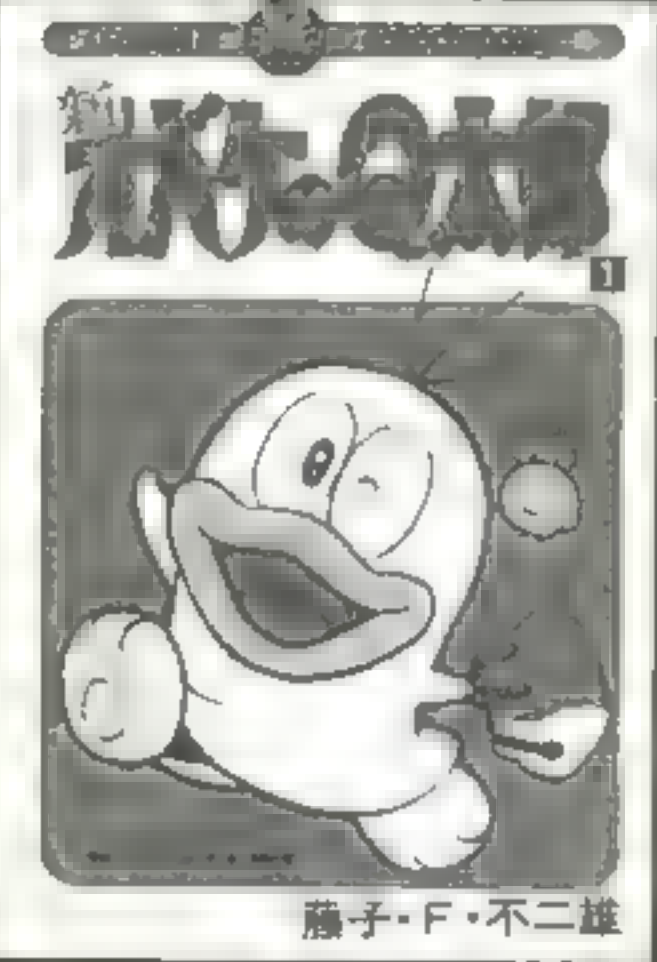
——封印といえば、圧力団体の抗議で封印されることも多いんですが、そのへんで憤りを感じられたことは？

『ウルトラセブン』の欠番作品が、第12話「遊星より愛をこめて」。作品に登場するスペル星人が『小学二年生』（小学館）付録の怪獣カードに「ひばく星人」と記述されていたことに被爆者団体が抗議。円谷プロが第12話を封印した

安藤　いや、とくにないですね。けっこう抗議してくる言い分もわかるんですよ。作品のファン寄りに書くなら、「抗議団体がおかしい！　表現の自由を守れ」と書いたほうがいいんだろうけど、必ずしもそうとは言えない。ただ、「黒人差別をなくす会」とかがやってることは若干「やりすぎじゃないかな」と思いますけど……。

——日本における黒人差別の撤廃を目的とした活動をしてる団体ですね。絵本の『ちびくろサンボ』（作／ヘレン・バンナーマン、絵／フランク・ドビアス）が一時絶版になったり、手塚治虫さんの作品の黒人の表現に抗議したり。

安藤　でも、当事者が作品に抗議するのは納得いくんだけど、善意の第三者が言ってくるのはどうなのかなって。当事者が「差別された」とか「そう扱われると困る」と抗議する権利はもちろんあると思いますけど、第三者が勝手に「失礼だ！」と言うのはね。

——「黒人差別をなくす会」も、黒人じゃない人が代理で文句を言ってるワケですし。

あの『オバケのQ太郎』も封印作品の一つ。コンビを解消した藤子不二雄Ⓐ、藤子・F・不二雄の周囲の権利関係問題が有力とされる。07年『熱血!!コロコロ伝説』（小学館）の付録でFが一人で描いた『新オバケのQ太郎』（上）は復刻された

安藤　その構造自体がおかしいし、それに日本の反差別団体の多くは、左翼運動の流れで安保闘争が冷え込んだあと、反差別団体に雪崩れ込んでいった市民運動系の人がけっこういるんです。『ウルトラセブン』のときも、そういう人たちが絡んできましたし。

——ただ、安藤さんはそういった作品群のマニアだったり、好きだったりするわけではないんですよね？

安藤　全然、違いますね（アッサリ）。もともとタブーありきでやってましたし、特撮ものはその傾向が強かったから扱えただけですよ。た[illegible]と好きなし、ゲームも昔はや[illegible]「ウルトラマン」も好きなものの[illegible]ある程度のカンはつかめてる[illegible]

——[illegible]じゃないから[illegible]ゲームとかも踏み込めたのか[illegible]

安藤　取材をしてると、「君がよけいなことをしなければ、まだ世の中に出るチャンスがある。真相を究明したらホントに発禁になるじゃないか！」とか言われるんです。「よけいなことを書くな、来年発売予定のDVDが出なくなる！」とか。まぁ、そんな予定はなかったんですけど（笑）。

——うわ〜。凄いですねぇ。

安藤　少し気はとがめましたけど、そんなことを気にしてたら、ホントに何も書けなくなっちゃいますから。

——あと、こういう内容って、紙媒体だからこそできた感触はありました？

安藤　テレビでもやろうと思えばできたんじゃないですか？　僕も「NHKのBSあたりで流れてもおかしくないな」って思いましたけど。話はこなかったですね。

——ただ、円谷プロ系の封印話にしても、どのテレビ局でも円谷プロと取り引きがあるハズですから、そういう理由で取り上げるのをイヤがったんじゃないんですか。じつは基本的にこのシリーズ

『キャンディ・キャンディ』もマンガ、アニメが封印。作品の著作権をめぐり原作者の水木杏子（名木田恵子）と、作画のいがらしゆみこが対立。裁判で何度も争われ、両者の関係は修復不可能。復刻の可能性はきわめて低い

新聞は意外とタブー感は薄い。むしろ、サブカル業界のほうが

安藤　いや、ないですね。僕がやってるジャンルは、命の危険までは感じないで

安藤健二の

新聞は意外とタブー感は薄い。むしろ、サブカル業界のほうが言論の自由がない

ラジオ、テレビに限らず、ほかの媒体も思ったより取り上げてくれなかったんですよ。むしろ、サブカルチャー系の雑誌や出版社は、ほとんど無視されましたから。

――えぇっ、サブカル系は逆に無視なんですか！

安藤 そもそもサブカル系のタブーを取り扱ってるわけだから。たとえば『宇宙船』（朝日ソノラマ版は休刊。ホビージャパンから復刊予定）っていう特撮系の雑誌も一切扱ってないですし。

――ちょっと意外な話ですね。

安藤 だから孤独な闘いというか。やってもやっても広がらないというか。こうやって取材がくるのも珍しいですから（笑）。意外かもしれないけど、僕が最初にいた新聞ってメディアは意外とタブー感は薄いんですよ。もちろん自社や系列会社の悪口は書けないし、ある程度の暗黙の了解はあるけど、基本的に「業界のタブーを書いちゃいけない」とかはない。それに比べると、サブカル系の業界やマスコミのほうが全然、言論の自由がない（キッパリ）。サブカルって自由に見えてるんですけど、[illegible]しがらみを大事にし[illegible]。

安藤 実話誌なんかは、まだ規制はユルいんですけど、この前、○○○○○○○○の作っているアニメに関する批評を書いたんですけど、それは○○○○○○系の[illegible]を掲載拒否されて。要するに「○○○○の広告が来なくなるかもしれないから」っていう理由みたいです。

――はぁ～……そうなんですか。

安藤 昔はそうでもなかったみたいですけど、ここ10年ぐらいでサブカル系のメディアって言論統制が厳しくなったんです。作品の著作権を持っている出版社やアニメ会社とか、ライセンサーの権利が強くなって編集側の権限が凄く弱くなった。[illegible]アニメ会社のゲラチェックや検閲はあたりまえだし、特撮ものの雑誌も円谷や東映について書いたら、全部内容を見せなきゃいけない。で、原稿が赤だらけになって返ってくるとか。

――まさにとんでもない状態じゃないですか。

安藤 なんで原稿を見せるかっていうと、「素材写真が貸してもらえなくなる」という理由みたいで。[illegible]「大人な社会」になっちゃってるんですよ。

――ウチも含めて、最近はどの業界も一般層よりマニア層にいかに[illegible]るかに目が行ってるんですよね。

安藤 サブカルでもいろいろありますけど、いわゆるエンターテインメント系のメディアには、ジャーナリズムや評論は存在しないな、って。だからこそ、僕は新聞社で培った役所の問題とか、政治的な裏のやりとりをルポするのと同じ手法で、作品のタブーについて描けるんじゃないか、と。

――そこで身の危険を感じたりは？

封印作品とは何か？

安藤 いや、ないですね。僕がやっているジャンルは、命の危険までは感じないですから（笑）。それを感じたら、ここまで突っ込んで書けなかったかもしれない。

――ただ、いまって隠されたものを見たいって気運が高まってますよね。だからこそ安藤さんもお仕事があるわけで……。

安藤 （さえぎって）いや、どんどん媒体はなくなってきてます。「これを売ると[illegible]がうるさい」とか、原稿を乗っける媒体はかなり狭まってきてますから。

――お話をうかがうまでは、テレビはタブーが多いけど、紙媒体は自由なイメージがあるから、安藤さんはそういうオファーがたくさんあるんじゃないかなって想像してたんですけど。

安藤 いままで封印作品に関する連載の依頼もなかったし、自分の連載ではほとんど持ち込みですから。さっきもお話したアニメの「○○○○○○○」のネタも、[illegible]出版社の「○○○」という雑誌に掲載されているんですが、もとは依頼がきて原稿を書いたあとに急にボツになったんです。「それはないだろう」と思ったから、猛抗議して、最終的に載せてもらったんだけど、編集部内の意思統一ができてなかったという理由らしいですけど……。

――さっきの広告みたいな部分が絡んでいるかもしれないと。そういう意味で、いまは活字よりテレビのほうが影響力ありますけど、いま紙媒体でやられることにはどう思われます？

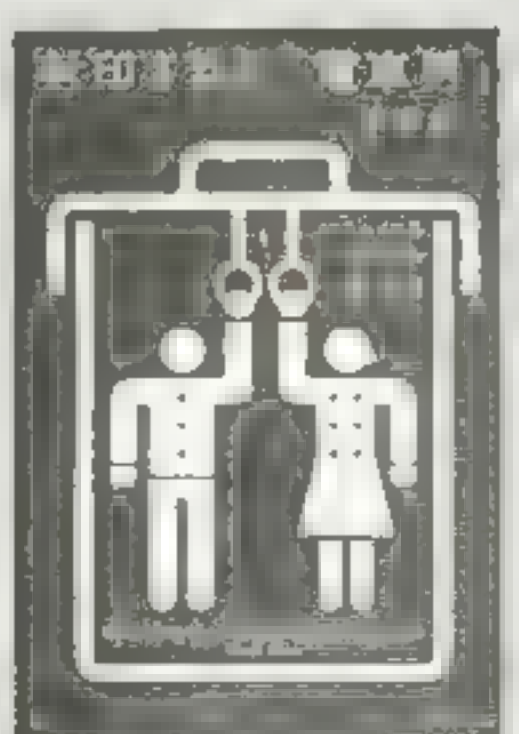
安藤 いや、僕はテレビはそれほど影響があると思わないし、活字はまだまだ強いと思います。活字はネットでいくらでも見られますけど、印刷物は記録として残るし、責任の所在もハッキリする。出版社も

安藤健二の〝封印〟シリーズガイド

『封印作品の謎』（大和書房）

安藤氏のデビュー作。知る人ぞ知る存在だった『ウルトラセブン』12話や『怪奇大作戦』24話などの特撮のタブー作品、手塚治虫『ブラック・ジャック』のお蔵入り作の真相を追求した意欲作

『封印作品の謎2』（大和書房）

第2作は、より間口の広い有名作の封印に迫る。『忍者武芸帳 影丸伝』の『キャンディ・キャンディ』、コンビ解消後の藤子不二雄の著作権問題に迫る『オバケのQ太郎』が読み応え充分

『封印された「電車男」』（太田出版）

大ベストセラー『電車男』の書籍は、元スレッド全体の93パーセントしか収録されてなかった。削られた膨大なエピソードを安藤氏が徹底検証。『電車男』という物語の真実が露呈

『封印されたミッキーマウス』（洋泉社）

"封印"の概念をさらに広げた一作。1987年にディズニーが小学校のプールに描かれた絵を消させた事件の真相や、あのタイタニックの日本人生存者に関する渾身のルポなどを収録。

ネットやテレビのように匿名性ではないからこそ、活字のほうが力があると思う

通すから（ベタなことは書けないし、ネットやテレビみたいに匿名性じゃないからこそ、活字のほうが力があるのかなって。

――そういう意味で、我々にはかつて活字プロレスという文化がありまして。ネット以前、現場で試合を観なくても活字でプロレスを読むという手法が業界の伝統としてあったんですけど。

安藤 ああ、だから「紙のプロレス」なのか（笑）。

――ただ、いまは映像のほうが言及力もあるし、誰でも発言できる時代だから、記者より素人のブログのほうが速かったりする。活字プロレスの有効性がどんどん薄れてきてるんです。記者だからこそできる取材もあるんですけど。

安藤 なるほど。でも、僕もドンドン幅が狭まっているといっても、よくよく考えてみたらタブーを扱ってるわけだから、それはね……。

――タハハハ……確かに、爆発的に広がるようなものではないですよね。

安藤 ちょっと甘い考え方だったのかもしれない。でもまだ媒体は無数にあるわけだからチャレンジはしていきますし、タブーである以上、そういう扱いも覚悟しなきゃいけない。少なくともこの本が出た以上、まだ希望はあるんじゃないかなって。ネットでここまでやる人もいないでしょうから。

――そこまでガッツのある人はいないでしょうね。ウチの業界も安藤さんと近いことをやってる人はいるんですけど、一方法論が左翼的だったり、やり方がきれいじゃなくて、暴露にも一流から三流まであるというか。それにウチの業界の暴露って、自分の主義主張が絡んでるから、都合が透けて見えちゃうんです。

安藤 ああ、僕はもともと門外漢だから、その辺は客観的に冷たく書きますよ。でも心理的にはツライです。ホントはあまり興味のないものを延々とやっているわけだから（笑）。

あんどう・けんじ■1976年、埼玉県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、産経新聞社に入社。2004年に退社し、『封印作品の謎』（太田出版、文庫本は大和書房より）でデビュー。さまざまな業界のタブーに新聞記者上がりの徹底した取材力で迫る"封印"ルポライターとして活躍。最新刊は『封印作品の憂鬱』（洋泉社）。

――対象を好きにはならないですか。

安藤 いや〜、毎日「ドラえもん」や「ウルトラマン」ばかり観たり、関係者に取材を断られたりとやってれば、心理的には追い詰められてきますよ。興味があればそういうバイアスがかかってもいいけど、あまり興味がないのに、取材で迷惑がられたらツライです。もちろん興味がないからこそ、中立になれるって気持ちはありますけど。

――ちなみに安藤さんはタブーがない世界でどう思いますか？

安藤 いや、タブーがあるからこそ世の中が回っている部分もあるし、「すべてのタブーをなくせ」と思っているわけではないですよ。ただ、「それについて書くことは意義があるんじゃないか」って。タブーを破って「一石を投じる」のは、ある種エンターテインメントだと思うし。僕自身、そういうものが読みたいと思ってますから。

――以前は、「鬼畜裁判」のときも、タブーだからやった部分はあったし、「根拠のないタブーだ」と思ったからやったんです。

――そこに何の価値を見いだされているというか。

安藤 僕が取り上げてるのは、根拠があるようなないような……ってところのあるものが多いですから。

――あと自分は最近、クオリティが高くても、なかなか売り上げに跳ね返らないってことを考えてるんですけど……。

安藤 それはありますよね。でも、本音を言えば、たとえ読者が少なくてもクオリティーが高かったり、一石を投じるものはやらなくちゃいけないって思ってます。僕の本のあとに天野ミチヒロさんという方の「放送禁止映像大全」（三才ブックス）っていう本が出て、もしかしたら僕以上に売れてると思うんですけど（笑）。こちらが歩き回って記事にするのと違って、あちらは一般向けの解説書という感じで。

――作品紹介が中心のあるあるネタが多いというか。

安藤 ただ、「放送禁止映像大全」のほうは、「これは放送禁止に違いない」って言い方が凄く多いんです。実際、自分で見[illegible]なんだから、やってみるまでわからないのに、そうやってドンドンレッテルを貼ってしまっている状況には疑問もありますね。

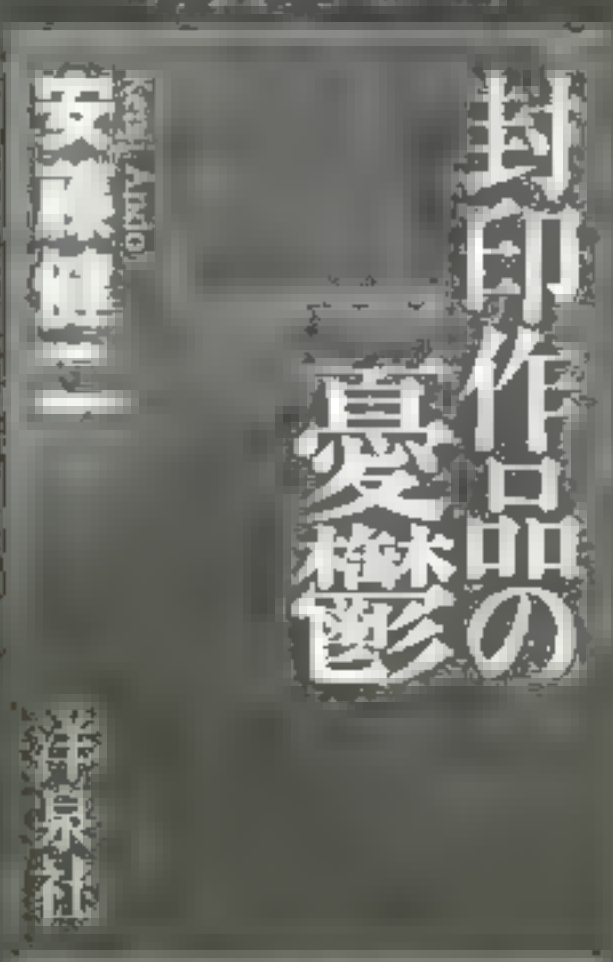
――安藤さんはレッテルを貼る作業というより、「なんでレッテルが貼られているんだろう？」って考える感じで。

安藤 それは、僕は最初から解禁が絶望的なものしかやってませんし（笑）。解禁されたら意味がないし、そういった気配があるものはあえて避けてますね。そこで「発売できないに違いない」とレッテルを貼ってしまうことで、マッチポンプ的になったらいけないと思うし。タブーを追って、新しいタブーを作ってしまう可能性もありますから。

――封印や放送禁止の価値がドンドン揺らいじゃいますよね。

安藤 だから、自戒も含めてですけど、「タブーってことをあまり安易に扱ってはいけないな」とは思いますね。瞬間的には効果があるかもしれないけど、だんだん麻痺していきますから。

――タブーも使いよう、という感じで。本日はありがとうございました。

【08年10月11日、都内・幡ヶ谷の喫茶店にて収録】

【kamipro特選劇場】

世界最高峰の舞台、消滅から一年 128号はあの"PRIDE特集"だ!!

No.128 桜庭×青木対談

特集主義第3弾では、07年10月に消滅したPRIDEを総力を挙げて大特集! その誌面の巻頭を飾るのは"IQレスラー"桜庭和志×"バカサバイバー"青木真也の夢の対談。背を向けてPRIDEを背負った桜庭が、DREAMの大黒柱を目指す青木真也に、その心構えをズバリ伝授!

"Show"大谷泰顕インタビュー

さらに、この特集号では「PRIDEは何を変えたのか?」をテーマにPRIDEを陰日向で支えた多数のキーマンに徹底取材。中期PRIDEの隆盛を支えた、故百瀬博教氏とアントニオ猪木の親交を間近で目撃し続けた"Show"大谷泰顕氏にPRIDEの内側をたっぷり語ってもらった

PRIDEにとっての アントニオ猪木と百瀬博教

リニューアル第3弾は消滅から一年"PRIDE"特集!!

No.92 以降の「Kamipro」は
http://www.enterbrain.co.jp
でお買い求めください。

語ろう! PRIDE!!

♪ダン、ダン♪ダダン!!

元祖! 紙のプロレス

No.14 780yen→390yen
特集 神秘とは何か?
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を語らます!/遠藤幸吉インタビュー

No.15 780yen→390yen
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サタハルンバ

No.17 780yen→390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 1260yen→630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレスRADICAL Back Number No.16→No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 [販売元]㈱ダブルクロス(平日13:00~19:00)

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙 前田日明]前田道場新エース・金原弘光 怪物か!? それとも……藤田和之座談会 壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
"新"プロレスとは何か?
[表紙 小川直也]田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
「猪木祭り」いよいよ開幕ーッ!
[表紙 小川直也]田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー ドラゴンの大爆笑10 藤波語録 ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙 サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙 橋本真也(イラスト)]ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!! ヴォルク・ハン ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙 髙田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は、髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙 前田日明]前田道場新エース・金原弘光 怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙 アントニオ猪木]蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
"最後の黒船"WWF来襲!!
[表紙 ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る 真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙 アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談 "ヒャッホーの真実"辻よしなり 高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙 桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙 桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙 アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る。ミスター高橋 ノェラルト・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙 ビンス・マクマホン・ジュニア]"天才"武藤敬司が、紙プロ 驚愕の初登場 噂の馳浩がミスター高橋本を語る

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙 桜庭和志]奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説か遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙 ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙 桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙 橋本真也]両国国技館たよ、全員集合! 橋本真也/「PRIDE」の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙 橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣 USAの虚世人ドン・フライ ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙 桜庭和志]ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪育久/独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙 髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が「PRIDE」参戦 メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙 高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣 新たなる"U"が始動! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙 武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪 宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙 エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙 橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝 ヒョードルか藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙 橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦 「PRIDE REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙 桜庭和志]"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/「PRIDEミドル級GP」出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙 ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ 闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙 ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー マッハを破った男、長南亮登場!/「東スポとは何か?

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙 ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/「PRIDEミドル級GP決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙 髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦 曙とは何者か!?/桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙 橋本&小川]出てこい!! 泣き虫! 橋本&小川 「泣き虫、若者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙 ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告! 健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]「PRIDE GP」優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場 猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙 ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル 山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙 小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙 小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙 小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙 桜庭和志]小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙 小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする」小川直也 狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙 小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙 髙田総統]キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦「曙は是か否か?

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙 ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙 桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙 ミルコ・クロコップ]04年「PRIDE男祭り」を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙 セルゲイ・ハリトーノフ]"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ 田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙 前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田/パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙 ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!

No.87 2005.05 880yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙 吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり!! 吉田秀彦 船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶「kamipro Hand」で注文 ❷電話注文⇨03-5368-1797 ❸メール注文⇨kapra@kamipro.com
※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります ※送料は一律500円(何冊でも可 離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください

こうした悲劇から
マット界はいったい何を
学べばいいのか!?
P.71 S kamiドキュメント
2003年、「ゲッツ!」で天下を獲ったお笑い芸人が語る、テレビ業界の天国と地獄とは!!
悲劇

テレビに徹底糾弾されたエスパーが語った

超能力番組の真実

清田益章

70年代、日本中の少年少女が熱狂したユリ・ゲラーの超能力番組。そこから生まれた超能力少年の筆頭がエスパー清田こと清田益章氏。テレビに翻弄され、番組内で糾弾されたこともある清田氏がいま明かす、超能力番組の内幕とは!?

聞き手&撮影／真下義之　写真提供／清田益章

テレビでスプーン曲げをやってから、俺の人生も曲がっちゃったのかな？

――今日は〝エスパー清田〟として一世を風靡された清田さんに「テレビと超能力」というテーマでお話をうかがいたいと思います。

清田　ま、いまはほとんど関係ないですけどね。テレビを敵にも味方にもしようとしてないし、距離をとったほうがいいなって。

――ただ、清田さんが超能力を自覚したのは、70年代にスプーン曲げブームを巻き起こした超能力者、ユリ・ゲラーのテレビがきっかけとか。

清田　うん。いまから34年前だから12歳のときですね。昔、日本テレビでディレクターをしてた矢追純一さんがああいうかたちの番組のフォーマットを作ったわけでしょ？　ユリ・ゲラーのスプーンが「曲がるぞ、曲がるぞ」ってとこでコマーシャルにする（笑）。いまのテレビの作り方は、あの超能力番組の作り方が基本になっているらしいです。

――矢追マジックというか。その番組を観たとき、どう思われました？

清田　「スプーンが曲がることを、世の中は不思議がるんだなあ」って。

――すでに清田さんはスプーンが曲げられたらしいですけど。

清田　「こんなことでテレビに出れるのかな」って（笑）。当時のテレビは、いまのテレビよりも敷居が高かったんです。テレビに出ること自体がステータスだった時代。

――じゃあ、テレビに出れたことで、盛り上がりました？

清田　イイ気になりましたね（笑）。小学生だったから、しょうがないですね。でも、反動はくるわけです。テレビに出るのって、自分の都合と関係なくテレビ側の構成などに従わなきゃいけない。超能力者の絶対数が少ないから必然的に断りづらくなる。当時いただいていたギャラは、オヤジが小学校に寄付してたみたいです。

――最初は、テレビ局から出演依頼があったんですか？

清田　最初はスポーツ新聞ですね。じつは、ウチのジイさんが大衆演劇の元締めをやってたんです。俳優の梅沢富美男さんなどとも、ガキの頃、よく会ってました。ジイさんのやってた芝居小屋に取材が来たとき、ジイさんが「ウチの孫も曲げるよ」って話したんです。

――それが、出演のきっかけですか。

清田　そのスポーツ新聞がきっかけで、テレビ出演依頼が始まったと思います。俺の人生はそこから曲がったのかな（笑）。できることをできるって始めたわけです。

――スプーン曲げで人生も曲がってしまった、と。でも、学校や近隣では凄い話題だったでしょうね。

清田　そうですね。臨海学校なんかでほかの学校と一緒になったりするとキャンプファイアーで、「スプーン曲げを見せてほしい」と言われたりね。

――そういうとき、やるんですか？

清田　やれと言われれば、やりますよ。ただ、その頃って、小学校ではスプーン曲げ禁止令が出てたんです。

――スプーン曲げ禁止令!?

清田　誰も彼も給食のスプーンを手でガンガン曲げちゃうから（笑）。スプーンが曲がってるとすぐ俺にせいにされたり。でも、「俺なら、もっとやさしく曲げるよ」って。

――その頃は視聴率も凄そうですね。

清田　数字はわからないけど、注目度は高かったと思いますよ。そのぶん、テレビによる影響は凄かったです。ホンモノ扱いされ、ニセモノ扱いされ、またホンモノ扱いされて。

――じゃあ、中学生のときは？

清田　中学のときは比較的、静かになりましたね。関口少年（関口淳）という同学年の超能力少年が「インチキだ」って、『週刊朝日』（朝日新聞社）に叩かれて、ブームは一掃されました。いま思えば、読売系（日本テレビ）と朝日系（週刊朝日）のメディア競争のネタだったんですかね？

――中学生で落とされたら、凄いトラウマになるんじゃないですか？

清田　俺は同じくらいの年代の連中には、何も言われなかったです。当時の大人たちが、けっこう言ってきましたが、北千住（下町）根性でやりすごしました。幼稚園から柔道やっていたんで、精神的にも鍛えられていました。でも、正直、「大人って大人げないな」って感じてましたね（笑）。

――もう一度テレビに持ち上げられたとき、懐疑心はなかったですか？

清田　警戒心は持ちつつも、超能力者っていうタレントをやっていましたね。俺の超能力はガチンコだけど、テレビの要求に合わせるようにタレントしてました。

――そのタレント活動も、幅広くやられてましたね。

清田　本やCDを出したり、ラジオに出たり……。探究心は人一倍ありましたからね。超能力というワクを脱したくて、表現の幅を広げていきました。惰性的なこともあったし、楽しかったこともありました。

――今日は1988年発行の『超能力野郎』（扶桑社）という清田さんの本をお持ちしたんですけど。

清田　写真もアイドルしてるでしょ（笑）。ホント、この頃はイケイケというか、目立つこと、まっしぐらでした。「インチキかどうかは俺だけが知ってる」わけですから。俺はユリ・ゲラーみたいに超能力だけをエンターテインメントとして、やる気にはなれなかったんです。いろんなメディアを使いながら、精神の世界をわかりやすく表現しようとしたんです。

――ユリ・ゲラーさんは超能力をデフォルメして演じることができたと。確かにユリ・ゲラーさんの超常現象は「手品だ」って説が一般的で。

清田　ユリは、エンターテインメントですが、「超能力者」と名乗っているぶん、責任は重くなります。超能力はデフォルメしたら、超能力じゃなくなっちゃう。

――体面的には真剣勝負と言いつつ、試合はプロレスだった、みたいな感じで。

清田　ユリは「プロレス」で言ったら、当時の新日（本プロレス）的だったんじゃないですか？　テレビとの関係を興行につなげていった。ユリはユダヤ人ということもあって、ビジネスとしてしっかり定着させたわけです。まあ、俺はユリと比較するとUWFかな？　毎日ガチはできませんから（笑）。

――マジシャンのMr.マリックさんも「ユリ・ゲラーは超能力者というよりビジネスマン」とコメントしてるようですし。当時はゴールデンタイムの目玉番組ですし、プロレスや格闘技にも言えることですけど、興行論を考えたら、〝ショー〟的な要素や内容の操作的な部分も出てくるのかもしれない。

清田　結局、彼はテレビとの関係性でエンターテイナーとして超能力を興行にしたわけです。彼が俺に会ったときに言ってたのは、「マネー・イズ・パワー」「金は力だぞ」って。でも、当時から俺は「そうじゃない」って感じていたんです。いまは超能力にとってよけいなものを気にするのを切りやめようって。超能力は、本来はもの凄く深いものですから……。

――ただ、テレビに出てた頃は、そこまで振り切れてなかった。

ファニーズチックな装幀も素敵な本『超能力野郎』（扶桑社）。怖いものなしだった当時のインタビューや、父が書きためた超能力日記、はては「エスパー入門」の章まで。あとがきでは「超能力者の仲間を募集」など特濃な内容だ。

清田「俺のスプーン曲げはガチンコ勝負」っていう領域は守ってましたけどね。だからこそ、テレビ向けの超能力番組には振り切れなかったし、タレントにもなりきれなかった。チヤホヤされるのは気持ちよかったけど違和感もありました。当時は、調子に乗ってポルシェに乗ってみたりしたけど。

――20代でポルシェに乗ってた、という逸話は有名ですね。

清田 ポルシェの911のフラットノーズタイプで。色はレッド（笑）。あまりにわかりやすいよね。そのポルシェも買ったんじゃなくて、ある社長さんにもらったんです。でも、乗り回しているうちに、なんだか自分は見栄のために乗っているなって気がして、次第にむなしくなりました。

――当時、高級マンションにも住まわれてたということですが。

清田 ハウンドドッグの大友（康平）さんが住んでいるようなマンションでね。ホント、お金や見栄とか背負わなくていいものを背負っていました。

――でも、その頃って、きっと相当モテたでしょうね。

清田 モテてるっていう意識はなかったけど、意中の人はだいたい一緒になれました。でも、当時の俺は女性の外面しか見てなかった。当時の自分は、外見に偏っていたから、相手も超能力者との関係になっちゃったよね。青かったね（笑）。

――そういった絶頂時の1984年に清田さんが『超能力でトリックを使った』とテレビで糾弾される、フジテレビの事件がありましたよね。

清田 最高に調子に乗っていたとき、テレビで干されたわけですね。じつはその番組の話をもらって、フジのプロデューサーを見た瞬間、「この人と一緒にやったらダメだ」って直感があったんです。

――はあ。そうなんですか。

清田 そこで俺は欲を出しちゃったんです。俺しか喜ばない我欲を。当時は自信もあったし、「ゴールデンタイムでホンモノ見せてやる」って挑戦的な気持ちもあった。ただ、そういうイヤな直感を裏切ったとき、だいたい大失態をしてるんですよね。

――具体的には、ホテルでカンヅメにされたわけですね。

清田 新宿のホテルで一週間くらいカンヅメにされたんです。スプーン曲げとか念写の現象を検証するために。ただ、当時は第何次かのスプーン曲げブーム真っ最中で、俺自身が異常なほど忙しかった。自分のペース以上の仕事やりすぎちゃって。

――フジテレビとかけ持ちで日本テレビの番組もやってたみたいで。

清田 やってたかな？ それ以外も、取材予定がパンパン入ってて、その時々でスプーンを曲げないといけないじゃない？ もう、忙しくて、大変だった。そしてカンヅメの時期にいきなり大スランプがきたわけです。

――その時期にゴールデンの話がきてたのも運命的というか。

清田 正直、スランプになる寸前だったら受けてないけど、受けたときは調子よかったから。で、テレビ局に「できないから降ろしてくれ」と言ったんだけど、番組の構成作家の人から「数千万単位の金がかかってるんだぞ。おまえは制作費を賠償できるのか？」って言われてね。

――凄い話ですねぇ……。

清田 まだ20歳くらいだから、大人にそんなこと言われたらドキッとするでしょ。「ウチのオヤジの土地を売らないといけないのかな」とか頭によぎったり。で、追い詰められたときに、「スプーンが柔らかくなったとき、ちょっと力を加えれば曲げられる」と伝えたら、テレビ側から「それでいいからやってくれ」って。

――自暴自棄というか。その瞬間を逃さずに、テレビ側は隠しカメラで撮った証拠を番組で突きつけた、と。

清田 でも、手の力を加えて曲げること自体はそんなにやってないんですよ。そのとき、実験でスプーンを7回折ってるんだけど、全部破断面を電子顕微鏡で科学的に調べてもらったら、専門家は「7本とも違う破断面だ」って言うわけ。低温でポンと弾き飛ばした超能力的な破断面もあるし、手で曲げたような破断面もあるという結果がでた。その7本が示しているのは俺がスランプになってく段階だよね。ミクロな科学の総体として、は「一人がいろんな種類をやることはマジックでは考えられない」って。でも、テレビは手でやったほうをピックアップするわけ。最初は「超能力は超音波だった」ってストーリーを作りたかったみたいなんだけど。そのときは超音波の測定機に影響を与えるまで、意識が向かなかった。テレビ局からすれば、超音波だったとするか、トリックとするかのほうがスクープになるからね。

――「証拠をつかんだ」って感じで。制作の過程で番組の主張を否定的なものに方向転換したわけですね。

清田 そうですね。でも、結局は、自分の責任なんですよ。

――そこまで巨大な手のひら返しがくる予感はありました？

清田 うーん、どうですかね？ テ

超能力界のプリンスと騒がれた少年時代。成長と同時に新しい能力も次々と開花。またマスコミデビューしてからの取材攻勢もエスカレートする一方だった

超能力ブームの震源地となったユリ・ゲラーは1972年に来日。「11PM」（テレビ朝日系）や「木曜スペシャル」（日本テレビ・読売テレビ）といった番組に出演し、爆発的な話題に。その加熱ぶりは超能力レコードが発売されるほどだった

清田益章 テレビと超能力年表

番組の最中に、完全にテレビとの決別を意識し始めたんですよ

レビは、やっぱりテレビですからね。俺がホントに全部インチキでそれを暴かれるならいいけど。そのスプーンの破断面みたいなことを徹底的に調査するのがホントの科学でしょ？　でも、テレビは娯楽ですからね。

――イチかゼロか、って感じで。グレーなものは許さないですよね。

清田　まあ、俺のほうも当時はいい気になってましたから、こっちも非はあるんです。でも、その番組で糾弾されたあと、家族は一時期おかしくなっちゃいましたね。その番組を俺はお世話になってた、つのだじろう先生と一緒に観ることになったんだけど……。

――『うしろの百太郎』などで知られるマンガ家のつのだじろうさんは、初期から清田さんの後見人的に関わられてたんですよね。

清田　後見人っていうか……。厳しいオヤジって感じでしたね（笑）。

――あれ？　もっと仲睦まじい感じを想像していたんですけど。

清田　俺を包み込むような感じじゃなく、やっぱり先生なんです。そのときも先生は俺が「トリックを使った」って追求される番組を観て、俺に怒るわけですよ。でも、そうしたことで俺は強くなれた。

――僕は観てないんですけど、清田さんを取り上げた『職業欄はエスパー』（角川文庫）の中で森達也さんは、「ゴールデンタイムで一人の人間をここまで糾弾していいのか？」とイヤな気持ちになった」と書いてますね。

清田　たぶん観たら気分悪くなりますよ。でも、しょうがないじゃないですか（笑）。それが超能力者の背負ったものなんですよ。だって「能力を超えてる者」なんだから。

――あ、超能力者は「能力を超えてる者」……。

清田　それを背負ったとき、敵に回るヤツがいてもおかしくない。そりゃ、タレントさんたちよりもドーンと落とされますよ。

――芸能人のスキャンダルと違って、根本から全否定されるわけですし。

清田　そうです！　会うや否や「インチキですか？」のときもありましたからね（笑）。超能力って人に求められるより自発的にやるときが一番発揮しやすいんです。精神的に解放されたとき初めて出る能力だから。本来テレビには向いてないんですよね。

撮影時、清田氏が持ち出したのがバジュラという仏教の法具。精神を集中させながらさまざまなポーズを披露。身体から鍛え直しているという清田氏の肉体はビルドアップされ、新しい活動を見据えている

――『職業欄はエスパー』にも、清田さんが引きこもりのようになったとき、「たまたまスプーンを曲げたら気持ちよかった」「オナニーに似てる」と、書かれてましたけど、それなら人前でやるのは厳しいですね。

清田　オナニーというよりセックスです。ものと人との究極のコミュニケーション。エンターテインメントにする限界もわかるじゃないですか。そこはテレビでやって初めて気づいた。

――そのあとも『プレステージ』（テレビ朝日）という番組で、テレビ側に挑発されるという事件がありました。

清田　それが、テレビを切り捨てるきっかけかな。それは生番組で、つのだ先生の関係で話がきたんだけど、当時、最初に結婚したカミさんと離婚する最中で精神的に落ちてたから、スプーンが曲げられる状況じゃなかった。テレビ局にも「曲げられない状況だから、出演できません」って断ったんだ。

――でも、最終的に引っぱり出されたわけですよね。

清田　「何もできないですよ」って言ったけど、それでもテレビ局は「OKです。コメンテーターとして出てください」って言うから、承諾したんです。で、カメリハのときは何もないんですけど、いざ本番のスタジオに入ったら、念写のポラロイドとか、スプーンがいっぱい置いてあって。

――うわ～。それはえげつない。

清田　こっちも出ちゃったから仕方ないけど、「つのだ先生の付き合いで来てるのにこれはないだろ？」って。つのだ先生も俺に「やれるだろ」って感じなんですよ。

――完全にハメられたというか。

清田　ハメられた気はしないまでも、「こりゃないでしょ」って……。梶原（しげる）さんとかいう番組のアナウンサーから、「私は超能力を信じてないので、ぜひやってください」と言われたけど、「信じてないんだったらやらないほうがいいですよ」って返したわけ。そしたら「どうしてですか？」って挑発的に言われて……。「やったら、梶原さんの信念を曲げることになるからです」って皮肉を込めて言ったんです。だいたい、人にものごとを頼むとき、普通はそんな頼み方しないんでしょ。

――確かに失礼ですね。

清田　「とにかくいまは個人的な事情もあって、スプーンは曲がらない」と言ったわけです。でも、そのあとも「ダメですか？」「調子はどうですか？」「ホントに何もしないんですか？」って何度も言われるから、「できませんよ！」って。いつの間にか番組自体、俺のドキュメントですよ。演出された中に俺を組み入れて、状況や対応を見てるわけじゃないですか。

――よくそんな番組を放送しましたね。

清田　途中で俺も気がついたんです。生放送だから言いたいことを言って帰ろう」と。それで言ったのが「こういう番組やってるあいだ、ソマリアの紛争のこととかを放送したほうがいいんじゃないか？」とか。それで「こうした番組ができるのは、3つのバカがいる。一番バカなのは出るバカ。それは俺だ」と。「次は作るバカ、それを観るバカがいる」って。

――うわー。そこまで言いましたか。

清田　「観てるほうは横になりながら、みかんでも食って『そんなのウソだろ』と思いながら観てるんでしょ？『だからスプーン曲げてもしょうがない』」って。そこまで全部言ったかどうか定かじゃないけど近いことは言いました。番組中、完全にテレビとの決別を意識し始めたんですね。

――もの凄い問題発言というか。

清田　いや、問題じゃないですよ。それをケンカ腰で言わないといけない状況がおかしいわけです。なんでそこまで言ったかというと、その前に「超能力をやってくれ」って違うコーナーに行かされるんです。そこに女子アシスタントがいたんだけど、そのアシスタントのイヤリングが突然、外れて床に落ちたんです。そしたら司会者が「あっ！　いま超能力使いましたね！」って。こっちは何もしてないから、バカバカしくなっちゃって。

――「ネジが緩んでたんじゃねえの」っておっしゃったみたいで。

清田　そうです。自分のしわざではないことを、自分のしわざのようにできませんから。で、そのコーナーが終わってCM中に、フロアディレクターがインカムで「そろそろイヤリング落としてください！」って小声で言っていたのを当時の俺のマネージ

テレビには感謝もあるけど、「向いていない」ことに気づいた

ャーがたまたま聞いてて、それを俺は知ることになったんです。

――そこまで仕組まれてましたか（笑）。途中で帰ってもよさそうなものですけど。

清田　ただ、怒っていたけど帰ったら、うちの先生に面目がたたない。番組を受けるときは、最初からできないと言ってるわけだから。こっちに非はない。逃げる理由もないですから。番組中、何度もスタッフなどに「何かやってほしい」と言われたけど、俺はやらなかった。やれなかった。いよいよ番組が最後になり異様な雰囲気の中、「不思議なこと」が起きたんです。通常、番組の最後に「○○の提供は◎でした」というアナウンスとテロップが流れるんだけど、その機械が壊れたんですよ。

――テロップを流す機械が？

清田　何かあったときのサブの機械も壊れて、アナウンスのみが番組の最後に流れるという異常な状況になったみたい。その騒動を聞きながらスタジオを出ようとしたとき、番組のプロデューサーが「これがアンタのやりたかったことか！」って俺に叫んでましたね……。

――う～ん。まさにテレビと清田さんのスタンスがわかる話というか。

清田　それは、俺がやったわけじゃないけど、でもみんな俺のせいにする。そのときね、俺以上の力、見えない力を感じました。「できないときに、できないことをハッキリと示したからだな」って。その現象は、俺が起こしたわけじゃないけど、起こるべくして起こった必然だと感じてます。その番組以降は付き合いで出ることはあっても、テレビで本気になろうとは思わなかったし。

――ただ、清田さんはやっぱりテレビによってネームバリューが上がった部分もありますよね。

きよた・ますあき■1962年4月30日、東京都足立区生まれ。70年代に超能力番組に出演し、エスパー清田として知られる超能力者。スプーン曲げ、念写などを中心に活躍し、一世を風靡。写真は、岐阜県の滝に打たれる荒行の様子

清田　そうですね。俺とテレビとの関係って矛盾に満ちているんですね。いまはテレビとはいい付き合いをすればいいかな……。

――かなり肩の力が抜けた感じで。

清田　リラックスすることって凄く大切ですから。俺は、いままで念じたことは、現実になってるんです。みんなが喜ぶようなことを念じると、けっこうな現象になる。ただ、さっきのフジテレビの出演を受けたときもそうだけど、自分の我欲が強すぎたりすると落ちていく。意識の世界は、嘘がつけないですからね。

――いま、テレビで江原啓之さんや細木数子さんが超能力的なアプローチの番組をやってますけども。

清田　何も思わないですね。俺はテレビで持ち上げられ、テレビで落とされましたから。そこで簡単にジャッジしたくない。俺は細木さんの番組は観ないけど、「いまのテレビはこれを求めてるんだな」って感じるくらいですね。細木さんも江原さんも会ったことがないし、本当にテレビを通じて、人を評価したりはしません。それをされてきたのが俺ですから。

――細木さんたちも、どこかで手のひら返しがくると思いますか？

清田　いまはできないでしょう。テレビの中では、両者は持ちつ持たれつですし。ほかのメディアの評論はあっても、テレビの中でのバッシングはないと思います。俺の場合、テレビとの関係は一線を引いてますし、いまは、メディアが多様化してます。

――完全に割り切られたのは？

清田　完全に断ち切られたのは、俺の大麻事件（2006年）ですよね。あれでテレビが完全に引いちゃうでしょ（笑）。まあ、テレビ以外なら、その1ヵ月くらい、またいろんな取材が増えだしたんです。

――新しい流れがあるんですか。

清田　スプーン曲げはガキの遊び程度でしたけど、今度は俺も本気ですから。いまは、自然治癒力を向上させるヒーリングや、もっと世の中をよりよくする（循環型社会にしていく）動きを始めたんです。すべての事象は自分の内なる部分から始まってるんです。テレビで目立っていた個人プレーの時代は、もう終わりですね。

――具体的にはどういった活動を。

清田　メディア関係の人やアパレル関係の人たち、さまざまな業界の人を含めた仲間とプロジェクトを練ってるところです。最近は、滝に打たれに行ったり、毎朝、太陽をおもいきり直視してパワーをもらったり……。真似しないほうがいいですけど（笑）。本来人間の身体全体は、何より精密な送信機であり、受信機であるわけで。その根源から見直したり、心身を磨き込んでる最中ですね。まあ、結局、自分の道のりを振り返ってわかったのは「人生は金じゃないな」って。

――ユリ・ゲラーとは違う、と。

清田　「何が大切か」って言ったら、やっぱり友だちなんです。有名になろうが心を打ち明けられる友だちが一人でもいたらいい。テレビに落とされたときも救ってくれたのは友だちですから。できすぎたストーリーですけど、真実なんです。

――最後に、テレビとうまく付き合う方法ってなんですかね？

清田　これはね、出ないことです（笑）。

――あ、テレビに出てはいけない。

清田　出てはいけないことはないけど、距離をとるというか。いまはネットを含めて、テレビ以外でもメディアは多様化してますから、テレビもいいかたちで進化してほしい。いま思えば、当時のことは深い深い笑い話だし。また「テレビに出てほしい」と言われれば出るかもしれない。そこに自分が尊重できるものがあれば、やぶさかじゃないです。当時は「二度と出たくない」と思ってましたけど。

――いまは、スプーン曲げがメインなわけじゃないですし。

清田　そういう意味で、テレビとはもう卒業ですかね。テレビには感謝もありますけど、「超能力には向いてなかった」と、この歳になって気づきました。だから、もう「まいりました」でいいんじゃないですか（笑）。

――なるほど。では、最後にスプーンを持ったお写真をお願いします！

清田　はい、こんな感じでいいかな？

――いいですね。ちょっと目線をもらえますか？　あれ……清田さん？

清田　……（手にしたスプーンが目の前でグングン曲がっていく）。

――うわあああああああああああああ!!

清田　はい、これはサービスです（笑）。

ニコリと笑って。

――まっ、まいりましたっ――！

【08年10月28日／清田氏の自宅で収録】

インタビューのラスト、写真撮影中に"事件"は起きた。突然、目の前でスプーンをグングン曲げてしまう清田氏に驚愕！ スプーンは用意していたものの、これだけ濃い話をうかがったあとお願いするのは「失礼かな」と思っていただけに、まさかの大サービスだった。スプーンのハンパない曲がり具合は上の写真を参照！ 超能力は実在するって!!

“ゲッツ！”で天下を獲った芸人が語る

テレビ界 天国と地獄

ダンディ坂野

2003年の流行語大賞にもノミネートされたキメ台詞“ゲッツ！”のブレイクにより、
一躍お茶の間の人気者になったのがダンディ坂野だ。
それからほどなくして、その姿をテレビで観られる機会は激減してしまったが、
また最近になり、自ら“一発屋芸人”を名乗り再度テレビ出演も増加中のダンディが、
ブレイク後の周囲の環境の変化と、生存競争の激しいテレビ業界で生き抜くサバイバル術を激白！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫

ブレイクしてた頃もホントはテレビの仕事だけやりたかったんです！

——今回、テレビ特集ということで、「ゲッツ！」を武器に一時期、テレビ界で引っぱりだこ状態だったダンディさんに、ブレイク当時から現在までのテレビにまつわる話をたっぷり聞かせていただければと思っています。

ダンディ よろしくお願いします（と礼儀正しく）。

——ダンディさんは子どもの頃はテレビっ子でした？

ダンディ そうですね。僕はいま41歳なんですけど、やはり当時はテレビが一番華があった時代だと思いますから。

——それは言えるかもしれませんね。

ダンディ しかもウチは田舎だったので3局ぐらいしか入らなかったんですよ。テレビ東京はもちろん入りませんでしたし、『金八先生』もやってなかった。

——『金八先生』すら観られませんでしたか。

ダンディ でも、アイドル全盛時代だったんで、テレビを観て、たのきんトリオみたいに華やかな衣装を着て、歌って踊ってるのに非常に憧れてましたね。当時は、テレビで野球を観て「野球選手になりたい」と思うか、テレビを観て「タレントになりたい」と思うかのどっちかで。……僕はなぜかトシちゃん（田原俊彦）に惹かれてたんですけど（笑）。

——あ、ダンディさんの原点はトシちゃんでしたか。

ダンディ 周りでもタレントになりたいと思ってる子が多かったけど、僕はその思いが小・中・高とず～っと続きましたから。表現は違うかもしれないけど、ピーターパン症候群に近いというか。

——ピーターパン症候群（笑）。

ダンディ 「大人になりたくない」「ずっと何かを追いかけていたい」みたいな感じで　なので、20歳越えても現実を受け入れず、とにかく夢だけ追いかけてましたね。

——その結果、上京することになるわけですよね。

ダンディ 上京したのは26歳と、けっこう遅かったんですけどね。

——初めてテレビに出たのはいつか覚えてます？

ダンディ 最初、エキストラに近い状態の仕事があって、フジテレビの『お金がない』っていうドラマに出たのが最初なんですよ

——織田裕二主演のドラマですね。

ダンディ そうそう。織田さんとの絡みは当然ないんですけど。ダンディ坂野ということで出たのは……、たしか『うもくび』（フジテレビ）という番組かな、

——『うもくび』？

ダンディ どっかの公会堂みたいなところでロケをやって。埋もれた芸人をクビにするっていう番組で。……「埋もれるも何もまだデビューして間もないよ！」って（笑）。ただその頃は、とんねるずさんなんかに憧れてました。「東京の色モノ系のピンっていうのが、自分の生きる道なんだろうな」って、そのへんでちょっと悟りましたね。

また、悟るのが早いですね（笑）。

ダンディ どっちかというと出川（哲朗）さんとか、ああいうイジられる系で　そっちに行ったほうがラクだなって　とにかく、テレビの仕事で食べられればいいっていうのが一番でした。

——常にテレビが優先プライオリティとしてあった？

ダンディ そうですね　僕はブレイクしたって言われるようになった頃でも、ホントはテレビの仕事だけやりたかったんですよ！　たまに営業とかの仕事が入ると、「15分、何やろうかな？」って困ってしまうくらいで。

——その「テレビだけで食べられるようになりたい」って目標が現実になったのはいつぐらいですか？

ダンディ う～ん。やっぱり2002年の秋にマツモトキヨシさんのCMでお世話になったぐらいで。

——「ゲッツ！」が一気に全国的に浸透したCMですね。

ダンディ そうですね。ただ、当時はマツモトキヨシさんの店舗がないところではCMをやってなかったので、ホントに「知名度が上がったな」って思えるようになったのは、その年の10月から『内村プロデュース』（テレビ朝日）という番組に出させていただいてからかな。

——ウッチャンナンチャンの内村（光良）さんの人気番組ですね。

ダンディ その中の「若手下克上」という人気シリーズでけっこう弾けてまして（笑）。マネージャーにも収録が終わったあとに「『今日よかったから次の収録もお願いします』って言われてますから」とささやかれたり。

——徐々に波に乗っかってるなって実感もあった？

ダンディ ありましたねぇ。ただ勢いはあったけど、その年の年末になっても、それほど仕事なかったんですよ。それはブレイクのタイミングが遅かったっていうのもあるんですけど。

——普通はその年にブレイクしたら、年末年始はメチャクチャ忙しくなるのが当然なのに、そうはならなかった。

ダンディ ええ。逆にその年が明けてからCMの浸透が遅れてドーン！と来たんですよ。『内村プロデュース』に出てたのも引きずりながら、2月の後半に「笑わず嫌い王」というめちゃイケ』（フジテレビ）の人気コーナーに出させてもらって、一気に全国区になったかなって。

——ついに全国区ですか。

ダンディ あのへんからは、波が来たぞ、来たぞ！」って実感はヒシヒシありましたね。……というか、それから1年、一切休みはなかったですから（キッパリ）。

——丸一年休みなし!? よくブレイクされた方は休む間もないほど忙しいって言いますけど。

ダンディ なかったですねぇ……（しみじみと）。会社にもちゃんと言わないと美容院に行く時間もないぐらいスケジュールをビッシリ決められちゃうんで。会社に「いったい、いつごはん食べればいいの？」ってキレたこ

ともありますから。

あれですけど、この心境はなった者

もしもあのときに戻れたら、もうちょっと一生懸命やると思いますね

ともありますから。

――食事すら満足にとれない状況だったんですか。

ダンディ それに、けっこう僕、その当時ですでに歳も歳だったんで疲れるんですよ（笑）。36歳くらいでしたから。

――疲れがなかなかとれないと（笑）。

ダンディ 疲れてるわ、メシ食ってないわで。ホントに異常な状況でしたよ。「こっちの番組のケツが10時なのに、次の現場が10時入りってどういうこと？」みたいな（笑）。毎日がそんなのばっかりで。

――じゃあ、寝る時間も移動中ぐらいですか？

ダンディ 移動時間は、けっこうよく寝てましたけどね（笑）。現場に入って、30分ぐらい寝て、起きて行ったりでけっこうボーッとしてましたね。ただ、36歳でこなすスケジュールじゃなかった。しかも、徐々に忙しいならいいですけど、ある日突然、忙しくなったので。

――ある日突然でしたか。

ダンディ ただね……、これはいまになっては僕の言い訳でしかないんですけど。もしもあのときに戻れたら、もうちょっと一生懸命やると思いますね。

――はぁ～。当時のことを後悔していらっしゃるんですか？

ダンディ たぶん、あのときの自分は怠けてたんだと思います。自分の勢いにかまけて。ただね、こう言うとあれですけど、この心境はなった者でしか、たぶんわからないと思いますね……。

――まあ、そうでしょうね。

ダンディ このあいだ、カンニングの竹山（隆範）とたまたま話をする機会があって、当時の自分を見てて竹山は「なんでこの人はこんなに忙しくて、みんなに愛されて、テレビでは凄い笑顔なのに、会うといっつも文句ばっかり言ってるんだろう？ せっかく売れたのに……って思ってた」って言われて。「でも、そのあとに自分も売れて忙しくなったときにダンディさんの気持ちがわかるようになった」って。やっぱり、「滅入る」って言いますね。

――はぁ～。滅入るほどの忙しさ？

ダンディ 「あまりに忙しすぎると滅入ってくる」って。「ダンディさんがハンパじゃなく忙しかったのはわかってるし、本も出したし、歌も出したし、売れたかどうかはべつとして、やりすぎた感がある」とも言われて。つまり歌を出したら、必ずレコード会社のプロモーションに行かなきゃいけないじゃないですか。

――ああ、一つ一つの活動に付随してくるものが多い、と。

ダンディ ええ。プロモーションで、ラジオの生放送で宣伝しなきゃいけないし。朝の7時に飛行機に乗って、青森とか北海道とかに行って東京にトンボ返りして、ステージをやって、夜に打ち合わせしてみたいな。毎日、凄い量の打ち合わせをして、移動中にはアンケートを書かなきゃいけなかったり……。「この心境は売れないとわからない」って。

――売れた者にしかわからない境地なんでしょうね。

ダンディ だから、自分で思ってるよりも、周りの人にはたぶんそういうふうに見えてたんだと思います。だから、よけいにいまは反省してますね。

――事務所によって違いはあるんでしょうけど、いまも所属されているサンミュージックでは際限なく仕事を入れるものなんですか？

ダンディ それは事務所というよりも、ついてるマネージャー次第ですね。

――そういうもんなんですか。でも、マネージャーさんも必然的に異常に忙しくなるわけですよね。

ダンディ そうなんですけど、あまり考えてなくて、とにかく目の前の仕事をブッキングするってことだけを考えていた感じで。とにかく、マネージャーの携帯が延々と鳴ってたのは凄く覚えてますね。

――仕事の電話がバンバン入ってくるわけですね。

ダンディ キャッチが入っては切って、キャッチが入っては切って……。常に充電しておかないとすぐに電池が切れてしまってましたし。事務所の中でも携帯がひっきりなしに鳴ってたっていうのは、もう伝説になってますね（笑）。

――鳴り続ける携帯伝説（笑）。じゃあ、マネージャーさんもダンディさん同様に寝られないですよね？

ダンディ そうですね。現場とブッキングの担当は別の人間だったんで。とくに現場のマネージャーも大変だったと思います。その僕についてたマネージャーは担当しているラインが凄いんですけど、僕のあとにヒロシの担当になって、いまは髭男爵の担当になってる。まさにサンミュージックの黄金ラインというか。

――それは大変そうですね（笑）。

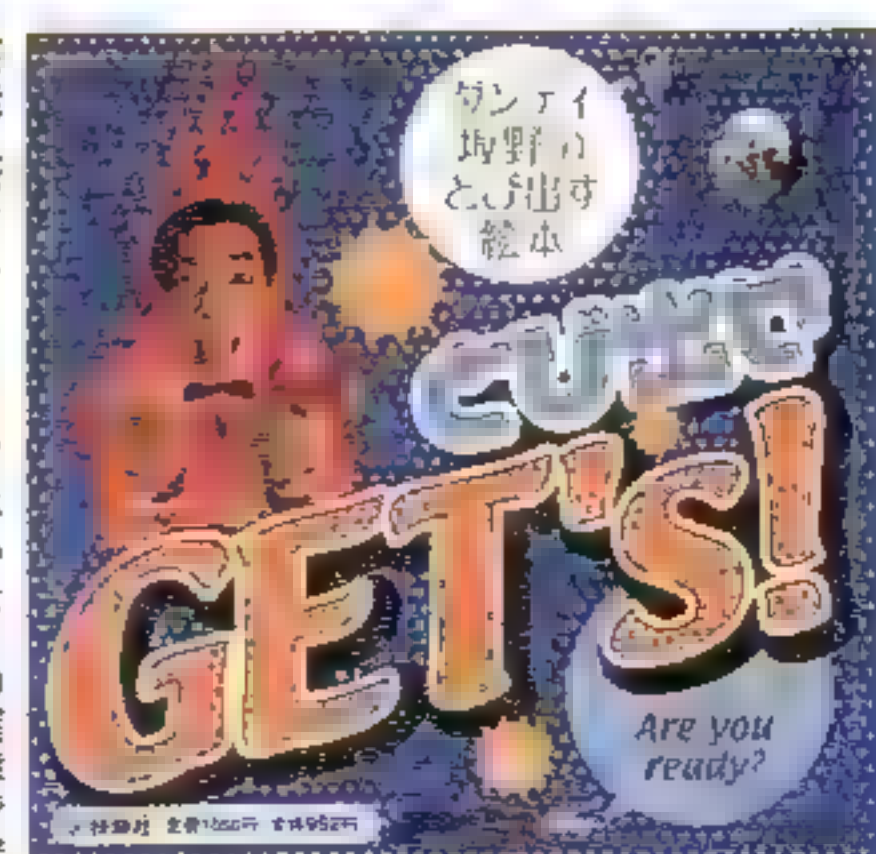
ダンディ 髭男爵は、あまりにもわかりやすすぎる先例が続いてるんで、凄く不安に思ってるみたいですけどね。自分の行く末を（笑）。

――売れてる頃は、すでにご結婚はされてたんですか？

ダンディ してないです。売れた翌年にしました。

――なかなか家に帰れなくて、帰るたびに家具とかがグレードアップしてたって話を聞いたことがありますけど。

ダンディ 引っ越しをしたときも、僕が凄く忙しくて。すでに嫁と同棲してたので、お金が入ったから引っ越そうとなって、物件を何件かFAXで送ってもらって、見に行ってもらって。嫁がポラロイドカメラのチェキで撮ってきた写真を僕が夜中に

売れるということはこういうことだ!?
本業以外にも続々と進出!!

芸能人がブレイクすると、かなりの確率で発売されるのが自伝をはじめとする、いわゆるタレント本の出版だ。ダンディも03年11月に扶桑社から「とび出せ GET'S!」なる絵本を発売。本を開くと、"ゲッツ"ポーズのダンディが飛び出すなど凝った作りになっているのだが、残念ながらそれほど売れなかったらしい。ゲッツ不発！

03年9月にはウルフルズの「ガッツだぜ!!」の替え歌「ゲッツだぜ!!」でCDデビューも果たしているダンディ。それから約5年後の今年は、小島よしお、波田陽区、金剛地武志らとフジテレビの「クイズ！ヘキサゴン!!」から生まれた「一発屋2008」なるユニットを結成、ライブにも参加した。

見て選んだり 会社に半日だけ時間をもらって、新宿の不動産屋に行って、なんかたくさんハンコを押すハメになって（笑）。

—ハンコの数もグレードアップしていた、と

ダンディ いままでの1Kとかのアパートなら、その場で書いて終わるんですけど。システムキッチンの使い方とかたくさんもらって。でも、そのときはまだ部屋を見てなくて 引っ越したあとに僕は初めて行ったんですよ。どっから入るのかわからなくて、電話して聞いたり（笑）。

それくらい忙しくて時間がなかった、と

ダンディ そうですね。

引っ越して、俺も成り上がったな」みたいな充実感もあったんじゃないですか？

ダンディ そうですね 周りの芸人の中でそういう人はいなかったので

ブレイクして、「預金通帳への数字」がドンドン増えていったってことを聞いたことがありますが

ダンディ ああ、恩恵としてそういうこともあったんですけど。自分的に嬉しかったのは、結果的にお笑いの歴史に名前が残るじゃないですか。ちょっと言い方はへんですけど

あそこまでブレイクしたら、名前は間違いなく残りますよね

ダンディ いいも悪いも名前が出たってことは、「中途半端じゃなかったんだろうな」って。「ゲッツ！」も含めて、日本のお笑い史にちょっとでも名前が載るまでになったんで、それが一番よかったことだなって……。お金はそこへあとからついてきただけなんですよ。「名前が残る」ってのはいい面も悪い面もありますけど、こうして頂上を目指す人間が山のようにいる中で、売れる人間はほんの一握りじゃないですか。なおかつ、そんだけ花火を上げられるっていう人間は、もっと限られてくるわけですし そういう意味ではホントにありがたいな、と。

—ここ最近は、その〝一発屋〟というのも逆に売りにして、テレビにもよく出演されてますけど、一時期、テレビの仕事が減ったときはどう感じてました？

ダンディ う〜ん…… そのブレイクの渦中から、予想はある程度してましたけど、予想するのと、実際になってみた現実っていうのは、また違うと思うんですよね

—そこは違うでしょうね。

ダンディ 絶対に予想しきれないですよね。ただ、露出が少なくなると、そういう人は、いうんですよ「アイツはやっぱり消えた」みたいに でも こっちはテレビには出てなくても、仕事はしてるじゃないですか。地方のイベントなども含めて。

ええ その期間は、営業の仕事を中心にされてたわけですよね。

ダンディ はい。チラチラと地方の番組もあったりとかしたので。ただ、ゴールデンとか、東京の数字のいい番組にほとんど呼ばれなくなると、世間の人はそういうふうに見ますからね 自分の中ではある程度、頑張って毎日仕事はしてるんだけど、そういうふうに思われちゃうのは当然だろうなとは思いますし。……でも、「かわいそう」みたいに言われるのが一番イヤでしたね

まあ、そうでしょうね

ダンディ かわいそうも何も、こっちはまだ「貯金で食いつないでます」ってわけじゃないし。逆に収入ではブレイクあとの2005年から2007年の3年のほうが安定してましたからね。

ああ、じつは「営業のほうがテレビよりも収入がいい」ってこともあるみたいですからね。

ダンディ そうなんですよ もちろん全盛期に比べたら、多少下がりましたけど、普通のサラリーマンの方よりは若干……

そこで、サラリーマンと比べてどうするんですか（笑）。

ダンディ そういうことというと、「そんなにもらってんの？」って思われますけど そこそこはね 車を維持して、都内に住めてるぐらいなので、まあ、

タンディとも縁の深い芸人が続々と登場しているのが「ハッスル」。ブレイク直後のタイミングで川田とともに「そんなの関係ねぇ！」を披露した小島よしおはダンディの事務所の後輩。「いまをキープして、へんに頑張らないほうがいい」とダンディ先輩はアドバイス

ダンディと同時期にブレイクした芸人といえば「♪なんでだろ〜」が流行語大賞にも選ばれ、ハッスル」にも登場したテツandトモの二人だ ダンディ以上にテレビでの活躍は減ってしまったテツandトモだが、現在は地方での営業などを中心に変わらず活躍中。

いまや「ハッスル」の欠かせない登場人物となっているHG&RGのレイザーラモン。貴重な持ちネタの一つ「ライドオン」をHGがパクった説もあるが本人はそれほど気にしていない さすがダンディ。そんなHGをパクったRGに続き、現在はニセHGがプチブレイク状態だ

ブレイクして一番よかったのは、お笑いの歴史に名前が残ったことです

皆さんは心配してくれるというか……、おもしろがって言ってるだけなんでしょうけど

そこまで心配されるような暮らしはしてない、と？

ダンディ ええ。おかげさまで（笑）

—ただ、テレビの影響力の怖さっていう部分では、ゴールデンの番組とかに出なくなったら、「もう消えた人」扱いされてしまうってことですよね

ダンディ そこはホントに怖い部分ですよね いまは周囲の人の力だとは思うんですけど、またチラチラとテレビに呼んでいただくようになって、やっぱりテレビの力ってのは絶大だと思うし。よく「インターネットの時代が来る」とかっていいますけど、なんだかんだって言って、小さい5歳や6歳の子がネット使うかっていったら、使わないじゃないですか

まあ、使わないですよね

ダンディ テレビを観て、『羞恥心』の踊りを覚えて、ハガキを書いて「大好きです」って送るんだろうし。そこから経済が生まれてるっていうんですかね テレビによって、かなりの規模のものが動いてると思うので、やっぱり影響力は凄いな、と思います

一時期は怖くてテレビが観れなくて NHKのBSで野鳥を観てました（笑）

けどね。

——逆に言うと、ある部分、テレビの怖さっていうのを一番感じたんじゃないですか？

ダンディ　そうですね。いまは開き直って"一発屋"を逆にウリにしてますけど、人によっては、そういう言われ方は耐えられないっていう人も多いでしょうし。

——"一発屋"と言われて、喜ぶ人もなかなかいないでしょうね。

ダンディ　基本は皆さんイヤだと思うんですよ。結局、同情されたくないから。正直みんな、そうだと思うんですけど、割り切るっていうよりも、そういった"一発屋"扱いの仕事でもテレビに出てさえいれば、何かが生まれるんじゃないか、と。何もしないよりは、何かの可能性があるんじゃないかと思ってやったほうが楽しいですし。

——非常にポジティブですね。

ダンディ　いま思えば、昔はつらかったなって思うこともありますけど、結局そう思ってたから、いまでもそれをネタにして仕事が続けられてると思うし。ブレイクしたって言われてたときも、自分自身は楽しんでなくて「どうせ、一年で終わるよ……」って思ってましたから。

——ああ、そのへんも冷静に受け止めてたわけですね。

ダンディ　「きっと一年で終わるよ」って思いながら。だからブームが終わるのは必然的だったのかなとも思いますけどね。でも、いま思えばそうなだけで、ホントにこのまま消えてたら、また違うことを言ってたかもわかんない（笑）

——一時期はテレビ恐怖症みたいな時期もあったみたいですね。

ダンディ　正直ありました！　その頃は、自分がテレビに出てないからとかでも、人がウケてるのを見たくないとかでもなく、「べつにどうでもいいや」ってのはありましたね。「どうせ、俺は出れないんだろうなぁ」っていうのも含めて。

——多少ヒガミ的な感情もあったわけですね。

ダンディ　ヒガミなんでしょうけど、ヒガミは半分というか、あの～……、僕が売れたあとでお笑い番組から、ちょっと人気が出た人ってたくさんいるじゃないですか。

——その年ごとに、たくさんいましたね。

ダンディ　だから、「この人たちって僕らよりひどい目に遭うんだろうな」って思いながらテレビを観てましたね。なんて言うんですか？　違う目から見てて、「これは先はないだろうな」っていうのは僕が見ても感じましたからね。吉本（興業）のM-1とかに出ている人はまた別ですけど。

——叩き上げで、芸が認められてブレイクしたというより、勢いやルックスで人気が出た人が多かったですよね。

ダンディ　そうですよね。出た瞬間から一発屋と言われてしまう芸人が凄く多くなったと思います。それで、「自分と同じことになるんじゃないか」って、怖くなったっていうか。あまりテレビは観なくなって、いつもNHKのBSとか観てました。

——間違っても芸人さんは出てこないですからね（笑）

ダンディ　野鳥とかホッキョクグマとかをずっと観てましたね（笑）。いまは、ほかの芸人さんのギャグとかも気になるんで普通に観られるようになりましたけど。

——それはよかったです。最後にダンディさんの、いまのテレビに対する率直な思いを聞かせてください。

ダンディ　テレビですか……。あまり、深くは考えてないですけど、いまはテレビがおもしろいです！

——あ、そうですか？

ダンディ　ウチはBSとかは全部映るんで、チャンネルも多くなってますし、普通の地上波なんかも見応えがある番組が多いですし。たぶん、僕が好きな番組が増えたっていうのもあると思うんですけど。

——いまはお笑いブームというのもあって、テレビに出る人の割合が、お笑いの人が凄く多いじゃないですか。

ダンディ　そうですね。これ以上、増えてほしくない（キッパリ）

——まあ、みんなライバルですからね。

ダンディ　言ったら、飽和状態ですよね。だから、ウチの事務所の髭男爵なんかは、あの中でも突出して出てるほうだと思うんですよ。ただ、いまは「凄く視聴率が獲れてる番組に出て、1分ちょっとやってウケて、それからどうするんだ」っていうのが見えないというか。"お笑いのパイ"っていうものがあるとすれば、ちょっとずつかじってる、みたいな感じがするんですよ、いまのお笑い界は。

——そんな感じはしますよね。

ダンディ　ただね。瞬間最大風速でしたけど、僕は3分の1はかじったと思ってるんですよ。その時代の中で。

——ブレイクした当時はお笑いのパイの3分の1をかじっている実感があった、と？

ダンディ　ありましたね。はなわとテツandトモと。ちょっと欲張ってかじりすぎたのかもしれないですけど（笑）。

——ダハハハハ！　でも、そのパイをかじりたくてもかじれない人も多いでしょうからね。

ダンディ　そうですよね。一口しか食べない人もいますし。また、少しでも、そのパイがかじれるようにやっていければな、と。

——今後もテレビでの活躍、期待してます！

ダンディ　いまのペースをキープして頑張っていこうと思います。

【08年10月9日／都内・サンミュージック事務所にて収録】

だんでぃ・さかの■本名＝さかの・けんいち　1967年1月16日、石川県加賀市出身　下積み生活を経て96年からダンディ坂野として活動開始　02年頃から、キメ台詞の"ゲッツ!"が流行し、一躍ブレイク　しかし、徐々に人気は下降、テレビ出演の回数も激減した時期もあったが、最近は一発屋芸人としてテレビ出演も増加中　サンミュージックGET所属　ブログアドレス→http://ameblo.jp/dandy-

あの日テレ名物プロデューサー
“T部長”にテレビの話を聞きたーい！

電波少年的 格闘技復興論

日本テレビ編成局デジタルコンテンツセンターED
第2日本テレビVOD事業部長

土屋敏男

ジャーンジャーンジャン、ジャンジャジャーン、ジャジャジャーン♪（ダース・ベイダーのテーマ曲調）。
テレビのことならテレビマンに話を聞くのが一番！　ということで『電波少年』シリーズをはじめ数々のヒット番組を生み出した“T部長”こと土屋敏男の登場だ！　敏腕テレビプロデューサーの言葉に隠された格闘技復興の鍵とは!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／鈴木佑　試合写真／乾晋也

格闘技が視聴率を獲るための方法は「いかにわかりにくくするか」だと思う

03年大晦日の3大格闘技興行戦争。その中でも瞬間最高視聴率43.0%を記録し、民放番組として初めて紅白を[illegible]たのが曙vsボブ・サップの一戦だ。ちなみに日本テレビが放映した「猪木ボンバイエ」の平均視聴率は5.1%[illegible]

——ちょっと前までは格闘技番組は高視聴率を獲るソフトという評価をされていたんです。

土屋　いつ頃の話？

——そのピークは2003年の大晦日ですね。3局同時に放送されたことがありまして

土屋　ああ、テレビ創成期の力道山の頃じゃなくてね（笑）。

——ええ（笑）。ところが、いまは視聴率が徐々に下がってきまして、そこで今回は「テレビとは何か？」というお話を聞かせていただきたいと思ってるんです。

土屋　なるほどね。

——まず、土屋さんはテレビ番組として格闘技をどのように見られてるんですか？

土屋　それこそ日本プロレスがあって、力道山がいて、そこから馬場さんと猪木さんに分かれて、日テレとテレ朝の放送になり、いまはそこにK－1という考え方が加わったわけでしょ。

——おおまかな流れとしてはおっしゃるとおりです

土屋　それで、ボクが『とんねるずの生でダラダラいかせて!!』という番組を1991年から始めたときに、大仁田（厚）さんの電流爆破や有刺鉄線デスマッチというドキュメント的なプロレスの流れがあった。それまでの様式美のプロレスはある意味、馬場さんが完成させてたよね

——馬場さんのプロレスは古典芸能の域に達してましたね。

土屋　うん。そもそも力道山のプロレスって、敗戦から始まる日本人の劣等感がスタート地点にあるわけじゃない。で、格闘技ってやっぱりそういうものだと思うんだよね。ローマ帝国のネロ皇帝が奴隷たちに殺し合いをやらせたみたいなことも含めて、人間同士が殺し合う姿に熱狂する民衆がいた。そういうレジャーを与えておけばいいっていう話でしょ。

——簡単に言ってしまうと大衆娯楽ですね。

土屋　そういう要素って格闘技にあると思う。それがエンターテインメントの原点だと思うし、プロレスの歴史をずっと見ていくと、先ほど挙げた大仁田さんのプロレスは、バラエティやお笑いが落語や演芸みたいなものから『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』へ移る過程、つまりドキュメント化していく流れに凄く似てると思うんだ。馬場さんのような様式美じゃなくて、誰が観ても痛いっていうことを訴えないと、もうプロレスそのものが成立していかない時代に入っていくんだろうなっていうのが、当時のバラエティ番組に凄く似てた。で、新日が分派していくことを楽屋裏としておもしろがるっていうのは、たぶん『オレたちひょうきん族』と同じだよね。たけしさんが遅刻したり番組を休むとか、さんまさんのプライベートがこうだとかおもしろがるのは、『ひょうきん族』的なバラエティ　じゃあ、K－1というものは何かといえば、「プロレスとは別です」っていう流れなんでしょうけど

——そのK－1の流れが、一時期は大晦日に3局同時に格闘技を行なうほどになったんですけども。

土屋　ボクはあのときがちょうど編成部長終わりかけのときだったと思うんだけど、「ウチが放送するのはやめたほうがいい」っていうのがボクの意見でしたね。

——それはどういう考えがあってのことなんですか？

土屋　凄く簡単な話で、そんなにパイはデカくないのに、3つで取り合ってどうするんだ、と。

——ホントにおっしゃるとおりなんですよね（苦笑）。

土屋　たとえばボクがウッチャンナンチャンの番組でポケットビスケッツというバンドを作って、CDセールスを結果として組み入れていくことになるんだけど　それがいまでいう放送外収入の走りになるのかもしんないし、スピンオフコンテンツなのかもしれないけど、結果的にみんながマネするわけだよ。で、そうなることによってスピンオフの本質が荒らされていくっていうか、もうとにかくテレビでバンドの成長物語みたいなのをやれば儲かるんだからみたいなことでダメになっていく。要するに粗くなってくるんだね

——確かに格闘技でもそういう感じはありましたね。

土屋　うん。優れた選手にだって限りがあるわけで、そうなったらもう間違いなく、自滅への一歩だと思うな。

——で、いま視聴率を獲るためにはどうしたらいいかと考えたときに、業界の雰囲気としては、世間が目を引く試合や知名度の高い選手同士のカードをやるしかない。要はわかりやすくするしかないんじゃないか、と。

土屋　いや、まったくそうは思わない。逆に「いかにわかりにくくするか」だとボクは思うけどね。

——あ、わかりにくくしたほうがいい。

いまのテレビに足りないものとは
リアルな物語とそれを背負うスター

土屋　要するにね、わかりやすくするって、いまテレビが陥っている問題でもあるんだよね。テレビが、わかりやすく、わかりやすく」って作ってきた結果がいまの状態　要するにシャープじゃないっていうか、視聴者が背伸びしなくてもテレビが垣根を下げてくるっていう。だから爆発力がないし、バケモノ的な番組が出てこないんだよね。わかりやすくしていたら、いつまで経っても30パーセントの番組は生まれない。10パーセントそこそこだね

——それは外さないけど当たらないってことですか？

土屋　うん　だから格闘技をもう一回、当てるためにはわからなくしたほうがいい。そう思うね

——そもそもテレビ自体は、なぜわかりやすい方向に走ってしまったんでしょうか？

土屋　それはわからない人もすくいとっていこうとしたからだよ　わからないって人を、人でも少なくしてったほうが視聴率は上がるんじゃないか。ただね、わからないものだから「なんだこれ!?」っていう反応が出てくるわけ。そこで客がわかろうと背伸びしていく、わかるための努力をするっていうことが、じつは作り手と受ける側のキャッチボールになるはずなんだよ。ところが、いまは作り手側からハードルを下げていくっていうのかな、それはじつは退化なんだよ。

——ある意味で質を落とすのと変わりはないわけですからね

土屋　そうなると「じゃあどこまで下げるの？」っていう話になるし、視聴者からすれば「もう最近、テレビってつまんないよね」っていう話になる。わかりやすいから観る必要はなくなるってこと。それと同じで格闘技だってわかりやすくする必要なんかないんだよ。だって、そもそも格闘技なんて小学校低学年の女子や、50代の主婦にはわからなくていいもんでしょ？

——そこは対象に入ってないはずですね（笑）

土屋　そうじゃなくて、やっぱり日常生活の中に何か不満がある30～40代が、格闘技を観て自分を投影したり、何かに感動したりするわけじゃない。そして、わかりづらいものだから、そこに没入するし、ムキになったりするわけでしょう　だから、視聴率を獲ろうなんて思っちゃダメだって！

——視聴率獲得に捉われるな、と。

土屋　うん。視聴率って1パーセント獲れば、60～80万人とかが観てるわけじゃない。10パーセントは600万人だよね。600万人に観てもらう必要なんかないし、そうやってタダで観てもらうよりも、たとえば10万人が毎月5000円ずつ出して観てもらったほうがはるかにいいと思うけどな　そういう構造にはできないの？

——もちろんゲート収入もあるんですけど、PPV市場のパイが小さいのでちょっと難しいところはありますが、まあでもそうやって磨いていったほうが質は保てますね。

土屋　うん　だから結局、その3局同時にやったことを一つのピークとして、大衆の一人でも多くの人に観てもらうってことにおもねったがために、要するに格闘技はダメになっていくわけだよ、

——最近の格闘技の大衆化でいえばボクシングの亀田親子が挙げられますが、土屋さんはどのようにご覧になっていますか？

土屋　亀田くんは親子物語というか、ボクシングの既成の流れに沿わないかたちで大きくなった　そのアンチテーゼとして内藤選手が出てくるヒールとして亀田くんがいるから、いまの内藤選手がいるわけでしょ。それはやっぱり、そういう物語をきちんと背負えているってことだよね。それはどんなジャンルだって同じ　物語を背負える人間がいるかどうか。

——結局は"人"なんですね。

土屋　だからいまのテレビに何が足りないのかっていうと、そういった物語があまり見受けられないんだよ　格闘技もそう、野球もそう、バラエティもそう、ドラマも……、まあ、ドラマにドラマを見るってのもおかしいけど（笑）　要は、お客さんは物語が見たいわけだよね　リアルな物語を見たいわけでしょ　力道山vsフレッド・ブラッシーを観て、心臓麻痺で亡くなられたおばあちゃんがいたっていうのは、あの時代はそれがリアルだったっていうことだよね　大山倍達が山にこもっただの、眉毛を剃っただのという伝説がいまでも伝えられているのは、そこに隠された物語が魅力的だからなわけじゃない。

——そうすると、いまの時代に耐えられる物語は何かってことですね。

土屋　と、それを背負えるスターですね。だから亀田くんのかたちはどうであれ、ボクシング界を背負えたスターなわけじゃない　女子プロゴルフにしたってさ、視聴率も全然獲れない時代が延々とあったわけだよね　それが宮里藍と横峰さくらの二人が出てきたことによってさ、その二人のスターを観るために人気が出てきた　突然、女子プロゴルフがおもしろくなったわけじゃないよ（笑）。昔と何も変わっていない　あの二人の物語があるからみんなが観るわけ

今年に入って魔王・秋山成勲か対戦したのは柴田勝頼と外岡真徳　自らを"プロテクト"してると思われてもやむをえない相手との対戦か続いている　そんな秋山も、世間から最も注目か集まる大晦日では大一番に臨むはず　"DREAMの視聴率男"の対戦相手は、そしてそのリンクはいったい？

鬼才プロデューサーが生み出した
伝説の番組「電波少年」とは何か？

1992～2003年に放送されたシリーズ番組は『進め！電波少年』『進ぬ！電波少年』『電波少年に毛が生えた 最後の聖戦』『電波少年』など多数。初期は司会である松本明子と松村邦洋の二人やゲストが、事前許可（アポイント）をとらずに、著名人にさまざまな依頼を敢行するという企画が中心で、そのドキュメンタリータッチのスリリングな番組内容で人気となる。しかも「有名人の事務所のトイレでウンコがしたい」「ホモ雑誌『SAMSON』を『KUN HIRO』に変えてほしい」「マイケル・ジャクソンの下半身が見たい」などその突拍子もない企画の数々で、たびたび抗議の対象となるお騒がせ番組でもあった（ちなみに行なわれたアポなしロケは950回）。番組後期は猿岩石の『ユーラシア大陸横断ヒッチハイク』や、芸人なすびの『電波少年的懸賞生活』に代表される、無名タレントを使った体験取材企画が中心となり社会現象に。数多く発売された番組関連本やCDも好セールスを記録した。ちなみに番組ゲストとして天龍源一郎や獣神サンダー・ライガーらが出演、「世界一タカイタカイをしてほしい！」という企画では新日本プロレス参戦時のザ・ジャイアント（WWEのビッグショー）が登場したことも。さらに『週刊プロレス』を『週刊ピロレス』にしてほしい！」という企画では、実際に『週プロ』が松村邦洋のギャグである『ピロピロ』に引っかけて『週刊ピロレス』（93年7月13日号）に変更するなど、何かとマット界にも縁のある番組であった。

演出のないエンタメなんてありえない それを"やらせ"というのは楽しんでないだけ

今年の「K−1 MAX 世界一決定トーナメント」で5年ぶりに優勝した魔裟斗。K−1 MAXというジャンル、物語を一身に背負う闘いぶりから、ライトからコア層まで高い評価を得ている。"魔裟斗後"の日本人スターの誕生が、K−1 MAXが抱える大きな課題である

でしょ。

——格闘技の世界ですと、スター選手をどうしてもテレビ局や団体側がプロテクトというか、守りがちに見えてしまう現状があるんですよ。たとえば、テレビ局の亀田兄弟の扱い方はどう見えました?

土屋 自然発生的に出てきたときはよかったんだよね ところが、その価値をもっと上げようとか長持ちさせようとか、そういう大人の仕組みや仕掛けみたいなものが見えたときに全員が冷めた。たとえばいまテレビ番組で「さあ、それでは答えは!」って煽ってCMに入っていって、CMが明けてもう一度繰り返すみたいな大人の仕掛けが、もうみんなにバレてんだよね。その仕掛けをなんのためにやってるのかがわかる。だから、シラケちゃうんだよ。それは作り手がお客さんの熱さ、体温みたいなものをわかってないから、そんな演出をするんでしょう その体温を感じる演出家がちゃんとやればいいだけの話だと思うんだよね。

——そこはいつの間にか手のひらに乗せるようなテクニックが必要なわけですよね。

土屋 うん、っていうか、そこは、人が求めるものって、やっぱりその"道"なんだよね。道に対して感動していくわけで、道に殉じていくっていうことに対して人は感動していくわけだし。そのためには、いかにスターをピュアな状態のままで汚さないようにするかも必要だし、とかく人間って弱いからいろんなものに左右されるわけじゃない だからこそ、純粋に強くなりたいとか、絶対に負けたくないとか、勝ち続けたいとかみたいなことに抗ってやっている人間にはやっぱり感動する。だからビジネスが肥大化するとよくないんだよ。格闘技も「格闘技ビジネス」って言い始めて、ビジネスの面が肥大化すればするほど、そこはコンテンツとして劣化していくね。

——スターをプロデュースしていくという話でいうと、どうしても演出とやらせの境目が、いま非常になくなりかけてきてると思うんです。団体側からすると演出なのに、ファンからするとやらせなんじゃないかっていう意見も出てきて。そこはテレビでもそういう宿命みたいなことってあると思うんですけど。

土屋 まず"やらせ"っていう言葉自体がダメだよね。じゃあ、演出とやらせって何が違うかっていう話になる。そもそも試合に出てくること自体がある意味では演出じゃない。まったく演出がなかったら、マッチメイクもないわけだよ、極端に言うとね。「この人間とこの人間が闘います」っていうこと自体が演出なわけだから。

——そもそも興行を行なうことと時点で、演出を問われてきますね

土屋 っていうことまで含めて、演出のないエンターテインメントなんてありえないんだよ それがみんなわかっているのになぜ"やらせ"と言うのか。それは簡単に言うと、ただ楽しんでないだけなんだよね。

——ああ、だから冷静に観てしまうんですね

土屋 「やらせだ!」って思った瞬間に、「ボクは楽しくないです!」って言ってるに等しいわけじゃない。そこに物語があり、リアリティがあり、心を沸き立たせるものがあれば、それがたとえやらせだろうがそんなことは絶対に言わない。

——そうですよね、そこには熱中して観ますもんね。

土屋 だからそこはやらせとかっていう問題じゃないんだよね それは要するに作り手が客をナメてるだけでしょ。

——いまってファンが試合の判定なりマッチメイクに対して、過敏すぎるぐらいにものを言いたい風潮があるんですよね。格闘技に限らずの話ですが、非常にヒステリックな時代ですね。

土屋 逆に言うと難しいのはね、インターネットによってみんなが発言することがあたりまえになってきてる、と。そのこと自体に、一つ一つ反応してると、大衆の大きな流れみたいなものを見誤ることがある。だって、世の中の全員が満足するものなんて、絶対にありえないんだから!

——土屋さんは、全体が100だとするとどのぐらいの人に肯定されればいいと思いますか?

土屋 (すかさず)51でいいんだよ

——なるほど

土屋 極端に言えばね ひょっとしたら、30でいいのかもしれない。30の人間がおもしろいっていうものは、あとの40はなんだかわかんないって感想、あとの30はスッゲー嫌だ、と。スッゲー嫌だって思えるものしか、じつはもの凄くおもしろいっていうものはないんだよ。『電波少年』の最初なんかそうだもん。「スッゴイおもしろい!」って言われたよ。でも片方で「こんなふざけたものはない!」とも。だからそのときに、「こんなふざけたものはない!」って声を聞いてたら、やってないって、続けてないって。たとえば猿岩石がゴールするときに、「みんな感動したがっているようだ」と思って、逆にこいつらをこのままほかの土地に連れてってまたヒッチハイクさせるっていうことを選択さ

せたわけだよね。そしたら何千本の抗議電話がきた。じゃあ結局、何がしたかったのか。そのとき客は泣こうと思って、感動しようと思ってハンカチを用意して待ってました。でも、そこを裏切ったわけだよね。だから、エンターテインメントになった。

——わかりにくいからこその爆発ですね。

土屋　ある意味、お客さんの想像の範囲の中だったら観ないもんなんだよ。「こいつらから目が離せない」と思うから観るんであって。格闘技も、「ああ、やっぱりこうなったんだ。プロデューサーだったらこういうマッチメイクはできないかもしれないし……」って思わせない。意外な展開になって、「なんだよ、これ!?」って思いながら、だからこそ目が離せないものにする。人にウンチクを語りたいからこそ、わからなくても、その先にあるものを観ようとするんだよ。

土屋さんのお話を聞いて、再生の道が見えてきました（笑）。

土屋　でも、間違ってもバブルがもう一回くると思わないほうがいいよ。バブル自体、間違ってたわけだから。バブルは必ず弾けてみんなが損するわけでしょ。いかにバブルを起こさないか。

——そういえば、つい最近、柔道の石井選手がプロに転向するしないでの騒動があったんですけど。なんか騒ぎ方がバブルっぽかったんですよね。

土屋　石井くんみたいなキャラクターがプロになることは、もちろん格闘技界にとってはいいことだし、逆に言うと、石井くんを使っていかにバブルにしないことが問われるというか。そこでやっぱりビジネスマンになるんじゃなくて、純粋に人が闘うという物語にしていこうということ。「あっ、これはまた儲かる流れがきたぞ！」みたいなことじゃあ、結局ダメなんだって。コンテンツビジネスだけはそうなっちゃいけないのよ。

それで、今回、テレビ特集でいろんな方にお話を聞いてるんですけども、よく言われるのは「テレビはなくなる」ってことなんです

土屋　テレビがなくなるわけがないじゃない（キッパリ）。

——あ、そうですか。ビジネス自体がもっと下降していくんじゃないかということを、皆さんおっしゃるんですよ。

土屋　大間違いだね！　だって基本的にテレビとそれ以外のものって、100対1なんだから。観ている人の数が。

ああ、確かに太刀打ちはできないですね

土屋　いくらインターネットが凄いとはいっても、それでもテレビと比べれば100対1の世界なんだって。それがたとえば50対1になろうが、それが50対50になることはないんだよ。97対3とか、95対5になることはあるかもしれないけど、やっぱりテレビを作る人間の力と、ネットを作る人間の集積みたいなものがまったく違うからね。この1対100が、5対95、ないしは10対90になったときに、逆に言うとテレビ側は焦るけど、1対99が10対90になっただけなんだから、そこで焦らないほうがいい。逆に言うと、それはネットの力を侮ってるわけじゃなくて、ネットはその10を大事にすること。

間違っても90になろうとはせず。

土屋　うん。テレビに取って代われるなんて思った途端に、愚かなことになるだけ。ネットのほうは、「テレビにできなくて、ネットにしかできないことってなんだろう」ってことだけを考えてればいい。それは『YouTube』みたいなものがそうだけど、要するに国境を越えるわけでしょ。で、ボクはいまインターネットビジネスをやっていて、今度やるのが間寛平さんの『アースマラソン』。何をやるかといえば、2年半か3年かけて一回も日本に帰ってくることなくマラソンで世界一周をする。一日、40～50キロ走るんだよ。

——それは凄いですね！

土屋　そうだね　毎日50キロ走って世界一周をすると、だいたい2年半ぐらいかかる計算になるんだよ。それを毎日撮って、毎日編集して、ウェブ上に2～3分のクリップとしてあげていくわけ。「今日、寛平さんはこういうところをこうやって走りました」っていうことを毎日、日本語と英語でアップしていく。インターナショナルコンテンツとして、世界中の人間がそれを観ていく。これはテレビじゃできないじゃない。

——間寛平さんを知らなくても、ほかの国の人は興味を持ちますよね

土屋　で、これは当然のことながら1センチたりとも誤魔化さないわけだよね。体調が悪くなったら、「今日は1日、寝てました」っていう2～3分のクリップになるだろうし。悔しいかもしれないし、治らないかもしれないし、ホームシックにかかるかもしれないし、出会いによって勇気づけられるかもしれないし、たくさんの人がコメントをくれて、それに押されるようにしてもう一回、走り出すかもしれない。まさにリアルなものをこの『アースマラソン』でやっていこうと思ってる。

——おもしろいですね。この企画自体はどのような発想から生まれたんですか？

土屋　それは寛平さんが260キロのウルトラマラソンをやったうえで、3年前に「自分もいよいよ60歳になる。そのときに何がしたいかといえば、地球一周をこの足でやってみたい」って思ったわけだよね。で、吉本のプロデューサーが「そんなこと簡単にはできない。まず1日50キロをまず3日、走れることを練習してください」と。で、3日走れました。「じゃあ次は5日間やってください」。50キロ走った。1週間やって350キロ走った、10日間やって500キロ走った。で、ついに去年から今年にかけて20日間連続、毎日50キロ走った

——それでやっとゴーサインが出たんですね。

土屋　それをやりきって初めて、人を巻き込んでプロジェクトにできる、と。そういうかたちで俺のところに話がきて「ぜひやりたい」と。発端は単なるビジネスじゃないんだよ。そこには3年間かけたものがあるんだ。

凄いなあ　それは確かにビジネスありきじゃないですね。

土屋　だから、何をやるべきかっていえば、やっぱり〝人〟であり〝道〟だよね。寛平さんでいえば、マラソン道。なぜ走るのか。格闘技道ならば、なぜ人は闘うのか、なぜオマエは闘うのか、なぜアナタは闘うのか、なぜ勝ったら嬉しいんだ、勝っても嬉しくないことはないのか、とか。格闘技も、そういう〝道〟みたいなものを極めていくことだと思うよ。

【08年10月9日／都内・日本テレビ局内にて収録】

いくらネットが凄いといったって テレビと比べれば100対1の世界

つちや・としお■1956年9月30日、静岡県出身。1979年に日本テレビに入社以来、ワイドショーの現場を経て、バラエティ番組の演出・制作に従事　テリー伊藤、萩本欽一を演出の師と仰ぎ、『電波少年』シリーズをはじめ、数々の人気番組を生み出した　現在は第2日本テレビVOD事業部長（通称・商店会長）を務め、同局の深夜番組「デジタルの根性」に出演している。

コラムニスト・写真家

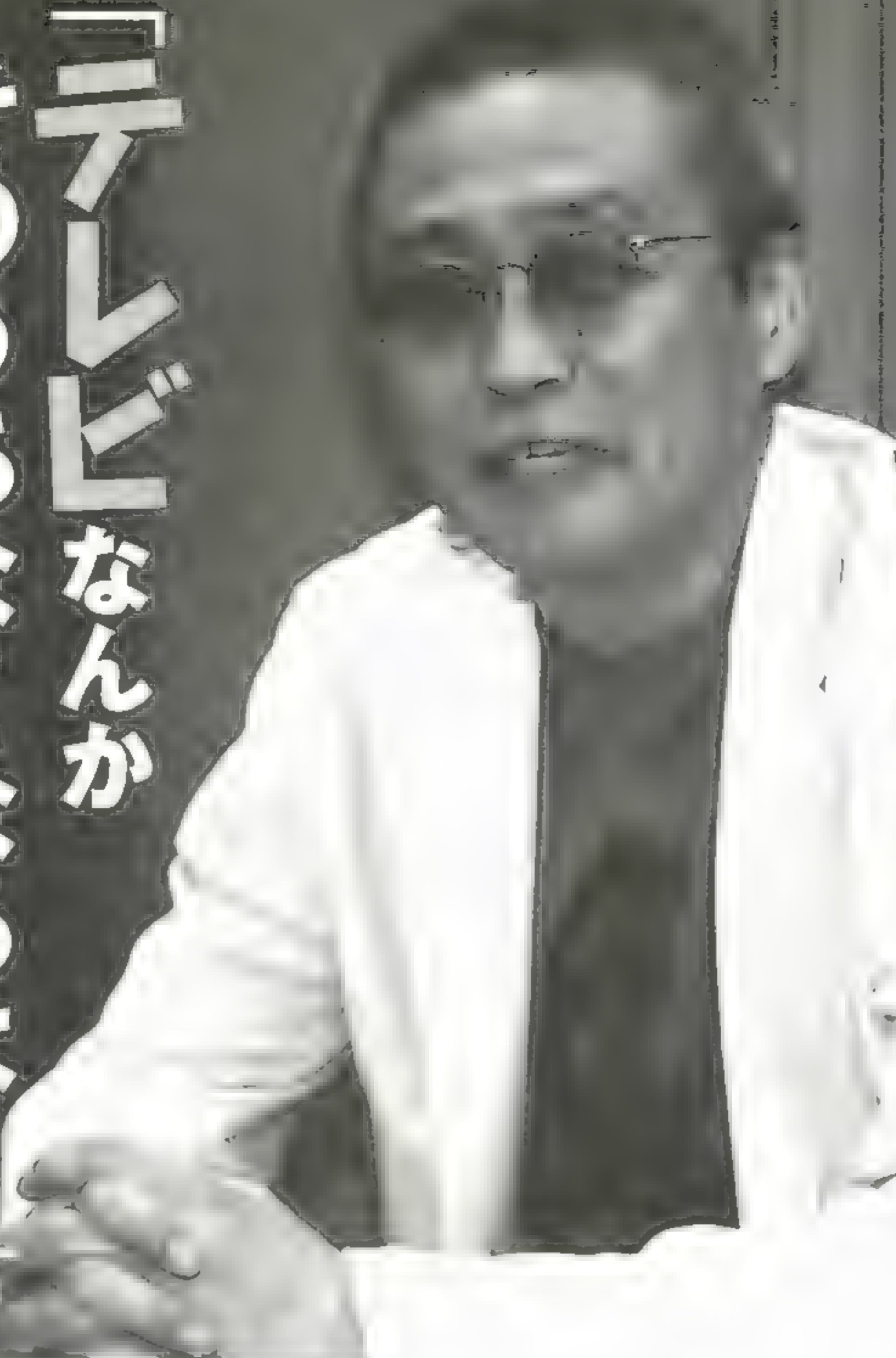
勝谷誠彦

ワイドショーでおなじみの暴走コメンテーターがぶった斬り!!

「テレビなんかそのうちなくなるよ!」

その歯に衣着せないコメントでテレビやラジオに引っぱりだこの論客が登場! 物騒な発言によって波紋を巻き起こしたことは数知れず。テレビ業界の酸いも甘いも知りつくした当代きっての辛口コメンテーターが、テレビの知られざる裏側、そしてその未来を語った!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／鈴木拓　試合写真／乾晋也

生き残れマット界
テレビを食うか食われるか?

――勝谷さんはプロレスや格闘技をご覧になったりするんですか?

勝谷　まったく興味ありません（笑）。

――そうですか（笑）。まず、いまの状況を簡単に説明しますと、プロレスは「ショーである」という認識が一般化していて、かつてのようなパワーはないんです。一方で格闘技のほうはちょっと前まで人気は高かったんですけども、PRIDEと黒社会との関連の記事が発端になってテレビ局が離れてしまって、それで人気が下火になってきてるんですよ。

勝谷　へえ〜、そんなことで人気が下がるんだ。そんなの力道山の時代からずっとそうなのに（笑）。

――まあ、なんと申していいのやら。

勝谷　要するにさ、テレビ屋さんの考え方っていうのは、すべてご都合主義なんですよ。そのへんはいつもナアナアなんだけどね

――勝谷さんはそのテレビというメディアをどれくらい信用なされて、番組などに出演されてるんですか?

勝谷　いや、テレビから呼んでもらってるから出演しているけども、もうすぐなくなると思うね、こんなもんね（笑）。

――それはお声がかからなくなるということですか?

勝谷　ちゃうちゃう。テレビそのものがなくなる。べつにいいんですけど。

――あ、失礼しました（笑）。

勝谷　ボクは「勝谷誠彦の××な日々」(http://katsuyamasahiko.jp/) というコラムを毎朝10時までに有料でメール配信してるんです　これは八百屋が直接、大根を奥さんに売るのと同じじゃ　直接、お客さんと取り引きしてるから、中抜き産業が存在しないわけ。

――それは理想的な環境ですね。

勝谷　テレビなんて代理店も挟むし、中抜き産業の最たるものだからね。そんな方々がたまたま放送免許を持ってるというだけで偉そうにビルを建てて、そのうえ高給を取ってるなんて、ホントにおかしいんですよ!!

――……勝谷さん、ここは某テレビ局の中なんですけど（笑）。

勝谷　ハハハハハ! もう一度ハッキリ言うけど、地上波のテレビなんてそのうちなくなるよ!!

――わざわざ大きな声でありがとうございます（笑）

勝谷　だって去年と比べて10パーセント以上も広告収入が落ちている。だからそれぞれの格闘技の団体もね、自分たちで動画配信して、お客さんから安いお金を取るという形態に絶対なっていくと思う。これは予言しとく。

――じゃあ、テレビに頼っている場合じゃないですね。

勝谷　うん。ただ、格闘技そのものがテレビに頼っている気は全然ないと思うんだよね。あいだに入ってる中抜きのヤツらがどこまで商売しようかと企んでるだけだから。典型的なのがいまのプロ野球。巨人vs阪神、同率首位でデッドヒートしてたでしょう。こんなの昭和30〜40年代だったらもう全国民的な話題になってるでしょ。でも全然、盛り上がってない。それはテレビが野球で商売しなくなったからですよ。

――確かにテレビがもっと煽ってもおかしくないですよね。

勝谷　うん。だからといって、野球がつまらないというわけじゃないよ。現場は盛り上がってるんですよ。

東京のテレビは視聴率の数字を気にしているけど、視聴者を見てないよ

――マニアはCS放送で観てるみたいですね。

勝谷　だから格闘技もいずれそうなるって。だいたいね、最近までテレビコマーシャルのお得意様だったサラ金、パチンコ、保険会社……、全部潰れていくじゃない。テレビと代理店は潰れてくバッタ産業を食いものにしてるわけだ。

――次はどこに頼るんだという話ですね

勝谷　もう何もないよ！　そうなると、コンテンツを持ってるヤツが一番強い。ボクが所属する吉本興業もコンテンツを持っているからホントは強いはずなのに、まだテレビなんかに依存してやってるんだけども。だから吉本も最後に生き残るのは営業で日銭を稼いでくる芸人さんなんだよ　で、格闘技だって現場で日銭を稼げるわけだから。

――それでもテレビの影響力は侮れないとは思いませんか？

勝谷　ただね、いま広告業界でどんなこと言ってるかって言ったら、「地上波を観ているような人たち」って言ってるわけですよ。つまり、所得が低くて自分の頭で考えない人々が観ているととらえてるんですよ。

――はあ（笑）。そうすると、いまのところ有効な手段としてはインターネットが挙げられますね。

勝谷　いまのところネットしかないわけだけども、ただそのネット自体もテレビ化や新聞化が始まっているわけですよ。つまり、ネットの中で加工されたニュースはもう怪しいと思わないといけない。ネットで、一次情報にたどり着き、それを語ってる人に対してどう耳を傾けるかということが問われてるんですよ。だから全員が主催者にならなきゃダメだ。

――なんだか複雑な時代ですねぇ。

勝谷　いや、世界はもうすでにそうなってるんですよ。自分で情報を取得する　世界で日本だけですよ、新聞をあんな押し売りみたいにしてるのは　テレビだって押し売りですよ。NHKなんか頼みもしないのに電波を振ってくるわけでしょ。俺、NHKの受信料の徴収員が来たら「俺は観たくないから、電波を止めてくれ！」って言うもん。「しゃあないねん、テレビつけたら映ってしまうもん。俺はそんな観たくないねん。勝手に映ってきてしまうんで、迷惑料をよこせ」って逆に言いますよ！

今年10月18日に行なわれた「Dynamite!!」の公開記者会見には、谷川FEG代表や笹原EPと並んで大会を放映するTBSの取締役事業局長・信国一朗氏も登壇。格闘技とテレビの密接な関係を物語っている。

――迷惑料ですか（笑）。

勝谷　でしょ　だから、そういう大衆に対して、情報をくれてやってると偉そうにしている時代はもう終わってるのよ。

――ネットにしてもテレビにしても、どう有効的に使っていくのかという話になってきますよね。

勝谷　だから一つ一つの言葉や情報に対して自分がどう対応するか。そこで取材力が要求されてくるわけ。そこでメディアリテラシー、つまり情報力に対する感覚の実力の差が出てくるんですね

――ネットの話でいうと、最近ではかなり暴走気味なところもあるわけじゃないですか　ネット以外の手段って、勝谷さんの中で何か考えられますか？

勝谷　いまはないでしょう。とりあえずいま全部がつながってるのはネットだからしょうがないよね　当然、その中で副作用もいっぱいありますよ。それを上手に乗りこなせる国が発展していくだろうね　ただ、基本的には匿名制はダメです。韓国も暴走気味だけど、アクセスするには一定の登録がいるわけで。日本もやっぱり自分の名前でものをしゃべらないとダメだと思うけど、最近はネットで叩かれても屁とも思わなくなってきてるよね。

――そこはもうマヒしてますね。ちょっと話は変わりますけど、勝谷さんは大阪と東京でテレビに出演されてますけど、東京と大阪ではだいぶ規制は違うそうですね。

勝谷　東京は責任を取らない方々がテレビをやってます。役人がテレビをやってる感じや。大阪はその東京のバカさを笑いながら、それに対抗して「ウチはここまでやったる！」っていう具合にプロデューサー同士がチキンレースをやってる。

――チキンレースの闘いですか（笑）。

勝谷　大阪には『ムーブ！』（ABCテレビ）っていう最高の情報番組があるけど、周りを見ながら「俺はもっとここまでやったる!!」みたいなことをやってんねん。それをプロデューサーが笑いながら最後は自分が責任取るという。だから大阪の番組はおもしろい。とくに『ムーブ！』がおもしろい！

――東京と大阪の一番の違いってなんですか？

勝谷　簡単に言うと、東京のテレビ番組は官僚的な体質。逆に大阪はやっぱり商人の町で、視聴者を見て物事を決めるんですよ。東京の場合は官僚や役人を見がちですね。日テレでいうたら氏家（齋一郎）とかナベツネを見とんねん。アホとしか言いようがないね！

――視聴者を見てないわけですね。

勝谷　見てない　視聴率の数字を気にしているけども、そのわりには視聴者を見てないよね。

――勝谷さんは出演者として視聴率って気になります？

勝谷　全然、気にならない。っていうか、数字を聞いたこともないよ。宮崎哲弥さんは聞くんだよ。

ダッハッハッハッ。

勝谷　取り寄せて見てるもん！　ただ、ボクが出ると視聴率がポーンと上がるという話は、耳に気持ちいいから聞くことはあって、マネージャーにちょっと自慢はするよね。こないだの大阪のラジオなんか、日曜の朝6時半からの放送なんだけど、ボクが出ると聴取率が1パーセントなんだよ。ラジオの1パーセントっていったらテレビの10パーセントに匹敵するんだけど。

やっぱり勝谷さんの言動は聞き逃せないということなんでしょうね。

秋山成勲vs三崎和雄などの夢のカードが実現、超満員の大観衆を集めた「やれんのか! 大晦日!2007」。しかし、これだけ集客してもテレビ放映に頼らないとイベントが成り立たないのが格闘技界の現状なのだ

ボクは自分をコメンテーターじゃなくてアジテーターだと思ってます

勝谷　またプロデューサーが煽るからね。ボクが認定する「日本3大キ イプロデューサー」っていうのがいるんですけど。そこのプロデューサーと、TBSラジオの「ストリーム」のプロデューサーと、「ムーブ！」のプロデューサー。この3人は考え方がまったく同じ　自分が出世するんじゃなくて、いかに勝谷を使ってギリギリのチキンレースをやって、世の中を騒がせるかってことしか考えていない。いまのテレビの人は、いかに世の中を騒がさないかを考えてんねん　今日も番組が無事に終わって、明日も給料がもらえるということだけ考えてるわけで　ただしこの3人は全員最近異動になった（笑）

——勝谷さんはいつでも波風を立たせたいわけですね

勝谷　テレビのコメンテーターの多くはヒドイからね　いかにこの場を無難に切り抜けるかしか考えてないでしょ。だから誰でも当たり障りのないことばっかり言うじゃないですか。でも、ボクは自分をコメンテーターじゃなく、アジテーターだと思ってるんですよ

いかに煽るかという

勝谷　無難なコメントは台本どおりにアナウンサーが言えばいい話で、「ボクはこういう違った考えなんですけど、皆さんはどう思いますか？」って、視聴者を挑発しなきゃ意味がないじゃない　そこでもし問題が起きてもいい　トラブル大歓迎なわけよ！

——トラブルが起きることによって、またその問題を深く考えようっていうムードが出てくるわけですからね

勝谷　そうそう　だからテレビ局のプロデューサーは、コメンテーターに「もっと視聴者を挑発してください」と言わなきゃダメなんですよ。とボクは思うんだけどね。

収入が大幅減少! テレビ広告の現状

民放テレビ局の収入源で占める割合が多いものといえば、もちろん広告収入（CM）。しかし、在京民放キー局5社の08年6～6月期連結決算によれば、各局ともテレビ広告が大幅に減少したため、本業の儲けを示す営業利益はいずれも大幅減益となった。テレビ広告の中でも、自動車や保険業界など大口の広告スポンサーのCMが減少したことがその遠因と見られている。

営業利益が19.6％減となったフジテレビは、この現状について「景気先行き不透明感が強まる中、全般的に広告出稿量が減少した」と説明。今春から「赤坂サカス」を稼働させることで、不動産事業が好調だったTBSも、広告収入が前年度割れとなったことが響き、営業利益は48.2％減に。

テレビ東京は、前年同期に出資した映画が大ヒットした反動により、営業利益は69.6％減。また、同局は11月4日には09年3月期連結決算の税引き後利益が、8月時点で予想した18億8300万円の黒字から1億5200万円の赤字に転落する見通しを発表。税引き後赤字は1976年3月期（当時は単体）以来33年ぶりとなる。

61.8％の減益となった日本テレビは、番組制作費の増加により利益を圧迫。テレビ朝日のみが、CD販売などを手掛ける音楽出版事業が伸び、3.0％の増収となった。

ネット広告の伸び率が上がっていくのに反比例するかたちで、低迷を見せているテレビ広告。テレビ局にとっては厳しい時代と言えるだろう。

ちょっと話は変わりますけど、最近

したって、普通やったらとっくに追放さ

てつけ足さないとあかんかった。

これで番組をたくさん降ろされてきた。

いまのテレビは個人的保身で規制されてる
ボクはその裏事情をまとめて書けますよ！

――ちょっと話は変わりますけど、最近の政治家の発言とかもそうですけど、以前よりテレビに対するタブーが破りやすくなってる雰囲気があると思うんです。

勝谷 いや、破りやすくなってるというか、以前が異常だっただけ

――あ、そうなんですか。

勝谷 だいたいタブーって何？って話なんだよね。あきらかな人種差別的な発言や一方的な誹謗中傷はしちゃいけないと思うけども、それ以外でなんで言っちゃいけないことばかりあるのか。それは日本が異常なんですよ！ それはなぜかというと、日本は非常に左翼が強かった時代があった。左翼じゃなくて、ただの左翼のふりをした利権屋が、タブーを問題にすることで自分たちの金や利権につなげていったわけですよ。

――最近はその問題が続々と表面化してきてますね。

勝谷 で、なんで日本は左翼が強くなったかというと、古い話になるけど、戦後、レッドパージの公職追放で現場のトップが外れたわけ 大学の教壇からも外された そのあとに助教授とか下の教職だった人間がそのまま昇格した、そのほとんどが左翼の連中だったんですよ そいつらがそのまま教育界を牛耳って、それで日教組ができて、ちょっと毛沢東万歳みたいな空気だったわけ

――毛沢東万歳ですか（笑）

勝谷 北朝鮮万歳でもいい！ 「北朝鮮は天国です〜!!」って言うとったヤツらにしたって、普通やったらとっくに追放されとるけど、まだ生き延びて偉そうな顔してるわけでしょ。そういう構図が日本にはずっとあった。で、そういう連中がだんだん定年になって死に絶えてきたから、タブーが破られるのは当然のことであって。

Masahiko Katsuya

かつや・まさひこ■1960年12月6日、兵庫県出身。コラムニスト、写真家。小説や紀行文、時評コラムまでさまざまな媒体で連載中 また、グルメにも造詣が深く、関連著書も多数。コメンテーターとしても、「スッキリ!!」（日本テレビ系列）、「ムーブ!」（朝日放送）などにレギュラー出演している。

――なるほどぉ

勝谷 ボクはだから風潮とか傾向とかっていう文芸的な見方は嫌で、これって凄く理系的な話なんですよ。ただ単に左翼の連中が定年を迎えて絶えたから、普通の日本人の普通の感覚が戻ってきた たとえばちょっと前までは「北朝鮮」って言うたあとに「朝鮮民主主義人民共和国」ってつけ足さないとあかんかった。

――ああ、テレビのニュースなんかでもそこは徹底されてましたね。

勝谷 それもいまはなくなった 結局、力関係、単なる物理的・経済的な問題なんですよ。あと、ちょっと前までは「部落」という言葉も言えなかった 「部落」って、大事なきれいな日本語ですよ それが同和関係の部落を意識させるからってタブーになってたんですよ。そんなこともだんだんなくなってきた そういう左巻きが上におったときに、現場がこれはあかんかもしれないなと自主規制してたわけ。それがだんだんなくなってきたんで、そうなってきたわけですわなあ。

――でも、過剰なまでの自主規制は止まらない雰囲気はありませんか？

勝谷 うん そういう意味の、言葉的自主規制はなくなったんだけども、もっとくだらないアホな自主規制はあって。ボク、これで番組をたくさん降ろされてきた。ぎょうさん降ろされてますよ。

――勝谷さんを使ってると自分が出世できないとか？

勝谷 くだらない理由や。ボクね、どうやって番組を降ろされたかという詳細が全部わかるんですよ。テレビ局は知らないと思ってるかもしれないけども、ボクは現場の人間をよく知ってるわけだし、「ああ、そうか こういう理屈で降ろすんか」って教えてもらえるんですよ。ホントにくだらない保身だよ 個人的な保身で規制をしているわ、いまのテレビは。

――それは左翼よりもある意味で厄介ですねぇ。

勝谷 まあ、ボクが必要だったらテレビ局はまた呼ぶでしょ こっちはべつに一向に困らないわけで。だから番組の降板要請をあまんじて受けて、べつに抗議もせず、また同じ番組に「またそろそろ次に使ってもらえませんか？」とか言うねん（笑）。ただし、俺はこれまでの裏事情をどっかでまとめて書けますよという話よ。

――ククク。

勝谷 ちょっとでもこんなことを言うと、真っ青になって「そんなことありません！」って。だから、どっちがメディアを握ってんねんいう話や。俺がコンテンツを握って、おまえらは電波を持ってるだけやろ、と。

――勝谷さんは強いですねぇ。

勝谷 もうね、テレビ様様で頭を下げる時代は終わってるんですよ！ 俺が終わらせる!!（笑）。

――格闘技もここまでタフにならないとダメかもしれない（笑）。今日はありがとうございました！

【08年10月8日 都内・某テレビ局内にて収録】

崩壊するテレビのモラル

ドキュメンタリー作家が語った現代テレビ事情

森達也

[illegible]は長らくテレビ制作の現場で[illegible]な演出で変質していく[illegible]や[illegible]をズバッと直撃!!

――今回は、テレビドキュメンタリーの現場にいた森さんに、テレビのタブーや軋轢と闘われてきたお話を中心にうかがいたいな、と。

森　……いや、申し訳ないけど僕は闘ってないですよ(笑)。

――あ、闘ってない?

森　少なくとも現役の頃はそれほど。オウム信者を被写体にした『A』や放送禁止の唄を取り上げた『放送禁止歌』や、エスパーを主題にした『職業欄はエスパー』とか、動物実験とか取り扱ってるから、「よくタブーを破りましたね!」とか言われるけど、当時はタブーってこと自体よくわかってなかったから

――それほど自覚はなかったですか

森　うん「ちょっとまずいのかなあ」みたいな意識はあったけれど、逆に言えばその程度。確かに企画が通るまでは大変だけど、どんな企画でもそうだし だいたい一制作者がテレビとなんか闘えないですよ、試合にならない

――なるほど 最初の作品はミゼットプロレスがテーマ(『ミゼットプロレス伝説~小さな巨人たち~』92年放送)ですが、これはすんなりとは?

森　当時、僕はテレコムジャパン(現テレコムスタッフ)って制作会社にいたんだけど。ディレクターになりたてで、テレコムのプロデューサーに企画を見せたら、「こんなの局に持っていけない!」と一蹴されました。のちにフリーになって、自分でフジテレビの編成に持っていったんです そこで共同テレビジョンっていう制作会社のプロデューサーを紹介してもらって、局の編成に上げてもらった。そこを通ったら、今度はあっという間でした。

――編成に話が通れば、トントン拍子なんですね。

森　編成がおもしろがってくれたんでしょう ただロケに入る前に打ち合わせでフジに行ったら、女子プロレスのプロデューサーが近寄ってきて「ミゼットの企画は俺もやろうと思ってたんだ」って(笑)。テレビ局は縄張り意識が強いから

――ただ実際、刺激的な題材ばかりじゃないですか、森さんの作品って。

森　普通の番組もやってるんだけどね。『世界の常識・非常識!』(フジテレビ系)っていうダウンタウンがレギュラーで、逸見政孝(アナウンサー)さんが司会やってたクイズ番組とか あと子ども番組もやってました。『じゃんけんキッズ』っていう『みんなのうた』のTBS版みたいなの。ほぼ打ち切りだったけど(笑)。

――ただ、そもそも森さんはテレビ業界に憧れがあって入ったわけじゃない?

森　映像が好きだったんですよ、学生時代は自主映画をやってたし、29歳まで芝居をやってた。でも、映画業界は徒弟制だから、年齢的に入れるはずがない。結婚して子どももできちゃったから、テレビなら最低限の生活はできるかなって。

――実際、テレビの世界に入られて、いかがでした?

森　当時は「なんとなく違和感がある」というのはあったけど、あまり言語化できてなかったですね。たとえば報道の場合、容疑者が捕まったとき手錠にモザイクをつけるでしょ。あれがさっぱり理由がわからなくて。プロデューサーに聞いたら「容疑者の人権を守るため」って。でも、手錠だけモザイクで顔につけないのは腑に落ちないし、ただの習慣ですよね。車のナンバーにもモザイクつけるでしょ?

――絶対につけますね。

表現ってホントは減算しなきゃダメ でも、いまのテレビは全部が加算方式

森 この場合のモザイクの理由は、陸運局で調べられたらその車の持ち主の個人情報がわかってしまうからということらしいのだけど。でも、大家族のドキュメンタリー番組とか、撮ってる家の人の名前や顔、どこに住んでるかまで出てるのにね。そういうオートマチックな規制を無自覚にやらされる違和感はありました。あと報道ではスポンサーの問題もある。「こういうネタがあるけどスポンサーがトヨタだから難しい」とか、スタッフルームの会話でもしょっちゅうあったし。

そういう部分で自主規制的な動きが出てくる、と。

森 突っぱる場合もあるけど、その突っぱりが弱くなってきてますよね。報道系全般的に、とくにここ十数年で圧力に弱くなってる。それにいまのテレビってムチャクチャ分業性なんですよ。ワイドショーなんか、前日に撮ったものは次の日にオンエアするから自分で編集して、自分で構成を考えてる時間がない。構成作家があらかじめナレーションを作って。それをもとにディレクターが現地で画を撮って。編集をまた別の人がやって、詳しいナレーションを別の構成作家が書いて、ナレーターが入れてでき上がり。それは作ってるほうはおもしろくないですよ。

――個人の主観とかは入ってこないですね。

森 ホントはちょっと入ってるけど、個人の視点が整合性なく集まってるから、最終的にはわけわかんなくなる。これは一つには効率化もあるし、もう一つは「客観的にやってます」っていうポーズでもあるんでしょう。

――分担して、責任を散らすというか。

森 いまのテレビって"足し算"なんですよ。「動物もののドキュメンタリーを撮ろう」となったら、NHKのBSならシンプルな構成もあるけど、民放の場合はそれでは終わらない。まず現場のレポーターをタレントにしろ、と。

――そうなりますね。

森 ロケから帰ったら、スタジオに司会者を入れ、人気コメディアンも入れ、クイズ番組にする。視聴者参加の要素も加える。さらにおばちゃんの笑い屋さんを呼ぶ。で、収録が終わったら、編集でナレーションを入れ、扇情的な音楽を入れ、テロップもたっぷり入れ込む。最近ではスタッフの笑い声も入れますね。全部が加算方式です。

どんどん加工して、生の味がわからなくなる。

森 でも表現って、ホントは減算じゃなきゃダメなんです。情報化って意味ではアリかもしれないけど、僕は映像表現をやりたかったんで、そのへんの乖離は凄かった。逆にタブーについてはそんなに感じなかったけど。……ただ、僕が好きにやれたのも深夜ワク（『NONFIX』フジテレビ系）でしょ。ユルいんですよ。ユルい理由はスポンサーがついてないし、深夜3時50分からオンエアとかだし、関東ローカルだし、観てる人もほとんどいない。ただ、テレビは視聴率が1パーセントでも100万人とも言われてますから。とんでもない数字だけど、テレビ屋には眼中にない数字ですから。

――そんな数字でも話にならない。

森 加えて、局の偉い人が観てない。これは大きいです（笑）。だから局側も「まあいいよ」みたいな感じでできちゃう。

でもなぜ、そういうワクがあるんですかね？

森 『NONFIX』って、僕が業界に入った頃からあったけど、あの頃は"ガス抜きのワク"って言われてました。ドキュメンタリーを作りたくて業界に入る人もいるでしょ。でも実際、さっき言った情報系バラエティばっかりで。どんどん鬱憤が溜まる、と。だから、「『NONFIX』でガス抜いてこいよ。好き勝手にできるぞ」と。で、視聴率も気にしなくていい、と。

――最後に残された白山区というか。

森 あとは若手が、ADからディレクターになりたてのヤツにも作品をやらしてくれる修練の場みたいなところもあった。

ただ、深夜といえども、『NONFIX』って影響力もありましたよね。

森 ユルい空気感から派生して、けっこうおもしろい番組が出てきた。映画監督の是枝裕和さんなんかも出たし。「ここなら、クリエイティビティを試せる」って感じで根づいたんでしょう。

――あと「足し算」とおっしゃいましたけど、最近はテロップが過剰ですよね。

森 僕なんかの時代はディレクターが番組を作るでしょ？ それがオンエアされて地震でもあったら、髪をかきむしって悔しがったもんです。速報が入るでしょ？ あれが我慢できない。「よりによって俺の番組にテロップが！」って。

――そこまで悔しいもんですか？

森 いや、あたりまえですよ。テレビも画ですもん。僕らはテレビでもそういう意識があった。でも、それがオウム真理教（当時、現アーレフ）の報道以降、番組の作り方がハッキリ変わっちゃったし、さっきのモザイクの話もそうです。僕がテレビをやってた頃は、モザイクは究極の選択でしたから。できるだけモザイクつけないよう、肩ごしから被写体を撮るとか。

――最終手段だったわけですね。

森 顔を出せないけど出すしかないときの手段だった。でも、オウム事件の頃は一年以上、朝から晩までオウムって時期があって。でも映像の素材はほとんどなかったわけです。麻原（彰晃）は拘置所に入ってるし。残ってるのは現役信者だけど彼らも一市民だから顔は出せない。だから、モザイクをかけるしかない。それでモ

森氏が最初に手がけたテレビドキュメンタリーが、ミゼットプロレス伝説～小さな巨人たち～」(1992年放送) テレビに黙殺されていたミゼットプロレスの世界に光を当てた

ザイクだらけの映像が氾濫して、視聴者も麻痺しちゃった。

——モザイクは当然って感じになって。

森 それにテレビ側が、「モザイクを使えばなんでもできる」ことに気づいたんです。事件の裏取りで、近所への聞き込みでは、昔は顔出しが基本だから、必死に説得して、「何かあったら責任取りますから」って信頼関係を作って撮ってたけど、いまはしゃべるほうもモザイク前提でしゃべるから、よりコメントが過激になるわけです

匿名性で、ネットの掲示板なんかと近い感覚ですね。

森 僕はそれがイヤだから、オウムを描いた映画『A』や『A2』ではモザイクなしで撮ったけど。いまは画に対するこだわりがないし、現場もモチベーションは下がるよね 最近のテレビ局の新入社員は、ドキュメンタリー作りたいなんて人はほとんどいないんですって。じゃあ、「やりたいのはバラエティ？ 報道？」と聞くと「事業部にいきたい」と。

——えっ、事業部に？

森 イベントとかコンサートとか。映像じゃないんだね。「テレビという企業に入りたい」ってのが強いんでしょう。

—僕らもフジテレビとかはイコール、大企業ってイメージで。だからこそDREAMの煽りVを作っている佐藤大輔さんがフジテレビを辞めたのは、凄い気概を感じましたから。

森 そうだね。そこは僕もホントに凄いなと思います。

—そんな森さんは、じつは『日本国憲法』という企画で、テレビの現場に戻ろうという動きもあったと聞いてますが。

森 『NONFIX』の出身者、是枝さんたちが集まるスペシャル企画として、依頼がきたんです。

ついに持ち込む側じゃなく、「やってください」と依頼がきた、と。

森 そうだね（笑） そこで企画案を出し合ったんだけど、僕は前から「天皇制をテーマに撮りたい」と思ってた そのとき僕が皆に提案したのは「憲法でやらない？」って。「憲法っていろんな条項あるから、好きなのやればいい」って、そしたら、是枝さんは「九条をやりたい」とか。ドキュメンタリー・ジャパンって制作会社は「二十一条をやりたい」 とか言うわけです で、みんなうすうすわかってんの、「森は一条（天皇制）だな」って

天皇のドキュメンタリーは頓挫したが、森氏は書籍で自身と憲法の関わり、第九条を中心に『日本国憲法』（太田出版）を執筆。番組中止の経緯、選挙の応援演説などが描かれるが、憲法への違和感はオウム真理教という異物と社会の関わりが出発点だったようだ

簡単に見破られましたか（笑）。

森 局の担当も了承して、放送に必要な番組コードもドりて、オンエア日も決まってたんです ただ、深夜のドキュメンタリーは普通は上に話が行かないんだけど、これは徐々に話が伝わっちゃった。

一つの目玉番組として、話が行っちゃったわけですね。

森 で、誰か偉い人が「まずい」と言いだした。そのとき、騒ぎになってたのがNHKのETV（2001年1月『ETV2001 シリーズ戦争をどう裁くか』第2回「問われる戦時性暴力」）の問題で「天皇の戦争責任を裁く」というドキュメンタリーに、自民党の政治家が圧力をかけて番組の内容が改変されていたことが大問題になっていた。その影響もあったかもしれない。僕の企画は天皇に会うまでの過程を撮る〝電波少年・天皇版〟みたいな企画だったから、フジ側は「どうせ天皇に会えないから、無理です」と言ってきた。こっちが「会えなくても成立するんだけど」って言っても、その一点張りでした。無理に撮影を続けても結局は無傷で放送することは不可能だってその時点でわかったし、最終的には降りちゃったんだけど。

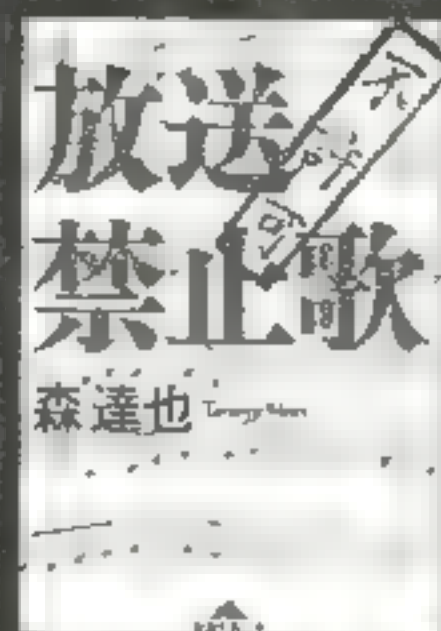
——天皇がテーマというのは、以前から考えられてたんですか？

森 ワールドカップのときかな。天皇が、天皇家と朝鮮半島との関係について記者会見で発言されたんです。

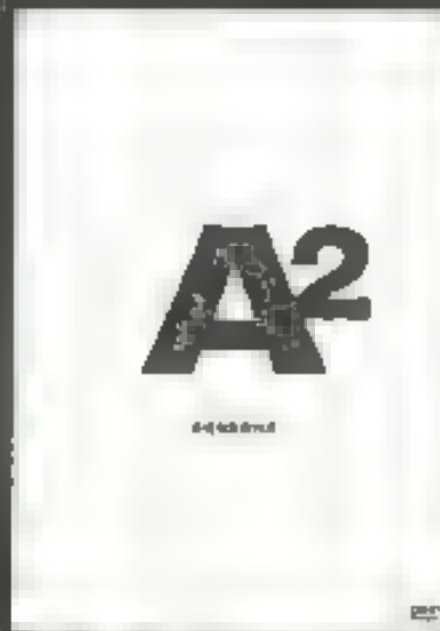
——2001年12月の、今上天皇の誕生日会見で日韓共催のワールドカップについての発言ですね

森 日本書紀にも書いてあるけど、「朝鮮半島からの末裔が天皇家」っていうことは、みんなうすうす知ってるわけです。仁徳天皇陵をなんで公開しないかって、開ければ朝鮮のものばかり入ってるからです で、誰も口にできなかったことを天皇があっさりと口にした。でもどこもキチンと報道しなかったんです。

——メディアはその発言にみんなビビったわけですね

森 翌日の朝、天皇は新聞各紙見ながらがっかりしたんじゃないかな、と。その情景を考えたとき、「会ってみたい」と思って。もし天皇本人にアクセスできれば「いいですよ」って言いそうな気がして。そんな雰囲気の方ですよね。「映画でどうですか？」っていうオファーもきたけど、テレ

『放送禁止歌』（知恵の森文庫）
99年に放送された同名番組の書籍化。森氏がテレビのタブーだった放送禁止歌の真相を当事者の歌手からテレビ局、部落解放同盟まで直撃。映画『パッチギ』にも影響を与えた一冊。

『職業欄はエスパー』（角川文庫）
98年に放送された同名番組の書籍化。今号にも登場した清田益章氏、秋山眞人氏、堤祐司氏という3人のエスパーの不思議な日常を描いた。現在、『本の旅人』（角川書店）で続編を執筆中。

『A』（マクザム）
過剰で偏向的な報道が続く中、森氏がテレビの企画から自主映画として完成させた当時のオウム真理教（現アーレフ）の内部にただ一人食い込んだ傑作ドキュメンタリー映画をDVD化。

『A2』（マクザム）
前作『A』から2年半後、再びオウムを被写体にした作品。メディアで決して報道されることのなかったオウム信者と地域住民の不思議な関係をユーモラスな視点も交えて描いた作品。

映画『A2』より、地域住民と談笑するオウム真理教信者（当時）　こうした交流の事実はオウムを「絶対悪」としたいテレビに都合が悪いことで、報道しないことで偏向ぶりに拍車がかかった

ビという一番圧力に弱い、脆弱なメディアでやることに意味があると思ったんで。

——先日、別のインタビューで「力道山が韓国籍って話をテレビではまだ言えない」というお話もうかがいましたけど（『八百長★野郎』小社刊に収録）。わかってるのに言えないっていう。

森　テレビは、いまだに多いですよね。

——そういう意味で、規制の原因の一つのスポンサーってそんなにテレビにとっては重大なものなんですか。

森　スポンサーと電通（広告代理店）は鬼門でしょう。ただ、じつは先日、テレビの番組の審査で『地方の時代映像祭』っていうローカル番組の審査をやったんですけど、そのグランプリを獲ったのが、トヨタの暗部を暴いた（『夫はなぜ、死んだのか～過労死認定の厚い壁～』毎日放送）番組なんです。テレビにとっては大スポンサーを表立って批判した作品です。

オウム事件以降、テレビは「モザイクを使えばなんでもできる」ことに気づいた

——はぁ～。よく放送できましたね。

森　作品そのものというよりも、トヨタを敵に回したことを評価しました。

——地方はそういう骨のある方もいらっしゃるんですね。あとテレビではヤラセも問題になってますけど

森　表現って〝虚〟ですから。自分の主観みたいなものに基盤を置くことが大事で、自分の主観じゃないものに基盤を置くとヤラセになっちゃう。例の『発掘！　あるある大辞典』（フジテレビ系）での納豆問題ってあったでしょ？　あれは海外の科学者にインタビューを取って、「納豆はダイエットにいい」ってことをねつ造したわけです。問題は、科学者はそう言ってないわけで、そこで制作者は自分の主観や現場を裏切ってるわけです。

——裏切って、でっち上げたわけですね。

森　僕も現場で感じたことを表現するときは、いくらでもウソはつきますよ。このコーヒーが「マズい」と感じたら、どうマズいかを手練手管を使って表現する。それは僕がそう感じたからやるわけで、許される演出の範疇だと思っている。でも本当は「おいしい」と思ったのに「マズい」との嘘はダメです。自分を裏切っているから。くだらないヤラセですよ。でもそういうのが多くなってる。

——なんでそんなことが起きるのか……。

森　一番は視聴率競走でしょうね。で、視聴率測定の会社ってかつてニールセンとビデオリサーチの二つの会社があったんだけど。そのニールセンが2000年に駆逐されてしまったんです。

——はぁ～、そうなんですか？

森　日本の局がみんな契約を打ち切っちゃった。……ただ、もともとビデオリサーチって電通の天下り先なんですよ。でも、電通って視聴率でメシ食ってるわけでしょ。

——うわぁ……（と絶句して）。

森　普通ならありえない。最初からおかしいんですよ、視聴率って。

——それこそ操作できる可能性も

森　さすがにそこまでしてないと思うけど。電通の息のかかったとこで視聴率調べてもらって、それでスポンサー料が決まるわけだし、それで民意が作られちゃうわけでしょ。昔からビデオリサーチとニールセンはほぼ数字は一緒で違いはなかったから、不正はしてないと思うけど、そういう会社が独占して、そこに依頼するのは違和感がありますよね

——中立の立場がやんなきゃいけないことですよね。そんなテレビもいまは全般的に視聴率が落ちたり、危機説もありますけど、いまだに主力メディアであることに間違いはないですよね、

森　そりゃあガリバーですよ、圧倒的な巨人です。さっきも言ったけど、1パーセントで約100万人ですよ？　出版で一冊100万部なんていったら大変なことでしょ？　でもテレビで1パーセントは、すぐ打ち切りですもん。

——そこは、うまく利用すればいいのかもしれない

森　僕も少なからずテレビの恩恵はあるハズだし、そこはおもしろい部分でね。確かにテレビってどうしようもないけど、そのどうしようもないのも僕らが望んで、選んでるわけですから。ただ、今後は規模は縮小されるんじゃないかな。

——あまりに突出してますからね。

森　それに給料がよすぎる（笑）。フジテレビの同年輩の人にばったり会ったんだけど、彼は10年前にフジ辞めてるんですね。で、ベンチャー起業をやってるんだけど、「年収が3分の1になった」ってボヤくわけ。「いくらになったの？」って聞いたら「1000万」って（笑）。

——こっちがボヤきたいですね（笑）。

森　いま、フジの昼間のドキュメンタリー番組が、今季から番組制作費が3分の1に削減だって。それもスポンサー料が減っているかららしいけど。だったら、まず局員の給料下げろって（笑）。

——まずはそこからですね。今回もためになるお話、ありがとうございました。

【08年10月6日／都内の某喫茶店にて収録】

もり・たつや■1956年5月10日、広島県呉市出身。映画監督、ドキュメンタリー作家。98年にオウム真理教を被写体とするドキュメンタリー映画『A』を公開し話題に。現在はドキュメンタリー制作、執筆活動を中心に活動。プロレスの著書にグレート東郷の出生に迫った『悪役レスラーは笑う』（岩波新書）

自称天才たかしの[illegible]が出るテレビ!!

〜ある62歳のテレビと日常〜

テレビばっかり観てるとターザンになっちゃうよ！

今回の『kamipro』は「テレビ特集」。しかし、多忙なマスコミ業界に身を置いていると、ほとんどテレビを観ることができないことも確か。
そんな中、誰よりもテレビを観ている男がいた！ そう、毎日が日曜日ことターザン山本、その人だ。というわけで、誰よりもテレビを観ている男にテレビ日記を書いてもらいました。
ターザン級にヒマでヒマで仕方がない人は、ヒマ潰しにお読みください。

構成　堀江ガンツ

10月20日(月)

なんなんだよ。あの早朝ワイドショーというやつは。あきれたよ。**『みのもんたの朝ズバッ！』**(TBS)をたまたま早起きして観たよ

まだ午前5時半だよ。なんでこんな朝早くから、やれ事件だ。殺人だ。サギだ。八百長だ。不正だとネガティブな情報ばかり流しているんだ。朝って神聖な時間だよ。誰だってもっと静かに朝を迎えたいんじゃないの？ 不愉快だ。腹が立った。むしゃくしゃした。

チャンネルを変えたら、ほかのテレビ局もみんな同じようなことをやっていた。くだらない。バカバカしい。狂っている。

明日から放送は午前7時からにしろ。7時前は放送禁止だ。そのほうが日本列島が汚されないで済む。

もう『朝ズバッ！』は二度と観ることはない。いや、7時前にテレビをつけるのはやめた。7時になってチャンネルをNHKに切り替えた。

『おはよう日本』。NHKはいいねえ。司会者の男性が一人でニュースを伝えていた。民放のように、はしゃぎ放題ではないから、落ち着いて観れる。精神安定には断然、NHKだ。まるで清流に出会ったような気分だった。民放は汚水だよ　汚染水だよ。

その後、レッドソックスとレイズの試合が気になって、NHKのBSを観る。**『大リーグ レッドソックスvsレイズ』**。お、レッドソックスが1対0で勝っていた。そこでテレビを切った。試合を全部観るほどヒマではない。

10時からNHKの**『知る楽選』**を観る。永井荷風を取り上げていた。文芸評論家とやらが荷風の食生活を大正、昭和、戦後と紹介していた。不毛だよ。荷風はいい。おまえの人生はどうなんだ？ いくら荷風のことを語っても、おまえは荷風にはなれないんだろう？ わかったようなふりをするなた。しょっぱすぎる。

レッドソックスの試合が気になる。**『大リーグ レッドソックスvsレイズ』**。あれ、2対1でレイズに逆転された。そうしたらホームランを打たれて3対1になった。テレビを切る。もう観なくてもいい。レッドソックスを応援していたからだ。

どうせ今日もヒマたったので、午後4時から**『水戸黄門』**(TBS)を観た。黄門様は佐野浅夫　オー、そうか。再放送なのか。そうだろうな。こんなコテコテの勧善懲悪ドラマなんて、世の中、じいさん、ばあさんしか観ないよ。

水戸黄門はプロ野球の巨人の試合中継、プロレスの試合中継と並ぶ、昭和のテレビの三大遺産だ。三つともいまやシーラカンス状態と思っていたら、この日、8時から里見浩太朗が水戸黄門になっていたんだよ。

え、ええ〜、まだ昭和のシーラカンスは生きていたのか。巨人もプロレスも死んでしまったというのに……。水戸黄門は日本の不滅のDNAなのかあ。まいったなあ。ア、チャ、チャ、チャだよ。「水戸黄門」を永遠のゴールデンタイムにしているのは、由美かおるさ。

あの紅一点がいいんだよ。由美かおるの代役は誰もいない。いるわけがない。

「水戸黄門」の続きで、**『イブニング・ファイブ』**(TBS)をつい観てしまう。

何？ 17年前の二子山理事長のテープが公開された？ なんだよそれ？ テープを取っていたヤツを出せ。テレビを切った。

6時からBSで**『プロ野球 セリーグクライマックスシリーズ 阪神vs中日』**を観た。0対0か。またしてもチャンネルを回して、ほかの番組を"つまみ食い"してしまう。

何？ 7時から大島渚と小山明子夫妻の看病生活4000日密着ドキュメント？ それは興味深い。テレビ朝日を見直した。**『ドキュメンタリSP』**。これは最後まで観た。脳出血で倒れてしまった大島渚、

あれを観たら俺は絶対に倒れられないなと思った。だって看病する人がいないんだよ。小山明子はえらい。リハビリを頑張った夫に対して「ごほうびよ」と言って、彼女が夫に添い寝して、ホッペにチュッと口づけしたシーンには泣いたよ。

8時から再び**『中日vs阪神』**を観る。中日が9回、ウッズのホームランで勝った。中日ファンの人間としてはやれやれである。

9時から今度はBS2で中国映画**『ココシリ』**を途中から観ていたら、彼女から電話があり、いま近くの「ジョナサン」に来たからと言われたため、「ココシリ」は観ずに出かけた。

家に帰って11時半から**あいのり**を観る。男と女はなぜすれ違うのかをトークする番組。これはおもしろかった。石田純一となんとか史子さん（編集部注・西川史子）が出ていた。脳科学者の茂木健一郎さんが解説。

茂木さんは頭がいい。すべてを素早く説明する。男の殺し文句はみんな"遊び道具"と発言。女の人のネガティブな考えを"負のスパイラル"と言った。

なるほどなあ。この「あいのり」はいかす番組た　気に入った　次も観よう。なんとか史子さん、真っ赤な服を着てズバズバと言いたいことを言う。ちょっとだけ気になったよ。

本日の推定テレビ視聴時間…10時間00分

10月21日(火)

家で昼食を食べたあとテレビをつける。NHKの連続テレビ小説**『だんだん』**をやっていた。

双子の女の子の話。初めて観たのでストーリーが全然わからない。というよりも机の前に座って原稿を書いていたのだ。

本命は午後1時5分からの**『スタジオパークからこんにちは』**。なかにし礼さんが出るというので、その話が聞きたかったのだ。裕次郎とひばりの話。それは絶対に聞きたいよおお。でも原稿の締め切りがあったので、結局、観るのをあきらめた　残念たあ。3時15分、再放送の**『SONGS』**では、グループサウンズ全盛時代、タイガースに所属していた"ジュリー"こと沢田研二さんが出演。

こちらはなんとしても観たい。原稿書きを中断して見た。ウワー、さすがにジュニーも太めの身体をしていた。でも、大ヒット曲『危険なふたり』を歌ってくれたのには感動。我が青春のジュリーだ。バ、バ、バ、バンザーイである。

ついでにこれまた再放送の**『その時 歴史が動いた』**を4時5分から観る　こちらはアイヌの少女の話。

金田一春彦さんにすすめられてアイヌの叙情詩をかたちにしたのだ。日本語に書いて本に残したのだ。いいねえ、こういう話。

午後11時20分、家に帰ってくる　この時間になるととにかくスポーツニュースが観たい。そういう願望にかられる。まるでパブロフの犬みたいに条件反射を起こす　チャンネルをいじくりまくって、4チャンと6チャンをまわす。

オー、4チャンでやっていた。**『Sportsうるぐす』**　何？　西武が日本ハムに勝っているではないか。それより明日から始まる巨人vs中日のほうが興味あるんだよおお。

巨人の小笠原が中日にリベンジを誓っていた。昨年のクライマックスシリーズの第2ステージで、巨人は中日に3連敗したのだ。

ふん。巨人め、返り討ちだよ。勝負は落合監督vs原監督の対決なのさ。それが早く観たい〜〜〜〜〜い。

8チャンで今年引退したプロ野球の選手を特集していた。**『すぽると！』**。あれはいいね。引退と戦力外通告は、男にしかない世界だからさあ。女性にそんな言葉は似合わないだろ？ ざまあみろだ。いいぞ清原。おまえは男の中の男だあああ。

そして45歳になっても引退しない男、横浜ベイスターズの工藤投手のインタビューがあった。「ボクは引退するときは後悔しかないです。後悔だらけですよおお」と言った。ああ、工藤投手、大、大、大好き。この日、テレビでこの工藤投手の言葉を聞いたのが最高だった。

ゆっくり眠れそうだ。ホント、あの言葉は俺という男にとってはいい"子守歌"になったよ。ムニャムニャニャ、そうだよ。引退なんかしてたまるかなのだああ。押忍。

本日の推定テレビ視聴時間…4時間45分

10月22日（水）

とにかく今日は『**プロ野球セリーグ、クライマックスシリーズ・セカンドステージ、巨人vs中日**』の試合が観たい。

しかしテレビでは日本テレビが午後7時からなのだ。仕方がない 試合開始の6時からニッポン放送のラジオを聴く。

よし、初回に中日が2点を取った。私は落合監督の大ファンなのだ。3対3の同点のままテレビ中継は9時24分で終了。

バカ野郎！ 最後まで放映しろというのだ。そのあとまたしてもニッポン放送のラジオを聴く。試合が終わったのが10時すぎだ。じつに4時間5分の熱闘。もちろん我が中日が4対3で勝った。

ああ気分がいい。しかし試合中は投手が1球投げるごとにハラハラ、ドキドキのしっぱなし。アチャーだ

いまどき、野球の試合にこんなに興奮してしまうとは…… でも解説の江川さんと掛布さんには悪いか、もうこの二人には飽きた

彼らは一度もコーチや監督をやっていないので、言っていることは正しくても、机上の空論に思えてくる。解説者を変えろだ

そのあとすぐにNHKの『**その時 歴史が動いた**』を観る。これまたアンコールだった再放送が多いというのは、お金をかけていないということなんだよな。

11時から私の好きな美輪明宏さんが『**SONGS**』に出ていたので、それを観る。美輪さんは性別不詳、年齢不詳なところがいい。ああなると人間というよりも美しき妖精である。その美輪さんが"愛"をテーマにシャンソンを歌うのだから笑える 半分は私はギャグとしていつも聴いている。

ひいきの球団が勝つとスポーツニュースを観たくなるんだよなあ 勝ったシーンを何度も観たいのだ。それで『**すぽると!**』と『**スポパラ**』にチャンネルをチャカチャカ回した。なんだ、今日のオレは単なる野球好きの普通のオヤジじゃないか？

いやだなあ。ホント、アチャーだ

本日の推定テレビ視聴時間…**5時間30分**

10月23日（木）

前の日、中日が巨人に4対3で勝ったので、それが観たくて朝起きるとNHKの『**おはよう日本**』を観る。

"7時前だったと思う。ニュースを観ていたら、なぜか必ず天気予報がある。これは民放のワイドショーでもそうだ

何？ 今日の夜は雨？

8時半からNHKの『**生活ほっとモーニング**』を観る。髙田延彦が北海道の富良野に旅する話。髙田はトークがうまい。こういう番組に佐山サトルや前田日明は出ない。髙田のほうが世渡りが上手ということだ。

9時30分、フジテレビの『**とくダネ!**』を観ていたら、"羞恥心"が重大発表といって、もったいぶったことをやっていた。

"羞恥心"なんて知らないよ。何、新曲を発表？ なんでそれが重大発表なんだよおおおおお。バカバカしい。

昼、テレビ東京で0時30分からやっている『**CSI**』を観る。観るといってもたまたまテレビのスイッチをいれたら、それがやっていたのだ。何がなんだかわからない。1時5分になったらNHKの『**スタジオパークからこんにちは**』に切り替える 俳優の宍戸開さんがゲスト。宍戸さん一家の話をするというので、しばらくそれを観る

しかし、私の本命はテレビ朝日で1時20分からやっている『**徹子の部屋**』 そこにボクシングの世界チャンピオン、内藤大助さんが出るというからだ。

ウン、この組み合わせはおもしろい。中学時代に受けた"いじめ"について、内藤選手がカミングアウトした

夕方、さあ巨人vs中日の第2戦だ。しかし7時にテレビ朝日を観たら、もう6対2で中日が巨人に負けていた。それを見た瞬間、観る気がなくなる。7時半、NHKの『**クローズアップ現代**』を観る。水ビジネスについて

8時からNHK教育テレビで『**福祉ネットワーク**』を観る。そして8時半、もう一回、テレビ朝日の『**巨人vs中日**』を観る。ウワー、9対2。もうだめだあ。もう観る必要はない。

9時からNHKのBSで、イランと日本の合作映画『**予感**』を観る。15分観たら彼女から電話がある。近くのジョナサンにいるというので、会いに行く。ジョナサンに午前0時10分までいたので、そのあとテレビはもう観なかった。

本日の推定テレビ視聴時間…**7時間30分**

10月24日（金）

一日、雨。外出しなかった。だが午前中はテレビをつけずベッドでゴロゴロする。寒いからだ。2時、TBSの『**2時っチャオ!**』を観ていたらハセキョー（長谷川京子）が婚約したというニュースをやっていた。

ええ～、それホントなの？ 彼女もすでに30歳なのか？ ふう～ん。一時、格闘技のリポーターをやっていたとき、西武ドームで彼女を見たことがある。

あのときはまた20代前半だった 妖精美人だった。チャンネルを変える。日本テレビでは皇室ご一家の秘蔵映像をやっていた。

皇太子さまの子どもの頃のフィルムである。つい興味が湧いて最後まで観てしまう。

4時5分、NHKの『**探検ロマン世界遺産**』がブラジルの金鉱の町を取りあげていた。しかし途中まで観てやめる。5時台になると『**イブニング・ファイブ**』と『**スーパーニュース**』をつまみ食いしながら観る。

さらにチャンネルをNHKにまわすと『**賢い病院の選び方**』をやっていた。病院といえばテレビ朝日の『**スーパーJチャンネル**』が、6時すぎ、進行がんでも治るというので、その治療法を二つ紹介した。

一つは肺がんになった人。もう一人は脳腫瘍にかかった人。二人とも進行かんだから、絶望的状況

それが治ったのだ。脳腫瘍をサイバーナイフという特殊な装置で治療するのには驚いた。

7時から日本テレビで『**巨人vs中日戦**』を観る。6回裏、巨人の李がスリーランを打って逆転。6対3になった

そこでテレビを観る気力か一気に失せた、もうどうでもいいやである。11時台のニュースはすべて観ない。やっと午前0時10分、NHKの『**とくせん**』で「ヒップホップに首ったけ」というコピーが気に入ってそれを観る。

そのあとテレ朝で午前1時からやっていた『**朝まで生テレビ!**』を観る。世界金融危機について論じていた

これはおもしろい討論内容になっていた。見応えのあるトークバトル。しかし私は2時半頃になると、テレビをつけたまま寝てしまったのだった。アチャーである

本日の推定テレビ視聴時間…**9時間30分**

10月25日（土）

朝から馬券を買いに行ったので、家を9時前に出る。だから午前中はテレビを観なかった 競馬で負けたので午後3時には家に帰る

さっそくテレビ東京の『**ウイニング競馬**』を観る。『富士ステークス』は予想が大ハズレ アチャーだ。

4時から同じくテレ東で『**新極真会館第40回全日本空手道選手権**』を観る。へえ～、空手の試合っておもしろいなあ。充分に1時間15分楽しむことかできた、

6時40分、友人か立石に来たので居酒屋に飲みに行く。その居酒屋で『**巨人vs中日**』をテレビでやっていた。

酒を飲みながら、そのテレビの巨人vs中日戦か気になって仕方かなかった、私は落合監督の大ファンだからだ。家に帰ったら11時半。NHKのBSで『**藤井フミヤ スーパーライブ**』を観るが30分でやめる、

NHK教育テレビで午前0時から『**サイエンスZERO**』を観る。台風の予報が変わるという話。そのまま寝てしまう。

本日の推定テレビ視聴時間…**4時間45分**

10月26日（日）

日曜日なのにどこにも出かけず、日中家にいた。だからテレビしか観なかった 順番に書く。9時、NHK教育テレビの **新日曜美術館** 美の世界、ウィーンの特集。

10時、NHK BS2『**NHKスペシャル**』の再放送で、月と地球の話。続いて『**プロフェッショナル仕事の流儀**』て落語家の柳家小三治師匠が登場 とちらも凄く興味深かった、午前中はこの3つの番組に大満足した。

午後からは2時10分からNHKて『**迷宮美術館**』を観る 私か好きなダリを特集 ダリはいいねえ、最高！

3時から競馬の『**菊花賞**』をNHKとフジテレビ中継 さあ、どっちを観るかである。例によってチャンネルをチャカチャカまわして、両方を適当に観た

『**菊花賞**』の馬券はまたしても大ハズレ。我ながら何をやっているんだ、である。夜はNHK BS2で7時30分から『**魅惑のスタンダード・ポップス**』を観た。スパイダースとパット・ブーンの歌をガンガンやってくれた。それって私の青春時代の歌なのだ

9時からNHKの『**NHKスペシャル**』を観る。原子力産業に力を入れている東芝をピックアップしていた。

あまりテレビばかり観ていたので、完全にバテた。もうギブアップだ。それでも0時59分、日本テレビの『**NNNドキュメント**』「食いつくされた海 カニ密輸ビジネスの果てに」を興味深く観る。そのあとTBSの北京国際マラソンを観ようとしたが、力つきて寝た。以上、私のテレビ視聴一週間でした。押忍

本日の推定テレビ視聴時間…**15時間30分**

ターザン山本！一週間の推定テレビ視聴時間 57時間30分!!

ターザン山本！テレビ日記総評

ターザン 今回の企画はなんなんだよ。[illegible]日テレビ日記をつけて、意味がわからなかったよ。

——いや、今回は「テレビ特集」なんですけど、山本さんは本を二冊出したばかりなので、時間をもてあましてテレビばっかり観てるだろうな、と思ってお願いしました。

ターザン 確かに時間があり余ってしょうがないよ。

——やっぱりヒマでしたか（笑）

ターザン ヒマだねえ。ヒマでヒマでどうしようもないからテレビ観てるんだけど、バラエティばっかりでロクな番組がないんだよ。ヒマ潰しに色気がないというかさあ。

——だからNHKばっかり観てるわけですか。

ターザン そう。いまの俺は一日の生活で天気予報を観てるのが一番楽しいよ。明日は晴れるのかな、雨なのかなってね。

——ヒマな毎日の中で一番変化があるのは天気ですか（笑）

ターザン そうですよ！ 天気だけは毎日違うんだから。それで気象予報士って女の人いるじゃない？ その人ばかり観てるよ。あとニュース番組も観るね。NHKの「ニュースセンター9時」という番組にキャスターの女の人がいるんだけど、あの人を映画の悪役にしたいね。悪女ですよお。

——[illegible]

ターザン ニュースとか天気予報とか、まじめな番組を観ながら、[illegible]けですよお！

——完全に変態ですね（笑）

ターザン でも、バラエティ番組に出てる女の人はロクなのがいない！ やっぱり知性のある女の人を[illegible]のが俺の趣味で[illegible]

——どんな趣味ですか（笑）ところで[illegible]62歳のボクと28歳年下の彼女ができたのだ』[illegible]の本の売れ行きはどうですか？

ターザン 本？ 売れてない。売れてないことはないよ。売れてるわけじゃないけど、じわじわ売れてる。じわじわ（笑）

ターザン まあ、カップル本のほうは、しゃーないね。あれは名刺代わりですよ。売れることより出したことに意味がある。

——でも、本を出したあとはヒマでヒマでしょうがない、と。

ターザン ひたすらヒマですよ！ だからテレビはもっと俺におもしろいヒマ潰しをさせろ！ あんなバラエティじゃ、芸人育たないよ！ いまのテレビじゃ、俺なんか永久にお呼びがかからない[illegible]

——テレビタレントとしてのターザン山本！はまったく必要とされてない、と。

ターザン まったくお呼びがかからないよ。それでますますヒマなんですよ！

——では、これからもヒマ潰しを続けてください（笑）

鬼嫁が明かすプロレスラー夫婦がテレビ業界で成功したホントの理由

健介オフィス代表
北斗晶

今回、テレビ特集をやるにあたって、やはりこの人の話を聞かないわけにはいかないたろう。現在、マット界の住人として、誰よりもテレビに出まくっている元プロレスラー・北斗晶である。タレント、健介オフィス代表、そして健介のマネージャーとして大活躍中の北斗が語る、プロレスラー夫婦がテレビ業界で成功したホントの理由とは?

聞き手/阿修羅チョロ　写真協力/健介オフィス

バラエティからトーク番組、CMまで、いまやその姿を見かけない日はないぐらいテレビに出まくっている〝鬼嫁〟北斗晶。健介と夫婦タレントとして多くの番組に出演していることも、いまさら説明不要だろう。

そもそも、北斗と健介が芸能活動を始めたのは、二人にとって忌まわしき団体となっているWJからの撤退がきっかけ。新日本、そしてWJの所属レスラーとして第一線で活躍してきた健介だったが、WJを離れてからしばらくはドン底生活を味わうことになる。

しかし、それから間もなく、北斗が社長となり健介オフィスを設立。北斗自らが健介のマネージャーやプロデュース業を買って出てからというもの健介はメジャーからインディーまで幅広い団体で大活躍。同時期に始めた芸能活動でも北斗はその手腕を存分に発揮。日増しに芸能仕事も増えていき、わずか数年で世間から売れっ子タレントと言われるぐらいになったのだ。

ある意味、マット界以上に熾烈な生き残り戦争が日々繰り広げられているテレビ業界で生き抜く秘訣とは？ 教えて、北斗さん！

北斗 チョロさん、今日はテレビ特集ってことだけど、アタシ、テレビについてなんて何も言うことねえなって思って困っちゃってんのよ（笑）。

――いやいや、いまやプロレスラー出身として一番テレビで活躍してるのは北斗さんで間違いないですし。

北斗 一番有名なプロレスラーはやっぱり馬場さんと猪木さんでしょ。

まあ、その二人は別格でしょうけど。でも、3～4年前にいまの芸能界での活躍って想像できました？

北斗 いや～、3～4年前はもう生きていくのに必死で、それどころじゃなかったよね。正直言って。

――WJの崩壊前後とか大変な時期もありましたからね。そもそも芸能活動を始めたのは何がきっかけだったんですか？

北斗 一番初めはウチには事務所も何もなくて電話をもう一本引いただけだったんだけど、きっかけとしては、そこにいろんなところから出演依頼の電話がかかってくるようになったの。でも、どう対応していいのかわかんなかったのよ。当時はプロレスラーをマネージメントしたこともなければ、自分をマネージメントすることもよくわからなかったから。

――いまでは〝鬼嫁〟としてマネージャー業でも手腕を発揮してる北斗さんも、そんな時期もあった、と。

北斗 そう。それで、夫婦で出演っていう話がちょくちょく来るようになって「どうしようかな？」って思ってたときに、知人に紹介されて、所属はしないけれども委託みたいなかたちで芸能事務所みたいなところに預かってもらったの。

――確かに初期の頃は所属事務所のようなところがありましたよね。

北斗 でもね、そこの人が人間的にあまり好きになれなかったの（苦笑）。結局、仕事のオファーが増えてくると「プロレス優先じゃなく、芸能をもっと優先しろ」みたいに言ってくるわけよ。それはわかるんだけどね。事務所としては稼ぎたいわけだから。

まあ、当然そうなるでしょうね。

北斗 プロレスが優先というかたちがとれなくなるんだったら自分たちでできる範囲でやっていこうと思ったの。そうすれば断りたいときは断れるし、好きなようにできるからってことで健介オフィスの中に芸能部っていうかエンターテインメント部を作ったの。それがスタートだよね。

テレビ業界って、ある意味プロレス以上に難しいし、凄く頭を使う

――プロレスのマネージメントも同時期に始められたんですよね？

北斗 そうだね。でもプロレスは自分もやってきてるし、要はマネージメントされてきたほうじゃない？ だからやれてるってところもあると思うんだよね。

――ご自身でもやってきた経験があるから、芸能仕事と比べたらやりやすいところもあったでしょうね。

北斗 そうそう。でも、芸能のほうはまったくわかんなかったからね。

――手探りで始めて、いまの地位を築いたっていうのも凄いなあとは思いますけど。

北斗 そんな大げさなものじゃないけど、わかんないことはハッキリと「わからないので」って聞いたりしながらなんとかやってきたというか。あとは、受けた仕事は一つ一つ丁寧に、自分がなんでこの場に呼ばれたのかっていうことを考えながらやってきただけ。そういう面では芸能界って凄く難しい。でも、これはプロレスも一緒だと思う。

――といいますと？

北斗 プロレスだって、なんでこの試合が組まれたのか考えなきゃいけないわけでしょ。意味のないものなんて絶対ないから。その意味を考えながら闘わなきゃいけないし、テレビだったらカメラの前に立って、自分がなぜ呼ばれたのかという意味を考えてやっていかないとアッという間に使われなくなっちゃうんだから。

――勉強になります。プロレスラーとして活躍されてた頃にもテレビのバラエティ番組とかに出演されたことってあったと思うんですけど、やっぱり当時とは意識は違います？

北斗 当時はなんの責任も感じずテレビに出てたと思う。それにね、プロレスラーにテレビのオファーが来るってことはプロレスラーとして出てほしいわけだから、なんのキャラクターもいらないわけじゃない？ 要はプロレスラーとして出てくればいいってことでしょ。でも、いまはそういう面ではとても難しいし、とても頭を使ってる。

――頭をフル回転させないと、いまのような活躍はできない、と？

北斗 そうだね。プロレスも凄く難しいけれども、芸能だって凄く難しい。健介なんかはプロレスラーだから変えられないけど、アタシはもう引退してるから、いまはプロレスラーという枠ではなく100パーセント、タレントっていう枠だからね。それに、アタシってプロレスではすっごい下積みをしたわけじゃない？

――大ケガもありましたしね。

北斗 血ヘドを吐いたり、プロレス

プロレス界で一番テレビに出ている夫婦

北斗晶＆佐々木健介の主な出演テレビ番組

ではそれだけの下積みをしたんだっていう意味では自分自身に自信を持てるけれども、タレントとしては下積みをしてないわけじゃない？

　そうなりますかね。

北斗　だから、まったく違う世界でやってきて横からポ〜ンっと入って皆さんにかわいがってもらって、いろんな仕事をいただいてるわけでしょ、簡単に言ってしまうと。だけど、お笑いタレントさんとかは、とてつもない努力をして、すっごい下積みがあるわけよ。近頃出てきた若手の人だって、世間の人がテレビで観てるお笑いタレントさんだって、キャリアは十何年とかあるわけよ

　なにげにキャリアが長い芸人さんって多いですからね

北斗　凄く多い。その中で、やっと表舞台に立てたっていう人がほとんどなんだよ。そういう人たちと対等にトークとかをしていかなければいけないわけだし、勉強しなければならないことが凄く多い。テレビ番組っていうのは決められた枠しかないわけじゃない？　その中で食べていこうと思って何十年とやってきた人たちが多い中で、アタシは芸能ではまだまだド新人っていうことよ

　北斗さんでもド新人ですか？

北斗　そうだよぉ。そういう意味で、アタシはテレビのことは簡単に言えないっていうか。プロレス界から見たら、たぶん一番テレビに出てるだろうし、佐々木健介っていったら、いまは知名度は凄いと思うの。

──いや〜、凄いと思いますよ。

北斗　家族で街を歩いてりゃ、いろんな人が振り返り、声をかけられたりするから。そうすると、ちょっとむなしい気持ちにもなるんだよ。

　それはどういう意味ですか？

北斗　プロレス時代はこうではなかったのに」っていうね

　プロレスだけやっていたときよりも声をかけられる機会が多くなったわけですね

北斗　そうなの。前も歩いてて「わっ、デカい人だね」「プロレスラーっぽいな」って目で見られたりとか、そういうことは年中あったよ。新日本プロレスでもテレビでやって試合も流れてたわけだから。でもいまは、そのときの何倍って表わせないくらい凄くたくさんの人が声をかけ、寄ってきてカメラを向けてくるわけよ

──プロレスラーだけの頃に比べると格段に知名度が上がった、と

北斗　そうだね。テーマパークとかに自分たちだけで行けるのかっていったら、それはちょっと微妙。とくにアタシや健介なんかは帽子もサングラスとかもあまり好きじゃないのよ

　健介さんはたまに凄いサングラスとかを着けてますけどね（笑）

北斗　そうだね（笑）。でも、そういう意味のデメリットっていうのは芸能人なら誰でもあると思うの。で、アタシが言いたいのは、二人とも現役時代に、健介はいまもバリバリだけども、二人ともテレビ出演をいまのようにしなかったときに、これだけの人が振り向いてくれたのかっていったら振り向いてくれなかった。「それって寂しいね」ってよく言ってるんだよね。だって、いまプロレス界の現状は厳しいけど、昔はもうちょっとよかったわけじゃない？

　そうですね。新日本も全女もテレビでいい時間帯に放送されて、視聴率もよかったわけですし

北斗　そうでしょ。なのにそんなに振り向いてもらえなかったっていうのはプロレス界も昔はよかったって思ったりもするけど、そうでもないのかなって。ただ、やっぱり世間ではアントニオ猪木やジャイアント馬場

[illegible]健介&北斗だが仕事のプライオリティは、やはりプロレスが一番。現在、健介オフィスでは健介のほかに中嶋勝彦、起田高志、宮原健斗の3選手がプロとして活躍。[illegible]レスラー志望の長男の健之介君、[illegible]次男の誠之介君の将来にも注目!

撮影　平工幸雄

を知らない人はいないじゃない?

いないですよね　馬場さんも亡くなってから、もうかなり経ちますけど、馬場さん、猪木さんの知名度はいまだにズバ抜けてますからね

北斗　芸能界で言ったら吉本興業を知らない人はいないでしょ　食べ物で言ったら吉野家って知らない人はいないだろうし　そういうふうに誰でも知ってるっていうのがホントに有名っていうことであって。まだまだ馬場さんや猪木さんの足元にも及ばないっていうか、ウチらなんか有名とかそういう段階でもないと思う

—いやいや、充分、有名だとは思いますよ!

北斗　だけどね、「なんだっけ、あの人?」って言われるうちは、まだ全然有名でもないと思うし。ただ、やっぱりプロレス界でこういう芸能の仕事をするとよけいに思うけど、猪木さんとか馬場さんっていうのは、凄いのよ、やっぱり

テレビの世界で活躍して、あらためて、その凄さを実感したと?

北斗　そうそう　プロレス界という枠を飛び越えた有名っていうか　猪木さん、馬場さんに続いてる人っていないなって思うもん　残念ながら

健介さんと北斗さんは続いてるような気はしますけどね

北斗　いやいやいやいや。

でも、テレビ界で活躍するならには、馬場さん、猪木さんぐらいまで知名度をアップさせたいという願望は当然あるわけですよね?

北斗　う〜ん、明確な答えは言えないけれども、やっぱり声をかけられたり、世間に名前が知れ渡るイコール、地方会場とかでは、それを目当てに観に来てくれる人がいるはずだっていうのがテレビの仕事を始めたきっかけだったから　逆に、「芸能の仕事をしてると凄く悪く言う人とかも出てくると思う」っていうのは、さんざん話し合ったの。

芸能の仕事を始めて、あらためて猪木さん、馬場さんの凄さを感じた

—テレビに出てプロレスのほうをおろそかにしてるっていう声ですか。

北斗　そうそう　どんだけ練習してるのかって世間の人には見えないじゃない?　たとえば、いま何時?

え〜、いまは午後9時半ですね。

北斗　健介はまだ道場で練習してるわけよ。午前中とか練習できなかったら、そのぶん、必ず夜に練習してるのよ　テレビのバラエティとかに出てたら「そんなことしてる暇があるんだったらもっと練習しろよ」とかって言われることもあるからね。勝てなかったりするとよけいに。

—練習好きな健介さんでも、そういう声が出たりするんですか。

北斗　直接言われないまでも、「絶対言われるだろう」って想定してたの。だから、芸能もプロレスと同じように力を入れてどうなのかっていう壁にぶち当たったときもあるし。だけども、そういうときは、はじめにどうして芸能に力を入れようと思ったのかって考えるようにしてるんだ。

—ちなみに、どうして力を入れようと思ったんですか?

北斗　芸能界で有名になりたいとか、そういうことじゃないのよ　健介オフィスはちっちゃいから興行数はそんなに打てないけれども、年に何回か興行をやるときにきちんとしたかたちをとれるようにしたいっていうか　地方に行ったときに、プロレスを知らないお客さんに観てもらうためには、やっぱり全国区で有名にならなければいけないっていうのをわかってたから　まずは顔を売って、それでお客さんを呼べたら、こっちの勝ちだ」って思ってるしね

—芸能活動がプロレスに還元できればベストですよね

北斗　そうだね　一回会場に来てもらったら絶対にプロレスというものの凄さを見せられる自信があるからそれは健介にしても(中嶋)勝彦にしてもそう。「いつもテレビでニコニコ笑ってるこの人って凄いおっかないんだな」とか「ホントはこういう人なんだ」ってテレビとは違う一面を観てもらうことによって、プロレスに引き込まれるところもあると思うし、

—昔はテレビ中継がきっかけでプロレスファンになる人がほとんどでしたからね

北斗　そうだよねぇ　でもね、何がきっかけで、こうやって4年間も芸能界の皆さんにかわいがってもらって、たくさん仕事をいただけてるのかっていうのは自分でもどうしてなのかっていうことはわかんない。

自分でもわからないっ?(笑)。

北斗　だって、ウチが選手にオファーをかけるのに会議をするように、

人生で一番忙しいけど、アタシはマグロだから泳ぎ続けるしかない

テレビ局だって誰を出演させるか会議をするわけでしょ？　その会議で名前を出してもらって、「北斗晶でいこう」とか「健介オフィスを取り上げよう」って言ってもらえるっていうのはホントにありがたいことだよ。

──そういった会議で名前が出なくなると当然、テレビ出演も減っていくんでしょうけど、そういった意味で怖さとかって感じたりしますか？

北斗　そりゃ感じるよぉ。声をかけられなくなったら終わりだからね。タレント同士でも「あの人って最近見かけないね」とかって話題も出るし。それはプロレス界も一緒かもしれないけど、人に見られる仕事っていうのは一緒で、やっぱり、"飽きられる"っていうのはホントに怖いよね。

──プロレス界と近いところはあるんでしょうけど、テレビの世界では所属団体というかたちはないですし、言ってみれば全員がフリーみたいなもんですからね

北斗　そうだよね。"もう要らない"って判断されたら呼ばれなくなるわけだし、レギュラー番組を持ってても視聴率が悪かったりしたら番組自体がなくなっちゃうからね

そんな厳しいテレビ業界で活躍している北斗さんですけど、いまはテレビ以外でもラジオや本を出版されたりとかもしてますけど、もしかしたら、これまで生きてきた中で一番忙しかったりするんじゃないですか？

北斗　そうだね。いまが一番忙しいと思う。自分の冠番組も広島と大阪と持たせてもらって、あとは東京でもレギュラー番組もあるし、本の連載も『週プロ』さんや『ESSE』とかでいくつかやらせてもらってるし。ホントにありがたい限りというか

──ブログとかを見ると、その忙しい中をぬって地域行事にもマメに参加されてるみたいですし、ホント凄いパワーだなって感心させられます。

北斗　地域の活動とかも全然嫌々しゃないしね。でも、どこのお母さんも一緒だと思うよ。芸能人だからとか、パートだからとか、そんなことは関係ない。みんな自分の子どもを育てながらお母さん業をこなしてるわけだから、ほかの人がやってることを、アタシは芸能人だからとか、そういう理由で「できません」っていうことは絶対言いたくないの。だから、いま仕事的にはプロレスが優先だけど、学校行事や地域の行事とかがアタシ的には最優先なの。

プロレスよりも芸能よりも地域の行事が優先なんですか

北斗　そうだよ。ウチの会社は小さくて人数も少ないけど、アタシの支えは、みんなすっごい頑張ってること。だからアタシも頑張らなくちゃって気持ちになるし。まあ、たとえるならアタシはマグロだから！（笑）

──北斗晶はマグロでしたか！（笑）

北斗　止まっちゃったらもう死んじゃうんじゃないかって思ってるから。それはね、不安というよりも、一度止まっちゃったら、もう何もやりたくなくなると思うんだよね

なんとなくわかります

北斗　いまのアタシは主婦であり、子どももいて、会社を経営して、プロレス関係の仕事もやってて、タレントだ、連載ものだ、冠番組だって、いろいろやってんのよ。なんならPTAの役員もやってるからね（笑）

やりすぎのような気も（笑）

北斗　でも、もうやっちゃってるんだから泳ぎ続けるしかないのよ、マグロとしては（笑）。

──マグロならしょうがないですね（笑）。でも、北斗さんってホントに器用だなって思うんですよ。なんでもサクッとこなしてしまうというか。

北斗　いや、なんでもこなせるわけじゃないんだよ。そう見えるのかもしれないけども、それなりに前勉強もちゃんとしてるのよ、いろいろと

──目に見えない努力をしっかりしているわけですね。

北斗　アタシなりにね。ただ、残念ながら、もっともっと努力してる人はいっぱいいるっていうことを芸能界に入って思ったからね。自分の努力なんて、努力なんて言葉を使っちゃいけないって思うし。「アタシは一生懸命、陰では努力してますよ」みたいなことは絶対言えない。もう、とてつもないよ、芸能界は。

とてつもない世界ですか

北斗　やっぱり、それ一本で食べていくぞって決めた人の努力って凄いよ。だから、勝ちとかプロレスラーのウチの子たちにも自分の好きなように、自分の思う道を進むべきだっていまは言って聞かせてる

健介オフィスから未来の馬場さん、猪木さん級のスター選手が誕生することを期待してます！

北斗　そんなこと期待されても、「わかったよ」ってアタシの口からは恐ろしくて言えないよ（苦笑）。まあでも頑張らなくっちゃね。カメのようにちょこちょこやっていきますよ。

──マグロと言いながら、最後はカメですか（笑）。

北斗　泳ぎはマグロで歩きはカメで、これからも頑張っていくよ！

【08年10月27日　電話取材にて収録】

いまや世間で知らない人はいないと思われるほどテレビで大活躍中の北斗&健介だが、北斗は「私たちはこの世界ではド新人」で「馬場さん、猪木さんに比べたら有名なんてとても言えない」と、テレビ業界における立ち位置を冷静に判断。同時にこの世界で生き残っていくことがいかに難しいことなのかを切々と語っていたのが印象深い。

現在、地上波では深夜枠での放送がほとんどのプロレス界とは違い、格闘技界ではK－1や大晦日の『Dynamite!!』などゴールデンタイムで放映される番組もいくつかあるが、そこで何度か試合が流れたぐらいで「自分の知名度はハンパない」とか「俺は視聴率が獲れる」なとと安易に口にしてスター気どりできるほどテレビの世界は甘くはないのだ。魔裟斗、ホンマン、武蔵、秋山なとなと、格闘技界の中では確かにスターと言えるのかもしれないが、それこそ全盛期のサップ級の需要と露出がなければ、世間一般ではスターとは認識してもらえないだろう。

「成功するには人並み外れた努力が必要」と"鬼嫁"北斗も力説する巨大なテレビ業界。はたしてマット界はテレビを利用することができるのか？　それとも利用されてしまうのか？　マット界とテレビの明日はどっちだ!?

ほくと・あきら■本名＝ささき・ひさこ。1967年7月13日、埼玉県出身。85年6月、全日本女子プロレス札幌大会での岩本久美子戦でデビュー。95年10月に健介と結婚。02年4月のガイア横浜大会での長与千種&浜田文子戦（パートナーは里村明衣子）で現役引退。その後は主婦、タレント、健介オフィス代表として多方面で活躍中。健介オフィス公式サイトアドレス→ http://www.kensuke-office.com/

第36回

船木と北岡とカント

花くまゆうさくの豆リングの汁

めたい電波を何年も出してるけど、全然やめさせてくれないので、スペースを小さくして『豆リングの汁』にしてもらいました。

東スポ』(11月6日売号)で、北岡くんが語ってた、船木エピソード(9・11テロが起きたとき、「戦争に行くか?」と真顔で北岡に聞く船木、「行かないです」と北岡返答、するとなぜか悲しそうな顔をする船木)、最高におもしろいね。

こないたの『戦極』でもっともシビれたのは、準決勝でのサンチアゴ&北岡の足関 あれこそ魅力あるプロの試合だね。決勝も二人が勝ってめでたしだが、横田の場外逃げ戦法はストレス溜まった。

山本KIDもやるけど、あれは反則しゃないのか? 新手のロープエスケープはカンベンしてほしい。

世界柔道団体戦で、柔術テクで勝つ(ラビオ・)カントにもシビれた。

今月は今成&所vs矢野&横山戦か一番たのしみ。それぞれ誰が誰を極めても、シビれまくりでしょ。問題は当日、用事があって観れないこと ガックシ……

優勝 おめでとう

Hanakuma Yusaku
こないたの亀田表紙にはガッカリ

サムライ二味

第31回 獣じみた拳の恐怖

10.23「DEEP38」後楽園大会のメインで激突した滑川康仁と柴田勝頼 何度か極めかけた滑川たったが、それを脱出した柴田か打撃て反撃して判定はドロー

ちと賞味期限切れの話題であるが、ピーター・アーツvsセーム・シュルトの判定が納得できなかった。よほどGPを4度連続制されたら、K－1人気に影響があると判断されたのだろうか？

などと思っていたら、そんな思惑はセコいと言わんばかりに、俳優の清水健太郎さんが5度目の逮捕！ 昨今、テレビで婦女子のタレントが「恋愛体質」なる気持ち悪い言葉を口にするか、ならはシミケンは「犯罪体質」？ にしてもシミケンは懲りないね

フジテレビの格闘情報番組「SRS」の最終回では、桜庭と田村がフェイス・トゥ・フェイスで同席 桜庭vs田村の実現は、数年前のようには興味はないか、やはり見逃せない。桜庭戦をテレビカメラの前で、田村か一応「OK」したことは凄い

しかし、この番組で一番印象に残ったことは、ほかの有名格闘家も交えてのトークで、藤田和之の「引退後はどうしようと考えているか？」の質問に、桜庭が「じゃあ逆に質問するけど、引退後、タクシーの運転手をしたいなって思ったことないですか？」と答えたこと。ここまでスッコケる答えを誰が言えよう！ よくわからんが、サクってやっぱBig！ なんか人間の大きさを感じる答えだった

それを聞いた浅草キッドの玉ちゃんは「うちの殿も、芸人て食えなかったらやると言って、二種免許を持っている」と言っていた。オレも取ろう！ でも、その前に普通の運転免許もなかった！

話は逸れるか、筆者か草野球に行くためバットを持ってタクシーに乗車すると、東京の運転手さんは普段はとんと話しかけてこないのに、必す「草野球ですか？」と声をかけてくる。そして、タクシーの運転手さん同士の草野球チームについて嬉しそうに話したす、ほかにも運転手さんによる卓球クラブに入っていて、夜勤か明けたら仮眠をして卓球をする、と楽しそうに話してくれた人もいた。どーもタクシーの運転手さんたちのあいだには、ガキっぽい男同士の横のつながりがあるようで、それはまさに「Uインターイズム」ではないか！ 仕事は一匹狼、遊びは中学生ノリ！ サクがもし引退後、東京でタクシーの運転手さんをするなら、ぜひ、オレンジ色の車体のチェッカータクシーに乗車してほしい

10・23DEEP後楽園大会では滑川康仁と柴田勝頼か対戦 正直、滑川か圧勝すると思ったが、結果はドロー 柴田のほうが打撃のセンスがはるかに上のように感じた。柴田は平気でアッパーをブンブン振ってくる。MMAでアッパーまで打撃をつなげる選手は、じつはそう多くないと思う ボクシンクてさえ、アッパーをキレイに当てられる選手は限られる

筆者のイトコはボクサーなのだが、彼に「どーして、アッパーを出せる選手と、出せない選手がいるのか？」と尋ねたら「要するに、思い切りじゃない？」と言われ、目からウロコだった。この「思い切り」こそ「センス」なのではないか？ 顔面打撃には恐怖かつきまとう そこを飛ひ越えられるのかセンスなのたと思う そこが端的に出るのが、パーリングやスウェーといった防御技術や、一度ガードを下げてから出さなければならないアッパーた 組み技に比へ打撃には生まれ持った才能か必要というのは、恐怖心の度合いが人によって違うということだと思う。なにせ、心の問題たから克服するのが難しいだろう

柔道の石井慧かついに総合格闘家になることを決めた。21歳の現役チャンピオンがプロ格闘家を目指すのは画期的。素晴らしい決断だ。そもそもコンデ・コマの時代からノールールの他流試合に挑むのか、柔道家の本来あるへき姿というものではないか！ おおいに期待。では、あるか、この石井にも横たわるのが、この「打撃のセンス」という大きく深い河。こればっかりはやってみないとわからない。体型的にタイソンばりの、飛び込んでのフック、アッパーをブンブン振り回す選手になったらカッコいいなあ。しかし、柔道界も柔道とプロ格闘家を両立させてあげればいいのにと思うけど、

柔道界からは、アテネ五輪銀メダリストの泉浩もプロ転身が報じられた。参戦か有力とされている「戦極」がにわかに活気づいてきた（その後「プロ参戦は白紙に」との報道もあったが） 最近暗い話題の多い格闘技界にとって、ひさびさの明るいニュースではあるが、だからこそPRIDEの崩壊が悲しく思える

『THE OUTSIDER』の第3回大会を観に行った ド肝を抜かれたのが、渋谷莉孔という選手。完全にブッ飛んでいる 入場から異常な殺気で奇声を上げ、試合か始まれば、いきなりメチャクチャな打撃、いや打撃なとという上品な言葉ではなく、タコ殴りで柔道家の相手を秒殺KO。前田日明も「ケンカの技術のみだ」と驚いた様子。打撃のセンスは、ブッ飛んでいることも重要だ。とにかく凄かった

もちろん、突き詰めれは、試合開始でクロープを合わせ、静かに立ち上がっていくのか格闘技の姿たろうか、獣しみた拳の恐怖も、格闘技の重要なファクターだ なにせ、アーネスト・ホーストは二度までも、ボブ・サップに負けているのだ。あいかわらす、いろいろ考えさせられる『THE OUTSIDER』であった。

11月3日に正式にプロ転向宣言を行なった石井慧。アテネ五輪銀メダリスト・泉浩のプロ転向については報道が二転三転しているが、さてどうなる？

リングを捨て町へ出よう

DDT外伝 by高木三四郎社長

11月28日、中野にカレー店オープン

第6回

11月28日金曜日に都内・中野でカレー店をオープンすることになりました！　場所は中野区新井2―1―1です。店名はこの本が発売される頃には決定しているはずなので各自調査ってことでお願いします。場所は中野通りと早稲田通りの交差点付近で、かなり人通りも多く、立地条件は最高です！

なぜ中野かというと東京でカレーの消費量が一番多いのが秋葉原と西新宿なんだって　いわゆる電気街を含むヲタクタウン（笑）。これに匹敵する土地柄といえば中野しかないでしょ（爆）。

DDTの飲食店といえば数年前まで水道橋にあった『DDTステーキ』を思い出されるかもしれないけど、アレはぶっちゃけ名義貸しでウチは直接経営にはタッチしてなかったのです。なので純粋な食べ物屋さんは今回が初めて。

「なんで食べ物屋を？」と思われる方も多いかもしれませんが、ウチのリングでもボチボチ30代にさしかかろうとするレスラーが増えてきました。「いつまでプロレスやるつもりなんだよ！」って突っ込みたいところなのですが（笑）、根っからのピーターパン気質のプロレスラーの将来を考えるとまったく放置するわけにもいかないので、その受け皿になればいいかなと思ってます。30すぎたらマトモな就職先とかないからね。だから早く引退してくれ！（爆）。

でもねえ、今回初めて食べ物屋さんをやるんだけどいろいろと大変だよ。DDTでは飲み屋として新宿・歌舞伎町にスポーツバー「ドロップキック」をオープンしてるんだけど、食べ物屋さんはまったく勝手が違うね　とにかく、よい物件が見つからなかった。見つかっても、タッチの差で他の人に取られたりとそんな繰り返し　6月くらいから物件を探してたんだけど、結局10月までかかったよ。一回、中野ブロードウェイの中の物件でかなりよいのがあったんだけど数分の差で取られたときは本当に落ちたなあ……。でもマメに動いて情報を仕入れ、ようやくいい物件を見つけられたのですが、ここからか大変　契約してから知ったんだけど都市ガスか業務用のじゃなくて家庭用だったことが判明……　これって火力とかずいぶん違うらしいんだけど、前かたこ焼き屋さんだったんでそんなに大きな火力か必要なかったみたいで　でも今回はカレー屋さんだから当然直しました。これかかなり費用がかかって凹んでます……

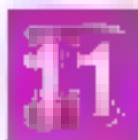
とまあ、そんなバタバタした状態ですが、とにかく11月28日のオープンを目指して頑張ります！　皆さん来てね

写真右からフレノンェスバ　カ、つけめん屋、そしてその隣かカレ　屋になると思われる場所た　すぐ近くにはインド料理屋もあったが、はたしてDDTのカレ　屋は成功するのか？　頑張れ、猪熊ノェフ

Sanshiro Takagi　DDTプロレスリングの社長兼レスラー　1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

金ちゃんのどこまでやるの？

第29回　11.24 IGFに参戦しますの巻

イラスト◎中川画伯

11月24日、愛知県体育館で開催されるIGFに参戦することか決定しました

純粋なプロレスのリングに上がるのは、Uインターが新日本プロレスと対抗戦をやった96年以来だから、約12年ぶり　レガースを着けて試合するのもKOKになる前のリングス以来だから、それも10年ぶりぐらいだからね。どう闘っていいか、ちょっと不安だけど、それ以上に楽しみだよ。

今回、IGFに出場するきっかけは、もちろんUインター時代の大先輩であり、IGFのリング・ゼネラルマネージャーに就任した宮戸（優光）さん。

あるとき、宮戸さんから突然、電話がかかってきてさ、「会って話したいことがある」って言うのよ。それを聞いて、最初は「これ、まさか新団体旗揚げじゃねえのかな」って思ったんだよ（笑）。それで、まずは高山（善廣）くんに電話して「宮戸さんから『話したいことがある』って電話が来たんだけど、なんだろう？」って聞いたら、「まあ、行けばわかりますよ」って言われてさ（笑）。ドキドキしながら宮戸さんに会いに行ったんだよね

そしたら、旗揚げじゃなくて、宮戸さんがIGFのマッチメイクとプロデュースをやることになったって話だったんだけど。それで「いまのIGFはプロレスと呼べないような試合が多い。Uインターのメンバーで、本物のプロレスを見せてほしい」って言われてさ。でも、俺はここ10年ずっと総合格闘技でやってきたから、やっぱりいまさらプロレスのリングに上がるのはちょっと抵抗あったんだよね

そしたら宮戸さんか「おまえはプロレスラーということに負い目とかあるのか？　おまえにとってUインターで鍛えられたことは誇りじゃないのか？」って聞くから「誇りに思ってます」って答えてさ

「柔術家は普段、柔術の試合をしながら総合をやってるだろう。だったらプロレスラーが、普段プロレスの試合をして何か悪いんだ！」って言うのよ。「まあ、そうですね」って答えたら「じゃあ、決定だ」ってなっちゃったんだけどね（笑）。

それで、「金原にはIGFの門番になってほしい」って言うのよ。「門番」っていったら、要はUインターでいうところの安生（洋二）さん的なポジションなわけでしょ？　わけのわからない強いガイジンが来たら、真っ先に相手するっていうさ。一番大変なポジションじゃん。そういうことは、リングス時代にさんざんやってきたからさ、「門番かよ～」って思ったんだけど、先輩に頼まれたら嫌とは言えないから「宮戸さんがやるなら、やらせてもらいます」って言ったんだけどね。

結局、俺は第1試合で、宮戸さんのジムで育った鈴木（秀樹）くんっていう選手のデビュー戦の相手を務めることになったんだけど、これも最初は「第1試合かよ!?」って思ったんだよね

俺はUインター時代、さんざん第1試合やらされたからさ、あれから15年以上経って、また第1試合かよって思ったんだけど、これも宮戸さんが「今回は第1試合が一番重要だ。どうしても金原にやってほしい」って言うんだよね。

確かに宮戸さん体制の一番最初の試合だから、宮戸さんが考える「本物のプロレス」を見せられる試合じゃなきゃいけないってことで、重要ではあるよね。Uインターの旗揚げ戦も第1試合は、田村（潔司）さんvs垣原（賢人）さんっていう、意味があるカードだったから、「それならいいかな」って、やらせてもらうことにしたよ

3カウントフォールとか、ホントにひさびさなんで、凄い戸惑うと思うけど、頑張りますので、応援よろしくお願いします！

Hiromitsu Kanehara
本音炸裂コラムほぼ毎日更新中
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

GO FOR BROKE! 獄門記

1987年のマサ斎藤

このあいだ、たまたまマサさんと猪木さんの"手錠マッチ"（87年4月・両国国技館）のビデオを編集部で観たんですよ

マサ いや～、おもしろかったですね

マサ そう？（照れながら）

新日本復帰直前の長州軍を従えて『パワーホール』での入場から、ラストまで一本の映画のようでしたよ

マサ 昔は試合にストーリーがあったんだよ。へつにマイクやお芝居をやらなくてもね。でも、いまはない。試合自体もハイスパートやって、大技を使うだけで、おもしろみがないっていうかね

マサさんは、その前年12月までアメリカの刑務所にいたわけですけど、出所したあと新日本で闘う道筋みたいなものはできていたんですか？

マサ いや、全然。俺の場合は、明日は明日の風が吹くっていう考えだから。刑務所で考えてたのは、身体を作って、いつでもリングに上がれるコンディションにしておくってことだけたったね

では、出所したあと、すぐに長州さんと新日本からオファーが来たんですか？

マサ 最初はバーン・ガニアのところに上がったのよ。そのあとニューヨーク（WWE）からもオファーが来た。あの頃フッカーだったパット・パターソンに「3年やればワンミリオン（当時のレートで約1億6000万円）残せる」って言われたんだけどね、

100万ドル「稼げる」じゃなくて「残せる」ですか。それでも長州さんの誘いのほうを選んだんですか

マサ 熱心に誘われたからね。まあ、彼は一人じゃ、動けないから（笑）

——なるほど。新日本にカムバックするのに、マサさんにリアルに頼りたかったんですね。あの年、まずマサさんが新日本に登場して、そのあと長州さんたちが戻ってくるっていう流れは、長州さんが考えたんですか？

マサ いや、新日本に戻るって決まってから、アントニオ猪木の手のひらに乗っかったわけよ たから、俺はその流れに乗って、自然にリンクに上がる ことができたね。でも、なんだか知らないけど、大阪城ホールでアントニオ猪木とやったとき、パッとリングサイド見たら、3人の女性のおまわりさんが座ってるのよ。

どういうことですか？

マサ なんだこれ？ と思ってね。俺はおまわりさんぶん殴って刑務所に入ったじゃない。俺に対する嫌からせかなんか知らないけどさ

TPG（たけしプロレス軍団）により猪木vs長州戦かふち壊され、大暴動となった87年12月の両国。マサさんはTPGの参謀のはずなのに、たけし来場を当日まで知らなかったというからさすがだ

それは、猪木さんの「どっきり」の可能性かありますね（笑）

マサ 海賊男が出てきたり、婦警さんがいたり、俺の知らないところで進んでた話か多かったよ

マサさんは、そんな中でも自分にとんなことが求められてるかプロとして理解して動いていたんですか？

マサ 空気を読んで、やってたよ（笑）

ところで、刑務所から出てきたマサさんの新技「監獄固め」ですけど、あの名前をつけたのは誰なんですか？

マサ それがね……あれ誰かつけたか俺も知らないんだよ（笑）。

——マサさんの知らないところで、「監獄」なんて名前がついてましたか（笑）。もしかしたら 東スポ の記者あたりがつけたんですかね？

マサ そうかもしんないね。よくつけたもんだよな。あの頃は記者もプロのプロレス記者かいたなって思うよね

——最初の大阪城の試合では、せっかくマサさん&長州軍団vs猪木っていうストーリーがあるのに、海賊が入ってくるっていうのはどう思いましたか？

マサ 海賊が出るなんて、直前まで知らなかったんだよ。たけし（プロレス）軍団がリングに上がるっていうのも直前まで知らなかったしね

当事者のマサさんがTPG登場を知らなかったんですか？（笑）

マサ 俺はビートたけしのラジオ（『オールナイトニッポン』）に何度か出たんだけど、まさかたけし本人がリングに上がるとは思わなかった。あれはいまやったら、もっと盛り上がったんじゃない？ あの頃はやることがちょっと早すぎたよ

ハッスル』より20年ぐらい早かったわけですからね（笑）。

マサ ホントそうよ

今年、『ハッスル』が山本モナを呼ぼうとしたんですけど、あのときは、そのボスのビートたけしがリングに上がったわけですからね。マサさん、山本モナって知ってますか？

マサ 女の子でしょ？ あの子はね、たぶんハーフだよ

——そうですね（笑）

マサ 名前がモアだからね

マサさん「モア」じゃなくて「モナ」です（笑）

マサ そうか あの子、急に悪者にされちゃってかわいそうだよ。まあ、俺もビートたけしさんにはとんた迷惑かけちゃったけとね（笑）

「帰れ」コールですからね（笑）。でも、87年はいろんなことがありましたよね。大阪城で暴動になり、手錠マッチ、世代闘争、巌流島、そしてTPGですからね。

マサ いろんなことがあったよな。

マサさんと猪木さんの抗争が一度決着ついたあと、新日世代闘争が始まりましたけど、あのストーリーはどう思いましたか？

マサ 流れとしてはいいんじゃないの？ アントニオ猪木が俺を引っぱりこんで、相手は藤波と長州っていうね。でも、世代闘争はもっと盛り上かるかと思ったけと、そんなに盛り上がらなかったんだよね

それは最高に盛り上がるはずだった夏の両国2連戦が、マサさんがパスポート紛失で来日できなかったために、沈静化しちゃったんですよ（笑）

マサ また俺せいか（笑）。

あれで世代闘争がうやむやになりましたからね（笑）

マサ でも、あのときはタクシーの中にセカンドバッグ忘れてきちゃったんだよ。中にお金から、パスポートから、グリーンカードから、全部入ってたから、まいったよ あれから俺はセカントハノクは持たないポリシーになったのよ

バッグ持つのやめたんですか（笑）。

マサ だって、なくしたら大事なものが全部なくなっちゃうじゃん たから、もうバッグは持たないことにした。いまだに持たないよ

——なくしたことが悪いんじゃなくて、バックが悪いということですか（笑）

マサ そういうこと。

——素晴らしい論理です（笑）。では、スペースの都合で今回はここまでにして、87年の最大の闘い、猪木さんとの巌流島の決戦は来月、うかがうことにします！

Masa Saito ◎60年代末～80年代前半、アメリカンプロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている

イラスト◎ゴローちゃん

『kamipro』は聖家族！　だから大好き！　ということで引退から11年、あの邪道姫・工藤めぐみさんがレフェリーとしてリング復帰！　邪道姫から非道姫に変わってからも10年、ダンナさまのことも聞いてきました！

掟　リング復帰、おめでとうございます！　11月22日の大仁田興行・長崎大会でレフェリーをやられるんですよね？

工藤　いや〜、あえて、"復帰"って言葉は使いたくないんですけど（笑）。

掟　会見のときに「足を引っぱっちゃいけないから身体を鍛え直さないと」と、なんとなく期待させるような発言もありましたけど（笑）。

工藤　いやいや（笑）。普段ちょっと運動不足なんで、たとえレフェリーとはいえリングの中に入るんで、ちゃんと体調を整えていかなきゃなぁってことです。

掟　へんに期待しちゃってすいません！

工藤　ことの起こりは、大仁田さんにひさびさに会ったら「みんなで集まってなんかできたらいいね」って感じで話が弾んで。それは試合とかそういったことではなかったんですけど、それがなんか、あれよあれよという間にレフェリーに（苦笑）。

掟　こんなはずじゃないんだけど、みたいな？

工藤　そうですね（笑）。でも、レフェリーですら、私にとっては不安なんですよ。普通のレフェリーでさえほとんど経験がないのに、有刺鉄線テスマッチという形式は独特だろうし。この前も会場でデスマッチのレフェリーのほうを意識して見てたんですけど、見たらよけいに心配になってきちゃいましたね。

掟　やるほうの気持ちになったらこれほど大変なこともないですよね（笑）。あのですね、このページは萌え視点から見た女子プロレスのページでして、毎回聞いてるのか男性の好みなんですけど……結婚から10年経って、男性観もちょっと変わってきてると思います。いまの気分ではどんなタイプがお好みなんでしょうか？

工藤　自分を持ってる人ですかね　突っ走ることなく、協調性も持ちつつも、自分の信念をちゃんと持ってるような……

掟　さすが大人！　「男前で金持ってる人」とか言わないですからね！

工藤　（急に小声になり）でも、小栗旬さんにハマッてます（笑）。

掟　話が違いますよ〜　ん？　……でも、ような　いや、小栗旬の鼻の下にヒゲを生やしたらクリソツです！

工藤　そ〜れはないですよぉ！　小栗旬さんのファンが聞いたら怒ります（笑）。

掟　小栗旬のファンは一人として『kamipro』読んでないので大丈夫です！

工藤　そうなんですか（笑）。

掟　非道さんは長期病気欠場していて、ようやく今年復帰しましたよね？　プロレスラーがケカや病気て欠場すると、基本的には手当をもらえないわけで、生活的にも正直大変だったんじゃないですか

工藤　そうですね。お金も大変でしたけど、その前に、体調かホントに悪かったんで。薬を飲んでも治らないし、病院に通っても治るわけじゃなかった。リングに立つどうのこうのよりも、普通の生活ができるようになるのかなっていうくらいまで具合が悪くなったんですよ

掟　肝臓疾患と聞きましたけど、そんなに……

工藤　本人のキャラ的な問題て、酒飲みっていうキャラをずーっとやってきて、実際に肝臓も悪かったんですけど、ほかにも悪いところもあって。ただ、そうやって誤解をされても自分のキャラをまっとうしようとしてたんですよ。

掟　テスマッチファイターは原因不明の体調不良で休業される方が多いじゃないですか？　毎日、蛍光灯が刺さったり、危険なバンプを取ったりしてると、医学では解明できない不調もありますよね。

工藤　そうですね。医者の方も手かつきて「もう安静にしてるしかない」っていうことしか言われませんでした。

掟　でも、そんな状態から復帰したんだから、さすがプロレスラーですよ！　お酒といえばFMWは三禁はないですけど、工藤さんはけっこう飲まれてました？

工藤　まあ、普通にですね。FMW時代は試合後にプロモーターさんと食事会が多かったんで、その席では多少飲んだりとかはありましたけど。

掟　そういう席では飲むのも仕事のうちですよね。

工藤　実際に「チケットを買っていただいたプロモーターの方にお礼を兼ねて付き合うのも仕事なんだ」って言われましたからね　（ターサン）後藤さんに（笑）。

掟　鬼が言うんじゃしょうがないです（笑）。全女の松永会長は、プロモーターと飲み会があっても、明日試合があるからと言えば、ある程度付き合った段階で帰してもらえたって言ってましたけど。

工藤　FMWは帰してもらえなかったです（苦笑）

掟　えっ、朝までコースですか？

工藤　そうですね。最初は全員で、二次会、三次会は何人かに絞ってとか、いろんなパターンがあったんですけど、私は毎日のように朝まででした。

掟　毎日朝まで！　その中にはグンダレンコ・テレチコワとかもいたり？

工藤　アハハハハ。ひさびさにその名前を聞きました（笑）　基本的にはヒールとかカイジンはそういうことはできないし、その頃、大仁田さんは試合が終わったら芸能の仕事に行かなきゃいけなかったんで、どうしても私たち正規軍が呼ばれるんですけど……、ホントに毎日お付き合いで大変でしたね

掟　綺麗どころ要員として工藤さんを呼びたいのはわかりますけどね。（コンバット）豊田さんでも（シャーク）土屋さんでもなく（笑）、

工藤　アハハハハ

掟　まあでも、ダンナさまも復帰されて、これで心おきなく工藤さん自身もリングに帰ってこられますね。

工藤　いやいや（笑）、帰るっていうか……、どうなんでしょうねぇ

掟　でも、一回レフェリングしてしまうと、また継続的に声かかかりそうな気はしますけどね

工藤　長崎で大仁田さんのひさびさの地元興行っていうことで、大仁田さんにはいろいろお世話になったので、何かのかたちで返せるんであれば返したいと思ってたのがきっかけだったので。だから、その先のことは何も決まってもいないですし、ましてやプロレスラーとして試合をするというのは私の中ではないですね。

掟　わかりました　とりあえず、テスマッチのレフェリーで巻き込まれないことを祈ってます！

くどう・めぐみ■1969年9月20日、千葉県出身　16歳て全日本女子プロレスに入門、テビューをはたすも2年後に退団、90年3月のFMW後楽園大会にコンバット豊田、天田麗文らと乱入したのをきっかけに現役復帰　FMW女子部のエースとしてテスマッチにチャレンジするなと大活躍、97年の引退後はテレビ、舞台なと幅広いジャンルで活躍　引退翌年の98年にプロレスラーのBADBOY非道と結婚している
ブログアドレス→ http://blog.kudome.com/

10月8日に行なわれた会見で大仁田から11.22大仁田興行・長崎大会でのメインで特別レフェリーとして工藤の参加が発表された。この大会は『邪道・大仁田厚長崎凱旋！〜FMWファミリース〜』として開催され、田中将斗や非道、リッキー・フジらFMWに縁の深い選手か多数参戦する

Okite Porsche
掟ポルシェ■掟ポルシェのバンドロマンポルシェ。かまたまた北海道ツアー！　12・6（土）旭川カノントフイノ 0166 26 6022、12・7（日）札幌HALL SPIRITUAL LOUNGE（011 221 9199）料金はそんなに高くない！　人気もそれほとないから前売りところか当日券もバンバン出るので安心してご来場ください！　その他の情報は掟ポルシェblogを死ぬ気でチェック！
【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

kamipro column

佐藤譲

入場曲五十三次

イラスト エロコエロオ

第9回

「孤高」と「飢餓」でつながる TMCMと五味さんの強さの源

Yuzuru Sato 1976年、静岡県生まれ。千葉県育ち クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家やったりしています。廣田選手は動きに精彩を欠き残念ながら敗退 横田選手は凄い動きでしたね

『戦極～第六陣～』で五味さんがまさかの判定負け。おまけに気まずい場の空気を北岡さんの上から目線のマイクに救われる失態。こんな五味さんは観たことありません。

戦前にはS4の挑発にゴンタ発言で返答。さらにブロクでは髪を染めパンク小僧復活を宣言し、入場曲をかつて使用していたTHE MAD CUPSULE MARKET（以下、TMCM）の派生ユニット、WAGDOG FUTURISTIC UNITY（以下、WFU）への変更を示唆するなど、暴君復活の期待感があっただけに残念です。ちなみに今回の入場曲は『戦極』旗揚げ戦から使っているOZROSAURUS『On And On（DJ SN ZREMIX）』のまま。ここらへんにも完全に振りきれない理由が潜んでいたのかもしれません

OZROSAURUSはMCのMACCHOさんによる横浜出身のラップグループ。『On And On』はそんな彼が交通事故で生死を彷徨ったあとに初めて出したシンクルで、過去を見つめつつ、出口やゴールなどねぇ」「生まれて死んでくだけ」という達観した視点から「行けるとこまで行くべ」という本来の上昇志向を再確認する「再生の曲」です。

これは『PRIDEライト級GP』を制して以降、モチベーションが上がりきらず揺らいでいるように見える五味さんの心情にハマる曲と言えます。また「死ぬまでつるんでいこうぜ」という、互いをフックアップするヒップホップの連帯感は、自分のジムと仲間を得た現在の五味さんの心境とマッチしたのかもしれません。

一方、TMCMはパンクとテクノを融合させたデジタル・ハードコアというサウンドを確立し、メカニカルでSFなビジュアルイメージ、限定シングルにチョロQやフィギュアをつけるなど独自性あふれる活動を展開。また海外の人気が沸騰し、絶頂期に達する中で突然の活動休止を宣言。以降WFUやAAなどの派生ユニットで新たなサウンドに挑戦するなど、得た地位を捨ててでも孤高の道を貫く、わがままでパンクなバンドです

ちなみに五味さんの以前の入場曲『SCARY』は恐怖を消し去ることを歌った曲。アマチュアの実績もなく、裸一貫で修斗やPRIDEを勝ち抜いた一匹狼の重圧を解放するのに最適の曲でした

さて2曲を比べるに、五味さん復活に必要なのは、名誉や地位を捨て、自らと闘うTMCMのハングリーさでしょう

「自分は（周囲の応援やサポートを）背負うふうにはならない。ドラマにしてしまうとうまくいかない気がする」

これは『PRIDEライト級GP』決勝前に井上雄彦さんと対談したときの発言ですが、五味さんの強さの本質をよく表わしています。責任やドラマを背負わないからこそ発揮できた冷徹な強さ。わがままで孤独。満たされないから爆発する暴力性 それが五味さん本来の魅力です

そう考えると『戦極』ライト級GPでは特別待遇を与えられ、「ジムて生徒の練習を見てるときが、一番心地よい時間」（スカチャン）と発言する幸福モードの五味さんに、暴君モードを発動させろというのもなかなか酷な話なのかも 「満たされたアーティストの曲はつまらない」。優れたA&A（制作担当）はいい曲が生まれるよう、ときにアーティストの不幸を願うそうです。そういう意味て五味さんは、幸福が毒になる、きわめてアーティスト的な格闘家と言えるでしょう。

はたして北岡さんとの頂上決戦で暴君はよみがえるのか。その戦局は五味さんの選曲にかかっているのかもしれません。

田中太陽の九本場

プロポーカーとジャッジ金子

Taiyou Tanaka 日本プロ麻雀協会所属のフリープロ "観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいたて根強い人気を誇る

「忍耐と規律をもってプレイしなさい。両方が不十分なら勝つことはできないからです。感情を一定に保ちなさい。落ち着きを失えば、不利な環境が最善のプレイからあなたを引き離すからです」

今回は有名ポーカープレイヤー、ディック・デイビス氏の『ホールデム・ポーカーの十戒』より

すべてのカードゲームは偶然性を伴うものであり、ゆえにギャンブルの種目となりうるのだが、その中でもポーカーはきわめて技術介入の余地が大きいゲームとして知られている。が、デイビス氏の唱える『十戒』は、前述のような精神論や観念的な言葉で埋めつくされている。これはポーカーが効率優先の作業ゲームではなく、プレイヤーそれぞれの思い入れを受け止めるに足る〝ドラマチックな勝負〟として発展してきた証左の一つといえるだろう

そしてここ数年、日本において急速に競技人口が増えているギャンブルといえばポーカーなのである。射幸心と向上心を同時に煽るゲーム性か人気の秘訣たそうたか、その戦術面における奥深さは、あらゆるカードギャンブルの中でも最高峰だという。カードゲームの勝敗は〝配られたカードの良し悪し〟によるところが大きいにもかかわらず、とあるプレイヤーは「ポーカーは2時間もやれば必す強者が勝つゲーム」とまで言いきっている

それほとに高い戦術性ゆえ、アメリカには「プロポーカー」なる競技まで存在する。多額の賞金を賭けて争われるトーナメントやチャンピオンシップが定期的に開催され、トッププレイヤーは常に名誉と尊敬を集めるという

そのプロポーカーだが、つい先日に行なわれた『ミリオンダラーメン・トーナメント』と呼ばれるビッグマッチにおいて繰り広げられた激戦を、とある専門メディアが「まるでプロレスのような名勝負だった」と評したらしいのである。もちろん「まるでショーのような」といった揶揄的表現ではなく、各プレイヤーそれぞれの個性が存分に発揮された接戦という意味合いた。

これはWWEという世界最大のショープロレスが存在し、「プロレスはプロレス」として楽しまれている合衆国ならではの報道なのかもしれないが、同時にプロレスか〝名勝負の演出〟に長けたジャンルとして認識されているという証しでもある。

このことから鑑みるに、テーブルゲームにも活字的、あるいは思想的な勝負論は確かに存在するのた。賭け事であれ格闘であれ、強者は幻想や思い入れの対象になりやすい。今回は偶然の産物だったかもしれないが、プロレスというジャンルが作りあげた方法論は、おそらくプロポーカーの世界にも切りこんでゆけるのだろう。言うまでもないがK-1やPRIDEといったガチンコ格闘技団体もまた、そうしたものを取り入れながら発展していったのだ

そしてつい最近、プロレス界からプロポーカー界へと殴りこみをかけた刺客のことをご存知たろうか その人物とは、超実験的プロレス団体DDTの元取締役にしてインディー界の名物レフェリーとして知られる、ジャッジ金子こと金子達である。

2008年10月3日。DDTの社長兼レスラー、高木三四郎のブロクにこのような記事がアップされている。

「ジャッジ金子氏からメールが来た。なんでも今、韓国にプロポーカープレイヤーとして遠征してるらしい」

無数のインディー団体を渡り歩いた氏の〝プロレス頭脳〟はホンモノだ。はたしてプロレスの方法論は、プロポーカー界に旋風を巻き起こすことかできるのか？ ジャッジ金子の新たな挑戦に、プロレスファンもギャンブラーもがぜん注目である。

…が

…t out!

オイオイ、ユー。ちょっと、どこ見て歩いてるんだい? 嵐の夜にそう言われて立ち止まったが、スキをついて走って逃げた読者ペイジ・ジャクソンだ。ヨロシク! これを読んでるボーイズ&ガールズも、あんまりケンカはするんじゃないぜ。「ケンカをするぐらいなら、砂場で相撲をとれ」とスクールボーイの頃、ティーチャーによく言われたもんさ。さ、ケンカ自慢もほどほどにしとくか。それじゃあ、今号もオレについてきな! せーの、トッポーン!!（沈没）

…イジ・ジャクソン…

ヒョードル選手の記事がとてもよかったです。凄く忙しく疲れていても「kamipro」に登場しインタビューに答えてくれるところにヒョードル選手と「kamipro」の強い絆を感じました。これからも大好きなヒョードル選手の記事が「kamipro」でたくさん見れるのを楽しみにしています。【兵庫県・田丸一也さん・学生・20歳】

「kamipro」とヒョードルの絆が強いだって? オーノー…そんな話は編集部の人間は誰一人として教えてもらってないぜ。オレが大のヒョードルファンって知ってての嫌がらせなのか? そんな扱いなら、とんでもないメールを送りつけるぞ! この、金髪ブタ野郎ってな!! アッハッハッハ!

さようならバコージンさん追悼特集がよかったです。ハンやヒョードルを日本に登場させたカレリンまでも来日させる力を持っていたのかと、あらためて凄い人だなと思い知らされました。【福島県・[illegible]さん・自営業・31歳】

確かにバコージンがいなくなったのは、マット界にとっては大きな痛手だな。痛手といえば、この前、オレのバンドのメンバーが失踪…姿をくらましやがった。ドラムのジョナサン・ジョン、もし「kamipro」を読んでいたら、[illegible]

菊地成孔さんの「魔王」と「バカ」二人のニュータイプを斬る!」がおもしろかった。スバリなご意見。どちらにも容赦ない冷静な分析に感ゲキ。【東京都・佐藤たえこさん・会社員・32歳】

冷静な分析といえば、オレはかねてから[illegible]以上も前からずっと思い抱いていることがあるんだ。[illegible]イチロー（マリナーズ）とジュリア・ロバーツは似ている! あと、中日・落合監督と三浦和義も似ているんだ。確認してくれ!

キング・モーの記事がよかった。「kamipro Hand」で長南の日記を読んでキング・モーのことを知っていたから、興味深く読めました。【大阪府・石丸美之さん・会社員・32歳】

ヒデユキは「kamipro Hand」も読んでくれてるのかい? なんてナイスガイなんだ! オレはあんまり「kamipro Hand」は読んでないが、一つだけ毎日読むコーナーがある。もちろん、MIKUのブログだ!!

久保社長vs佐伯社長の「悪口、言っちゃうぞバカヤロー!!」がインパクトがありました。二人ともなかなかのグッドルッキングガイですね。こうなったら直接対決しかないかな、と。【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

プロモーターがちんこ対決というのは、確かに新しいんじゃないのか!? オレはよく知らないが、WWEのビンスというヤツはプロレスしてたりするんだろ? よし! トヨキヤシゲル[illegible]日本人[illegible]頑張って[illegible]かなぁ!!

「ハッスルよ、と進撃へ回帰せよ!!」の記事がよかったです。まさか「kamipro」にヤギが登場するとは。意表をつかれました。「DREAM.6」の一夜明け会見の緊張感が伝わる写真や、ヒョードル選手の威圧感ある写真と、ヤギの写真のあまりのギャップの大きさに驚き、身体の力が抜けてしまいました。【兵庫県・田丸一也さん・学生・20歳】

なるほど、ヤギねえ…って、カズヤ・タマル、ユーはいったい何冊「kamipro」を買ってくれてるんだい? ハガキの整理をしていたら、ユーのハガキがとめどなく出てくるじゃないか。そんなに読プレの「ヒョードルのサイン入りDREAMアカウントTシャツ」がほしいのかい? なんて涙ぐましいんだ…感激したぜ!!

NOVEMBER号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1 青木真也
NO.2 エメリヤーエンコ・ヒョードル
NO.3 北岡悟
NO.4 追悼 バコージン
NO.5 三崎和雄

カミスペの人気コーナー1位がシンヤ・アオキだって!? コングラッチュレーションだぜ! やったなシンヤ! 確かに、あの"デビル"との写真はサイコーだったし、インタビューもグレイト! これからもバカサバイブしてくれよな。3位に入ったサトル・キタオカは、最近大ブレイクしているそうじゃないか。え? 戦極」優勝だって!? こりゃダブルグレイトだ!

のピンチの場面にファンが興奮することさえも喜びにする。シウバ選手がいなければあの空間は生まれなかった【福島県・[illegible]さん・会社員・29歳】

辛口のインタビューが多かった128号ですけど、"野良犬"小林聡GMがおもしろかったです。玄人ウケしない佐藤嘉洋選手とテレビに映らない大月選手にはもっと頑張ってほしいです。

今年も残すところ1ヵ月だ
でも気にするな
オレはそう自分に
言い聞かせてる。

今月のトップ賞!

栃木県・ヒロヒトさん／「三崎選手の入場（とくにPRIDE時の）を観てニヤけてしまうのは僕だけでしょうか?」というコメントが書いてあったが、それは間違いだとだけ言っておく。

東京都・サカモトカズヤさん／これはまたうまく描いたもんだ! カズヤは絵描きなのか? ただ、この絵は25歳の顔じゃないよな!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!

"読者ペイジ"
ジャクソン

桜庭和志×青木真也の記事がよかった。大好きな桜庭と、いま一番気になってる青木が対談していたので、迷わず本を買った。仲が良さそうな表情が印象的。【神奈川県・菅野伸一郎さん・自営業・36歳】

D 衝動買いってヤツは気持ちいいよな！ この前、オレは[illegible]のあの娘のために限定モノのヴィトンのバッグを買ってやったんだ。あの娘の店に持っていったら大はしゃぎしてたが、後日、近所の質屋で見つけてしまった……そういうときってショックだよな！

PRIDEポスターコピーレビューがおもしろい！ どれもシビレるくらいカッコいいキャッチコピーで、人生で負けそうなときに思い出して自分自身を奮い立たせたい。【埼玉県・星嘉幸さん・大学生・22歳】

D ユーはいいことに気づいたな！ そうさ、言葉ってのはやっぱりハートにグサリとくるもんだぜ。ときにはチクリ、フワリ、そしてドッカーンだ！

「ヴァンダレイ・シウバのプロ魂論」の記事がよかった。相手を気にしない、ファンを大事にする、そして強い。自分のピンチの場面にファンが興奮することさえも喜びにする。シウバ選手がいなければあの空間は生まれなかった。【福島県・前野[illegible]さん・会社員・29歳】

D 自分のピンチさえも喜びに変えるなんて、ヴァンダレイってヤツは天下一品のプロレスラーって感じだな。天下一品のプロレスラーといえば、オレは最近、セイコ・マッダに注目している。ボーイ、何をいまごろって思ったかい？ 甘く見るなよ。もう一回「YOU Tube」でチェックしてみろ!! 彼女のグレイト具合に気づくはずだ。

PRIDEはやっぱり凄い。128号を読んで、あらためて感じるとともに、05年ぐらいから『HERO'S』をきっかけに格闘技にハマった自分の遅さに涙が出そうです。「A[illegible]く」あの熱がよみがえることを信じて……これからも追い続けます。【埼玉県・[illegible]さん・高3生・18歳】

D 遅すぎるだなんて、とんでもないぜ！ だって、あの大興奮をまたイチから味わえるんだぜ。むしろ、ユーはラッキーだぜ！

格闘竜の記事を読みましたが、一国に対するキラーぶりはまさにケンカ屋ですね。この二人の対決をDREAMで観たいです。あと、記事じゃないですけど、「読者ペイジ・ジャクソン」に載ってる[illegible]イラストは死人みたいで気持ち悪かったです。【宮城県・カトー[illegible]さん・家電量販店販売員・37歳】

D おっ！ ボーイ、オレのペイジに反応してくれたのかい？ エクセレントだぜ!! でもよお、プリンセス・ユメカのことだけかよお。もうちょっと、なんかあるだろ？

辛口のインタビューが多かった128号ですけど、野良犬・小林聡GMがおもしろかったです。玄人ウケしない佐藤嘉洋選手と、テレビに映らない大月選手にはもっと頑張ってほしいです。【兵庫県・春名雄行さん・会社員・42歳】

D 確かに、テレビに映るのは選ばれた人間だけだからな。ところで、テレビといえば、今回はテレビ特集って話じゃないか。オレのインタビューはしなくていいのか？ なんてったって、オレは根っからのTBSマニアだからな。TBS以外には、「徹子の部屋」も観る。

「最強！ [illegible]」を観たあとに、もう一回『kamipro』のTK解説を読み返してみたら、TKがしゃべってることがほぼ100パーセント当たっていたのでビックリした！【福井県・麻生[illegible]さん・会社員・20歳】

D ん？ TKってのはなんだっ……なーんってな！ [illegible]

128号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1 桜庭和志×青木真也
NO.2 PRIDEポスターコピーレビュー
NO.3 PRIDEをまたいだ男たち
NO.4 小林聡
NO.5 ヴァンダレイ・シウバ

128号の1位は表紙にもなったカズシ・サクラバ×シンヤ・アオキに決定だ。シンヤはカミスべに続いてこっちもトップ獲得だぜ。やったな！ それにしても、二人の写真はハッピーで楽しそうだな。なーんてオレを呼んでくれなかったんだ。次回は、ぜひ頼むよ、編集さん!!

[illegible]くれ!!

埼玉県・[illegible]さん／これはなかなかアメプロみたいなイラストだな。今度はオレの好きなM・KUもアメプロふうに描いてく[illegible]

栃木県・ヒロヒトさん／ヒロヒトは今回3枚もイラストを送ってくれてるな。サンキューだ。今度はオレのイラストも描いてくれよ！ ヨロシク！

栃木県・ヒロヒトさん／僕もパンチ[illegible]のファンなので、めげずにK-1のほうの山本[illegible]、また目指してほしいです。というコメントつきだ！ ヒロヒトってホントにナイスガイだぜ！

目撃情報が止まらない！

★17日、有名なステーキハウス「リベラ」でステーキを食べてたら、魔王こと秋山成勲ご一行さまが来店……してました。お酒は飲まないからシークワーサードリンクを注文してましたね。しかし、あとから怪しげな女性も登場。関係が気になる（笑）【kamipro Hand投稿より】

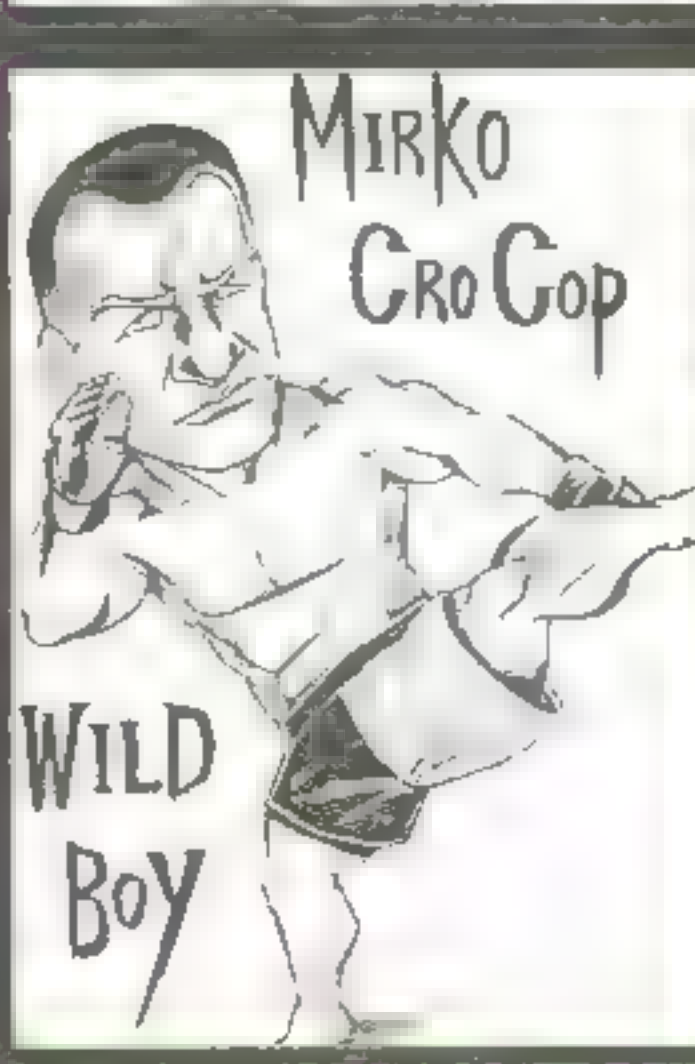
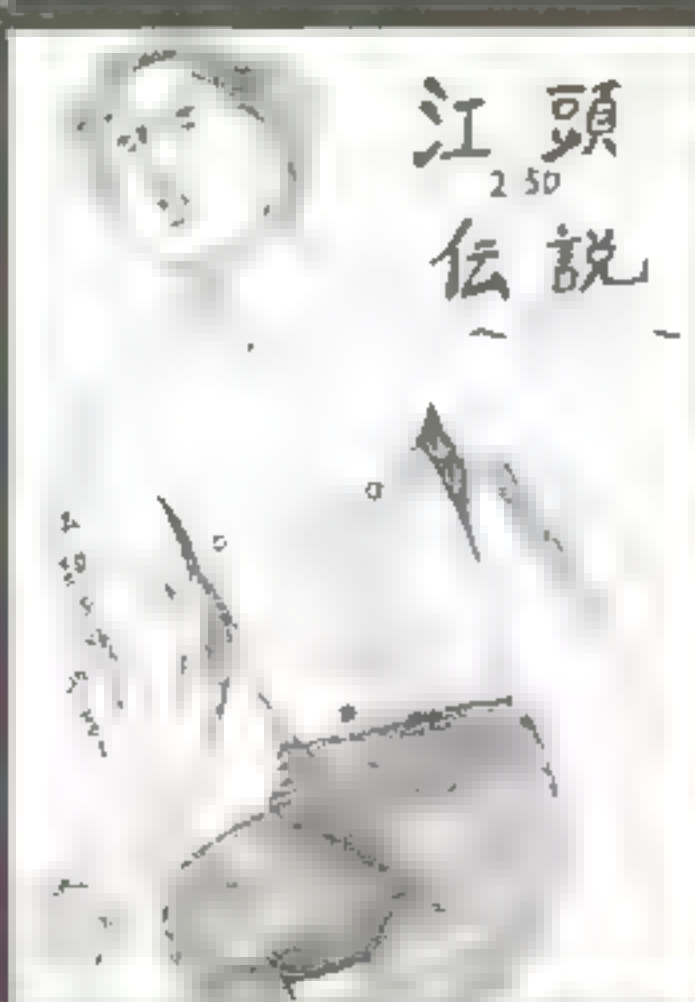
★先日、DEEPを観に後楽園ホールに行ったら、僕の席の斜め前ぐらいにニット帽をかぶった桜井"マッハ"速人選手がいました。しかし、マッハ選手は自分の席ではなく違う人の席に座っていたらしく、あとから来た人に謝りながら席を移動していました。その姿も潔くて、凄く男前に見えました。【kamipro Hand投稿より】

おハガキ募集!!

おハガキ、とんとん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、タメだしでも、せーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ！

こんな情報も24時間とんとい！ってヤツだ。
●譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「婚約拒絶」係まで。

携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできるぜ

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

EVENT

新日本プロレスが年末の大感謝祭を開催!

所属レスラーが大挙参加しての公開宴会&トークイベント!

新日本プロレスが12月17日に新宿ロフトプラスワンで「2008大感謝祭!!」を開催！ベルト統一、流出、友情、裏切り、対抗戦、デスマッチ……。ファンとともに喜び、涙した08年の一年を新日本のレスラーが大集結して公開宴会&トークショーで締めくくる! 出演予定選手は新日本が誇るイケメン集団RISEを中心に、ゲストも出演予定。レスラーと楽しい時間をすごしませんか？

★新日本プロレス 2008大感謝祭!! ★開催日 12月17日(水)開場18:00
★入場前売 2,000円 別途ワンオーダーが必要 ★問 03-6407-3123

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

シャキーン! 一、十、百、戦極、戦極ッ!!

『戦極』がDVDを一挙発売! 第二陣〜第四陣を振り返れ!!

『戦極』が第二陣から第四陣までの3大会のDVDを同時リリース!! 第二陣での"シャキーン!!"そして本誌考案の"戦極ポーズ"、藤田和之が撃沈した第三陣、ライト級GPで日本人4戦士"S4"が揃って勝利した第四陣など、見どころ満載! 試合後の選手インタビューなど、舞台裏も完全収録!! 1.4ニューイヤーイベントを前に、このDVDで『戦極』の激闘をプレイバック!

★『戦極 第二陣〜第四陣』ユニバーサルミュージック ジャパン
★定価 各5,040円(税込) 12月19日発売 ★収録時間160分

DVD

"集結セヨ"あの一夜限りの復活イベントがよみがえる!

充実のレア特典映像とともに『やれんのか!』を完全保存!

元PRIDEの選手&スタッフが集結した一夜限りの復活イベント『やれんのか!』が待望のDVD化! 内容は当時、PPVのみで放映された「ドキュメンタリー やれんのか! 完結編」に加え、現在DREAMなどへ闘いの場を移したトップ・ファイターらが『やれんのか!』を語る最新インタビューなどを新たに収録した再編集バージョンとなっている。はかなき思い出とともに永久保存すべし!

★『やれんのか! 大晦日! 2007』(東北新社)
★定価 6,090円(税込) 12月19日発売 ★収録時間210分

DVD

カール・ゴッチの秘蔵映像DVDが発売!!

日本マット界に大きな影響を与えた"神様"の勇姿を偲びたたえよ

プロレス史研究の第一人者・流智美が新たに発掘した"プロレスの神様"カール・ゴッチの秘蔵映像&スチールを収録したDVDが登場!! レア映像に加え、"ゴッチ研究者"たちのインタビューも収録。その伝説的なセメントの強さだけでなく、名言&金言にあふれ、多くのファンやレスラーに敬愛されたカール・ゴッチ。いまこそ、このDVDを観てその姿を目に焼きつけろ

★『神様カール・ゴッチの真実』ビデオメーカー
★定価 5,880円(税込) 12月17日発売 ★出演 カール・ゴッチ、流智美

DVD

迷わず観ろよ、観ればわかるさ!!

豪華な顔ぶれが勢揃い! IGF旗揚げシリーズがDVD化!!

現在、UWFスネークピットジャパンとの提携で絶賛生まれ変わり中のIGFが旗揚げシリーズのDVDを発売!! DVDには07年6.29両国&9.8名古屋大会を完全収録。現在はUFCと契約したレスナーやコールマン、アングル、ジョシュ、ドン・フライ、ランデルマン、小川直也、田村潔司など、豪華な面々が登場"一寸先はハプニング"な猪木ゲノムが凝縮された旗揚げシリーズを振り返るん、ダーッ!!

★「イノキゲノム 旗揚シリーズ DVD BOX」(ポニーキャニオン)
★定価 14,280円(税込) 12月19日発売 ★収録時間360分

BOOK

つ、ついにターザンと夢香姫の共著が出版

62歳と34歳のカップルの一部始終を包み隠さず詳述

本誌127号にも"プロレスネット史上最凶の嫌われカップル"として登場した62歳のターザン山本!と34歳の夢香姫の共著がついに書籍化されてしまった……。紹介文によると、この本を読めばターザン山本!の恋愛観と人生観、そしてありがたくないことに28歳年下である夢香姫との恋愛の一部始終がもれなくわかってしまうようだ。アチャー。二人の対談も収録。読む？

★『62歳のボクに、28歳年下の彼女ができたら』ターザン山本!&吉田夢香著
★定価 1,470円(税込) 発売中 ロコモーションパブリッシング

BOOK

シャー! オラーッ!! 大毅の本が出たで!!

亀田大毅がすべてを語る反則の真実&謹慎の日々!!

07年10月11日、WBCフライ級王者・内藤大助に挑戦し、大差の判定負けを喫した亀田大毅。試合中の反則行為などから、一年間の謹慎処分が言い渡された大毅が、11月6日の復帰戦に合わせて書籍を出版!! 自らが語る謹慎期間の日々、反則行為の真実、人間不信、試合ができないつらさ、家族……。大毅は何を考え、何をしていたのか? メディアの寵児の光と影を追え!

★『亀田大毅のゼロから出直しや 〜空白の1年間〜』亀田大毅著 講談社
★定価 1,260円(税込) 発売中

ULTIMATE CRISIS!!
“MMA界の一人勝ち”UFC2月危機説を追う!

UFC GAME OVER?

世界金融危機がUFCを飲み込むのか!?

MMAの世界最高峰として、我が世の春を謳歌していると思われたUFC。
そのUFCにいま危機説がささやかれているのだ。その原因となっているのが、昨今の世界金融危機。
これによってUFCの親会社であるステーションカジノ社が危機に瀕しているという。
はたしてUFCは、そして世界のMMAはどうなってしまうのか?

取材＆文／堀江ガンツ　撮影／吉場正和

UFC GAME OVER?

昨年、PRIDEを買収。そして今年、目の上のたんこぶであったエリートXCが事実上崩壊し、MMA界で一人勝ち状態が続いているはずのUFC。

しかし、その業績絶好調のUFCが身売りするのではないか？ そんな信じがたい噂が、いまマット界でにわかにささやかれている。

そのUFC危機説の発端となったのは、「アフリクション」の共同オーナー、トッド・ビアードがネットラジオで発した「UFCの親会社であるステーションカジノ社は、来年2月に倒産するだろう」という発言だ。

ただ、当初はこの発言、あまり信用されていなかった。かねてからUFC代表ダナ・ホワイトが「あのTシャツ屋がやってるMMAイベントは来年1月に倒産する」など、毎度の〝ジャイアン節〟で罵倒していたことから、その〝報復発言〟程度に思われたからだ。

しかし、トッド・ビアードの発言はあながち的外れでもない、というかじつに信憑性がある話であることが、最近になってわかってきたのだ。

ラスベガスを代表するカジノホテル「ベラージオ」のスポーツイベント・チーフディレクターであるボブ・ハロランは、現在のラスベガス景気をこう証言する。

「ラスベガスのゲームビジネスは、今回の金融危機の影響をモロに受けている。このまま経済が劇的に回復しない限り、年明けにもラスベガスだけで20個ぐらいの中小カジノが倒産するだろう」

そして、これら倒産危機に瀕している中小カジノの中に、フェティータ兄弟のステーションカジノも入っているというのだ。

「パレス・ステーション（ステーションカジノ社のカジノの名称）ぐらいの規模のカジノが一番苦しいね。いまは30パーセントぐらいしか稼働してないんじゃないか？」

これからのクリスマスシーズンが、ラスベガスのカジノにとって最もかき入れ時。しかし、現在の経済状況からすると、閑古鳥が鳴いたまま新年を迎えるだろうというのが、カジノ関係者の一致した見方だ。

UFCの親会社を襲ったアメリカの土地バブル崩壊

UFCの親会社であるステーションカジノ社。これはフランク&ロレンゾのフェティータ兄弟が、父フランク・フェティータJr.から受け継いだファミリービジネスだ。

93年にはフランクがCEOに就任し、ほどなくして株式を上場。それを06年に非上場に戻した。非上場に戻すということは、上場する際に売った株を買い戻すということだ。

そのときにかかった金額は1・4ビリオンダラー。日本円で約1600億円。これだけの莫大な金額だけに、もちろんキャッシュで支払ったわけではない。ステーションカジノ社は自社株を担保に、9・25パーセントの年利でシカゴの投資ファンドから融資を受け、TOBを敢行したのだといわれている。

このときのステーションカジノの買い付け株価は、同規模で上場をはたしているサンズカジノの株価をもとに算出された。

その後、ステーションカジノ社は、空前のラスベガス好景気に乗り、新しいカジノを建てるための土地を次々と買収。07年には「レッドロック」という巨大カジノもオープン。ラスベガスだけに留まらず、同じネバダ州のカジノシティであるリノや、ニュージャージー州のアトランティックシティでも土地を買収し、カジノを建設した。

この当時は、アメリカ中が土地バブルに沸いていた時期。土地高騰神話を背景に、金融機関が比較的信用力の低い人にまでサブプライムローンで次々とお金を貸し付けていた時代だ。大富豪として知られるフェティータ兄弟はいくらでも融資が受けられたのである。

しかし、そんなときに突如起こったのが、世界同時株安の金融危機だ。これによって、150数ドルだったサンズの株価が10ドル以下へと暴落。ステーションカジノに融資した投資ファンドも、これでは担保割れになるということで、1600億円のうち、約700億円をすぐに返済するか、さらに担保を増やし、担保価値を上げることを要求してきた。

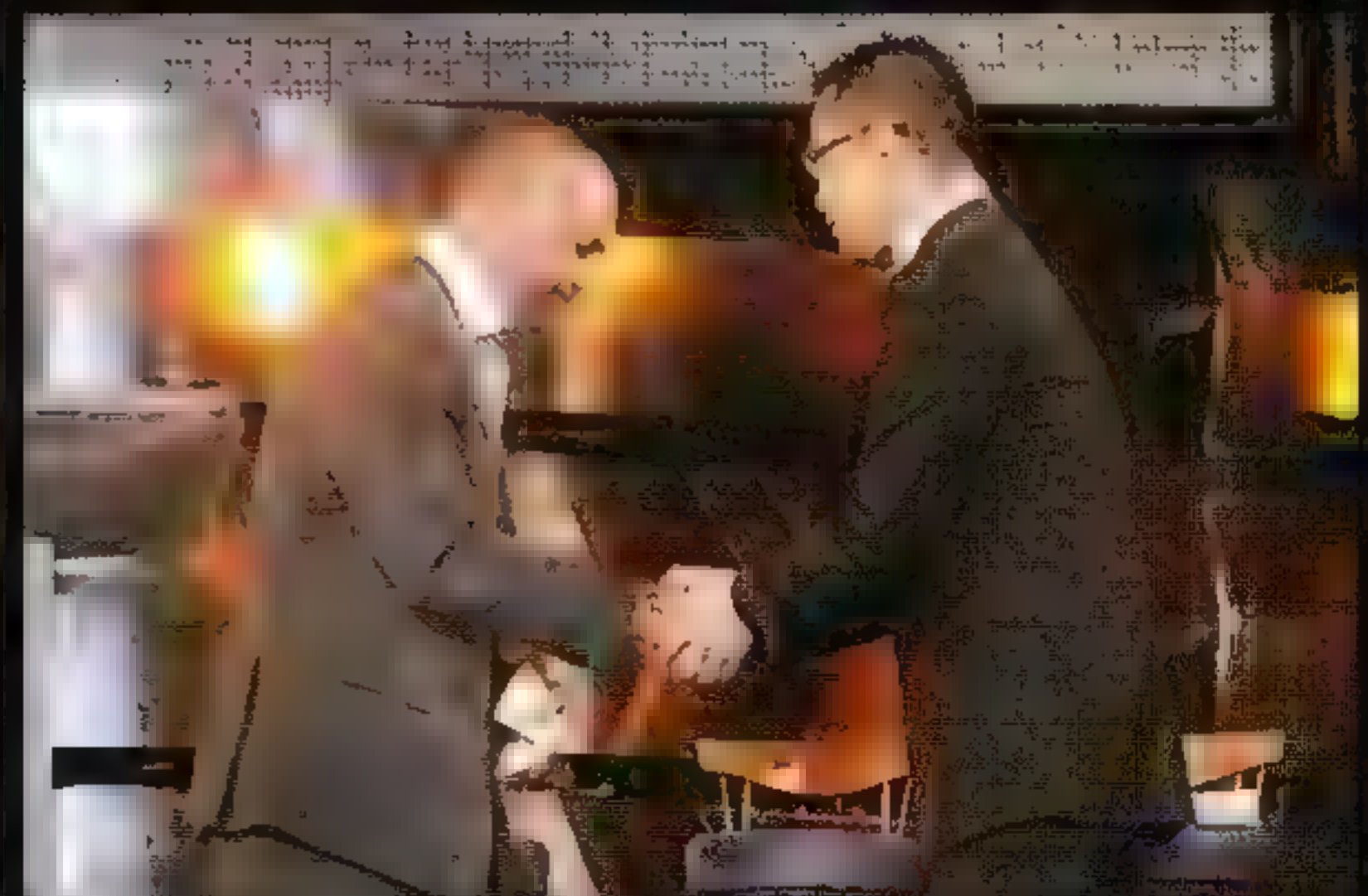
その返済と追加担保の都合がついていないというのが、ステーションカジノ社の現在の状況だという。ここから危機説は生まれてきたのだ。

そんな中、08年6月にロレンゾ・フェティータはステーションカジノ社の社長を辞し、ズッファ社のCEOに就任。フルタイムでUFCの経営に関わることになる。

このニュースをダナ・ホワイトは「世紀の発表」としてアナウンスし、「UFC史に残る素晴らしい一日になった」とコメント。UFCがより大きくなるために、ロレンゾ自らが経営に加わるわけで、ネガティブな要素は一切ないことを強調した。

しかし、事実はそんなきれいごとではないという。ロレンゾは自らが社長を務めるステーションカジノ社が危機に瀕した責任をとって辞任し、失なったポジションをUFCに求めたということが、真相だといわれているのだ。

ステーションカジノは現在フランクが経営陣に残り、ロレンゾの代わりにプロのカジノ経営者をスカウトし、再建策を模索しているという。

ここからUFCはロレンゾとダナの二頭体制になった。それまでダナはUFCの経営権を掌握していたが、株式は全体の10パーセントしか所有しておらず、残りの90パーセント近くはフェティータ兄弟が所有しているという話もある。そうであればロレンゾがCEOの座に就くというニュースを「世紀の発表」としなくてはならない立場にあったのである。

06年3月にPRIDEを買収し、UFCとPRIDEというMMAの二大ブランドを手に入れたロレンゾ・フェティータ。この金融危機でそれらを手放してしまうことはありえるのか？

PPV契約数の頭打ちと地上波放送獲得失敗

05年頃から急激に巨大化し、07年にはPRIDEまで手中に収めたロレンゾ。しかし、盛者必衰は世の常。MMAの天下を獲ったと思ったそのときに突如として起

こったサブプライムローン問題、金融危機というのは、さすがのロレンゾ・フェティータもまったく避けようがなかったようである。

しかも、ステーションカジノというのは、ラスベガスのメインストリート〝ストリップ〟沿いにある、ハイローラーを相手にした巨大カジノではなく、中流のラスベガス市民を相手にしたカジノだ。

そして、そのラスベガス市民こそが、サブプライムローンの影響をモロに受けた層でもある。

住宅ローンが支払えず、ガソリン代すら払えない、家を取りあげられかねない状況にある中で、カジノには行かないだろう。

だからこそ、前述したように、中規模カジノがこの不況の影響を一番受けるとされているのである。

また、この中流層がお金を使わなくなったということは、UFCにももちろん大きな影響を与える。「PPV代45ドルは高い。『YouTube』でいいか」というファンが増えてきており、PPVを買い控えるという動きが、急速に出てきているのだ。

昨年まで空前の好景気に沸いたラスベガスのカジノ業界。しかし、いまは一転、厳しい状況におかれている。そしてMMAビジネスはこのカジノ不況の影響をモロに受ける立場にあるのだ。MMAの発展はカジノ業界の景気回復なくしてありえないともいえる。

事実、チャック・リデルvsティト・オーティズをメインにした06年末には、100万世帯に届こうかという数字を弾きだしたPPV契約世帯数が、このところは30万世帯ぐらいで伸び悩んでいる。

UFCにとって切り札的カードであるランディ・クートゥアーvsブロック・レスナー戦を組んだ「UFC91」でさえ、40～50万ではないかと予想されているのだ。

UFCファイターの高額ファイトマネーは、巨額のPPV収入があってこそ。エメリヤーエンコ・ヒョードルの獲得失敗は、そのPPV収入減も関わっていると考えていいだろう。

それでもロレンゾにとって、UFCは優良コンテンツであることには変わりない。しかし、危機に瀕した親会社を救うために、そんなUFCを売却する動きもあったとされている。

UFCにとって、さらにビジネス規模を拡大するため、念願なのは4大ネットワークでの地上波放送だ。

しかし、有力視されていたCBSはエリートXCが獲得。NBCは放映権料ゼロながらストライクフォースが放映されている。ABCはウォルト・ディズニー傘下のファミリー層向けの放送局のため、バイオレンス〟であるMMAには、あまりに敷居が高い。

そうなると、残るはこれらに次ぐFOXとなるが、このFOXに対し、UFCは試合放映とともに、10億ドルでの買収交渉に入ったと言われている。しかし結局、FOXによるズッファ買収は幻に終わった。

ただ、これはFOX側が買収に興味なしというわけではなく、この金融危機が続く状況下、しばらくすれば、もっともっと安く買えることを見込んでの〝買い控え〟であるとも言われている。

ロレンゾにしてみればUFCは虎の子だが、必要とあれば売却する用意がある物件であると考えられている。

こうしたことからも、あのUFCでさえ、何が起こってもおかしくない状況にあると言えるのだ。

ただ、ステーションカジノを「2月に倒産する」と言った「アフリクション」は、UFCよりもはるかに危ない状況にあるというのは、周囲の一致した見方でもある。

「アフリクション」は旗揚げ戦で500万ドル（5億円）近い赤字を出し、ファイターのファイトマネーはUFC以上の額を支払っている。

ヒョードルだけでなく、ティム・シルビアやアンドレイ・アルロフスキー、さらにはアメリカでの知名度が低いジョシュ・バーネットにまで高額のファイトマネーを支払っていては、続くわけがないと思われているのだ。

さらにこの不況により、アフリクションブランドのカジュアル衣料も大きく売り上げを落としているようで、こちらの親会社も厳しい状況。来年1月24日の第2回大会こそ開催が正式発表されたが、その後の大会継続は不確定要素がありすぎる。

この年末年始、UFCも「アフリクション」も不安な要素を抱えたまま、ビッグマッチを開催するのである。

一寸先は何が起こるかわからない。現在の世界経済。MMA業界もまた、近い将来、何が起こってもおかしくはない。

いまの世界経済同様、MMA業界も一寸先は何が起こるかわからない

あのエリートXCが
完全崩壊!?

アメリカ地上波撤退で迫り来る……

MMA破綻の恐怖!!

米国4大ネットワークのCBSで放送開始、アメリカのMMAがさらに超怪物化する!?
という期待を抱かせた、あのエリートXCが突如崩壊!!
あまりにも早々に撤退を決めたCBSに何が起きたのか?　アメリカMMA&地上波事情を徹底追跡!!

文／高橋ターヤン　構成／真下義之

北米MMA業界の悲願であった地上波放送を獲得し、破竹の勢いで業界の盟主であるUFCを追撃していたはずのエリートXCがその活動を休止したという。ニュースは、またたく間に全世界を席巻した。キンボ・スライスvsセス・ペトルゼリの一戦における不正疑惑でケチはついたものの、650万人という視聴者を獲得したCBSによる3回目の地上波放送が成功裏に終わったばかりのエリートXCは絶好調そのものに見えただけあり、多くの者はそのニュースに耳を疑ったことだろう。

事実、エリートXCとCBSは本大会終了後に次回放送の発表を予定していたとの話もあり、「両者の蜜月は今後も続くであろう」という見解が大勢を占めていた。

しかし地上波放送という狂乱の祭りの中にありながらも冷静な目を失わなかった者にとっては、今回の大混乱は当然の帰結であったかもしれない。そのくらいエリートXCとCBSの関係は砂上の楼閣だったのだ。

そもそもエリートXCがCBSという最古参地上波放送を獲得できたのは偶然の産物であった。当時のエリートXCといえば、UFCを追走する2番手集団の団子の中の一団体。ニック・ディアズ、アントニオ・シウバ、ジェイク・シールズという日本でもおなじみの実力派を要していたものの、駒不足のため単独でのイベント開催は困難で、ストライクフォースなどのローカルプロモーションの協力を得てイベントを行なう程度の体力しかない中規模プロモーションであった。

ちなみにエリートXCはこれだけ話題になっているイベントだけに、定期的にイベントを開催していたような気がするが、

“キモ強”でも金！

五味隆典、かかってきなさい！

戦極ライト級GP王者は北岡悟です！　本誌前号では「北岡悟を優勝させる会」を結成し、
ここ最近“キモ強”キャラで絶賛ブレイク中の北岡をプッシュしたのだが、
北岡はその期待に応え見事優勝！　試合後、1.4でタイトルマッチが決まった五味から
「かかってこい！」とアピールされると「その挑戦、受けて立ちます！」と
とっさの切り返しを見せるなど、いまノリにノッている北岡を大会翌日に直撃！
現在の心境から、『戦極』のレギュラー番組『戦極G！』で
大プッシュを受けている北岡のテレビ論まで、たっぷり話を聞きました！

聞き手／坂井ノブ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

戦極ライト級GP王者

北岡悟

本誌の優勝予想がズバリ的中！

後輩の青木たちには「俺のことキモいって言うな」って指示を出しました

——じつは昨晩、帰りの電車の同じ車両に北岡さんも乗ってたんですよ。

北岡 ホントですか？ 奇遇ですね。

——ライト級GP優勝記念の金メダルを普通に首からぶら下げているのを見て、「どんだけ凄いんだろう、この人は」と思いましたね（笑）。

北岡 ハハハハハハ！

——大会前から、優勝しても電車で帰る予定だったんですか。

北岡 だって車ないですから。前は先輩が会社の車を出してくれたんですけど、独立して自分で道場持っちゃったんで車も借りれないし。あと「スタッフの車で」って話もあったんですけど、仲間と一緒にみんなで楽しく行ったほうがリラックスできていいんじゃないかなと思って、行きは電車にしました。で、帰りもそのほうがいいかなと思って。

——送ってくれる人はいくらでもいるんでしょうけど。

北岡 いや、いないですね。リアルにいないです（笑）。

——そうですか。電車でファンから声をかけられたりしませんでした？

北岡 何人か声をかけられましたけど、一応、上っ面で丁寧に対応しておきました（笑）。

——そんなこと言っちゃっていいんですか（笑）。

北岡 いや〜、顔も腫れてたし、さすがに疲れてたんで。

——優勝から一夜明けて、気分はいかがですか？

北岡 まだそんなに実感はないですね。自分の中でホッとしたっていうのがデカいっていうか。頑張ったなって自分でも思うし、男として一つ大仕事をやったなとは感じてます

——ホッとしたっていう意味では、試合前の減量が相当キツかったとのことで、計量をクリアしたあとで涙を見せてましたよね。たしか、11キロぐらい落としたんですよね？

北岡 そうです。みんなも凄い心配してくれて、迷惑もかけたんで、自分でも「ここで頑張らなきゃ男じゃねえな」と思って。前回の試合から約2ヵ月、減量だけじゃなくて、いろいろあったんで。知らない人たちに無茶苦茶に言われたりとかもしましたし

——もしかして、ウチの座談会？

北岡 それだけじゃないですけど、長いスパンで言えば、パンクラスに入ってからとか、上京してからとか、格闘技を志してからとか、そういうのも全部、この日のためにあったのかな、みたいな感じで。

——ウチの雑誌でも、2号連続で北岡さんの企画をやってプッシュしてきたつもりなんですけど

北岡 載せていただいたり、いろいろ話題にしていただいて、ありがたいとは思ってます。ただ、無茶苦茶言ったりした次の号で「優勝させたい」とか言ってたのは、どうかと思うんですけど（笑）

——どちらも正直な思いではあるんですけどね。

北岡 でも、ほかの格闘技雑誌以上に、（準決勝進出の）3人より僕を特別視してくれてたのは間違いないことなので、そこは感謝してるというか。だから、多少は何を言われてもいいやと思ってました。

——ちなみにkamipro.では「優勝させる会」を過去2回やってまして、G1で越中詩郎を優勝させる会、あとK-1ワールドGPで武蔵を優勝させる会っていうのを結成したんですけどもどちらもダメで。ある意味、呪われた企画だったんですけど、いまの北岡さんには、その呪いさえも通用しないという。

北岡 それっていいことなんですかね（笑）。そういえば、青木（真也）が優勝予想で僕のことを「どうかと思う」って言ってたの知ってます？

——言ってましたね。〝どうかと思う〟状態の北岡悟を見たい、とか。

北岡 それ、なんでかっていうと、「おまえ、俺のことキモいって言うな」って青木に言ったんです。「これからは、そういうふうに思ったときは『どうかと思う』って言え」と。

——クレームというか、教育的指導をしたわけですね。

北岡 そういう指示を出したんですよ。僕はけっこうキャリア的にも上にきてるんで、後輩も多いんですけど、後輩は言えないじゃないですか。

——言えないでしょうね。思ってたとしても（笑）。佐伯（繁）さんは優勝予想で「アイツは頭がおかしいから優勝するだろ」と言ってましたけど

北岡 まあ、それはいいとします。僕も佐伯さんには迷惑かけたりしたこともあったんで。そういえば佐伯さんには大会後に会ったんですよ。

——何か言ってました？

北岡 ちょうど佐伯さんが青木と電話してるときに会って、「しゃべれ」とか言って電話を渡されたんです。だからちゃんと「おまえと出会えたから強くなれたよ、ありがとう」って伝えました。佐伯さんには（ファブリシオ・〝ピットブル〟・）モンテイロとの試合を組んでもらって本当に感謝してるんですよね

——DEEPで組まれたPRIDEライト級GP出場者決定戦ですね。

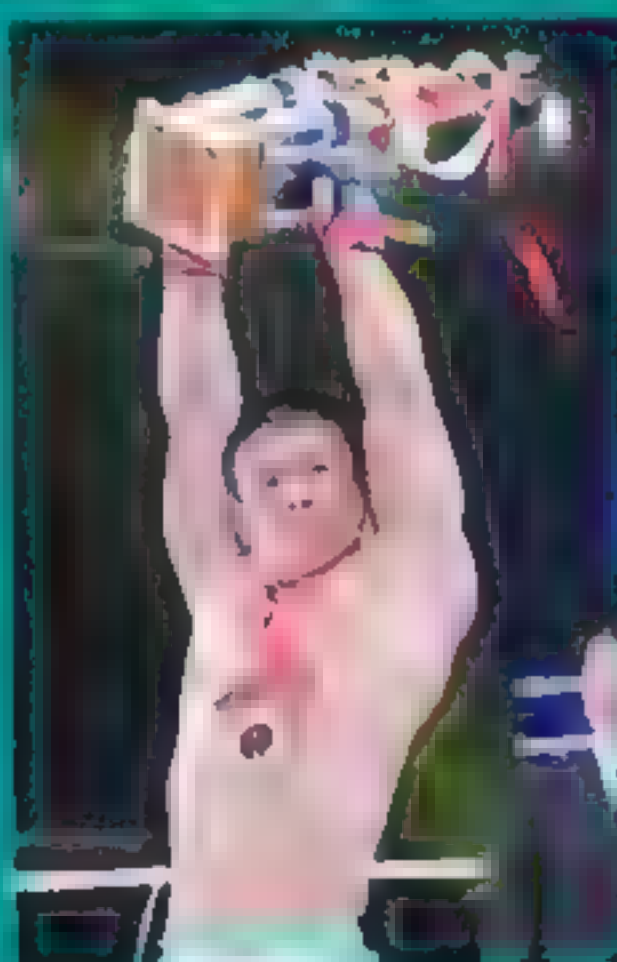
北岡 そうです。三崎（和雄）さんが秋山（成勲）選手とやったとき、DEEPのパスを持ってたんですね、小路（晃）戦の。

——あ〜、小路戦は三崎選手にとって初のDEEP参戦で、その小路戦での勝利がその後、勢いづくきっかけになった試合なんですよね

北岡 そのパクリで、「僕はモンテイロ戦のパスをいつも『戦極』のときは持っていってるんです」って話を初めて佐伯さんに話したら、ちょっと喜んでくれて……いい話でしょ？

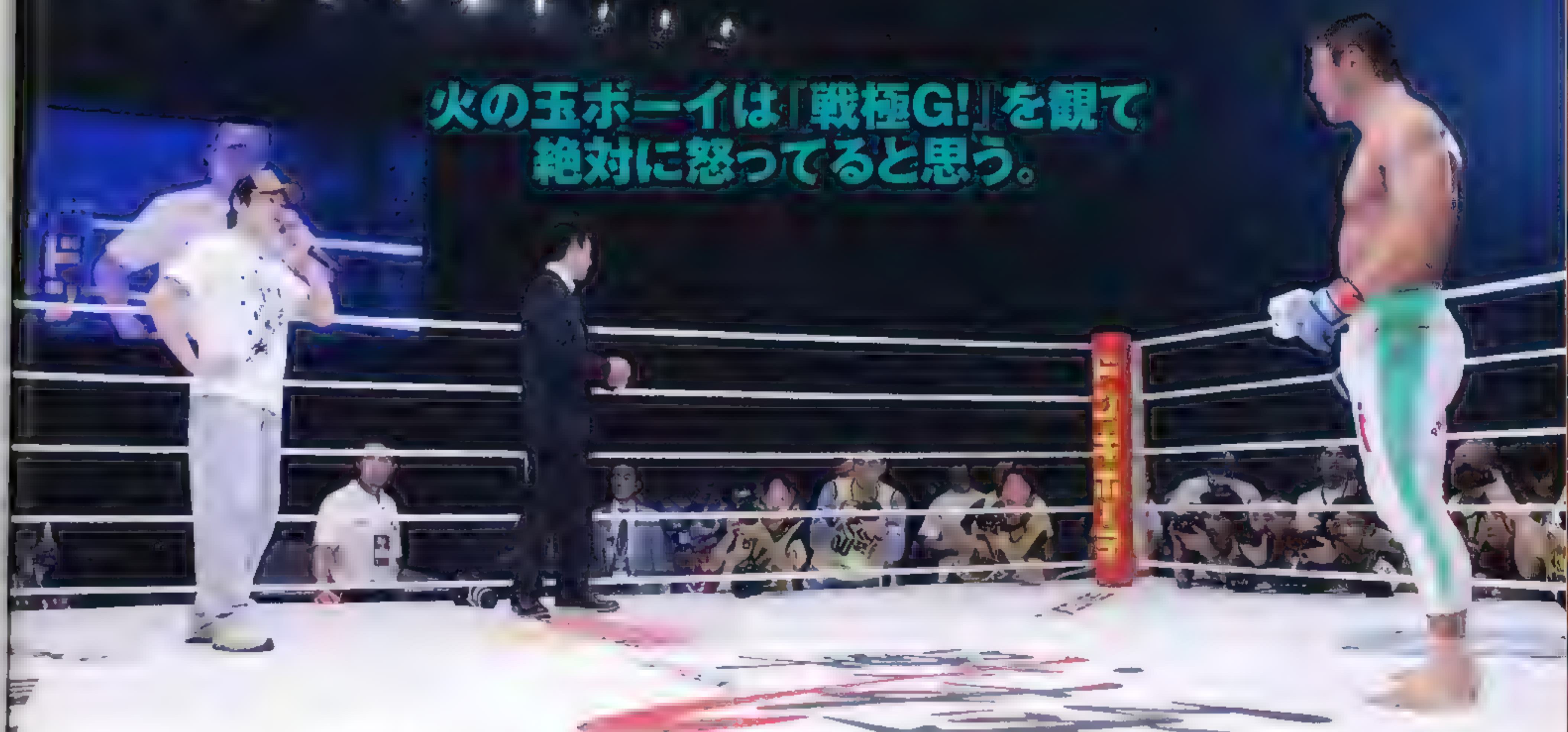
——いい話だと思いますけど、そうやって自分で言うところが北岡さんらしいというか（笑）。試合後のマイクアピールでも言ってましたけど、周りの人に対する恩返しという意味

有言実行！ 北岡悟、ライト級GP優勝までの道のり

優勝を決めた北岡は各種パフォーマンスの北岡ポーズをたっぷりと披露したあとマイクを握ると観客や仲間に対し感謝のメッセージを送った。続けて、師匠の鈴木みのる、中井祐樹、さらには昨年の復帰宣言直後に挑戦状を叩きつけた船木誠勝の名を挙げ「本当に感謝してます。今日は、これが言いたくて優勝しました！」と涙ながらにアピール

北岡悟 vs 横田一則×
（3R終了 判定3-0）
ライト級GP決勝戦は横田と北岡という、どちらも優勝宣言していた同士の対戦に。試合は北岡の寝技地獄を恐れてか横田がロープの外へ逃げる展開が続くも、常に積極的に仕掛けていった北岡が最後はパンチでダウンまで奪い文句なしの判定勝利！ 有言実行の優勝だ！

北岡悟 vs 光岡映二×
（1R1分16秒 ヒールホールド）
ライト級GP準決勝第2試合では光岡と対戦した北岡。気合いが入りすぎイッちゃった表情で入場した北岡は開始早々、得意の片脚タックルで光岡をテイクダウンさせると電光石火のヒールホールド！ わずか76秒で決勝進出を決めた北岡は決勝に備え、小走りでリングをあとに

横田一則 vs 廣田瑞人×
（3R終了 判定3-0）
ライト級GP準決勝第1試合は横田vs廣田。GP1回戦では試合内容もマイクも消化不良に終わり、マイクも含めての優勝宣言をしていた横田がスタンドもグラウンドも廣田を上回り、判定3-0で一足早く決勝進出を決めた

火の玉ボーイは『戦極G!』を観て絶対に怒ってると思う。

優勝後、長々とマイクアピールを敢行した北岡はリングサイドに五味の姿を見つけると「五味選手、今日は負けちゃったけど、14に僕とやるんですか?」と問いかける　このマイクを受けリングに上がった五味は「今日はこけちゃったけど、次は万全の状態でやりましょう。かかってこい!」と逆挑発するも、北岡は「その挑戦、受けて立ちます!」と堂々と言い放ち、力強いガッツポーズを決めた

でもどうしても優勝したかった、と。

北岡　そうです。優勝しないと何も返せなかったし、お礼すら言えないんで。今回優勝したことでいろんな人にお礼が言えたのが嬉しいですね。

――前回インタビューしたときは、ちょうど船木vsミノワマン戦の直後で、「船木さんについてはノーコメント」っていうことでしたけど、マイクアピールでは船木さんにも感謝のメッセージを送ってましたよね。

北岡　そうですね。船木さんに対しても、結果を残さないと何も言えないなって思ってたんで。

――復帰宣言直後に挑戦状を叩きつけたこともありましたからね。

北岡　そういうこともありましたし、かなり思い入れのある先輩でしたから。それに挑戦状を出したってことは、この業界自体を、ある種ジャックナイフで切り裂いたっていう感じもあると思うんですよね。僕もあれがきっかけで人生が変わった部分もありましたし、中身を変えざるをえなくなった部分もあったんで、凄くいろんな思いはあったんですけど。

――試合後のコメントでは、船木さんとDREAMの会場で会ったときの話もされてましたよね。

北岡　あのときは、偶然、青木と船木さんの控室が一緒で。逆に腹決めて、どこかで会うことがあったら、ちゃんと挨拶しようって前から決めてたんですよ。控室入ってすぐに船木さんの前に行って頭を下げたら、「気にしなくていいから。応援してるから頑張って」って言ってくれたんです。ホント、胸いっぱいで何も言えない気持ちになりました……。

――そういった時間を経て、有言実行で優勝できた、と。試合に関して言えば、準決勝も決勝も最初から得意の寝技に持ち込むべく、積極的に攻め込んでましたよね。

北岡　そこにこだわってやろうって決めてたんで。そこが自分の強さですし、お客さんもそういうのが観たいと思ってると思うし。それができたとは思います。決勝は判定でしたけど、大事なものにこだわってずっとやれたような気がするんですよね。

　今回の試合の戦略は北岡さんご自身で考えたんですか?

北岡　戦略って言うほど複雑な闘い方ではないですよ。単純に自分から前に出て組むっていう感じで。テコンドーのステップとかを使ってるんです。

――テコンドーのステップだったとは、まったく気づきませんでした。

北岡　あとは身体の使い方とかも勉強してて、そういうのの集大成みたいなものが出せたと思います。一発も蹴りは出さなかったし、パンチもほとんど出してないですけど、パンチやキックの練習も、そこらへんのキックボクサーよりはしてると思うんで　そういうのがあるからこそ自信を持って試合ができるんです

――スタミナもほかの3人の中でも一番あったんじゃないですか。

北岡　そうですね、決勝戦は横田（一則）選手は6ラウンド目でしたけど、彼は流してますからね。僕はずっと攻めてましたから。だって、悪いですけど横田選手が勝ってたらどうだったのかなって感じじゃないですか。判定判定で

――興行として考えたら、あまりよろしくはないですよね。

北岡　僕との試合でも、初めからKOとか一本とか取る気はないと思うんです。廣田（瑞人）選手との試合もそうで。だから、決着つけようって気持ちが僕はこの4人の中では間違いなく一番強かったと思うんですよ。「何がなんでも獲ります」って言ったのも僕だったし。そういう選手が勝ったのはイベントのためにもよかったんじゃないですかね。

　技術はもちろん、プロ意識の差でも上回ったって感じですよね。

北岡　そうだと思います。

――優勝したことによって、1・4での五味選手とのタイトルマッチが決まったわけですけど、早速リング上でやりとりがありましたね。

北岡　試合後、リングサイドを見たら「あ、いた!」と思って（笑）、アピールしちゃいました。

――「1月4日、お互い万全の状態でやりましょう。かかってこい!」という五味選手のアピールに「その挑戦、受けて立ちます!」という切り返しは凄いなって思わされましたね。

北岡　あのマイクアピール、おもしろくなかったですか? あれできる人いないでしょ。あのマイク、完璧にアドリブですからね。

――でも、実際そう思ってるから出たことですよね。

北岡　そうですね。誰かが言ってたんですけど、僕が「その挑戦、受けて立つ」って言ったときに、もう笑ってたらしいんですよね。僕はチラッとしか見てないんですけど。

――照れ隠しなのかはわからないで

優勝賞金で自分のメモリアル的なDVDを作ってみたいです！

すけど、五味選手はニヤニヤしながらマイクを聞いてましたね。

北岡 「ダメだ、こいつ」みたいな感じで笑ってたって聞きましたけど。

——ただ、今回ライト級GPで優勝して、五味選手は敗れたことで、自分のほうが格上ってことは自己主張したわけじゃないですか。

北岡 あの日の大会を観てくれた人にはそれが伝わったとは思いますよ。だって、僕はトーナメントで優勝して、五味選手は、ウラジオストックあたりで缶詰つめてるようなロシア人に負けてるわけじゃないですか。

——ひっどいこと言いますねぇ（笑）。でも、五味選手が敗れたからといって、〝ロード・トゥ・ゴリアエフ〟になるのも違うような気もしますし。

北岡 それは誰も望んでないですよね。ニーズもないと思うし、僕なら、あのロシア人は秒殺しちゃうでしょ。そんなのやってもおもしろくないし、燃えないし。やるんだったら、五味選手のほうが全然燃えますからね。

——グランプリに続いて、ライト級のベルト奪取も自信ありと？

北岡 あります。格的だけじゃなく、実力的にも自分のほうが上だと思ってますから。

——そうなると、いまでも北岡さんを大プッシュ状態の『戦極G！』がますます北岡カラーになってしまうかもしれませんね。

北岡 公開練習で「俺の番組みたいになってごめんなさい」とか言ったんですけど、あれを見て、絶対、火の玉ボーイは怒ってると思うんですよ。

——怒ってるんですかね？

北岡 絶対おもしろくないと思います。根暗な目立ちたがり屋だから。本質はそうでしょ？ もう試合も決まったから、言っていいですよね。

——闘う可能性がないのに挑発するのはどうかと思いますけど、実際に試合で決着がつけられますからね。

北岡 じゃあ、もう一度素直に言いますけど、本質は絶対に根暗な目立ちたがり屋だと思うんで、僕がいっぱいテレビに映っててもおもしろくなかったと思うんですよ。だから『格通』のインタビューでもハッキリ、僕の優勝だけはないって言ったわけですよ。

——そんなことを言われてましたか。ウチとしては北岡さんが優勝して五味選手と対戦するっていうのが、いろんな意味で一番盛り上がるかなと思って煽ってた部分もありますが。

北岡 まあ、プロレス的に煽ることができますからね。

——そうしないと広く届いていかないっていうのもあるし。

北岡 そうなんですよね、結局。日本のイベントはそういう色が凄く強いですからね。カラーを大事にしてる部分が大きいから。僕には紆余曲折の歴史があるのがおもしろいと思うし、あとパンクラスという、けっこう厳しい状態になってるところから、こうやって大逆転のチャンスがきたっていうのもおもしろいと思うし、そういうことですよね？

——そうですね。あと、何よりテレビ的にわかりやすいのが、ウチでも言わせていただいてる「キモい」って部分だと思うんですよ。あまり嬉しくはないと思いますけど。

北岡 やっぱり、「キモい」じゃなくて「どうかと思う」にしてもらえますか？ これからは。

——でも「キモ強い」とか「キモかわいい」はちょっとキャッチーですけど、「どうかと思う強い」だとわかりづらいじゃないですか。

北岡 じゃあ、「〝強いけどどうかと思う〟北岡悟」みたいな感じで（笑）。

——それも長いですよ！（笑）。

北岡 まあでも、優勝したんで『戦極G！』は、また僕がいっぱい出ちゃうことになっちゃいますよね。

——前以上にそうなるでしょうね。

北岡 逆に言うと、プレッシャーじゃないですけど、これだけ俺を出してくれてるのに、俺が負けちゃったりとか、ウンともスンとも言わない試合したらホントに申し訳ないなとは思ってて。そういう意味でも結果が出せてよかったなとは思ってます。

——番組制作サイドからのプレッシャーも感じてたわけですね。

北岡 無言のプレッシャーがありました。それに、ほかの人たちは「番組が偏ってる」って怒ってたらしいんですよ。それも当然かと思いますけど。

——廣田選手も「北岡押しの『戦極G！』を俺押しに変えてみせる」って言ってましたからね。

北岡 じゃあ、「気の利いたこと言ってみろ」って感じですよね。まあいいや、もう試合することもないし。

——視聴率とかは気になります？

北岡 いや、気にならないです。そこまで「俺、テレビ出てる！」とか「出たい！」っていうのはないんで。

——え〜、ホントですか？

北岡 ホントですよ。むしろ、比較ですよね。ほかの3人より出てるっていう部分では嬉しいですけど、「俺、テレビ出てるよ！」っていうのはホントにないです！

——そういえば、北岡さんが格闘家になったきっかけはテレビでパンクラスの試合を観たからなんですよね。

北岡 そうです。『SRS』で船木さんを観たのがきっかけで。

——残念ながら『SRS』は放送終了となってしまいましたけど、『戦極G！』での北岡さんの活躍を観て格闘家を志す人もいるかもしれませんよ。

北岡 僕を観てってことですか？ それはヤバいなあ（笑）。

——べつにヤバくはないでしょう（笑）。でも、来るかもしれないですよ、いきなり挑戦状を叩きつけてくる誰かさんみたいな若者が。

北岡 そしたらボッコボコにしてやりますよ！

——ボッコボコにしますか（笑）。ちなみに、優勝賞金の500万円の使い道ってもう決まってます？

北岡 まだ手元にないんで実感はないですけど、やっぱり自分が格闘技を頑張るために使いたいなとは思います。あとはちょっと考えてるのは、自分のメモリアル的なベストバウト集とかテクニックもののDVDとか作ってみたいですね。それの資金にして自分で出そうかなと思って。

——ナルシストですねぇ（笑）。

北岡 作るんだったら、チープなものにせずに、ちゃんと金かけてやりたいなって。アナウンサーは矢野（武）さんにお願いしたりとか、総力を結集してやりたいなと思ってて。そういうの資金にしたいですね。

——自分の金で自分のDVDを作りたいっていう人は初めて見ましたよ。そこも北岡さんらしいですけど。

北岡 いま作ったら多少は売れるでしょ、さすがに。

——技術モノとかでも需要はあると思いますし、入場シーンのダイジェストが入っててもいいでしょうし。

北岡 あと、特典映像でマイク特集とか入れて（笑）。よくないですか？

——よろしいかと思います！ では、年明けの五味戦、期待してます！

【08年11月2日／都内・某ホテルにて収録】

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県奈良市出身。テレビで船木vsルッテン戦を観て格闘家を志し、高校時代は柔道、卒業後は柔術を学び、00年4月にパンクラスへ入門。同年10月の河崎義範戦でプロデビュー。07年4月のDEEP後楽園大会ではPRIDEライト級GP出場者決定戦に勝利するも、PRIDE活動停止により幻に終わる。その後、「戦極」のリングで一躍ブレイクをはたした。168cm、76kg。

五味隆典

大物食いして“世界のたけし”にラブコール!?

“ヒョードルより強い男”は北野武の大ファンだった!!

セルゲイ・ゴリアエフ

11.1「戦極～第六陣～」で五味隆典と闘うまで、セルゲイ・ゴリアエフに関する情報は
ロシアのムエタイ王者、ヨアキム・ハンセンに敗れたことがある、という程度のものだった。
だが、大会前には「私はヒョードルよりも強い」と豪語し、試合でも五味からダウンを奪って大物食いをはたすなど、
「いったい何者なんだ？」と思わせた。そのゴリアエフを大会翌日に直撃！……その正体とは？

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

――ゴリアエフさん、五味戦での勝利おめでとうございます。

ゴリアエフ（以下、ゴリ）　ありがとう。[illegible]も私が[illegible]と思って[illegible]て嬉しいよ（笑）。

――[illegible]ゴリアエフ[illegible]に「オ[illegible]ル[illegible]い[illegible]豪語し[illegible]です[illegible]私[illegible]に強いん[illegible]てわかったんだろう？[illegible]ぶっちゃけ戦前は、この人、[illegible]ロシアンだな」って思っ[illegible]ました。すみません！

ゴリ　まあ、信じないのも仕方ないよ。「ヒョードルより強い」というのは、ジョークだから（キッパリ）。

――え、あれってロシアンジョークだったんですか？

ゴリ　そうそう。どのマスコミもそのことばかり聞いてくるけど、日本人ってジョークが通じないんだね。

――いや～、そんなことはないとは思いますが。

ゴリ　でも、日本でもそうかもしれないが、ヒョードルは我々ロシア人にとって伝説的なチャンピオンなんだよ。だから「ヒョードルよりも強い」と言えば、ちょっとは注目してくれるかなと思ってね。

――そういう意味があったんですか。でも、確かにその発言でゴリアエフさんのことが気になった人は多かったと思うので、作戦成功ですね。

ゴリ　それはよかった。

――もし本当にヒョードル選手と闘う機会があったら闘いたいですか？

ゴリ　もちろんOKさ。明日でもかまわない。そして、勝つのは私だろうね。

――え～、それもロシアンジョーク

「ヒョードルより強い」と言ったのはジョークだよ。信じていたのかい？

なんでしょうか？

ゴリ　そのつもりだったけど……。まあ、マジメに答えるなら、ヒョードルが70キロまで体重を落としてくれるなら闘うよ。

――う～ん、そのジョークはイマイチですねえ。

ゴリ　いやいや、いまのはジョークじゃないよ。でも、そうでもしてもらわなきゃ勝てるわけないだろ。こんなに細い身体でどうやってヒョードルに勝つんだい？

――それもそうですね（笑）。でも、ライト級では世界トップクラスの五味選手との試合ということで、試合前とかプレッシャーはなかったですか？

ゴリ　プレッシャーはそれほどなかったね。じつは大会前に少しだけ観光をしたんだ。

――ほぉ、ちなみにどちらへ？

ゴリ　日本に着いた次の日はアサクサに行ったよ。

――観光スポットの定番ですね。

ゴリ　試合の前日には、まず皇居、そしてトーキョータワーにも行ってきたよ。

――けっこういろんなところに行ってますね。

ゴリ　それからオダイバでトヨタの車の展示会、あとヴィーナスフォートってところも観に行ったんだ。

――ちょ、ちょっと、試合前に観光しすぎですよ！

ゴリ　（無視して）最後はシンキバから歩いてホテルまで帰ってきたんだ。楽しかったなあ……。

――えー、話を格闘技に戻しますが、ゴリアエフさんは試合前に「自分の階級のトップ3は（ヨアキム・）ハンセン、五味、そして自分の順だ」と言ってましたが、五味選手に勝ってそのランキングは変わったと思います？

ゴリ　いや、一度勝ったぐらいでは、そのランキングは変わらないね。やはり1位と2位のハンセンとゴミは素晴らしい選手だし、尊敬してますから。自分が勝ち続けてみんなから1位と認められるまで私は3位でいいです。

――ヒョードルより強い男が「3位でいい」とは謙虚ですね（笑）。

ゴリ　これはジョークじゃないよ（ニッコリ）。

――わかりました。五味選手に勝ったことで、近い将来、ライト級GP王者と闘う可能性もあるとは思うんですけど、北岡選手は「自分なら秒殺できる」と自信満々に言ってましたよ。

ゴリ　じゃあ、試してみればいいじゃないか。もし、キタオカ戦が実現したら、誰も勝つと思ってなかったゴミとの試合を再現させるまでだよ。

――五味戦の勝利はロシアでも反響が大きかったんじゃないですか。

ゴリ　ゴミ戦のあと、ロシア人のファンからメールをもらったんです。

――興奮してたんでしょうね？

ゴリ　いや、そのファンは「ロシアのサイトでは『ロシア人は誰もこの結果を喜んではいない』って書かれていた」と教えてくれたんだ……。

――エッ、ロシア人が勝ったのにひどいじゃないですか。

ゴリ　まあ、それぐらいロシアでもゴミは有名ってことさ。それはわかってはいたんだけど、ロシア人は冷たいよね……。

――元気出してください！　逆に日本では今回の試合でゴリアエフさんに興味を持った人が大勢いると思いますよ。

ゴリ　それなら嬉しいね（ニッコリ）。今回が初めての日本なんだけど、日本人は非常に親切だなって感じたよ。私は日本では無名のファイターだけど、そんな人間が日本の英雄のタカノリ・ゴミに勝ったのに、日本人は私にも声援を送ってくれるし、評価もしてくれる。ロシア人とは大違いです。

――ロシアでの評判はともかく、日本のことは気に入ったみたいで何よりです。

ゴリ　そうだね。ロシアは寒いし、人の心も冷たいけど、日本は気候も人の心も温かいし、とてもリラックスできているよ。

――ゴリアエフさんは、いきなりライト級トップの五味選手を倒してしまったわけですが、次に闘いたい相手は誰かいます？

ゴリ　闘いたい相手はとくにいないよ。『戦極』がオファーしてくれた相手と闘うだけだから。そんなことより、私はどうしても会いたい日本人がいるんだ。

――いったい誰ですか、その日本人って？

ゴリ　私が会いたいのはタケシ・キタノです。

――あ、たけしさんですか⁉　確かにロシアではかなり人気があるみたいですね。

ゴリ　タケシ・キタノは"世界の巨匠"として有名だからね。あなたの雑誌で会わせてもらうことはできませんか？

――ちょっと無理ですね。ボクの力ではたけしさんの息子さんに会わせるのが精一杯というか……。でも、そんなに北野映画が好きなんですか？

ゴリ　大好きだよ。彼の映画はほとんど観ているしね。ロシアで今年大ヒットした『DOLLS』、それから『ソナチネ』、『ハナビ（HANA－BI）』も最高だったね！

――けっこう観てますねぇ！

ゴリ　ほかにも『ザトーイチ（座頭市）』、『BROTHER』、『キクジロー（菊次郎の夏）』……。ロシアでは英題を翻訳しているので、正しい日本語のタイトルはわからないが、観られるものはすべて観ているよ（ちょっと得意げ）。

――本当に大好きなんですね。ちなみにロシアでは、たけしさんとヒョードルってどっちが有名ですか？

ゴリ　（即座に）それは間違いなくタケシ・キタノだね。ヒョードルは偉大な選手だが、タケシ・キタノとは比較にならない（キッパリ）。彼はロシアでパナソニックの薄型テレビのCMにも出ているからね。

――へぇ～。でもそこまで、たけしファンなら覚えておかなければならないマストポーズがありますよ。

ゴリ　え、どんなポーズですか？

――コマネチポーズっていうんです。（ポーズを作りながら）コマネチッ！

ゴリ　ソ、ソナチネ……？

――いや、コマネチです！

ゴリ　コ、コマネチ……？　こうかな？（ポーズをまねしながら）。

――はい、そんな感じです。

ゴリ　このポーズには、どういう意味があるんだい？

――まあ、みんなを楽しませたり、気合いを入れるためのポーズなので、次の試合に勝ったら……って、それはまずいか。いまのは忘れてください！

ゴリ　コマネチ、コマネチ……（ブツブツとポーズをとりながら繰り返す）。

――いやいや、もういいです（笑）。次の来日、楽しみにしてます！

【08年11月2日／都内・ホテルにて収録】

1ラウンドは五味がフットワークを使った打撃を繰り出し、隙を見て相手をテイクダウン。そしてマウントポジションから腕十字固めを狙うが、極めきれず。逆に2ラウンドに入ると、五味はゴリアエフのパンチでダウンし、追撃のパンチを被弾してフラフラの状態に。3ラウンドになると、五味は鬼の形相でパンチを放ち巻き返しを図るが、ゴリアエフに凌がれ、1-2の判定負けを喫した。

王様とピラニア

戦極の王様を長南が丸裸に！

キング・モー×長南亮 Crazy Talk Battle

またもや『戦極』のキングが大爆発！ 9月の『戦極〜第五陣〜』で衝撃のMMAデビューを飾ったキング・モーが11.1『戦極〜第六陣〜』ではファビオ・シウバに完勝！ 前回に引き続きド派手な入場パフォーマンスもキメたモーのセコンドには、現在UFCで活躍する長南亮の姿が。モーのMMAの先生という長南とモーの"王様とピラニア"対談スタート！

聞き手 [illegible]　通訳 高橋[illegible]　試合写真 [illegible]

——今回は『戦極』2戦目のファビオ・シウバ戦も見事な勝利を収めたモー選手と、練習パートナーにしてセコンドにもつかれた長南さんにお話を聞かせてもらえればと思います！

モー&長南 よろしくお願いします！

——早速ですが、長南さんから見て、デビュー2戦目のモー選手の試合はいかがでしたか？

長南 彼の持ち味のテイクダウンが今回は凄く出たんで、そこはいいパフォーマンスができたんじゃないかなって思いますね。

——得意のタックルで何度もテイクダウンを決めてましたからね。相手のファビオ・シウバ選手は『戦極』では髙橋和生選手をKOしたり、『HERO'S』とかでも活躍してた選手ですが、勝てると思ってました？

長南 ちょっと失礼かもしれないけど、あのレベルだったら、アメリカの高いレベルの中で揉まれているモーのほうが全然上じゃないかなぁと思ってたんで。ただ、打撃を持ってる相手だから、一発もらったりとか、そういうのがあるんで、そこは油断できないとは思ってましたね。

——モー選手的には満足のいく試合ができました？

モー そうだな。肉体的にも精神的にもタフな試合だったよ。まあ、まだまだ全然元気だけどな！

長南 元気かどうかはともかく、モーの試合は今回のイベントのベストバウトじゃないですか？

モー ホ、ホントかよ（嬉しそうに）

——確かに、入場、試合とともにインパクトはバツグンでしたからね。

長南 前回も興行的にはモーに助けられた部分がありましたけど、今回もそんな感じがするし、『戦極』にとって確実に必要なファイターになったっていうか、そういう立場に立てたと思いますよ。

モー そう言ってくれるのは嬉しいけど、自分としてはゴミの試合のほうがよかったような気がする。

長南 五味選手の試合は接戦でエキサイティングだったけど、モーのほうがいいパフォーマンスしてたよ！

モー ならいいんだけど。でも、ゴミが負けたのはショックだよ……。

——そうか、モー選手は日本のファイター情報は凄く詳しいんですよね

長南 モーは『YouTube』で試合とか観まくってますからね。

——そうなんですか。たしか五味選手も好きなファイターなんですよね。

モー YES。ゴミの試合はほとんどチェックしてるんだ。結果的に今回は敗れてしまったが、それでもゴミは素晴らしい選手だということは変わりはないし、もう一回やったら必ずゴミが勝つと思う。

[08.11.1 戦極～第六陣～]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○キング・モー vs ファビオ・シウバ×
（3R 0分41秒 TKO）

MMA2戦目となるモーの相手は日本でもおなじみのシュートボクセのファビオ・シウバ。前回同様、セクシーなモーガール4人とともに踊りながら入場したモー。試合では得意のタックルで何度もシウバからテイクダウンを奪ったモーがパウントの連打でTKO勝利！

——デビューからわずか2試合で観客のハートをガッチリとつかんだモー選手ですが、やはりモーガールズと一緒の入場パフォーマンスのインパクトが大きいと思うんですけど、長南さん的にはどう思います？

長南 モーは普段はわりとおとなしいんですけどね、まあでもヒップホップは好きだし、おもしろいエピソードもいっぱい持ってるんで、ああやって試合以外でも自分の世界を作って見せていきたいっていうのはいいんじゃないですか 本人的には（須藤）元気さんとかの影響が大きいみたいですけど、そういう意味でもプロ意識は完璧だと思います。

モー ゲンキ・スドーとゴーノ（郷野聡寛）は大好きなんだ。まだまだ自分はその二人にはかなわないけどね

長南 長南亮のことは好き？

モー チョーナン？ ア　ル！

——長南さんはア　ル（笑）。

（笑）。

モー でも、チョーナンがリュータ・サクライとやったときのポーズは好きだぜ！（と言って両手で「来い来い！」と手招きのアピール）。

——DEEPでのミドル級タイトルマッチのときですね。その試合も観てるんですか？

モー 『YouTube』でチェック済みさ。（再び「来い来い！」と手招きして）このポーズはいつかオレも試合でやろうと思ってるんだ。

——よっぽど、そのポーズが気に入ってるんですね。

長南 なんか、それがおもしろいらしくて、いつもマネしてるんですよ。

——モー選手もそうですし、隣のテーブルで暇そうにしている（ジェイソン・）"メイヘム"（・ミラー）とか、チーム・クエストには強くてキャラの濃い選手が多いですよね。

長南 二人ともクエスト所属じゃないんですけどね

——そうか、メイヘムはチーム・メイヘム・ミラー所属でしたね。

モー クエストには友だちがいるから練習させてもらっているけど、正式に所属してるわけではないんだ。

長南 だったら、ジェイソンみたいに次からチーム名でも作れよ

モー じゃあ、今度からはチーム・チョーナンにしようかな（笑）。

長南 じゃあ、俺にギャラの30パーセントに払え！

モー それはイヤだね！（キッパリ）。チョーナン、ア　ル！（ギロリと睨みつける）。

——まあまあ（笑）。チームはともかく、一緒に練習してるのは間違いないんですよね。

長南 そうッスね。クエストじゃないところでも一緒に練習してて、ボクシングジムも同じところなんですよ。モーが俺のマネしただけなんですけど（笑）。

——キングにマネされましたか（笑）。

長南 （モーに向かって）俺のストライキングスタイルに憧れて、同じボクシングジムの先生に習おうとしたんだよな？

モー いや、オレの目指すスタイルはマトリックスボクシングなんだ。チョーナンとは全然違うね！

長南 まあ、べつにいいけど。

——本人を目の前にすると言いづらいのかもしれないですけど、前回の試合後にモー選手の話を聞いたら、長南さんのことはMMAのテクニックを教わった先生として尊敬しているって言ってましたけどね。

長南 いや、俺もそれは一緒ですよ。9月の『UFC88』で（ホアン・）ジュカオン（・カルネイロ）に勝ったのも、モーからタックルのディフェンスとかいろいろ習ったおかげで。それはいまでもずっと染みついてるんで、日本に帰ってきたら、教わったことをほかの選手とかにも教えたりしてますからね。

モー そうだろ。オレは長南のレスリングセンセー（日本語で）なんだ。ガハハハハハ！（満足げに）。

——お互いにリスペクトし合ってる部分もある、と。日本のファンからすると、メイヘムとモー選手って、どちらも強くてクレイジーという意味では似てるようなイメージもあるんですけど、長南さんから見て一番の違

勝ったのは嬉しいが、ゴミが敗れたのがショックだよ（モー）

今回も入場パフォーマンスで場内を盛り上げた"王様"モー　モーカールは前日&夜明け会見にも姿を見せていたが、戦極初参戦となった竹内出の入場時に一部で登場が期待されていたイスルカールは姿を見せず　残念

いはどこですか？

長南　でも、・・人は似てるんですけどね

――あ、やっぱり似てるんですか

長南　ただ、アスリート的な部分で言えば、ジェイソンは寝技の達人で、モーはレスリングの達人ですからね

――北京オリンピックにもう少しで行けるぐらいの実力なわけですからね

長南　そうッスね　ただライフスタイルはモーのほうが全然マジメですね

モー　そのとおり（それぞれ指を差して）メイヘムはクレイジー！　チョーナンもクレイジー！　でもオレはクレイジーじゃないぜ！　ガハハハハハ！　まあ、ナンバーワン・クレイジーは●、◆★▼（おそらくクエストのファイター）だけどな

――はぁ　まったく聞き取れなかったんですが、誰かナンバーワン・クレイジーなんですか

長南　それは聞かなくてもいいです。日本人は誰も知らない選手のことなんで（笑）

――とりあえず、長南さんもキングもどちらもクレイジーってことでよろしいでしょうか？

モー　オレ以外はクレイジーだな　それは間違いない！

長南　そんなことばっかり言ってますけど、モーは大卒で頭は凄くいいらしいですよ

モー　そのとおり！（満足げに大きくうなずく）

――メイヘムはどうなんでしょう？

長南　メイヘムは学歴はそんなになないと思うんですけど、頭はいいッスよ　日本語とか覚えるのも凄く早いし、道とかも、一回通ったとこは「あれ、ここ来たことある」って覚えてるんですよね　まあ根はいいけど、クレイジーなところはありますけどね（笑）

――じゃあ、みんなクレイジーっていうのは合ってるんですね（笑）

長南　クレイジーっていえば、モーはキ　マを蹴るのが好きなんですよ

――それはまたクレイジーな趣味というか、性癖というか（笑）

長南　人がしゃべってるときに、いきなりキ　マを蹴ってきたりするんですよ　俺だけにやるのかなと思って見てたら、山本先生にもやるんですよね

――山本先生といえば、よく『kamipro』にも登場している長南さんやモー選手の身体のケアをしてくれる整体の先生ですよね

長南　そうなんですけど、モーはさんざんお世話になってるくせに会うとキ　マ蹴るんですよ

――それは挨拶的な意味があるんですかね？

長南　そうみたいですけど　逆にモーは蹴られると蹴られたで喜んでるんですよね　苦しみながらも

――それはクレイジーです（笑）　どういう意味があるんですか？

モー　コミュニケーションの一環さ　チョーナンとケン（山本先生）に会ったら、いつもキ　マにパンチするんだ！（得意げに）

長南　俺は嫌がってるけど、モーは殴られたり蹴られたりするとエクスタシー感じてるんだよな？

モー　おいおい、エクスタシーだって!?　これはシリアスなインタビューなんだ　ふざけないでくれ！

長南　ふざけてんのはおまえだろ！

ミドル級GPはサンチアゴが優勝！

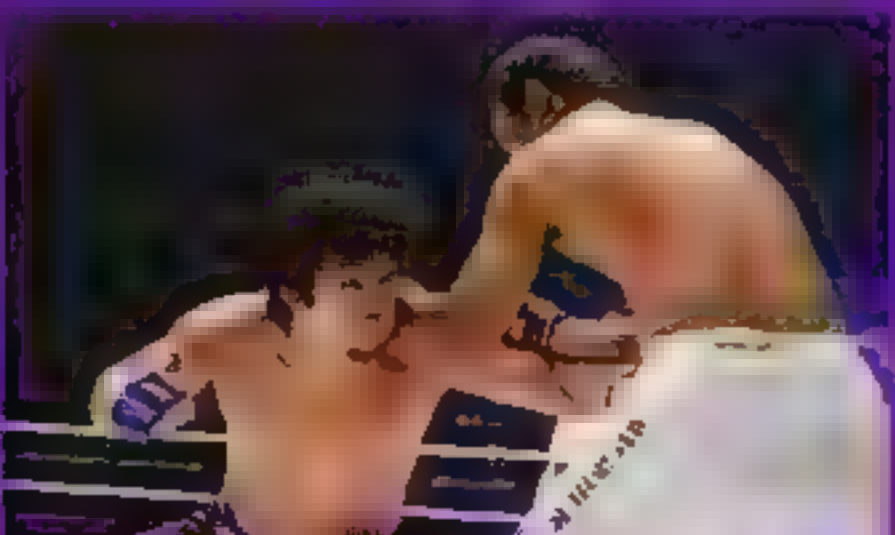
「戦極～第六陣～」ハイライト

戦極ミドル級GPを制したのは戦前から優勝候補として名前が挙がっていたアメリカン・トップチームのジョルジ・サンチアゴ。1.4「戦極の乱」では三崎和雄とのミドル級タイトルマッチが正式決定！ベルトも奪取できんのか!?

○ジョルジ・サンチアゴ vs 中村和裕×
（3R 0分49秒 KO）

ミドル級GP決勝はシアー戦をほぼノーダメージでクリアしたサンチアゴと、佐々木とフルラウンド闘ったカズの激突に。1&2Rは一進一退の攻防が繰り広げられたが、3R開始早々にサンチアゴがパンチでカズをKOし、GP制覇！

○ジョルジ・サンチアゴ vs シアー・バハドゥルザダ×
（1R 1分10秒 ヒールホールド）

11.1「戦極～第六陣～」はミドル級GP準決勝、サンチアゴとシアー・バハドゥルザダ戦でスタート。試合は開始からわずか70秒、サンチアゴがヒールホールドでシアーに勝利。サンチアゴがほぼ無傷でGP決勝戦へとコマを進めた

○中村和裕 vs 佐々木有生×
（3R終了 判定 3-0）

ミドル級GP準決勝第2試合は佐々木と中村カズの日本人対決。打撃ではほぼ互角の展開となったが、体重を落とし身体のキレが増したカズがテイクダウンで佐々木を上回り、フルマークの判定勝ちを収め決勝戦進出を決めた

戦極ミドル級GP王者ジョルジ・サンチアゴインタビューは「kamipro.com」にて配信予定！　要チェック!!

イッセイミヤケにオレのスポンサーにつくよう頼んでくれよ！（モー）

……まあいいや。ガキを相手にしてもしょうがないんで（笑）。

モー　それはそうと、試合後のオレのパフォーマンスはどうだった？

——「オレがキングと言ったらモーと言ってくれ！」ってことで、「キング！」「モー！」とファンと一緒にやっていたパフォーマンスですよね。

モー　そうそう。けっこう手応えはあったんだけどな。

　かなり盛り上がってましたよ。もしかしたら、『戦極』ポーズよりは浸透するかもしれないです。

長南　盛り上がってました!?　あんまり、体感は感じなかったですけど

　いやいや、けっこう観客もやってましたよ。あのパフォーマンスは今後も続けていくつもりですか？

モー　ちょっと変えたほうがいいかなとは思ってるんだ　ちょっとストレートすぎたかなって思うし。

長南　いや、今回のパフォーマンスをみんな覚えてるかもしれないから、やるんだったら続けたほうがいいと思うよ。

モー　そうか　う～ん、じゃあ、次に勝ったらイシヤキだな！

長南　は？　イシヤキってなんだよ？

モー　イシヤキはイシヤキだよ！　知らないの？（不思議そうな顔で）

——もしかして、イシヤキイモのことですか。

モー　違うって！　イシヤキってのは有名な日本のコロンの名前だろ？

——あ～、イッセイミヤケですか

モー　そうそう、それだよ、それ！　イシヤキ！

長南　イシヤキじゃなくて、イッセイミヤケ！　ホント、おまえの日本語は最悪だな（笑）

モー　オレはイッセイミヤケのコロンが好きなんだ　ユーのマガジンでイッセイミヤケにオレのスポンサーについてくれるよう頼んでくれよ！

　力になれるかどうかはわからないですけど、一応そのアピールは載せておきます。で、長南選手は12・27「UFC92」でのブラッド・ブラックバーン戦が正式に発表されたわけですけど、アメリカにはいつ頃、行かれるんですか？

長南　12月頭にまた行って、下旬に試合する感じですね

　対戦相手のブラックバーンは日本ではあまり知られていない選手ですけど、これまでの戦績は12勝9敗ってことですよね。

長南　戦績だけ見るとたいしたことがないって思うかもしれないですけど、9敗っていうのは、ほとんど前半なんですよ。

——確かに最近の試合は勝ち星が先行してるんですよね　これまでIFLを中心に闘ってきて、前回、初登場のUFNで勝利しているアメリカの選手ということで。

長南　デビュー直後はどこにでもいる選手って感じだったのが最近になって、右のパンチのテクニックが上がってきてるファイターで　戦績を見るとそんなに強くねえだろって思うかもしれないですけど、勝ってる相手はみんな強いんですよね

　いまUFCに出てる選手で弱い選手はいないっていいますからね

長南　いないですね　だからこそ闘っていく意味もあると思ってるんで、それに、今回はいままでの相手と比べると一番噛み合うんじゃないかなとは思ってるんですよ。いままでの相手は抱きついてからあまり展開のない選手が多かったんで

　長南さんが出場する「UFC92」って、シウバvsランペイジやノゲイラやグリフィンのタイトルマッチとかメチャメチャ豪華なカードがズラリと並んでますよね。

長南　そうッスね。だから自分はばっちりアンダーカードですけどね（笑）まあそれは、しょうがないなぁって。でも、そのイベントに出れるってのは凄い光栄なことだと思ってるんで、自分らしい試合をして、いい結果を出したいですね

　ブラックバーン戦の先に狙っているのは、当然チャンピオンベルトなわけですよね？

長南　いや、ベルトっていうのは見えるところまで来て言えることだと思うんで。まったく見えないとこで騒いでても悲しいだけじゃないですか。あとUFCもどうなるかわからないですからね

　まあ、いろんなよからぬ噂も出てますからね

長南　だから先のことはよくわからないし、いまは契約内での試合ぐらいしか考えてないんで　ただ、強さっていう意味では、やっぱり（ジョルジュ・）サンピエールとかあそこらへんが自分の目標ではありますよね。タイトルとかじゃなくて

　一方のモー選手は年明けの『戦極』のビッグマッチへの参戦が確実視されていますが

モー　もちろん出る気は満々さ　『戦極』が選んだ相手と闘うだけだ

　一部報道では、吉田秀彦選手との対戦の噂も出てましたけど。

長南　エ～、吉田さんとモーっすか!?　そんなカードが決まったら俺はどっちを応援すればいいんですか（苦笑）

　長南さんは吉田選手とも練習をしたりしてますからね。

長南　そうなんです。さすがにちょっと気まずいんで、そんな試合は組まないでほしいですね（笑）

モー　オレは誰が相手でもかまわない。なんならチョーナンでもいい！

長南　勝手に言ってろ！

　二人の対戦はともかく（笑）、モー選手は吉田戦でないとしても、『戦極』の期待も大きいと思うので、ビッグネームと対戦することにはなると思いますけどね

長南　そうでしょうね。前回も今回のイベントでも一番強さを見せつけたのがモーだと思うんで、やっぱり、強さってのがわかりやすいと観てるほうも楽しいと思うし、『戦極』にとって絶対必要なファイターになってきちゃってますよね。

——それは間違いないです　では、悪友なのか師弟なのか関係性はよくわからないところもあるお二人ですが、今後の活躍を期待してます！

モー　ガンバリマ～ス！（日本語で）。

長南　自分も頑張ります！

【08年11月2日／都内・某ホテルにて収録】

ちょうなん・りょう■1976年10月■日、山形県出身　01年、DEEPでプロデビュー　03年9月に桜井"マッハ"速人に勝利後は「PRIDE武士道」でも活躍。06年2月には桜井隆多を下しDEEPミドル級王者に　07年11月の「UFC78」でオクタゴンデビュー。12.27「UFC92」ではブラッド・ブラックバーン戦が決定している。175cm、80kg。

KING MO■1981年1月11日、米国テネシー州出身。07年レスリング・パンアメリカン選手権優勝。今年4月の全米選手権でも優勝するが、北京五輪代表選考会では決勝で敗れ、代表の座を逃す。同年9月の「戦極～第五陣～」でホジャー・グレイシーの代役としてMMAデビュー　トラビス・ビュー相手に衝撃のTKO勝利を飾った　180cm、96kg

○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ vs モイス・リンボン×
（3R終了 判定3-0）
ひさびさに来日のホジェリオが『戦極』2戦目のリンボンと対戦。一本勝ち宣言もしていたホジェリオだったがリンボンを極めきれず判定勝利。国保広報は「『戦極』の外国人ファイターのレベルの高さが証明できたと思う」と満足げ。

MMA観るヒマあるなら オレのK-1だけ観てろ!!

（くそつまんねえ）

kamipro 立ち技委員会 No.001

バダ・ハリ

MMAに毒舌提言!!

昨年同様、12.6 K-1WORLD GPに向けてのプロモーションのために来日した現K-1世界ヘビー級王者バダ・ハリ。今年は2日間でテレビ、雑誌など30社以上の取材を受けた昨年以上の超過密スケジュール! 文字どおりK-1の看板選手となったバダ・ハリが独自のロジックでDREAM、視聴率、そして三角絞めについて激白! "プロ根性の塊"バダ・ハリの言葉に耳を傾けよ!

聞き手／松澤チョロ　試合写真／[illegible]

現在の日本のテレビは、格闘技（K-1、MMA）放送のみならず、深刻な視聴率の低迷にあえいでいる。かつては30パーセントを超える番組も少なくなかったが、いまでは不可能に近い。あるテレビ関係者によれば「現在の視聴率の合格ラインは12パーセント。中には"二ケタでいい"というプロデューサーもいる」という状況で、市場全体が地盤沈下を起こしているのだ。

だからこそ、K-1にしろMMAにしろ、"結果"が求められている。そして、結果を残す絶好のチャンスが"大晦日"である。DREAMとK-1の合同興行となる『Dynamite!!』では、世間相手に大バクチを仕掛け、ぜひとも夢のある対決を実現させたいはずだ。

そんな年末のビッグイベントでK-1側の代表格として欠かせない存在がバダ・ハリである。すでに総合格闘家への転向を表明した北京五輪柔道金メダリストの石井慧、DREAMの大黒柱・青木真也、DREAMミドル級王者のゲガール・ムサシから続々と対戦表明が届くなど、MMA側の標的となっている。そんなバダ・ハリが低迷するテレビ放送における格闘技のあり方、そしてMMAをぶった斬り! 話は自身のMMAマッチにもおよんだ。

アオキがオレを極めることはできない
オレが逆に三角絞めで極めてやるよ

BADR HARI
The Golden Boy

チェ・ホンマン
テレビの功罪 〜韓国の場合〜

12.6『K-1 WORLD GP』に出場する"韓流大巨人"チェ・ホンマン。今年は徴兵で入隊直後に脳腫瘍で除隊するという一大事があり、韓国で大バッシングの渦が起こった。チェ・ホンマンはブログで「死にたい」と告白（すぐに削除）するなど、心を痛めて精神的にかなり不安定な状態に陥ってしまった。皮肉なことにホンマンとは逆に日本では大ヒール、韓国では超ベビーフェイスの"魔王"秋山成勲が大人気に！　そんな日韓格闘技界の違いについてホンマンはどう思っているのだろうか？

聞き手　大川義之　試合写真　乾晋也

――ホンマンさん、おひさしぶりです！　前に青木選手と韓国で対談をしてもらった『kami-pro』です。

ホンマン　あー、覚えてるよ。そうだ！　そのアオキ・シンヤのことで聞きたいことがあるんだ。

――いきなりどうしたんですか？

ホンマン　K-1のホームページで見たんだけど、彼はボクと闘いたいって言ってるみたいだね。彼は本気で言ってるの？　前に会ったとき、アオキはにこやかで冗談好きな感じだった。だからおもしろおかしくメディア向けの話題づくりとして言ってるのかなと思ったんだけど……。

――青木選手の発言は気になりますか？

ホンマン　うん。一度会って楽しく話してるからね。で、どうなの？　彼はボクのことが嫌いなの？

――好き嫌いとかではなく、大晦日に向けて夢のカードを！　ということで出た言葉だと思います。

ホンマン　観る側からするとおもしろいかもしれないけど、やるにしても体重差が凄くあるし、ボクにとっては勝っても負けてもやる意味はないと思うんだよね。

――では、ズバリ、彼が本気で闘いたいと言ってたらどうしますか？

ホンマン　それなら容赦なく叩き潰すよ（ギロリ）。

――キラーモードですね。さて、大晦日の話題はのちほどうかがいますが、その前の12月6日『K-1 WORLD GP』ではリザーブマッチでレイ・セフォー選手と闘うことになりましたね。彼にはどんな印象を持っていますか？

ホンマン　彼のファイトスタイルは好きだし、いつか闘えることを楽しみにしていたんだ。でも、最近の試合を観ていると、前のような強さは感じないね。正直言って技術、スタミナも落ちていると思う。自信をなくしているみたいだね。でも、ブーメランフックは気をつけないとね

――ホンマン選手はリザーバーですけど、『K-1 WORLD GP』の決勝大会で優勝するには3試合しなければなりませんよね。スタミナ面のトレーニングは？

ホンマン　バリバリやっているよ。GPの決勝大会では必ずリザーバーにもチャンスは来るからね。今年は自分にとっては本当によくないことがいろいろあったから、そういう嫌な思いを晴らすチャンスが得られたと思って喜んでいるんだ。バダ・ハリ戦でもスタミナ面では問題はなかったんだ。あのときは昔の自分の気持ちの強さ、自信が失なわれていたと思う。

――バダ・ハリ選手との試合は勝てそうな試合でしたね。

ホンマン　韓国のファンからも「あと少し頑張っていたら勝てたのに」と本当にたくさん言われたよ。自分でも消極的な面があったと思うし、そこは悔いが残ってる。

――12月6日というと、『K-1 WORLD GP』の決勝大会もありますが、ホンマン選手が出演した映画『特命係長 只野仁』という映画も公開日なんですよね。

ホンマン　偶然重なったよ。

――どんな役を演じたんですか？

ホンマン　悪役というか、ボクは主人公のタカハシ（高橋克典）さんの敵役として決闘する役なんだ。ほとんどアクションシーンだったから撮影が本当に大変だったよ（笑）。ワイヤーアクションのような危ない撮影もあったからね。ボクはこんなに身体が大きくて体重も重いでしょ？　それが本当につらかった……。

――昔から映画に出たいという夢はありましたか？

ホンマン　誰でも小さい頃に映画に出たいとか、そういう夢はあると思う。いい経験になったよ。

――これからも続けてやってみたい気持ちはありますか。

ホンマン　もちろん！　チャンスさえくれれば、いくらでもやるよ。……でも、そしたらまた韓国のファンは、「また練習もしないで、そんなことばっかりやって」って言うかもしれないけどね。

――韓国では厳しい批判があるんですね。

ホンマン　そういうことをもの凄くたくさん言われるんだ。これはっかりはどうしようもないけど……。

――でも、ホンマン選手は韓国を代表して闘っていますよね。勝っているときはみんな凄く応援するのに、ちょっと負けた

ボクは自分のイメージをうまく管理できていなかったんだろうね……

HONG-MAN CHOI
Merits and demerits of television

りすると「テレビなんか出てるからだ。もっと練習しろ」という批判が出てきます。

ホンマン　最初、そういう反応が凄く嫌だったんだ。でも、いまちゃんと言われたことを考えてみると、自分に対して強い関心を持ってくれているからで、ボクに凄く期待をしているからだと思う。

――映画もそうですが、ホンマン選手は日本でも韓国でも有名でテレビに出る機会が多いと思います。ただ、テレビに出て有名になると、自分にとっていいことも悪いこともあると思うんです。

ホンマン　ボクの場合はテレビに出ていい部分のほうが多かったと思う。自分の格闘技の試合だけを観るよりも、ほかの番組に出演しているのを観てくれれば、ファンにもっと近く感じてもらえると思うしね。悪い部分は……やっぱり、ボクは格闘技の選手だから、バラエティ番組に出たりしていると、自分のことを心配してくれている人たちの気分を害してしまうことかな。

――そこで気になるのが秋山選手のことなんですけど、秋山選手はホンマン選手とやっていることは似てますよね？　韓国でとても人気があって、格闘家でありながら、歌手デビューもするし、テレビにもよく出ています。なのに、ホンマン選手には厳しい批判が出て、秋山選手にはそういう声はない。どうしてこういう差ができるんでしょうか？

ホンマン　それはイメージの問題だと思う。ボクはうまく自分のイメージを管理できていなかったんだろうね。いろいろな出来事があったときに、自分はうまく言葉で表現できなかったことがあったと思う。

――今年は軍入隊、兵役免除、脳腫瘍の手術、K-1電撃復帰と、韓国でいろいろ騒がれることがありましたからね。

ホンマン　まあ、もうすべては過去のことだから！　秋山選手に関しては、今年自分が活動を停止していたときに彼が出てきて、うまく自分のイメージを売り出したと思うし、そういう差なんじゃないかな。

――秋山選手の売り出し方はうまかったですか？

ホンマン　うん。彼は韓国では凄い人気があるし、とってもイメージがいいんだよ。今年、最初にテレビのトークショーに出たとき、観ている人に深く印象に残るような姿を見せたことが大きかったと思う。

――ホンマン選手はシルム時代にも試合がテレビで放送されていたと思うんですが、K-1に出場するようになって、どういう変化がありましたか？

ホンマン　それはもう凄かったよ。韓国のシルムもテレビで中継されていたけど、それは大きい大会のときだけで、いつも放送されていたわけではなかった。でもK-1に出るようになってからは、いままでボクのことなんて気にもしなかったような人まで、関心を持ってくれるようになった。

――ただ、最近では自分のホームページにあまりにもひどい書き込みがあるので、韓国のサイバー警察がわざわざ「捜査しましょうか？」と言ってきたそうですね。

ホンマン　ああ、あったね……。最近、韓国ではそういうインターネット上で芸能人に対する脅しがあって、それが本当の事件に発展したこともあって、どうすべきか悩んだんだけど、「捜査しないでほしい」と伝えたんだ。こんなことで誰かを罰してほしいとは思わないからね。

――なるほど。話は変わりますが、K-1の谷川さんは「12月6日の試合でケガがなかったら、『Dynamite!!』に出てほしい」って言ってました。

ホンマン　ケガがなかったら出るよ。MMAの練習もしてるし、話題の柔道金メダルの彼でもいいよ。

――石井慧選手のことも知ってますか！

ホンマン　うん。韓国でもかなり報道されているからね。それに、ちょっと自分と境遇が似ているような気がするし。

――ホンマン選手もシルムの現役トップ選手から格闘家に転向したんですもんね。

ホンマン　彼もいろいろ騒がれていたでしょ？　自分もK-1に転向するときはノイローゼになるぐらい悩んだし、シルム業界からも、もの凄く批判されたからね。

――石井選手も人間関係でうつ病や強迫神経症に悩まされていたみたいですよ。

ホンマン　だろうね。現役の金メダリストがプロ格闘家になるんだから、これは簡単なことじゃないよ。これは偉そうに言うわけじゃないんだけど、練習をしっかりやってプロとして必死になっていい試合を見せていけば、批判していた人も応援してくれるようになると思う。頑張ってほしいね。

――言葉に説得力がありますね。

ホンマン　厳しい批判もあるけど、それは自分に期待してくれてるからだし、負けても何も言われなくなるようになったら、やっぱりプロのファイターとしては終わりだと思う。関心を持たれないってことは、プロとして人気がないということだからね。そういう意味では、石井選手の転向を歓迎したいし、自分ももっと頑張らなきゃと思うよ。結果でもってみんなに評価してもらえるようにするよ。

――まずは『K-1 WORLD GP』と『Dynamite!!』で活躍する姿を期待しています。

【08年11月11日／都内・ラフター7にて収録】

HONG-MAN CHOI■1980年10月30日、韓国出身。シルムの横綱という輝かしい経歴からK-1に転身。超長身から繰り出すパンチとヒザ蹴りを武器に05年3月のデビューから快進撃！　08年は脳腫瘍の除去手術を受けたが9月27日の『K-1 WORLD GP 2008 IN SEOUL ～FINAL16～』で電撃復帰。バダ・ハリ相手に大健闘。218cm、160kg。

舞い上がった日。

栃木大会の開催宣言を行なったのは佐藤栄一宇都宮市長。その市長に呼び込まれるかたちで登場した川田は、応援団を引き連れて『TOCHIGI』を熱唱！ そして自身の両親を呼び込むととっちぎポーズを披露。ビバ郷土愛&家族愛！

大会のお祭りムードをより高めたのが、会場の周りに設置されたフランクフルトや焼きそばなどの露店の数々。なぜかご当地出身でもないのに水泳の五輪メダリスト北島康介の実家「北島商店」のメンチカツも売られていた。お祭りだから何でもアリ！

清原体育館はJR宇都宮駅から徒歩118分というトンデモなロケーション。そして大会終了後には時間的にバスもないことが発覚！ しかし地元の協力により臨時バスが運行、"清原難民"の大量発生をくい止めたのであった！

栃木による栃木のための『ハッスル』に、プロレス復興の鍵を見つけたり!?

頭のてっぺんから足の指の先まで「鳥肌立った！」と言えるほどの盛り上がりを見せた10・26栃木大会。『ハッスル』ファンを公言する高田延彦も「今日のイベントは間違いなく歴代のベストテンに入る」とブログ上で絶賛。一介の地方興行がまさかの"奇跡の一夜"となった理由とはいったいなんなのか？

今年5月の『ハッスル・エイド』でのインリン様の引退を境に、筆団の垣根を取っ払って行なわれた『ハッスルGP』。"インリン様後の世界"を構築していく手段として『ハッスル』は、もっともその世界とかけ離れた価値観である、勝敗に重きを置くトーナメントの開催を選択。

従来『ハッスル』は豪華な演出や芸能人参戦など、プロレスにこれでもかとエンターテイニングを持ち込むことで異彩を放ってきただけに、今回の新機軸は『ハッスル』にとって大きな実験になると思われた。

だが、そこはやっぱり『ハッスル』。GPは坂田亘vsTAJIRIが『ハッスル』では異例の20分以上のロングマッチとなる一方で、川田利明vsRGでは試合でなく歌合戦での決着を試みようとするなど、『ハッスル』らしい遊び心を忘れることなく進行。ドラマを生み出しやすい"装置"であるトーナメントに、ファイティング・オペラならではの自由奔放な"永遠の夏休み感"を盛り込みながら、GPは熱を帯びていった。

そしてその決勝の舞台となったのが、"住みたくない県第3位"の栃木。さかのぼればGPの2ヵ月前にあたる『ハッスル・エイド』から川田は『TOCHIGI』を熱唱し、『ハッスル』の栃木大会開催を懇願。その栃木がド田舎とコケにされればされるほど、「どこまで田舎なのか」と逆に膨らんでい

おい、ホントかよ!?　地方興行が空前絶後の大成功!!

スーパー★シティが栃木

2008.10.26『ハッスル』
栃木・宇都宮市清原体育館大会レポート

文／鈴木佑　撮影／平工幸雄、山口比佐夫

次は『ハッスル・マニア』年末に世間と大一番!

『ハッスル・ツアー2008』~KORAKUEN~ クリスマスSP
後楽園ホール
12月24日(水)開場18:00　開演19:00
12月25日(木)開場18:00　開演19:00

『ハッスル・マニア2008』
有明コロシアム
12月30日(火)開場15:30　開演17:00

チケット料金
ハッスルVIP席 20000円　RRS席 10000円　S席 7000円
A席 5000円　B席 3000円　こどもB席 1500円
※こども料金の区分は1歳から小学生以下
※こどもBについては一部扱ってない店舗もあります
※11月23日(日) 10:00～　一斉発売

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント TEL.03-3221-2431
http://www.hustlehustle.com/

終盤の川田の父親が倒れた場面では一瞬の"間"が生じた場内。しかし、種明かしのようにゼウスが父親を救急車に運ぶシーンがビジョンに映ると客席は納得のリアクション。観客とのあいだに心地よい"共犯関係"が生まれた!

「ハッスル」の地方大会に欠かせないものといえばご当地出身の著名人。オープニングではお笑いコンビのU字工事が栃木ネタを絡めながら大会の見どころを紹介。また、今大会を欠場した越中詩郎の代わりとしてつぶやきシローが登場!

オープニングからボルテージが上がりっぱなしの客席は、試合が始まっても中だるみすることなくノリノリのノリ助状態!　℃ポーズにおもいっきり呼応する客席、まさに観客参加型イベント『ハッスル』の面目躍如だ!

く、観る側の栃木に対する幻想。こうして長期的スパンで"栃木幻想"を煽っていったこと、さらに地方のテレビ局がプロレス中継を打ち切る現状の中で、あえて地方でのビッグマッチ開催を試みる『ハッスル』特有のズラし方が大会成功の一因となった。

今大会はPPV放送がなかったために会場の"密室性"はより高まり、その期待感はご当地出身である野口レフェリーの"ハッスル観戦講座"の時点でハイボルテージ。大会を通して決して豪華な演出があったわけではないが、"郷土愛"を共通項に最高のシチュエーションが整ったのだ。長きにわたる"下ごしらえ"、そして地元側との協力によって勝利へとつないだ今大会は、マット界全体を通しても今年のベスト興行の一つに挙げられるだろう。大会に向けていかに物語を紡ぎ、観客をはじめ周囲を巻き込んでいくか——栃木大会にはプロレス復興のヒントが内包されていた。

また、この大会で注目しておきたいのが"坂田エース体制"の終焉。髙田総統に「キサマにはエースとしての存在感など感じないんだよ」とネタにされ続けた坂田が、今後"川田エース体制"のもとでどのような一面を見せていくのか興味深いところだ。

さて、この成功の余勢を駆るかたちで『ハッスル』は、12月30日に『ハッスル・マニア』を有明コロシアムで開催。

大会の模様も昨年同様に大晦日にテレビ東京系列で放送されることが決定した。派手な演出なくして興行を成功させる方程式を身につけた『ハッスル』が、十八番である豪華なステージングで"VS世間"をテーマに勝負をかけるのだ。

奇しくもインリン様最後の舞台となった有明コロシアムで、『ハッスル』は"インリン様後の世界"の集体成をどのように表現するのだろうか?

『ハッスル』第二の故郷は栃木に決定!?

ハッスルとっちぎ!とっちぎ!座談会

交通の便の[illegible]GP決勝の舞台に決定するなど
大会前からとに[illegible]ハッスル』初の栃木大会。
本誌編集部からも4[illegible]敢行。奇跡の大会を[illegible]

写真／平工幸雄、山口比佐夫

――本誌でも「会場まで行けんのか！」などと、失礼な煽り方をしてきた10・26『ハッスル』栃木大会ですが、フタを開ければ超満員でおおいに盛り上がりました！　そこで、この大会を遠路はるばる栃木まで足を運んだ編集部の面々で振り返りたいと思います。

ガンツ　いや～、とちぎ和牛がうまかったね～（シミジミと）。

ノブ　確かに。あれはいままでに食べたことがないくらいだったねぇ～。

――いきなり大会そっちのけですか（笑）。僕も試合後にノブさんの車で連れてってもらいましたけど、確かにあの肉は相当にクオリティが高かったです。

真下　う～ん。和牛を食べずにバスの最終で帰った自分としては悔しいなぁ。

ノブ　なんで先に帰ったんですか？

真下　"清原難民"になりたくない一心ですね。「臨時運行バスの最終に乗らなきゃ帰れなくなる」って頭があって（笑）。でも、遅い時間になるとホントに真っ暗で恐ろしかったなぁ。

ガンツ　和牛で栃木県のポテンシャルの高さを知ってもらいたかったけどね。

真下　堀江さんは、いままで栃木に住んでたのに和牛は食べたことなかったんですよね？

ガンツ　ほとんどないです（笑）。でも、こないだ実家帰ったときに食べたら、驚異的なうまさで。「これからの栃木はこれだろう」って思ったわけです。

ノブ　その前の栃木名物はなんだったの？

ガンツ　これといってないでしょう！とくに宇都宮はかんぴょうとか、そんな食わなくても困らないものしかないし。

真下　唯一の名物がかんぴょうですか。

ノブ　かんぴょうは道端で売ってたけどさ、あれだけを食べようとは思わないよね。あと、餃子も名物って言ってるけど、餃子屋も駅の周りにしかないし。

――とか言いながら、ノブさんも餃子のみんみん、でたらふく食べてましたけど……。

ノブ　（無視して）餃子が名物って後づけなんだよね？

ガンツ　後づけっていうか、有名になったのはここ15年ぐらい。そもそも宇都宮って土地をアピールできるものがなかったんだよ。それで、宇都宮市役所観光課の人が統計資料を眺めてたら、たまたま餃子の消費量が日本一だった、と。

――餃子がおいしいってより、餃子をたくさん食べている土地（笑）。

ガンツ　で、たまたま『みんみん』と『正嗣』っていう二大有名店があって。おそらく宇都宮の主婦が餃子を買ってきて、そのまま晩ごはんのおかずに出してたのがだんだん有名になっていったんじゃないか、と。

――主婦の手抜きから広まっていったんですか（笑）。

ノブ　へぇ～……って、こんな話ばっかりでいいの？

――もちろん、大会を振り返っていきたいと思います！　今回は会場の清原体育館が、交通の便がとんでもなく悪いこともあって、ちょっとした"密航"イベ

座談会出席者

堀江ガンツ　本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的なプロレスファンとして鳴らす。ダメな30代から共感を集める変態座談会主宰者。栃木県出身。

真下義之　本誌編集部。某世界的アーティストの内弟子を経て「kamipro」入り。「mimipro」では"笑い屋"としても活躍。群馬県出身。

坂井ノブ　「kamipro」携帯サイトおよびオフィシャルウェブサイト[illegible]担当を務めている。神奈川県出身。

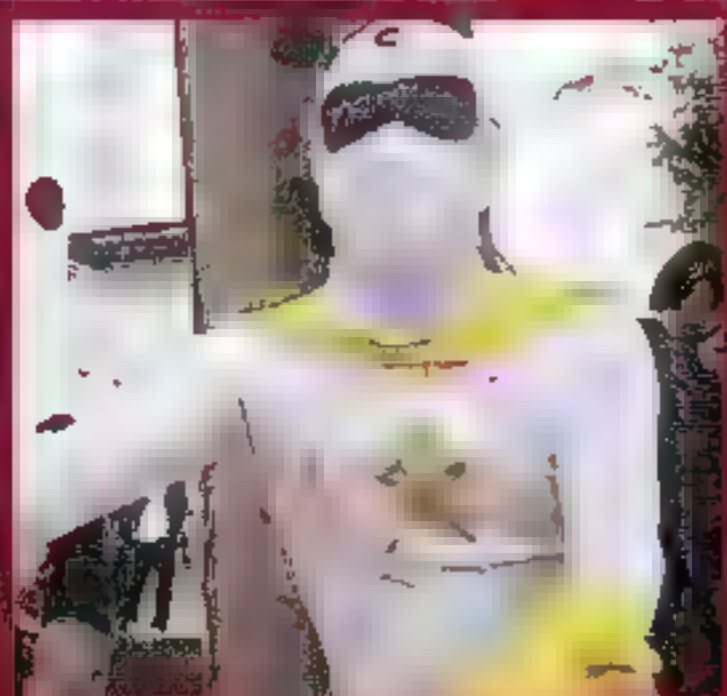
【司会】スズキ[illegible]　本誌編集部。今年3月から「kamipro」入りした新人。その出身がタイガ[illegible]門下生ということはかたくなに否定する。東京都出身。

会場で聞いてみました！ハッスルファン意識調査

質問
1 どこから来ましたか？
2 今日観戦に来た理由は？
3 栃木の印象、いいところは？

ニセ総裁さん
1. 埼玉県
2. 見てわかるように常連なんで
3. 大会前に下見に来たんですけど何もないですね！　でも、この格好してると周りが盛り上げてくれるんで楽しいかな（笑）

トリカイさん＆ハタさん
1. 茨城県
2. 車で来やすい距離だったんで。後楽園も行きますよ
3. わかりにくい場所だなぁって。餃子はとりあえず食べておきました

ミチオさん＆ユウコさん
1. 栃木市
2. プロレス好きなんです。ちなみにハッスルは初めてです
3. お米がおいしい。ショッピングモールが広いところ

クッキング戦士クックマンさん
1. クッキング星
2. この栃木星に悪が現われたらしいのでパトロールに来ました
3. 食べ物がおいしい。水がきれい。空気がきれい

近県からも観客が集まった今大会は さながら「小旅行プロレス」だった

ントみたいな感じでしたね。

真下　僕は都心から湘南新宿ラインで1時間40分かけて宇都宮まで出て、そっから臨時バスで会場に行ったんだけど、バスが出発した瞬間に「30分くらいで到着します」ってアナウンスがあったら、車中から「え～」って不満の声が一斉に上がってたね。「まだそんなにかかるのかよ！」って（笑）。

ガンツ　しかも続いて「今日は休日のため、渋滞が予想されます」ってアナウンスがあってさ。「おいおい、もっとかかるのかよ！」って（笑）。

一同　ダハハハハ！

ガンツ　でも、今回はその「遠い」ってことが逆にウリになった部分があるよね。

真下　髙田総統劇場で、「栃木＝遠い、ど田舎」というフリをさんざんしてきたことが溜めになってて。みんなクソ遠さに文句を言いつつ、楽しんでるっていうか。東京から来てた知り合いも「ホントに遠いねぇ～」ってじつに嬉しそうに言ってたし。

ノブ　俺はススキィと車で行ったんだけど、会場近辺の風景が凄かったね。キャノンとかホンダとか一流企業の工場だらけで。

――でも、日曜だから人気がまったくないっていう（笑）。

ノブ　あれを見てラスベガスの巨大ホテル群を思い出したんだよ、入り口から部屋に着くまで15分以上かかるような。それぐらいのスケールで、清原体育館に行くまでに延々と工場が立ち並んでて。

ガンツ　ラスベガス……、ということは清原体育館は日本のトーマス＆マック・センターだな。日本でPRIDEが復活したら、清原体育館でやろう（笑）。

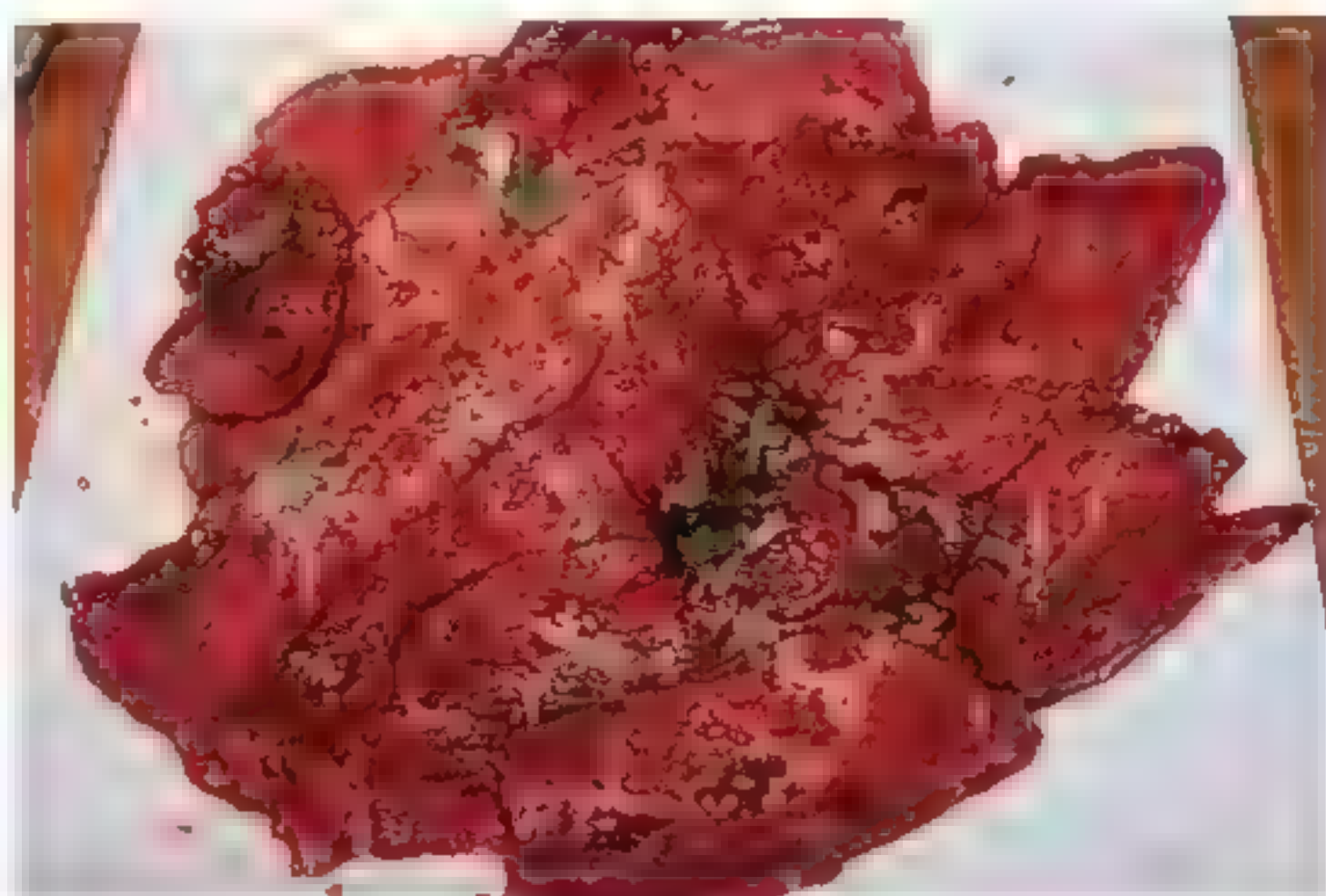
ノブ　ラスベガスも1940年代まではホテルも何もない砂漠の街だったんだよね。清原体育館周辺みたいな。

――しかし、そんな荒涼としたロケーションにもかかわらず会場には大観衆が集まりましたね。

真下　そうそう。会場に着いたら、「どこから湧いてきたんだ？」ってくらい人がいたから。

ガンツ　出店もたくさん並んでお祭り感が満載で。

ノブ　会場までの道中じゃ、ほとんど人に会わなかったのに（笑）。

真下　で、おもしろかったのが、会場周辺でお客さんにアンケートを取ったら、栃木以外、埼玉、茨城、群馬……、いろんなところから車で来てたんですよ。

――言うところの北関東連盟ですね（笑）。

見てみぃ、この色ツヤっぷり！　これがとちぎ和牛だ！　そのクオリティは叙々苑と遜色なし！　3人の編集部員で堪能、そのお会計は1万3000円也　はたして東京で食べたらいくらくらいするのやら‥‥栃木大会の裏MVPに認定！

真下　で、「ハッスル」はどのぐらい観てます？」って聞いたら、「後楽園ホールは平日開催が多いから行けないけど、ビッグマッチは日曜祝日だから車で来ました」みたいな軽いノリで。

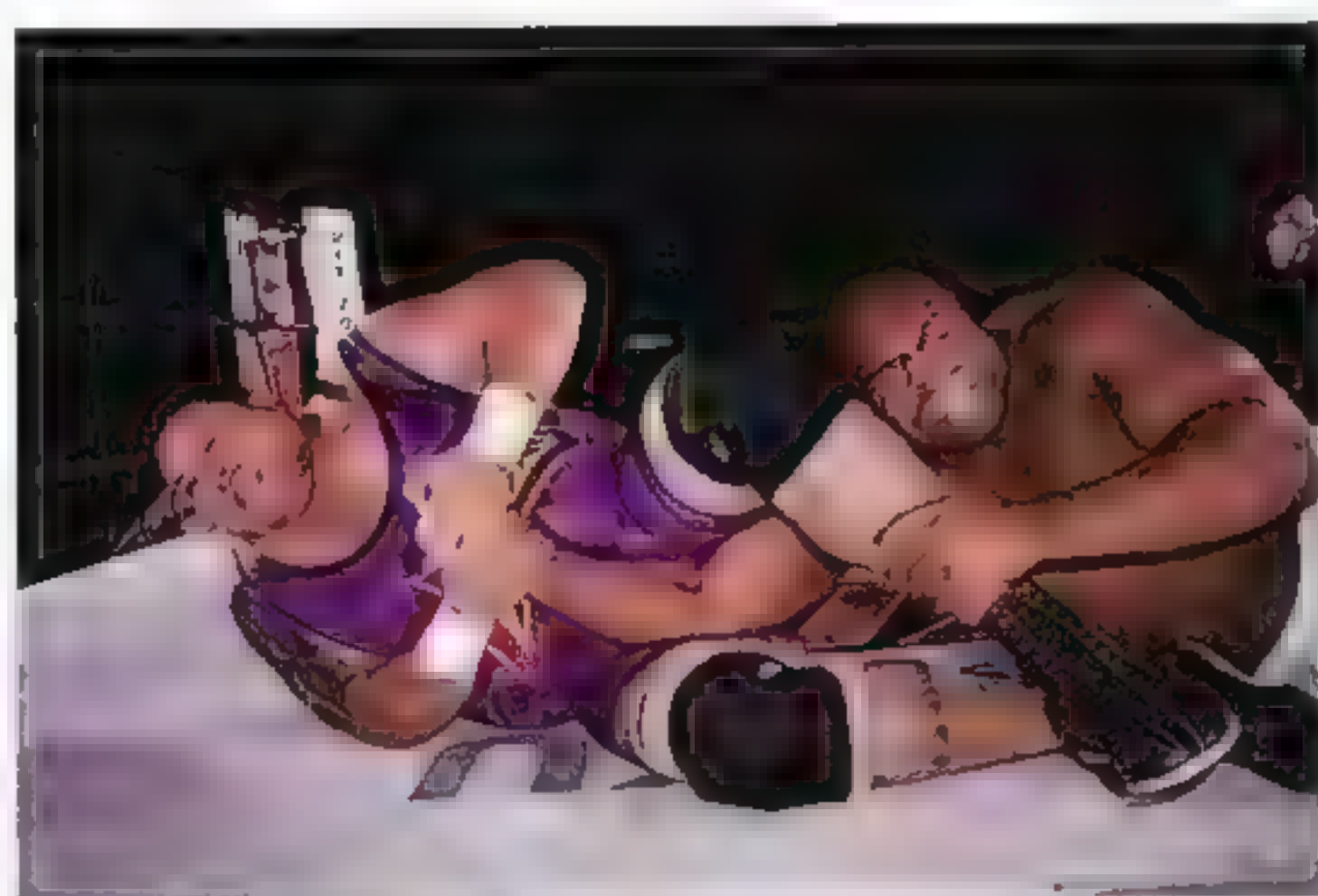
ノブ　地方の人は車が移動手段だから、意外とドライブがてら来てたのかな。

真下　大会以外でも栃木を楽しんだ人が多かったんじゃないですかね。僕も『みんみん』に並んでるとき、「おまえ、絶対に『ハッスル』に行くだろ」って風体の人がゾロゾロいましたから。

ガンツ　さながら「小旅行プロレス」だよね。ま、俺は地元なんだけど。

――で、肝心の内容ですが、ここ最近の「ハッスル」では抜群に評判が高いですね。

真下　オープニングから、徹底的に「栃木が川田のホーム」ってことをプッシュしてたじゃない。観客が川田に乗りやすいように作り込んであったから、応援ムードができ上がってたよね。

ガンツ　でも、ふだん栃木県民は川田のことをそこまで応援してるのかっていう（笑）。

地方興行で強いのが、一時代を築き、抜群のネームバリューを誇るボノちゃんやボブ・サップといった面々だ　テレビで観たことある有名人の登場に老若男女問わず大声援！　オラが村に大スターがやってきた！

――川田vs坂田自体は序盤のグラウンドから場内の反応はよかったんで、お父さんが倒れるくだりがなくても盛り上がったんじゃないかなとも思ったんですけど。

真下　いやいや、あれは絶対にないとダメでしょう！

ノブ　あれがないとたぶん、TAJIRI vs坂田亘みたいな普通のいい試合になってたよね。

ガンツ　でも、あの会場のムードだったら父親が倒れなくても充分に成立してたんじゃない？　場内の反応を見るかぎり、マニアじゃないファン中心に盛り上がってたみたいだし。

――父親が倒れたときに観客が一瞬戸惑ったように見えたんですよね。「え、なんなのコレ？」みたいな（笑）。

ノブ　父親がゼウスに運ばれるのを見つめる川田の目をひんむいた表情がビジョンに映ったときが、一番ドカンと会場が盛り上がってた（笑）。

真下　あの表情って「ここ笑うトコですよ」「こういうふうに観ていいんですよ」っていう説明だよね。

――『ハッスル』も地方でやってきてるから、あのへんはやっぱりうまいですね。

ガンツ　大会後、小学校低学年ぐらいの子どもがお父さんに「あれ絶対、嘘だよね」って言ってたよ（笑）。

真下　それとおもしろかったのが、総合を知ってる世代が最近のプロレスで一番冷めるのって足関の攻防だと思うんですよ。でも、あの試合では観る側が没入しまくってるから、「川田危ない！」って観客が超ノリノリだったのが凄かったし、魔法がかかってましたよね。

ノブ　ただ、さ。単純に……、栃木の人は

オダさん＆マサヤくん
1. 宇都宮市
2. ハッスルは2回目です。先月に両国でやった大会（『ハッスル』とキックボクシングのコラボイベント）に行きました。
3. やっぱり那須とか日光ですね。食べ物だと那須牛です。

スダさん＆タカヤマさん
1. 東京都
2. 会場にはよく行ってるので、目の前でダンプ松本が見れたのが嬉しかったです。
3. 『みんみん』に行こうと思ったんですが、並んでたんでほかのところで食べました（笑）。あとパルコがあるんだなと。

マツイさん＆タカハシさん
1. 群馬県
2. ハッスルの大きなイベントは車で毎回行ってますよ。
3. 群馬よりはいいところだと思います。栃木がダメみたいなこと言ってますけど、群馬よりマシかなって（笑）。

クイン・マシーさん
1. 宇都宮市（母国はイギリス）
2. 友だちに誘われて。小さい頃にテレビでWWFを観てましたけど、プロレスを生で観るのは初めてです。
3. 日光ですね。那須湯本もおすすめです。

イワサキさん夫妻＆モモエちゃん
1. 宇都宮市
2. 前は都内に住んでてハッスルはよく観に行ってたので、今回は待望の栃木開催なんで嬉しいです。
3. 日光が近くて温泉がいっぱいあるところです。

PRIDEを観たことない人が多かったんじゃない？

一同　ダハハハハ！

ガンツ　失礼な！　あのさ、みんな勘違いしがちだけど、栃木で観られるテレビ番組は東京とまったく一緒だから。

真下　はぁ～。ちなみにテレビ東京も観られるんですか？

ガンツ　あたりまえでしょ（キレ気味に）。とちぎテレビがあるぶん、観られる局が一つ多いくらいですよ。

——情報量は都内と同レベル以上でしたか。

ガンツ　盛り上げるって意味でいうと、前説でブーイングのやり方とか『ハッスル』の楽しみ方を教えるじゃない？　あれがなかったらあんなふうにならなかったと思うよ。栃木の人は都会でやってるようなことをマネしたいだろうし。

——ちょっと都会への憧れ的な。

ガンツ　『笑っていいとも！』の収録会場に行って、「そうですね！」ってタモさんに言いたいのと同じだよね。

真下　でも、『ハッスル』って大都市中心で開催してたけど、北関東とも相性がいいことが実感としてわかりましたね。

ノブ　地方ほど有名人のありがたさが伝わりやすいよね。いまぐらいの『ハッスル』の露出って、観たいけど観られないって、ちょっと話題になってるけどまだ距離があるって感じだし。

真下　東京と受け取る情報量は変わらないけど、距離がある。東京に行けないこともないけど、平日は会場には行けない。だったら意外と日曜や祝日にビッグマッチを北関東で開催するのは戦略的にアリかもしれない。

ノブ　意外なビジネスチャンスかもしれない、と。

ガンツ　ぜひとも『ハッスル』には娯楽の少ない栃木の文化になってほしいね。

日曜や祝日にビッグマッチを北関東で開催するのは戦略的にアリかもしれない

それと、今回の大会は経費をかけなくてもここまでおもしろいものができるっていう証明になったんじゃない？

真下　そんな大物を投入してるわけじゃない。経費をかけなくても、考えればここまで作り込めるってことを証明しましたよね。

ノブ　武藤敬司がよく言う「点から線へ」っていう、線になったときの爆発力って凄いよね。川田が栃木って言いだしてから見事に今回の大円団まで一直線につながって。

真下　栃木大会までの流れって巨大なワル乗りですもんね。ワル乗りって『ハッスル』が一番得意なことだから、ハマったし客も演者もノリやすいというか。

——今後の可能性が見えた大会だった、と。最後にビジョンに「また来年、栃木で会いましょう」って映ったのが、「やれんのか！」のエンディングみたいでしたけど（笑）。

栃木大会に引き続き、11.22茨城大会のプロモーションとして茨城県知事を訪問した"北関東親善大使"の川田　"そのまんま効果"なのか、知事も快く迎えてくれた　町おこしなら『ハッスル』にお任せ？

ガンツ　もうさ、年末の『ハッスル・マニア』もこの際いっそ栃木でやろう！

一同　ダハハハハ！

真下　それだったら、ビックリしますね。栃木県の人は「またかよ!?」ってなるだろうけど。

ノブ　「早くも『ハッスル』が第二の故郷に帰ってまいりました」みたいな（笑）。

ガンツ　次にやるなら今度は日光だな。

真下　あ、今度は早入りして全員、華厳の滝を見てから行く、と。

ガンツ　途中で鬼怒川温泉にも寄ってね。こうなるとケロロ軍曹に続いて、日光江戸村の『にゃんまげ』のハッスルデビューなんてのもありえるかも。

ノブ　どうせなら江戸村の敷地内で試合をやるとかね。

真下　『ハッスル』が餃子に続いて栃木の名物になる日も近いかもしれない（笑）。

ガンツ　すぐになれるよ。そこは「空き家」だから。ちょうど餃子像がぶっ壊れたばかりだから、代わりに高田総統とか川田の銅像を建てるチャンスだよ！

——それって『ハッスル』にとっていいことなのかなぁ……。

ガンツ（聞かずに）とにかく、これから時代は栃木だな。というわけでご唱和ください！　見さる、言わざる、聞かざる、とっちぎ！　とっちぎ!!

【08年10月28日／都内・kamipro編集部にて収録】

新刊

7冊目にして、ついにフィクションを執筆!!

作家・須藤元気が青春格闘小説を語る

『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』

現役格闘家時代からCDデビュー、本の出版、そして現在はDREAMの解説までこなしている“変幻自在”の須藤元気がまたまた新たな領域に足を踏み入れた。自身初の小説『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』を手がけた須藤、その心とはいったい？　さっそく真意を直撃してみた。

聞き手　松下ミワ　撮影　梅木麗子

須藤　じつは、表紙が今日できたんですよ（と言って、新刊『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』の表紙を披露）。

――おお！　これはまた女性らしいさわやかなデザインですね。

須藤　ええ。マーケットは女性が動かしてますから。それに、装丁のデザインをしてくださったデザイナーさんにはけっこう細かいところにも気を使っていただいて。「・」の部分もよく見ると8角形になってるんです。

あ、ホントですね。しかし、このタイトルがやはり気になってしまうんですが、ズバリ『キャッチャー・イン・ザ・ライ（ライ麦畑でつかまえて）』からの引用なんですか？

須藤　じつは、けっこう今回はタイトルをどうしようか凄く迷いまして。いままで随筆だったので、僕の中でイメージがポンポン浮かび上がってたんですけど、小説ともなるといままでの、風変わったタイトルは合わないなと思ったんです。

――元気さんはこれまで6冊の本を出版されてますが、小説というのは初めてですね。

須藤　だからタイトルは凄く迷ってて。でも、迷ったときは無意識に語りかけようと思って30分ぐらい瞑想してたんですけど、パッと目を開けて僕の本棚を見たときに『キャッチャー・イン・ザ・ライ』があったんです。そこでひらめきまして、「これは、『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』がいいな」と思って名づけました。

そもそも、今回元気さんが小説を書こうと思ったのはきっかけはなんだったんですか？

須藤　一応現在、作家ですからね。作家として活動してて、もう書くこともずいぶん慣れてきましたし、やはりそろそろ勝負できるだろうということで何か一つの区切りかな、と。

――では、作家としての集大成というか、実力を試してみようという感じなんですね。

須藤　ええ。なので、これじつは勝負をかけてる本なんですよ。やはり作家として7冊目ということで、ここで評価が分かれると思うんです。『風の谷のあの人と結婚する方法』をはじめ、いままで書いてきた随筆はやはり小説とはまったく別のものなので、「随筆はいいけど、小説は……」という感じにはならないように気を使いましたね。

――格闘家出身にしてこれだけ本を書かれてるというのは驚きなんですが、そういった文章力は才能の部分をのぞくと、どういったところで磨かれてきたんですか？

須藤　じつを言うと、僕は学生時代はまったく勉強しなかったんですよ。学校教育になじめなくて、レスリング推薦で進学したりして。でも、20歳の頃にあるきっかけで本に目覚めまして。アメリカ修行時代に付き合ってたミッちゃんという人がかなりの読書家だったんです。

その方に影響されたということですね。

須藤　はい。そこで「いままでなんで僕は本を読まなかったんだろう」と思ったんです。なので、20歳ぐらいから一日に3冊ぐらい読むようになったんですよ。

――そんなに！

須藤　そうすると、だんだん書きた

小説を書いたきっかけは、作家としてやはりそろそろ勝負できるだろうと

くなったし、書けるようになってきたんです。いろんな文章を読んできたので、文章が書けるようになったのはきっとインプットし続けてきたからじゃないかなって。

——その点、小説を書くということで影響された本ってありますか?

須藤 小説というより、最近はノンフィクションを読むことが多いんですよね。もちろんたくさんの本は読んできたんですけど、あえて言うとすれば、司馬遼太郎さんが書かれる小説の、闘うシーンの描写が凄くいいと思いますね。凄く臨場感があって血がたぎるというか(笑)。でも、闘うシーンに関しては僕も今回けっこう自信を持って書けたと思います。

——今回の本は青春格闘小説ということですから、元気さんの格闘家としての経験を活かされてるということですね。

須藤 これは、経験者しか書けないというか。でも、小説を書こうと決めたとき、初めはちょっと恋愛小説を書いてたんですよ。(笑)。

——え、そうなんですか。

須藤 恋愛小説だと僕とのイメージのギャップがあっていいだろうなと思って。でも、僕の過去のダメダメな恋愛観ではとても、とても。自分の経験とはギャップがありすぎて書けませんでした。基本的に、文章を書くときというのは頭の中に映像を作るんですね。それを文字で伝えるので、細かい描写が必要になるんです。頭に映像がないと描写できない。でも、恋愛小説だと僕の場合は……下心だけで終わってしまうと思ったんで(笑)。

——そこはクールになりきれませんか。

須藤 途中、いろんなものを書いたんですけど、結局格闘技の話に落ち着きました。作家って文章を書く前に取材したりするじゃないですか。たとえば僕が警察の本を書こうとしても、警察の取り調べがどういうものなのかわからないから書けないんですよ。取調室のタバコが臭いとか、シミがついてる壁とか。そういう細かい描写をすることによって臨場感がある文章になると思うんですが、そこが抜けると途端に安っぽくなる。ですから読んでる人は"片目が見えない状態"だというのを頭に置くことが大事なんです。

——なるほど、なるほど。

須藤 だから、格闘技を題材にして、練習はどういうものなのか、試合会場はどういう空気なのか、舞台裏を知ってる僕だからこそ書けた本だと思いますね。だって、実際に試合会場に向かうバスが2台に分かれてるとか、そのバスも10分のインターバルをもって出発・到着するようにしてるとか、そういうのは一般の方は知らないですよね。

——また、事前におうかがいしたあらすじによると、一人の青年がアメリカの格闘技イベントに挑戦するというお話ですが、これは元気さんのアメリカ修行時代の経験をもとにストーリーが展開されるんですか?

須藤 僕が経験したことは当然踏まえてます。とはいっても主人公はもちろん僕じゃないですし自叙伝ではないので、あくまでも客観的に書きました。やはり小説というのは自己愛をいかに消すかが大事ですからね。自己愛が入ったらダメなんですよ。主人公がカッコよくなってしまうと、読んでる人が冷めてしまいますから。

——逆にダメなヤツのほうが愛せますね。

須藤 でも、自叙伝っぽいのはだんだん主人公がカッコよくなりがちなんですね。なので、いかに自分のナルシズムを抑えるかというところで苦労しましたね。

——そのへんの悩みは、いままでの随筆とは違う葛藤ですよね。

須藤 そうですね。随筆は自分が思ったり体験したもの、僕のパーソナリティで勝負するものですけど、小説はキャラクターをある程度固めて、カッコいいヤツ、マヌケなヤツ、ヒロインはどうするかって感じでキャラを決めないとダメなんです。だから、いい小説はマンガのようにキャラクターがハッキリしてるんです。そういう部分においても『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』もキャラをハッキリさせて、いままで小説を読んだことがないような人でも読めるようなアプローチになってると思います。

——その一方で、ストーリー的には格闘技好きの人も入り込めるような感じなんですね。

須藤 繰り返しになりますが、ファイターや格闘技イベントの舞台裏を書いているので、格闘技ファンにとってもおもしろいと思います。普通、選手インタビューにしても、言えることと言えないことってあるじゃないですか。やはりプロなので自分自身をぶっちゃけ話さないんですよね。「本当はビビってました」とか言わないじゃないですか(笑)。

——仮面を被っているところがある、と。

須藤 だから暴露本ではないですけど、実際のことがわかる部分があると思いますよ。

——元気さんが現役だった当時の話はノンフィクションとしては書けないけど、小説だったらその体験を活かしてアレンジできるわけですもんね。

須藤 もちろんそこにはフィクションも入ってますしね。

——最後に、表現で一番苦労したのはどういう部分ですか?

須藤 やっぱり女性の言葉使いかな。

——そこは恋愛小説の難しさにも通じるのかもしれませんね(笑)。

須藤 女性の心理というのはなかなか。一回女性になろうと思って試みたんですが、失敗しました(笑)。

——将来的には元気さんの恋愛小説もぜひ読んでみたいですけどね。

須藤 ハハハ。そうですね、考えてみます(笑)。

【08年10月31日/都内・ELEMENTS BARにて収録】

須藤元気、渾身の小説『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』とは?

今回、須藤元気が手がけた青春格闘小説『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』は、ごく普通の高校生が一念発起してレスリングを始め、アメリカの総合格闘技イベント『EGFC』に出場するというストーリー。二十代半ばで定職もなく、親からも周りの女の子からも冷めた目で見られるという逆境の中、それでも格闘技での成功を夢見る青年を追いかけた話である。この業界にいる人なら一度はどこかで聞いたことのあるようなストーリーだが、格闘技ファン、そしてファイター自身もかなり共感を呼ぶ小説に仕上がっているという。

kamipro SHOPPING

通販カタログ

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150(税込)

青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150(税込)

I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990(税込)

Kamiproマスク Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)

100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm
ブルー×オレンジ]
¥3,150(税込)

"殺し"キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]
¥3,150(税込)

ザ・モンスター℃ Tシャツ
[130・140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,675(税込)

髙田総統と愉快なモンスターズ Tシャツ
[XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

ボノちゃん とすこいTシャツ
[100・120・140 グリーン]¥3,150(税込)
[XS・M・L・XL グリーン]¥3,990(税込)

坂田亘 LOVE & HUSTLE Tシャツ
[100・120・140 レッド]¥3,150(税込)
[XS・M・L・XL レッド]¥3,990(税込)

MONSTER K "ON STAGE"Tシャツ
[100・120・140 ブラック]¥3,150(税込)
[XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

「kamipro」通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
  (何枚でも可、離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。
  代引き金額によって異なります

[ご注文の方法]
詳しくは「kamipro Hand」の通販コーナーをご覧ください
ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください

(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00~19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

[単位はcmです]

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

・価格はすべて税込みです

kamiproHandで カンタン注文!!

[販売元](株)ダブルクロス

ケータイサイトで
セール実施中!
いますぐアクセス!!
★非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
(もしくは kamipro で 検索)
au トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターテイメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

QRコード

読者プレゼントにも"変革"を!

kamipro PRESENTS

応募要項

[illegible]の質問の答えを明記の上、下記の宛先まで[illegible]。応募者数の場合は[illegible]抽選、[illegible]。[illegible]公正競争規約[illegible]、当選された方[illegible]の号、他の時賞[illegible]当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。商品は2008年12月25日以降発送予定します。

【質問事項】1郵便番号・住所・電話番号 2氏名 3年齢・職業 4希望商品 5おもしろかった記事&その理由 6つまらなかった記事&その理由 7プロレス界・格闘技界の中でアメリカ大統領にふさわしいのは誰だと思いますか? 8年末年始で最も楽しみなイベントは?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス「kamipro」編集部
「変革の時が来た!」係まで

※応募締切は2008年12月15日(火)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

WWEチェアー

[WWE JAPAN 非売品]

WWEのPPVイベントでリングサイドのチケットを購入するともらえるイスをプレゼント! プレミアものの超レアな逸品です。WWE JAPANは12月6日にMr.ケネディを招いて東京・品川クラブeXでイベントを開催! 詳細はHPで!!

WWE JAPAN■[illegible]

PRESENT*02

1名様

亀田大毅のゼロから出直しやっ!

[亀田大毅 著 講談社 ¥1,260(税込)]

復帰戦をKO勝利で飾った亀田大毅の単行本をサイン入りで1名様にプレゼント!! あの内藤戦から1年、浪速乃弁慶は日本中を巻き込んだ大バッシングの中で何を考えていたのか!? 赤裸々に綴った初の著書、絶賛発売中

亀田兄弟オフィシャルサイト■http://kameda-bros.com/

PRESENT*03

1名様

ハッスル栃木限定Tシャツ

[ハッスル/グリーン ¥3,990(税込)]

10.26「ハッスル・ツアー IN TOCHIGI」で発売された大会記念限定Tシャツを1名様にプレゼント。かつて販売されていたハッスルTシャツのロゴが復活、裏には川田と坂田の対戦が記されたメモリアルな逸品! サイズはL

ハッスルオフィシャルサイト■http://www.hustlehustle.com/

PRESENT*04

2名様

ダンディ坂野サイン色紙

[非売品]

いまこそゲッツ! ダンディ坂野のサイン色紙が手に入るプロレス&格闘技雑誌は世界広しといえども「kamipro」だけです。ふるってご応募ください。ゲッツ!

PRESENT*05

1名様

キング・モーの傘

[非売品]

快進撃が続く"王様"キング・モーが、モーガールとともに使用した傘にサインを入れて1名様にプレゼント。モーガールはついてきませんが、世田谷区の整骨師・山本建先生のご協力でゲットしました

KEN YAMAMOTO■[illegible]

PRESENT*06

2名様

BULL TERRIER Tシャツ

[ブルテリア/ブラック/¥3,500(税込)]

静岡県浜松市の格闘技ショップ「ブルテリア」。多くのファイターをサポートする格闘技ブランドとしてもその名を馳せています。新作はバックにシルエットがプリントされたTシャツです! M、Lを各1名様に!

Fighter's Shop■[illegible]

PRESENT*07

1名様

DOPE TECH LSV

[リバーサル ホワイト ¥6,090(税込)]

大人気ブランド「リバーサル」の新作は柔術家が絡み合うシルエットのロングスリーブ。DOPEというロゴ[illegible]の響きがたまらない1枚。サイズはS。このほかにもブラックとブラウンのカラー展開があります

PRESENT*08

各1名様

MOBILE STRAP

[リバーサル/ブラック、ホワイト、ケージ/¥1,260(税込)]

リバーサルのケータイストラップ&クリーナーが登場。定番ながらロゴ使いが絶妙なブラック。ストラップでは珍しい白を主体とし柔術パッチのようにカラフルなホワイト。金網をイメージしたケージの3種類!

REVERSAL■http://www.rvddw.com/

PRESENT*09

2名様

アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない

[町山智浩 著/文藝春秋/¥1,050(税込)]

本誌のインタビューも大反響! あっという間に完売して増刷が決定した米国ベイエリア在住のライター・町山智浩さんの新刊をプレゼント。オバマ新大統領誕生でさらに注目のアメリカの現状を知るには最適!

町山智浩ブログ■http://d.hatena.ne.jp/TomoMachi/

PRESENT*10

2名様

DVD『関節技逃れ方大全(下)』

[クエスト/¥5,880(税込)]

あらゆる関節技、絞め技へのディフェンスを中井祐樹が徹底解説! MMAやグラップリングなどをやる人も観る人もこれを観て学べ! 53の試合映像から名シーンをピックアップして解説します。

PRESENT*11

3名様

DVD『黒澤浩樹空手革命4スタンス理論』

[クエスト ¥5,880(税込)]

株式会社クエストから発売された空手家・黒澤浩樹のDVD。4スタンス理論の提唱者である廣戸聡一先生と黒澤の対談も収録している。身体の動かし方を学ぶには最適です!

クエスト■http://www.queststation.com/

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.129
2008年12月6日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎 (悲願達成のため非番)
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登"読者ペイジ"ジャクソン
高橋くん
編集次長(定額給付金待ち)
松林 貴
デザイン大将
出田さん(TwoThree)
デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる (以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん (以上、さおとめの事務所)
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜
梅木麗子
ニューカマーお勘定
工藤ちゃん
流行語大賞ノミネート
入江せんとくん(TwoThree)
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
櫛本"両観音開き"義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川奈津子
宮沢美奈
編集チアマダム
廣橋"火曜はダメよ"久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00~17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL: http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシーポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

特集主義 第5弾! 次号テーマは……

田村vs桜庭戦のルーツを探れ UWF

ついに実現! 田村vs桜庭戦をはじめ、大晦日『Dynamite!!』直前情報満載!!

NEXT ISSUE

12.27『UFC92』、12.30『ハッスル・マニア』、1.4『戦極の乱』&新日本ドーム大会等々、年末年始のビッグイベント情報もガッツリお届け!

No.130は12月20日(土)発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れるぞ~!

全くの初心者からプロを目指す方、若い方はもちろん子供や女性、ご年配の方まで格闘技の本場ブラジルの最高技術を丁寧にやさしく指導致します
クラス種別：ブラジリアン柔術一般 / ブラジリアン柔術プロ / グラップリング一般 / グラップリングプロ / 総合格闘技一般 / 総合格闘技プロ / ブラジリアン柔術キッズ

恐慌! UFCよ、おまえもか!!

kamipro

G MAGAZINE

enterbrain MOOK

2008 129

特別定価 940yen

UWF▶PRIDE

『Dynamite!!』にUFC、
『戦極』、ハッスル、新日本!
年末年始決戦を10倍楽しむ方法!

特集 テレビと格闘技

石井慧と大晦日
桜庭vs田村変態座談会
青木真也vs秋山成勲実現か!?
帰ってきた浅草キッド
笹原圭一「DREAMとテレビ」
谷川貞治「テレビ格闘技と八百長
北岡悟と戦G
キング・モー×長南亮
バダ・ハリ／チェ・ホンマン
亀田大毅／北斗晶
町山智浩／土屋敏男
エスパー清田／ダンディ坂野

kamipro 2008 129 年末年始決戦を10倍楽しむ方法! 特集 テレビと格闘技 UWF→PRIDE、ついに完結——!!

2008年12月6日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤靖一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

特別定価: 本体895円 +税
雑誌 61956-69 Ⓗ2009.3
Printed in Japan 図書印刷株式会社